

青森市埋蔵文化財調査報告書 第123集

野尻(4)遺跡

発掘調査報告書Ⅱ

平成29年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第123集

野尻(4)遺跡

発掘調査報告書Ⅱ

平成29年度

青森市教育委員会



発掘調査区全景 (SW→)



SI-05 (SE→)



SD-02 (SW→)



SK-85火山灰検出状況 (S→)

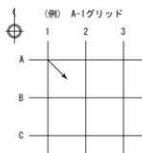
例 言

1. 本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市浪岡大字徳才子字山本105-2に所在する野尻(4)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、株式会社トーモクより委託を受け、平成29年度に青森市教育委員会が実施した発掘調査の成果である。
3. 野尻(4)遺跡は青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号201-390として登録されている。
4. 本遺跡については、平成19年度に第95集『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』として刊行していることから、本報告書を『野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』とした。
5. 発掘調査、整理作業、報告書作成にあたっては、青森市教育委員会事務局文化財課職員に加え、株式会社三協技術の派遣調査員により実施した。
6. 本書の編集は青森市教育委員会が行った。執筆は青森市教育委員会事務局文化財課職員のほか、株式会社三協技術の派遣調査員が分担した。執筆分担は下記のとおりである。
第1章第1～3節、第3章出土遺物、第5章：設楽政健
第1章第4節、第2章、第3章検出遺構：調査員 成田滋彦
7. 出土遺物及び記録図面、写真関係資料は、青森市教育委員会が保管している。
8. 第4章第1節の放射性炭素年代測定及び樹種同定についてはパリオ・サーヴェイ株式会社、第2節の火山灰分析については関東文化財振興会株式会社に委託した。
9. 発掘調査及び整理作業・報告書作成にあたって、次の各位からご指導・ご協力を賜った(敬称略・順不同)。

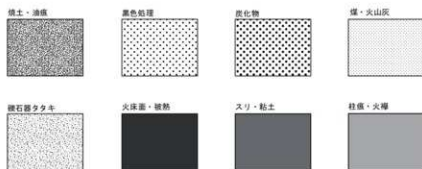
工藤清泰、齋藤岳、笹森一郎、関根達人、上條信彦、平山明寿

凡 例

1. 図版番号及び表番号、写真番号は本書を通じて連続するものとし、それぞれ「第〇図」、「第〇表」、「写真〇」と表記した。なお、第4章については「図〇」、「表〇」とした。
2. 遺構の略称は、下記のとおりである。
SI：建物跡 SK：土坑 SD：溝跡 SN：焼土状遺構 SB：掘立柱建物跡
SA：柱穴列 SP：ピット Pit：建物跡、土坑等に付属するピット
なお、遺構番号は調査時の番号を採用している。また、建物跡に付属する土坑、溝跡については「付SK」、「付SD」とし、複数の場合は、「付SK1、2…」、「付SD1、2…」と呼称した。
3. 挿図の縮尺は、図毎に示した。
4. 各種平面図の方位は、磁北を示した。
5. 土層の注記については、『新版標準土色帳』(小山正忠、竹原秀雄 1993)に準拠した。
6. グリッドの呼称は次のとおりである。

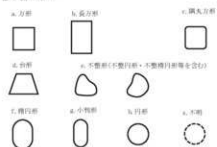


7. 図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

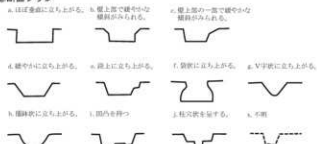


8. SP観察表中で使用した平面プラン、断面プランの記号は下記のとおりである。分類方法は青森市埋蔵文化財調査報告書第94集『石江遺跡群発掘調査報告書』を参考とした。

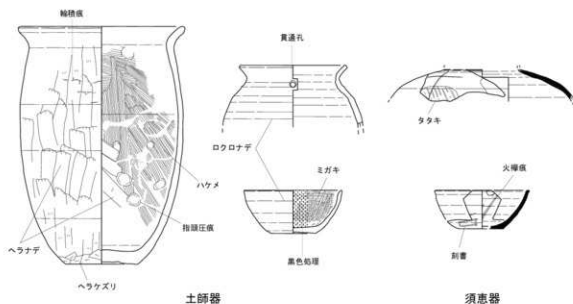
①平面プラン



②断面プラン



9. 遺物実測図の表現は以下のとおりである。



目 次

例言・凡例

目次

図表・写真目次

第I章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査方法	4
第4節 調査経過	4

第II章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置	6
第2節 遺跡周辺の歴史的環境	6
第3節 過去の調査	9
第4節 調査区の層序	15

第III章 検出遺構と出土遺物

第1節 建物跡	16
第2節 土坑	57
第3節 溝跡	69
第4節 焼土状遺構	86
第5節 掘立柱建物跡	86
第6節 柱穴列	95
第7節 ビット	95
第8節 遺構外出土遺物	134

第IV章 自然科学分析

第1節 野尻(4) 遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定・樹種同定	147
第2節 野尻(4) 遺跡火山灰分析	154

第V章 まとめ

写真図版

報告書抄録

既刊報告書一覧

奥付

図表・写真目次

図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第37図	SK (5)	74
第2図	調査区位置図	3	第38図	SK (6)	75
第3図	グリッド配置図	5	第39図	SK (7)	76
第4図	周辺の遺跡位置図	7	第40図	SK (8)	77
第5図	遺構配置図	11・12	第41図	SK (9)	78
第6図	野尻(4)遺跡周辺の調査区	13・14	第42図	SK内出土土器(1)	79
第7図	基本層序	15	第43図	SK内出土土器(2)	80
第8図	SI-01 (1)	25・26	第44図	SK内出土土器(3)	81
第9図	SI-01 (2)	27	第45図	SK内出土土器(4)	82
第10図	SI-01 (3)	28	第46図	SK内出土土器(5)	83
第11図	SI-05 a・b・c (1)	29・30	第47図	SK内出土土器(6)・出土遺物	84
第12図	SI-05 a (2)	31・32	第48図	SD-02	87
第13図	SI-05 b (3)	33・34	第49図	SD-03・07	88
第14図	SI-05 c (4)	35・36	第50図	SD-08・09	89
第15図	SI-05 (5)	37	第51図	SD-11	90
第16図	SI-05 (6)	38	第52図	SD-12・13	91
第17図	SI-05 (7)	39	第53図	SD-15・16	92
第18図	SI-06 (1)	40	第54図	SD-17	93
第19図	SI-06 (2)	41	第55図	SN-01	94
第20図	SI-07 (1)	43・44	第56図	SB-01	99
第21図	SI-07 (2)	45	第57図	SB-02 (1)	100
第22図	SI-08 (1)	46	第58図	SB-02 (2)	101
第23図	SI-08 (2)	47	第59図	SB-03	102
第24図	SI-09 (1)	48	第60図	SA-01 (1)	103
第25図	SI-09 (2)	49	第61図	SA-01 (2)	104
第26図	SI-10 (1)	50	第62図	SP分割図	105・106
第27図	SI-10 (2)	51	第63図	SPあ(1)	107
第28図	SI-10 (3)	52	第64図	SPあ(2)	108
第29図	SI内出土土器(1)	53	第65図	SPい	109
第30図	SI内出土土器(2)	54	第66図	SPう	110
第31図	SI内出土土器(3)	55	第67図	SPえ	111
第32図	SI内出土土器(4)・出土遺物	56	第68図	SPお	112
第33図	SK (1)	70	第69図	SPか・き	113
第34図	SK (2)	71	第70図	SPく・け・こ	114
第35図	SK (3)	72	第71図	SPさ・し	115
第36図	SK (4)	73	第72図	SPす(1)	116
			第73図	SPす(2)	117

第74図	SPせ(1)	118
第75図	SPせ(2)	119
第76図	SPせ(3)	120
第77図	SPせ(4)	121
第78図	SPそ	122
第79図	SPた(1)	123
第80図	SPた(2)・SPち	124
第81図	SPつ(1)	125
第82図	SPつ(2)	126
第83図	SPて	127
第84図	SPと(1)	128
第85図	SPな(1)	129
第86図	SPと(2)・な(2)	130
第87図	SPに(1)	131
第88図	SPに(2)	132
第89図	SD・SP内出土土器	133
第90図	遺構外出土土器(1)	135
第91図	遺構外出土土器(2)	136
第92図	遺構外出土土器(3)	137
第93図	遺構外出土遺物	138
第94図	建物跡竪穴部規模	167
第95図	竪穴部主軸方位の分布	167
第96図	遺構間接合	169
第97図	土師器坏口径分布	171
第98図	土師器坏底径分布	171
第99図	土師器坏器高・底径指数分布	171

表目次

第1表	周辺の遺跡	8
第2表	SP観察表	96
第3表	出土土器観察表	139
第4表	石器観察表	146
第5表	土製品観察表	146
第6表	鉄関連遺物観察表	146
第7表	古銭観察表	146
第8表	建物跡観察表	167
第9表	平安時代土器個体数	171

写真目次

写真1	検出遺構(1)	175
写真2	検出遺構(2)	176
写真3	検出遺構(3)	177
写真4	検出遺構(4)	178
写真5	検出遺構(5)	179
写真6	検出遺構(6)	180
写真7	検出遺構(7)	181
写真8	検出遺構(8)	182
写真9	検出遺構(9)	183
写真10	検出遺構(10)	184
写真11	検出遺構(11)	185
写真12	検出遺構(12)	186
写真13	検出遺構(13)	187
写真14	検出遺構(14)	188
写真15	検出遺構(15)	189
写真16	検出遺構(16)	190
写真17	検出遺構(17)	191
写真18	検出遺構(18)	192
写真19	検出遺構(19)	193
写真20	検出遺構(20)	194
写真21	検出遺構(21)	195
写真22	検出遺構(22)	196
写真23	検出遺構(23)	197
写真24	検出遺構(24)	198
写真25	検出遺構(25)	199
写真26	検出遺構(26)	200
写真27	検出遺構(27)	201
写真28	検出遺構(28)	202
写真29	検出遺構(29)	203
写真30	検出遺構(30)	204
写真31	検出遺構(31)	205
写真32	出土遺物(1)	206
写真33	出土遺物(2)	207
写真34	出土遺物(3)	208
写真35	出土遺物(4)	209
写真36	出土遺物(5)	210
写真37	出土遺物(6)	211
写真38	出土遺物(7)	212

第I章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

株式会社トーモク（以下、トーモク）は、青森市浪岡大字徳才子字山本105-2において工場建設を計画し、平成27年11月2日に青森市教育委員会事務局文化財課（以下、当課）に対して周知の埋蔵文化財包蔵地の有無確認のため、照会を行った。遺跡地図と照合の結果、計画地が野尻（4）遺跡に該当していることが判明した。野尻（4）遺跡においては平成6年度の青森県教育委員会、平成12～14年度の浪岡町大釈迦工業団地調査会などによる発掘調査で平安時代の大規模な集落跡が検出されており、計画地内にも集落跡が広がっている可能性が高いと考えられたことから、トーモクとの協議の結果、平成27年11月10日に発掘調査の要否判定を目的とした確認調査を実施することとなった。確認調査の結果、0.5～1.5mのシラス盛土の下から、平安時代の遺物包含層及び堅穴建物跡等を検出し、平安時代の集落跡が広がっている状況を確認した。その後、トーモクと当課が協議し、地下の埋蔵文化財に影響しない工法への設計変更を要望したが、最終的に遺構面への掘削が及ぶ計画となったため、平成29年度に原因者負担による発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査要項

1. 調査の目的

建設予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域社会の文化財活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

野尻（4）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号201-390）

青森市浪岡大字徳才子字山本105-2

3. 発掘調査期間

平成29年5月11日～平成29年9月29日

4. 調査面積 2,991㎡

5. 調査委託者 株式会社トーモク

6. 調査受託者 青森市教育委員会

7. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

8. 調査体制 調査事務局 青森市教育委員会事務局

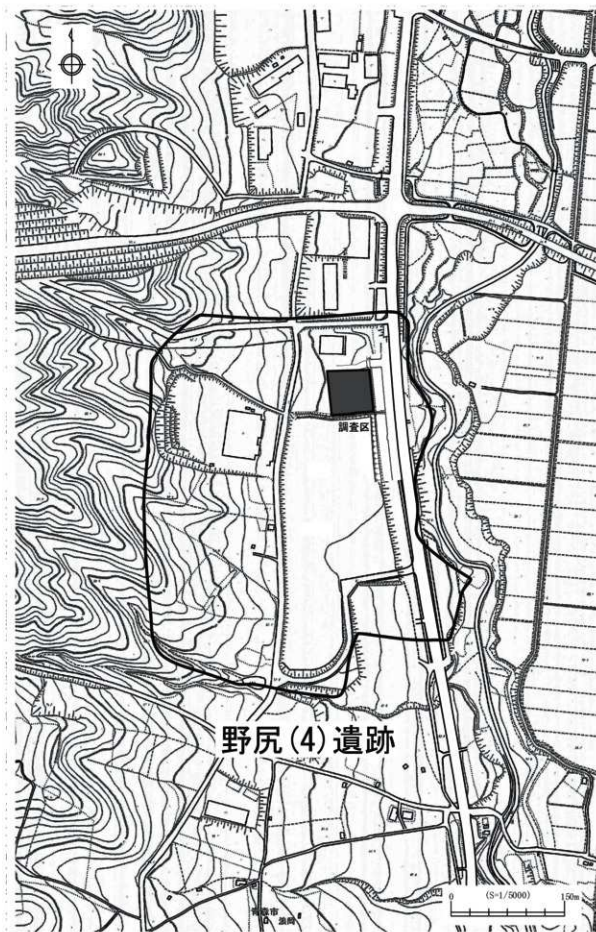
教育長	成田一二三	主 幹	児玉 大成
-----	-------	-----	-------

教育部長	横山 克広	文化財主査	木村 淳一
------	-------	-------	-------

理事	工藤 裕司	”	小野 貴之
----	-------	---	-------

文化財課長	渡邊 薫	”	設案 政健
-------	------	---	-------

調査員	成田 滋彦（株式会社三協技術より派遣）
-----	---------------------



第2図 調査区位置図

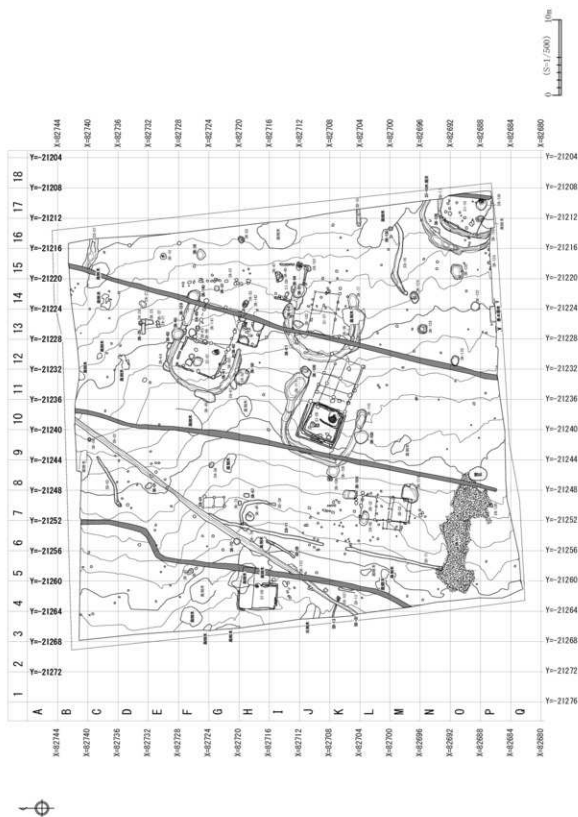
第3節 調査方法

調査にあたっては、平成27年度の確認調査結果を踏まえて遺物包含層上面までバックホーで掘削し、遺構確認及び精査を行い、調査区北側から南側へと進めた。包含層上面の遺構精査が終了した後、順次、地山ローム層上面まで人力で掘り下げ、再度遺構確認を実施し、検出した遺構について精査を行った。排土については、置場までの距離が遠いため、調査区南端に一旦仮置きし、北側半分の調査終了に伴って調査区域外へ運搬し、仮置き部分の精査を行った。遺構精査は原則として建物跡については4分法、土坑、ピットについては2分法、溝跡などのその他の遺構については必要に応じてセクションベルトを設定して行った。図化にあたっては、断面図は簡易遺り方測量、平面図は株式会社CUBIC製「遺構くんCubic(電子平板Bタイプ)」とトータルステーション(ソキアSRX-105S)を併用して作成した。写真撮影は土層断面、完掘状況、遺物出土状況を中心にデジタルカメラで撮影した。グリッドについては調査区全体が網羅されるように4×4mメッシュを設定し、第3図のとおり、アルファベットと算用数字の組み合わせで各グリッドを呼称した(例 A-1、A-2、A-3)。測量原点は遺跡東側の県道浪岡藤崎線付近の一等水準点(標高38.1349m)より移動した。

第4節 調査経過

5月11日から発掘調査開始。調査区北側のグリッドB～Fラインについて、ジョレンがけによる遺構確認とともに随時確認した溝跡・土坑等の精査を6月上旬まで行った。B～Fラインについては遺構密度が希薄であったが、6月中旬以降徐々に南側へ移行して遺構確認を進めた結果、Fライン以南から外周溝や掘立柱建物跡を有する建物跡、掘立柱建物跡、柱穴列等を検出し、北側に比べて遺構密度の濃い状況を確認した。6月下旬からは、Fライン以南の建物跡やそれに付随する外周溝、掘立柱建物跡を中心に精査を進め、8月上旬までにLラインまでの精査を終了した。8月15日～17日の期間は、調査区南側のMライン以南に仮置きしていた排土をバックホー及びダンプトラックで調査区域外へ運搬した。8月下旬から排土仮置き部分の遺構確認を行ったところ、建物跡及び焼土状遺構が広範囲に分布していたため、9月中旬にかけて精査を進めた。9月下旬には調査区の全体写真撮影のため、ジョレンがけや精査済の遺構の清掃作業を行った。9月29日には当初の予定通り、すべての発掘調査を終了し、機材撤収を行い調査が完了した。

発掘調査では、建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡・焼土状遺構・柱穴列・ピットを検出し、遺物は土師器(皿・杯・甕・壺・小甕・ミニチュア土器)、須恵器(甕・壺・杯・鉢)、鉄関連遺物のほか、石器が出土した。



第3図 グリッド配置図

第II章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

野尻(4)遺跡は、青森市役所浪岡庁舎より北西に約4km離れた青森市浪岡大字徳才子字山本に所在している。青森市浪岡地区の地形は、津軽平野北東端にあたる浪岡地区中心街を含めた平野部を中心に東側に大釈迦丘陵、西側に梵珠山地及び前田野目台地が広がる。本遺跡一帯は梵珠山地(標高468m)南麓に広がる前田野目台地の東縁部にあたり、台地を構成する高位、中位、低位の段丘のうち、標高40~60mの低位段丘面に相当する。低位段丘は梵珠山を源とする大釈迦川の西岸に沿って南北に帯状に展開しており、西~東側へと緩やかに傾斜する平坦面が認められ、本遺跡を含めた多くの遺跡がこの平坦面上に立地する。

遺跡内の現状は、遺跡東端を縦走する国道7号浪岡バイパス(以下、バイパス)西側に沿って東側が大釈迦工業団地(以下、工業団地)として利用され、西側がりんご畑や林地となっている。

第2節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺は、バイパス建設や工業団地造成を主な原因とする発掘調査が集中した地域である。特にバイパス建設に際しては北側の山本(1)遺跡から南側の山元(3)遺跡までの遺跡が密集する区域について発掘調査が行われ、台地に大きな南北トレンチをあけた状態といえる。以下、前田野目台地に所在する遺跡を中心に時代毎に記載する。

旧石器時代の遺物は出土しておらず、旧石器時代の様相については不明である。

縄文時代については、前期~晩期の遺物が出土しているが、遺構検出例は少ない。縄文時代早期については津軽地域では出土例が少ないのが特徴の一つといえるが、浪岡地区東側の大釈迦丘陵に位置する細野遺跡から貝殻土器が出土しており、河川上流域に遺跡が存在していることは興味深い。この事は岩木川上流の西目屋村川原平(4)遺跡(青森県教育委員会 2014)でも同様で、遺跡の位置から当該期が河川漁労に依存した時期でなかったのかと考えられる。前期については山元(1)遺跡から円筒下層土器期の集落が検出されている。特徴としては、標高の高い区域に住居跡の集積が認められるほか、住居中央部に地床炉を持つ例が多いといえる(青森県教育委員会 2005)。後期に至っては、中平遺跡で環状にめぐる掘立柱建物跡や大量の遺物が出土していることから、大規模集落の可能性が考えられる(青森県教育委員会 2009)。縄文時代晩期では、野尻(1)遺跡において掘立柱建物跡・土坑を伴う小規模な集落がやせ尾根から検出されており(青森県教育委員会 2002)、中空の遮光器土偶が出土するなど、捨て場を有する大規模集落からの出土という概念からはずれており、通例と様相を異にする。なお、土偶は野尻(1)遺跡(青森県教育委員会 2003)・野尻(2)遺跡(青森県教育委員会 1995)からも出土しており、当該地が土偶を保有する安定的な集落地であったと考えられる。

弥生時代については、野尻(1)遺跡から後期の天王山式土器、統縄文文化の恵山式が出土しているのみである。縄文時代後期の段階でも北海道の大津式が出土しているなど、当該地域が他地域の影響を少なからず受けた地域であったといえる。



第4図 周辺の遺跡位置図

平安時代の当該地域については、9世紀前葉～中葉に集落の出現が認められる。その後、9世紀末葉～10世紀前葉にかけては、周辺の五所川原須恵器窯跡群の操業を契機として、集落や竪穴建物が急増する。特に本遺跡をはじめとして、前田野目台地東縁部の低位段丘に立地する遺跡を中心に、竪穴建物に外周溝や掘立柱建物が伴ういわゆる3点セットの建物によって構成された集落が集中している。本遺跡周辺では山本(1)遺跡、野尻(1)～(3)遺跡、山元(1)～(3)遺跡で認められており、特に本遺跡や野尻(1)～(3)遺跡では整然とした建物配置が集中する。また、この頃には前述の須恵器窯操業や山本(1)遺跡で製鉄炉、野尻(2)遺跡の円形周溝など、本遺跡周辺でも生業や墓祠の展開が認められるようになり、10世紀前葉～中葉には本遺跡や山元(1)遺跡で環壕を有する区域の出現が認められる。10世紀後葉には、五所川原須恵器窯跡の衰退等の要因により、丘陵地以外に低湿地にも集落の拡散が認められるようになることから、当該地域では集落が減少する。10世紀後葉～11世紀代は、壕や土塁によって囲郭された環壕集落が出現し、当該地域においては高屋敷館遺跡が認められる(青森県教育委員会 1998)。

中・近世については、浪岡城跡をはじめ平野部周辺の城館が中心となり、本遺跡周辺では陶磁器や古銭等の出土が断片的に認められる程度である。

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	遺跡番号	種別	所在地	時代	文献
1	野尻(4)遺跡	201390	集落跡	浪岡大字高屋敷数字野尻、徳才字山本	縄文(後)、平安	浪岡町教育委員会2004、青森県教育委員会2008
2	早稲田館遺跡	201328	散布地	浪岡大字大沢湖字前田、徳才字山本	平安	
3	山本(4)遺跡	201437	散布地	浪岡大字徳才字山本	縄文(中・後)、平安	青森県教育委員会2016
4	山本(1)遺跡	201376	散布地	浪岡大字徳才字山本、字早稲田	平安	青森県教育委員会1987
5	野尻(1)遺跡	201387	集落跡	浪岡大字高屋敷数字野尻、字安田	縄文(前・中・後・晩)、弥生	青森県教育委員会1998、1999、2000、2002、2003、2004
6	荷越沢遺跡	201434	散布地	浪岡大字吉野田字荷越沢	縄文(前・後・晩)	
7	社元遺跡	201417	散布地	浪岡大字高屋敷数字社元、長沼字小沢	平安	青森県教育委員会2009
8	野尻(2)遺跡	201388	集落跡、墳墓	浪岡大字高屋敷数字野尻、字安田	縄文、平安	青森県教育委員会1995、1996、2004
9	野尻(3)遺跡	201388	集落跡	浪岡大字高屋敷数字野尻	平安、中世、近世	青森県教育委員会1996、2006
10	高屋敷館遺跡	201330	散布地、集落跡	浪岡大字高屋敷数字野尻	平安	青森県教育委員会1998、2005
11	山元(1)遺跡	201381	散布地、集落跡	浪岡大字杉沢字山元	縄文、平安	青森県教育委員会2005
12	山元(2)遺跡	201382	散布地、集落跡	浪岡大字杉沢字山元	平安	青森県教育委員会1995
13	山元(4)遺跡	201391	散布地	浪岡大字杉沢字山元	中世	
14	山元(3)遺跡	201383	散布地、集落跡	浪岡大字杉沢字山元	縄文、平安	青森県教育委員会1987
15	女鹿沢野尻遺跡	201435	散布地	浪岡大字女鹿沢字野尻	平安	
16	下平遺跡	201331	散布地	浪岡大字吉野田字熊沢、字荷越沢	縄文(後)、平安	
17	旭(2)遺跡	201333	散布地、集落跡	浪岡大字吉野田字熊沢	平安	青森県教育委員会2016、2017
18	寺原館平遺跡	201386	散布地	浪岡大字吉野田字荷越沢	縄文	青森県教育委員会2008
19	浪岡堂沢遺跡	201335	散布地	浪岡大字吉野田字堂沢	縄文(前)	青森県教育委員会2017
20	旭(1)遺跡	201332	散布地	浪岡大字吉野田字堂沢、字荷越沢	平安	青森県教育委員会2016
21	中平遺跡	201334	散布地、集落跡	浪岡大字吉野田字中平、字熊沢、字堂沢	縄文(後)・平安	青森県教育委員会2009、2010、2012
22	吉野田平野遺跡	201423	散布地	浪岡大字吉野田字中平、字熊沢	平安	
23	永原遺跡	201337	散布地	浪岡大字嶺山前字永原	縄文(前・後)	
24	熊沢池遺跡	201336	散布地、集落跡	浪岡大字吉野田字熊沢、樺沢字村元	平安	
25	樺沢上野遺跡	201397	散布地	浪岡大字樺沢字上野、吉野田字熊沢	縄文、平安	青森県教育委員会1979
26	嶺山前村元遺跡	201398	散布地	浪岡大字樺沢字村元、嶺山前字村元	平安	
27	上野遺跡	201338	散布地、集落跡	浪岡大字樺沢字村元、嶺山前字上野、字村元	縄文(中・後)、平安、中世、近世	
28	樺沢村元(2)遺跡	201436	散布地	浪岡大字樺沢字村元	平安	
29	樺沢村元(1)遺跡	201412	散布地	浪岡大字樺沢字村元	縄文、平安	
30	山神宮遺跡	201340	散布地	浪岡大字樺沢字村元、銀字杉田	縄文(晩)	
31	神明宮遺跡	201339	散布地、集落跡	浪岡大字銀字杉田	縄文(前・後)、平安	
32	大林遺跡	201342	散布地	浪岡大字銀字杉田	縄文、平安	
33	蝦夷遺跡	201378	城館跡	浪岡大字銀字杉田	中世	青森県教育委員会1983
34	杉田遺跡	201385	散布地	浪岡大字銀字杉田	平安	
35	銀前田遺跡	201411	散布地	浪岡大字銀字前田、字沢田	平安	
36	長瀬池遺跡	201341	散布地、墳墓	浪岡大字女鹿沢字平野、銀字杉田	縄文(中・後・晩)、平安、中世	青森県教育委員会2001、青森県教育委員会2010

第3節 過去の調査

野尻(4)遺跡のこれまでの発掘調査等について概観する(第6図)。

平成6年にはバイパス建設に先立ち、青森県教育委員会が19,800㎡の発掘調査を実施した。その結果、縄文時代は土坑1基・Tピット4基であり、平安時代は竪穴建物跡41棟・掘立柱建物跡11棟・土坑86基・溝跡107条・井戸跡1基・環壕1基・畝状遺構2箇所・焼土状遺構4基を検出した。調査の結果、外周溝を伴う建物跡、環壕(国史跡高屋敷館遺跡より古期)など注目される遺構を検出した(青森県教育委員会 1996)。

平成12年から14年にかけては、浪岡町大釈迦工業団地調査会が工業団地造成に伴い、59,000㎡の発掘調査を実施した。調査の結果、竪穴建物跡278棟・掘立柱建物跡3棟・竪穴状遺構32棟・土坑107基・溝跡107条・井戸跡15基・畑跡14箇所・焼土跡117基・円形周溝2基・土器埋設遺構2基を検出した。竪穴建物跡は多くが外周溝を有し、東側にカマドが設置されるなどの斉一性を有する大規模な集落が検出された(浪岡町教育委員会 2004)。

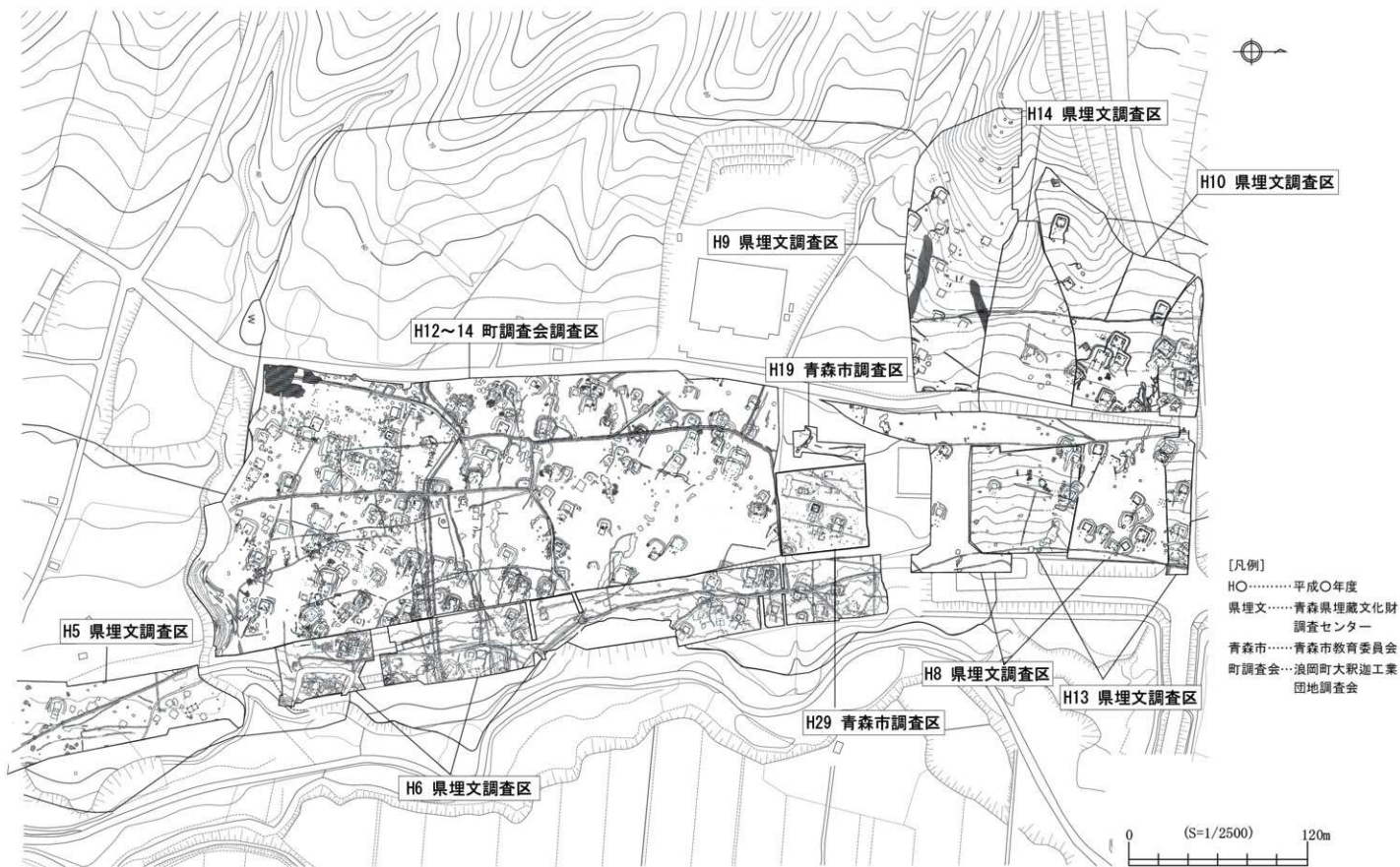
平成19年には倉庫建設に先立ち、青森市教育委員会が524㎡の発掘調査を実施した。調査の結果、今回の調査区北側の隣接部分から、平安時代の竪穴状遺構2基・土坑5基・小ピット9基・溝状遺構4基を検出した(青森市教育委員会 2008)。

本遺跡は、浪岡町史(浪岡町 2000)・青森県史(青森県 2003)では野尻遺跡群の遺跡として紹介されており、隣接する野尻(1)～(3)遺跡等とともに整然とした建物配置が認められ、集団内の規制により規格的な集落が構築されたと考えられる。

また、野尻(4)遺跡の北側に隣接する野尻(1)遺跡では、平成8～14年にかけて青森県教育委員会が63,900㎡に及ぶ広大な面積の発掘調査を実施した。調査の結果、竪穴建物跡84棟・掘立柱建物跡1棟・土坑103基・溝跡65条・焼土遺構25基・井戸跡1基・土器埋設遺構1基・畝状遺構7箇所を検出した。竪穴建物跡は外周溝・掘立柱建物を伴うものが大多数を占め、合口土器棺及び畑跡が注目される(青森県教育委員会 1998・1999・2000・2002・2003)。時期は9世紀後半～10世紀前半と、本遺跡と同時期であり、本遺跡も含めて丘陵上に規模の大きな集落が存在していたことが窺える。



第5図 遺構配置図



第6図 野尻(4)遺跡周辺の調査区

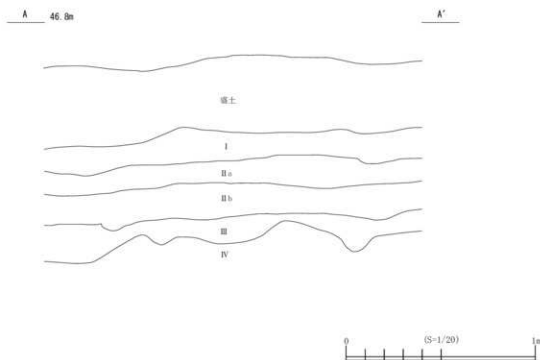
第4節 調査区の層序

調査区内は、西側から東側にかけて緩やかに傾斜している地形で、標高は45~48mである。盛土内に残存していた切株や周囲の現況から、以前は果樹園として利用されていたと考えられる。

調査区層序は5層（Ⅰ~Ⅳ層）に区分した。土層の分布範囲は、Ⅰ層・Ⅱb層・Ⅲ層・Ⅳ層が全域、Ⅱa層は調査区南側に認められ、北側では確認できなかった。

遺構はⅡb層で確認しており、Ⅱb層が削除されているところでは、Ⅲ層上面で検出している。

- Ⅰ層 黒褐色土（10YR3/1） 20cmほどの厚さである。ローム粒（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）少量、ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）微量、酸化鉄（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）を少量含む。
- Ⅱa層 黒褐色土（10YR3/1） 15cmほどの厚さである。ローム粒（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）少量、ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）微量、酸化鉄（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）微量、砂中量を混入。
- Ⅱb層 黒色土（10YR2/1） 15~30cmほどの厚さである。ローム粒（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）微量、ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）微量、炭化粒（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）微量、酸化鉄（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）を少量含む。
- Ⅲ層 にぶい黄褐色土（10YR5/4） ローム粒（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）、ロームブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）、酸化鉄（ $\phi 1\sim 9\text{mm}$ ）少量含み、黒褐色土がブロック状に混入。
- Ⅳ層 黄褐色土（10YR6/6） 酸化鉄を中量含む。粘土層で地山である。



第7図 基本層序

第三章 検出遺構と出土遺物

第1節 建物跡

7棟検出した。このうち、竪穴建物に掘立柱建物や外周溝が付随するいわゆる3点セットの建物跡は3棟(SI-01、05、10)、掘立柱建物に外周溝が巡る建物跡は1棟(SI-07)、竪穴建物単独の建物跡は3棟(SI-06、08、09)である。SI-05、09については拡張されており、SI-05については2回の拡張が認められる。拡張を考慮に入れた場合の検出数は10棟となる。検出した建物跡の多くは床面付近での確認であり、一部床面も削平を受けているものも認められる。

SI-01 (第8~10図)

[位置・確認] E-11・12、F・G-11~14、H-11~13グリッドに位置している。第Ⅲ層より確認した。[平面形・規模・主軸] 壁溝から推定すると、竪穴部の平面形は南北に長軸をもつ長方形で、規模は長軸586×短軸415cmを測る。主軸はN-113°-Eである。[重複] 竪穴部でSK-59、61、66と重複している。新旧関係については、本遺構がSK-59、61、66より新しい。また、外周溝においてSK-49、60、62~64、67、139と重複しており、新旧関係については、SK-49、60、64、139が本遺構より新しく、SK-62、63、67が本遺構より古い。[壁] 床面での検出により壁は確認できなかった。[床面] 貼床である。黒褐色土と黄褐色ローム土の混合層により貼床としている。北側の一部では削平により貼床を確認できなかった。[壁溝] 東壁のカマド付近を除いて断続的に確認した。規模については、南側は長さ360×幅25×深さ10cm、東側は長さ270×幅20×深さ10cm、西側は長さ520×幅15×深さ10cm、北側は長さ320×幅20×深さ8cmを測る。[ピット・柱穴] 竪穴内から20基(Pit1~17、27、29、35)、竪穴外からの3基(Pit19、23、34)のピットを検出した。Pit6、27は壁溝のコーナー部、Pit1~12、14~16、29は壁溝に位置している。Pit2、6、12、13、15、27が柱穴と考えられる。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)はPit1=32×20×27cm、Pit2=(22)×(20)×32cm、Pit3=(22)×(15)×12cm、Pit4=30×20×16cm、Pit5=18×16×20cm、Pit6=50×40×48cm、Pit7=20×16×19cm、Pit8=20×15×6cm、Pit9=12×10×14cm、Pit10=16×15×15cm、Pit11=20×15×13cm、Pit12=40×25×20cm、Pit13=30×26×25cm、Pit14=25×20×66cm、Pit15=15×30×23cm、Pit16=(35)×18×20cm、Pit17=42×38×14cm、Pit19=20×18×36cm、Pit23=26×19×19cm、Pit27=37×36×29cm、Pit29=20×20×8cm、Pit34=31×(17)×7cm、Pit35=(20)×(15)×18cmを測る。[カマド] 東壁南寄りに位置している。カマドの遺存状態は悪く、火床面とみられる焼土範囲のみの検出で、袖部や煙出部は確認できなかった。火床面は平面不整形を呈し、規模は長軸56×短軸44cmを測る。火床面下部からは楕円形の掘方を検出した。[掘立柱建物跡] 竪穴部の東側に位置する。12基のピットで構成されており、桁行4間×梁行2間の方形を呈する。規模は桁行576×梁行521cmを測る。柱間寸法については、桁行のPit30-Pit18間145cm、Pit18-Pit20間110cm、Pit20-Pit21間145cm、Pit21-Pit33間105cm、梁行のPit26-28間250cm、Pit28-Pit30間235cmを測る。主軸方位は竪穴とほぼ同様である。Pit18とSK-141、Pit30とSK-65が重複しており、新旧関係についてはPit18がSK-141より新しく、SK-65がPit30より新しい。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit18=65×60×35cm、Pit20=45×40×36cm、Pit21=30×30×21cm、Pit22=32×30×19cm、

Pit24=40×40×37cm、Pit25=25×22×34cm、Pit26=50×40×29cm、Pit28=40×30×46cm、Pit30=45×45×35cm、Pit31=(40)×(30)×12cm、Pit32=40×(40)×28cm、Pit33=60×(50)×30cmを測る。[外周溝] 堅穴の北、西、南側をU字形に取り囲むように存在する。規模については、土坑との重複のため、本来の延長は不明であるが、延長17.47m、開口部幅最大101cm、最小44cm、底部幅最大31cm、最小23cm、深さ36～53cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は丸みを帯びる部分やほぼ平坦な部分が認められる。溝底面よりビット9基を検出した。Pit36は溝北側の平面方形のビット、Pit37～44は遺構の南側に列状に位置する浅いビットである。各ビットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit36=50×30×18cm、Pit37=20×20×12cm、Pit38=22×20×22cm、Pit39=18×18×17cm、Pit40=20×15×14cm、Pit41=15×12×14cm、Pit42=20×15×17cm、Pit43=15×10×15cm、Pit44=20×15×13cmを測る。溝の堆積土については、黒色土を主体とする3層に分層でき、自然堆積と考えられる。[その他の付属施設] 堅穴内の北西側で土坑3基を検出した。付SK1は、平面不整形形で、規模は長軸130×短軸110×深さ35cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は丸底を呈する。付SK2は、平面方形で、規模は長軸90×短軸85×深さ20cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。付SK3は、平面不整形形で、規模は長軸70×短軸70×深さ14cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。[堆積土] 堅穴部については堆積土が浅く、黒褐色土1層のみ確認できた。焼土粒及び炭化物粒を含み、深さ4cmと浅い。自然堆積と考えられる。[出土遺物] 土師器甕4点、須恵器壺3点を図示した(第29図1～7)。1～2は堅穴部堆積土出土、3～7は外周溝上層出土である。1は土師器甕の口縁～体部で、調整はロクロナデである。口縁部幅が狭く、内屈気味を呈する。口唇部は上端が尖るような形状である。2は須恵器長頸壺の口縁部である。口縁部がやや外傾する。3は須恵器長頸壺体部で、タタキ成形後、ロクロナデにより調整されており、体部には刻書が認められる。4～6は土師器甕である。4は直線的な体部に緩やかに外反する口縁部を有する。5は直線的な形状である。6は口縁部に浅いびれが認められ、口縁部が外反する。7は須恵器長頸壺体部で丸みを帯びる。

SI-05a・SI-05b・SI-05c (第11～17図)

[位置・確認] I-9～11、J・K-8～12、L-9～12グリッドに位置している。本遺構の堅穴部については2回拡張されており、3段階の変遷が認められる。このため、遺構の呼称については、拡張2回目の最終段階の建物をSI-05a、拡張1回目の建物をSI-05b、拡張前をSI-05cとした。外周溝についても堅穴の拡張に伴う作り替えが一部認められるため、作り替え前を外周溝②、作り替え後を外周溝①とした。覆土等からは明確に判断できなかったが、外周溝②はSI-05c、外周溝①はSI-05a、bに伴うと考えられる。ただし、堅穴部の拡張2回に伴って作り替えされた可能性もある。また堅穴に付属する掘立柱建物についてもビットの配置から3パターン確認でき、堅穴部の拡張に伴って変遷する可能性が考えられる。堅穴部柱穴との軸線方向及びビット・壁溝の重複関係から、掘立柱建物aについてはSI-05a、掘立柱建物bについてはSI-05b、掘立柱建物跡cについてはSI-05cに付属すると考えられる。なお、Pit3、5、13、16については、本建物跡と伴わない可能性も考えられるが、どの段階に伴うか判別できなかった。Pit3、13については柱痕が認められる。規模については、Pit3=52×46×26cm、Pit5=59×51×56cm、Pit13=57×44×48cm、Pit16=48×48×20cmを測る。[出土遺物] a・b・cのどの段階に帰属するか判断できなかった土師器坏1点、甕1点、小甕1点、ミニチュア土器1点(第29図8～11)を図示した。また、a・bのいずれかに帰属すると考えられるものの、判断できなかった

土師器環5点、甕2点、須恵器壺1点、鉄関連遺物1点を図示した(第29、30図12~19、第32図鉄1)。8~11は竪穴部確認面や外周溝、12~17はSI-05a・b貼床層、18、19は外周溝①の出土である。8は環の口縁~体部で、外周溝②とSK-111の接合資料である。体部下半がやや丸みを帯び、器壁は口縁部にやや厚みが見られる。9は甕の口縁~体部で、体部がやや張り、口縁部に深くびれをもつ。調整はロクロナデで、口唇部は上端が平坦な形状を呈する。10は小甕の口縁~体部で、口縁部の浅いくびれから緩やかに外反する形状を呈する。11はミニチュア土器の体~底部である。調整はロクロナデで、口縁部に向かってやや強く外反する。12は環の口縁~底部で、底部から直線的に開く形状である。13は甕の口縁~体部で、調整はロクロナデである。やや丸みのある体部に外反する口縁部をもち、口唇部が平坦に整形されている。14~16、18は坏で、16はやや大きめの資料である。器形は14、16の底部付近がやや丸みを帯びる形状、15、18は直線的な形状である。18は灯明痕が認められる。17は須恵器壺である。19は土師器甕の口縁部で、口縁部は外反するが、口唇部がやや内屈気味を呈する。鉄1は椀形鍛冶滓で、表面に木炭痕が認められる。

SI-05a

[重複] 外周溝①においてSK-100、105、109~111が重複している。SK-100、109~111が本遺構より新しく、SK-105が本遺構より古い。[平面形・規模・主軸] 平面形は方形を呈する。規模は長軸550×短軸515cmを測る。主軸はN-113°-Eである。[壁] 西壁及び南壁の一部を確認した。ほぼ垂直に立ち上がる。[床面] 貼床である。第4・5層上面が床面に相当し、ローム粒やロームブロックが混入する黒褐色土である。やや起伏が認められる。SI-05bと同じ面が使用されたと考えられる。[壁溝] 北東隅及び南東隅を除いて検出した。延長は北~西~南壁で1,422cm、東壁で364cm、幅は北壁23cm、西壁24cm、南壁26cm、東壁17cmを測る。[ピット・柱穴] 掘立柱建物を構成するピットを除いて、竪穴内から壁柱穴2基(Pit32、33)を検出した。Pit32は南西隅、Pit33は北西隅でコーナー部である。規模(長軸×短軸×深さ)については、Pit32=43×30×25cm、Pit33=27×25×26cmを測る。[カマド] 東壁南寄から検出した。SI-05cカマドの上部に構築されており、上面を削平されているため、袖部は検出できず、火床面のみを検出である。SI-05a・bにおいて使用されたものと考えられる。火床面範囲は長軸41×短軸32cmを測る。[掘立柱建物] 竪穴外のPit1、8、10、12、20が掘立柱建物を構成すると考えられる(掘立柱建物a)。ピットの欠落が認められるが、本来は6基のピットで桁行2間×梁行1間の長方形を呈する建物と考えられる。主軸はN-112°-Eである。規模については、Pit1-Pit20から桁行687cm、Pit1-Pit8から梁行518cmと推定される。柱間寸法は、桁行のPit1-Pit12間222cm、Pit12-Pit20間427cmを測る。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=46×44×22cm、Pit8=57×52×22cm、Pit10=50×34×35cm、Pit12=58×48×24cm、Pit20=42×38×36cmを測る。[外周溝] 外周溝①が相当すると考えられる。U字形を呈し、延長21.63m、開口部幅最大85cm、最小45cm、底部幅最大53cm、最小22cm、深さは55cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる部分と段を持ちながら急角度に立ち上がる部分が認められ、底面はやや起伏を有する。外周溝内の堆積土は3層に分層でき、黒褐色土主体の土層を確認した。[その他の付属施設] 竪穴内の西側壁溝沿いで溝跡1条を検出した(付SD2)。規模は延長173cm、幅22cm、深さ23cmを測る。[堆積土] 床面上については、壁溝を含めて2層、床面下について1層に分層した。床面上については黒色土を確認し、床面下については、黒褐色土を確認した。床面上については自然堆積と考えられる。

SI-05b

〔重複〕外周溝での重複についてはSI-05aと同じ。掘立柱建物bのPit41とSI-07外周溝が重複しており、本遺構が古い。〔平面形・規模・主軸〕平面形は方形を呈し、規模は長軸494×短軸442cmを測る。主軸については、壁溝からの推定によりN-112°-Eを測る。〔壁〕西壁及び南壁の一部を確認した。ほぼ垂直に立ち上がる。〔床面〕貼床である。第4・5層上面が床面に相当し、ローム粒やロームブロックが混入する黒褐色土である。やや起伏が認められる。SI-05aと同じ床面と考えられる。〔壁溝〕東壁を除いて検出した。延長は1,247cm、幅は北壁33cm、西壁28cm、南壁24cmを測る。〔ピット・柱穴〕堅穴内から壁柱穴3基（Pit38～40）を検出した。Pit38、39は壁溝内、Pit40は西側壁溝付近の床面に位置する。規模（長軸×短軸×深さ）については、Pit38=23×21×22cm、Pit39=21×21×17cm、Pit40=19×12×14cmを測る。〔カマド〕SI-05aと同じ。〔掘立柱建物〕Pit2、4、6、7、9、14、15、19、41が掘立柱建物を構成するピットと考えられる（掘立柱建物b）。桁行2間×梁行2間の長方形を呈する総柱の建物である。主軸はN-112°-Eである。規模については、Pit9-Pit41から桁行576cm、Pit2-Pit9から梁行487cmを測る。柱間寸法は桁行のPit9-Pit15間で233cm、Pit15-Pit41間223cm、梁行のPit2-Pit6間で162cm、Pit6-Pit9間で184cmを測る。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ）は、Pit2=49×45×50cm、Pit4=48×42×48cm、Pit6=48×43×62cm、Pit7=48×44×16cm、Pit9=47×42×63cm、Pit14=46×43×39cm、Pit15=38×33×52cm、Pit19=42×19×46cm、Pit41=44×43×67cmを測る。〔外周溝〕SI-05aと同じ。〔堆積土〕SI-05aと同じ。〔出土遺物〕付Pit6（掘立柱建物b）から出土した土師器甕2点、須恵器坏1点を図示した（第30図20～22）。20は須恵器坏の口縁～体部である。口縁部外面には墨書が認められる。逆位で書かれていると考えられるが、判読不能である。21、22は甕の口縁部で、緩やかに外反する形状を呈する。

SI-05c

〔重複〕外周溝②とSK-100、109～111が重複している。SK-100、109～111が本遺構より新しい。〔平面形・規模・主軸〕壁溝から推定すると、平面形は方形を呈し、規模は長軸448×短軸412cmを測る。主軸はN-113°-Eである。〔壁〕西壁及び北・南壁の一部を確認した。ほぼ垂直に立ち上がる。〔床面〕貼床である。第8層上面が床面に相当し、ロームブロック、ローム粒が混入する黒褐色土である。西側はほぼ平坦であるが、東側はやや起伏が認められる。〔壁溝〕東壁のカマド部分を除いて全周する。延長は1,527cm、幅は北壁21cm、東壁29cm、西壁28cm、南壁24cmを測る。〔ピット・柱穴〕堅穴内から14基（Pit11、21～31、34、37）検出した。Pit23～25、28については壁溝のコーナー部、Pit22、27、29、30については各壁の中間、ピット26、31は壁溝内に位置している。Pit11、21、34の主柱穴とそれ以外の壁柱穴による配置である。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ）はPit11=49×47×40cm、Pit21=45×33×47cm、Pit22=28×18×33cm、Pit23=21×19×14cm、Pit24=23×22×24cm、Pit25=28×21×24cm、Pit26=26×21×12cm、Pit27=25×22×36cm、Pit28=24×23×20cm、Pit29=44×26×49cm、Pit30=28×25×28cm、Pit31=25×21×18cm、Pit34=41×25×41cm、Pit37=22×16×16cmを測る。〔カマド〕東壁南寄から検出した。火床面のみを検出であるが、火床面上には燃焼部から崩落したと考えられる粘土も認められた。火床面の範囲は、平面不整形円形を呈し、規模は長軸118×短軸74cmを測る。〔掘立柱建物跡〕堅穴外のPit17、35、36、42が掘立柱建物を構成すると考えられる（掘立柱建物c）。ピットの欠落が認められるが、本来は6基の柱穴による桁行2間×梁行1間の長方形を呈する建物と考えられる。規模については、Pit35-Pit42から桁行586cm、

Pit35-Pit17から梁行315cmと推定される。柱間寸法については、桁行のPit35-Pit36間286cm、Pit36-Pit42間283cm、梁行のPit17-Pit35間241cmを測る。主軸はN-112°-Eである。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit17=39×24×28cm、Pit35=42×23×16cm、Pit36=43×37×34cm、Pit42=29×21×20cmを測る。[外周溝] 外周溝②が相当すると思われる。作り替えや土坑との重複により全体形は不明であるが、延長20.77m、開口部幅最大64cm、最小41cm、底部幅最大38cm、最小27cm、深さ25cmを測る。壁はほぼ垂直であるが、底面付近はやや丸みを持つ。底面はほぼ平坦である。外周溝②内の堆積土は2層に分層でき、黒褐色土主体の土層を確認した。[その他の付属施設] 堅穴内から土坑4基(付SK1~4)、溝跡1条(付SD1)を検出した。付SK1は西壁の壁溝下より検出した。壁溝及びPit27に掘り込まれている。平面形は円形を呈し、規模は長軸78×短軸70×深さ23cmを測る。付SK2は南西隅付近、付SK3、4は北西隅寄りで検出した。平面形は付SK2長方形、付SK3不整形、付SK4不整形を呈し、規模は付SK2=長軸69×短軸50×深さ27cm、付SK3=長軸55×短軸49×深さ29cm、付SK4=長軸78×短軸66×深さ67cmを測る。付SD1についてはカマドを取り囲むようにL字形を呈する。延長は東西130×南北250cm、幅10cm、深さ4cmを測る。住居跡の間仕切りとも考えられるが、用途は不明である。[堆積土] 床面上については壁溝内を含めて4層、床面下については1層に分層した。壁溝内の6・7層については黒色土、それ以外については黒褐色土を確認した。4・5層上面をSI-05bの床面としており、拡張に伴う埋め戻しによる人為堆積と考えられる。[出土遺物] 土器器坏2点、甕1点、小甕1点、砥石1点、鉄関連遺物3点を図示した(第30図23~26、第32図石1、鉄2~4)。23、24は堅穴部床面、25は堅穴部掘方、26は付Pit12、石1はPit21、鉄2~4は堆積土より出土した。23は杯の口縁~体部で丸みを帯びる器形である。24は小甕の口縁~体部で、口縁端部がやや外反する形状を呈する。25は口縁部がややつまみ出されたような形状で、底部にかけて丸みを帯びる。内面黒色処理が認められる。26は甕の口縁部である。調整はロクロナデで、口縁部が緩やかに外反する形状である。石1はやや厚みのある砥石で、表面が砥面となっている。鉄2は椀形鍛冶滓の破片、鉄3、4は刀子の破片である。

SI-06 (第18、19図)

[位置・確認] G・H-12・13グリッドに位置している。[重複] SK-142と重複しており、SK-142が新しい。[平面形・規模・主軸] 東側が概乱によって検出できなかったが、残存部から推定すると、東西に長軸をもつ長方形を呈する。規模は残存部分で長軸333×短軸265cmを測る。主軸はN-16°-Eである。[壁] 東壁は不明であるが、西壁は急角度に立ち上がり、南北壁はほぼ垂直に立ち上がる。[床面] ローム粒・ロームブロック等を含む黒色土と明黄褐色土の混合層を床面としている。ほぼ平坦である。[壁溝] 検出できなかった。[ピット・柱穴] ピットは12基検出した。Pit1、3、7、8、10は壁柱穴で、Pit1、3はコーナー部に位置している。Pit13は掘方から検出した。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=22×17×26cm、Pit2=35×29×11cm、Pit3=29×19×17cm、Pit4=34×25×48cm、Pit5=40×30×11cm、Pit7=19×11×37cm、Pit8=22×20×12cm、Pit9=26×17×11cm、Pit10=30×21×21cm、Pit11=28×15×16cm、Pit12=33×26×10cm、Pit13=38×36×5cmを測る。[カマド] 北壁東寄から検出した。北側に位置するカマドは、今回の調査区では本建物のみである。規模は残存する部分から左袖の端部まで91cmを測り、燃焼部は外壁部分で幅82cm、内壁部分で袖部は45cmを測る。袖は粘土を用いて構築しており、6層及び8層の一部が相当する。1~3層は燃焼

部天井の崩落粘土と考えられる。火床面は第7層が相当し、被熱は弱い。平面不整形を呈し、長軸23×短軸22cmを測る。[その他の付属施設]土坑2基を検出した(付SK1、2)。付SK1は東側が攪乱によって不明であるが、平面円形を呈していると考えられ、規模は長軸144×短軸115×深さ30cmを測る。付SK2は平面不整形円形を呈し、規模は長軸142×短軸110×深さ20cmを測る。付SK1、2ともにローム粒やロームブロック等を混入する黒色・黒褐色土が表層に認められ、床面と近似することから、本建物使用時には埋まっていたものと考えられる。[堆積土]床面上は5層、床面下は掘方の埋土1層に分層でき、黒色土を主体とする土層を確認した。堆積土は、炭化粒・焼土ブロックが混入しているものの自然堆積と考えられる。[出土遺物]土師器小皿1点、皿1点、坏3点、甕5点、小甕1点、罎2点、把手付土器1点、須恵器甕1点、土製品1点、鉄関連遺物1点を図示した(第30、31図27~41、第32図土1、鉄5)。27、29、32、34、35、39~40は堆積土上層、30、36、37、38、鉄6は床面出土、28、31、33、土1は付SK出土である。41は堆積層と床面の接合である。27は小皿の口縁~体部で、やや内湾する形状である。調整はロクロナデの後、内外面ナデが施されている。28は皿の口縁~体部で口縁部がやや内湾する形状を呈する。調整はロクロナデ後、外面ナデが施されている。29、31は坏の口縁~体部、30は体~底部である。29は口縁部がつまみ出されたようにやや外反し、31は直線的な形状で口縁部に厚みがある。32は小甕の口縁部で、やや内屈気味の形状を呈する。調整はロクロナデである。33~36は甕の口縁~体部、37は底部である。35はSD-02との接合資料である。33は体部がやや丸みを帯び、口縁部が緩やかに外反する形状である。浅めの頸部をもつ。34、36はやや口縁部が強く外反する形状を呈し、35は口縁部が緩やかに外反する形状である。34は口唇部がやや平坦に整形されており、35は外面にヘラ状工具による工具痕が認められる。37は甕の底部で、調整はロクロナデである。38、39は罎の口縁~体部である。38はSI-07外周溝との接合資料である。39は内面に幅の細い工具によるナデが認められる。40は把手付土器の把手と考えられ、外面にナデによる調整が認められる。41は須恵器甕で、平行タタキ目が認められる。土1は焼成粘土塊、鉄5は鍛冶滓である。

SI-07 (第20、21図)

[位置・確認] I・J・K-12~14、L-12・13グリッドに位置している。第IV層を精査中に外周溝と掘立柱建物跡を確認した。[重複] 外周溝にSK-77、84、87、91、94、95、SI-05付Pit41が重複しており、SI-05Pit41のみ本遺構より古く、他は本遺構が古い。SKは外周溝の末端部に集中している。[掘立柱建物・柱穴] Pit10、12、13、18、27、28により桁行2間×梁間1間の長方形の建物が構成されている。規模は、Pit13-Pit18から桁行553cm、Pit12-13から梁行369cmを測る。柱間寸法は桁行Pit13-Pit10間267cm、Pit10-Pit18間218cm、梁行Pit12-Pit13間318cmを測る。主軸はN-103°Eである。外周溝の内側からは27基のビットを検出しており、本建物に伴わないビットも含まれると考えられるが、Pit4、12、17、29やPit2、3、14などの配置も認められることから、建替された可能性もある。各ビットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit2=27×25×11cm、Pit3=20×18×12cm、Pit4=31×28×26cm、Pit5=30×19×24cm、Pit7=33×27×16cm、Pit8=26×25×18cm、Pit9=39×33×46cm、Pit10=29×19×18cm、Pit11=46×23×19cm、Pit12=25×16×14cm、Pit13=23×14×12cm、Pit14=38×27×27cm、Pit15=30×21×17cm、Pit16=32×27×28cm、Pit17=27×26×35cm、Pit18=29×25×37cm、Pit19=45×26×11cm、Pit20=28×20×36cm、Pit21=32×26×27cm、Pit22=45×24×8cm、Pit23=37×23×32cm、Pit24=27×20×12cm、Pit25=28×19×76cm、Pit26=23×22×21cm、Pit27=31×22×21cm、Pit28=40×34

×33cm、Pit29=36×23×14cmを測る。[外周溝]北側から南側にかけて馬蹄形を呈する。土坑との重複により全体形は不明であるが、規模は延長17.06m、開口部幅最大136cm、最小81cm、底部幅最大71cm、最小39cm、深さ40cmを測る。壁は段状に立ち上がる部分と急角度に立ち上がる部分が認められ、底面はほぼ平坦である。外周溝内底面からPit2基を検出した(Pit1、6)。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=20×20×15cm、Pit6=20×20×21cmを測る。外周溝内の堆積土は4層に分層でき、黒褐色土主体の土層を確認した。北東及び南西コーナー部においては第1層中にB-Tm火山灰がブロック状に混入していたが、二次堆積と考えられる。2～4層については断面観察等から自然堆積と考えられる。[出土遺物]土師器環5点、甕1点、小甕1点、須恵器環1点、壺1点、甕1点、礫石器1点を図示した(第31図42～51、第32図石2)。42～45は確認面及び掘立柱建物付Pit10出土、46～51は外周溝出土である。42～44は土師器環の口縁～体部、45は体～底部、46は口縁～底部である。42は口縁端部がやや外反する形状を呈する。43はほぼ直線的な器形を呈し、44はやや丸みを帯び、口唇部に肥厚が認められる。45は底部で、直線的に開く器形で、幅の広い糸切痕が認められる。46は底部付近がやや丸みを持ち、口縁部が直線的な形状を呈する。内面口縁部に灯明痕が認められる。47は甕の口縁部で、直線的な形状を呈し、口縁部が緩やかに外反する。48は小甕の口縁～体部で、ほぼ直線的な器形である。49は須恵器環の口縁部で、口唇部は先細り、直線的に開く形状を呈する。50は須恵器壺の底部で、ロクロ調整後、外面へラケズリが施されている。底部はナデで、外縁部には粘土の貼付により貼り高台が認められる。51は須恵器甕の体部で、平行タキ目か認められる。石2は凹石で、表裏面に凹みがあり、側面には敲打痕が認められる。

SI-08 (第22、23図)

[位置・確認] I・J-14・15グリッドに位置している。SI-07を精査中に本建物跡の壁溝を確認した。[重複] SI-07、SK-40、41、91、94、101と重複しており、本遺構がSK-101より新しく、本遺構がSI-07、SK-40、41、91、94より古い。[平面形・規模・軸] 北側の壁溝が確認できなかったが、平面形は方形と推定される。規模は長軸491×短軸381cmを測る。軸はN-108°-Eである。[壁] 床面での検出により確認できなかった。[床面] 黒色土と明黄褐色土の混合層を床面としている。床全体は、ほぼ平坦である。[壁溝] 削平により不明な北側や土坑との重複部分を除いて、東、西、南壁で検出した。東壁はカマド部分で途切れる。延長は675cm、幅は東壁23cm、南壁29cm、西壁24cmを測る。[ピット・柱穴] ピットは12基検出した。Pit1、2、4が壁溝内、Pit3はコーナー部で検出しており、壁柱穴である。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=23×22×31cm、Pit2=30×30×21cm、Pit3=34×33×37cm、Pit4=17×15×14cm、Pit5=15×10×21cm、Pit6=30×25×7cm、Pit7=34×18×9cm、Pit8=43×39×19cm、Pit9=36×21×15cm、Pit10=33×26×15cm、Pit11=32×25×11cm、Pit12=30×18×15cmを測る。[カマド] 東壁南寄から検出した。燃焼部のみ残存しており、煙道の構造は不明である。袖部は粘土を用いて構築されており、第4層が相当する。幅は外壁で72cm、内壁で41cmを測る。火床面は、平面不整楕円形で、規模は長軸66×短軸34cmを測る。燃焼部下部には楕円形の掘方を有する。[堆積土] 床面が露出した状態での検出により堆積土は確認できず、黒色土と明黄褐色土の混合層による掘方埋土1層のみ確認した。[出土遺物] 土師器環1点、甕1点、須恵器環1点を図示した(第31図52～54)。52は床面、53、54はカマド堆積土出土である。52は土師器環の口縁部で、直線的な形状を呈する。53は甕の口縁部で、口縁部が緩やかに外反しており、調整はロクロナデである。54は須恵器環の口縁部で、口縁端部がやや外反する形状である。

SI-09a・SI-09b (第24、25図)

〔位置・確認〕G～I-4、H-5グリッドに位置している。第III層を精査中に本建物跡の床面を検出した。壁溝の重複から本建物は拡張されたと考えられる。拡張後をSI-09a、拡張前をSI-09bとした。

〔出土遺物〕カマド出土の土師器壺2点を図示した(第31図55、56)。55は壺の体～底部で、底部から丸みを帯びるように立ち上がる形状を呈する。調整はロクロナデである。カマド火床面東側から逆位で出土しており、支脚と考えられる。56は壺の口縁～体部で、体部がやや丸みを帯び、口縁部が緩やかに外反する形状を呈する。

SI-09a

〔重複〕なし。〔平面形・規模・主軸〕東壁北側が検出できなかったが、壁溝から推定すると、平面形は南北に長軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸524×短軸350cmを測る。主軸はN-95°-Eである。〔壁〕床面直上での検出により確認できなかった。〔床面〕第1層上面が本建物床面に相当する。ほぼ平坦である。〔壁溝〕東壁北側は攪乱により不明であるが、南北壁及び西壁の一部で確認した。東～南側はSI-09b壁溝に沿って検出した。東～南側については延長477cm、幅は東側22cm、南側16cmを測る。北～西側については延長334cm、幅は北側27cm、南側21cmを測る。〔ピット・柱穴〕ピットは壁溝コーナー部から1基検出した。規模は長軸18×17×18cmを測る。〔カマド〕東壁中央部に位置している。拡張前と同じカマド使用と考えられる。燃焼部のみ残存しており、煙道の構造は不明である。燃焼部粘土の広がり長軸90cm×短軸58cmで認められた。袖部は粘土を用いて構築しており、第5層が相当する。幅は外壁で63cm、内壁で39cmを測る。火床面は第4層が相当する。平面形は不整形を呈し、規模は長軸60×短軸58cmを測る。火床面東側には第31図55が逆位で出土しており、支脚として利用されたと考えられる。燃焼部下部には楕円形の掘方を有する。〔その他の付属施設〕なし。〔堆積土〕拡張後の本建物については、床面が露出した状態での検出のため、堆積土は不明である。

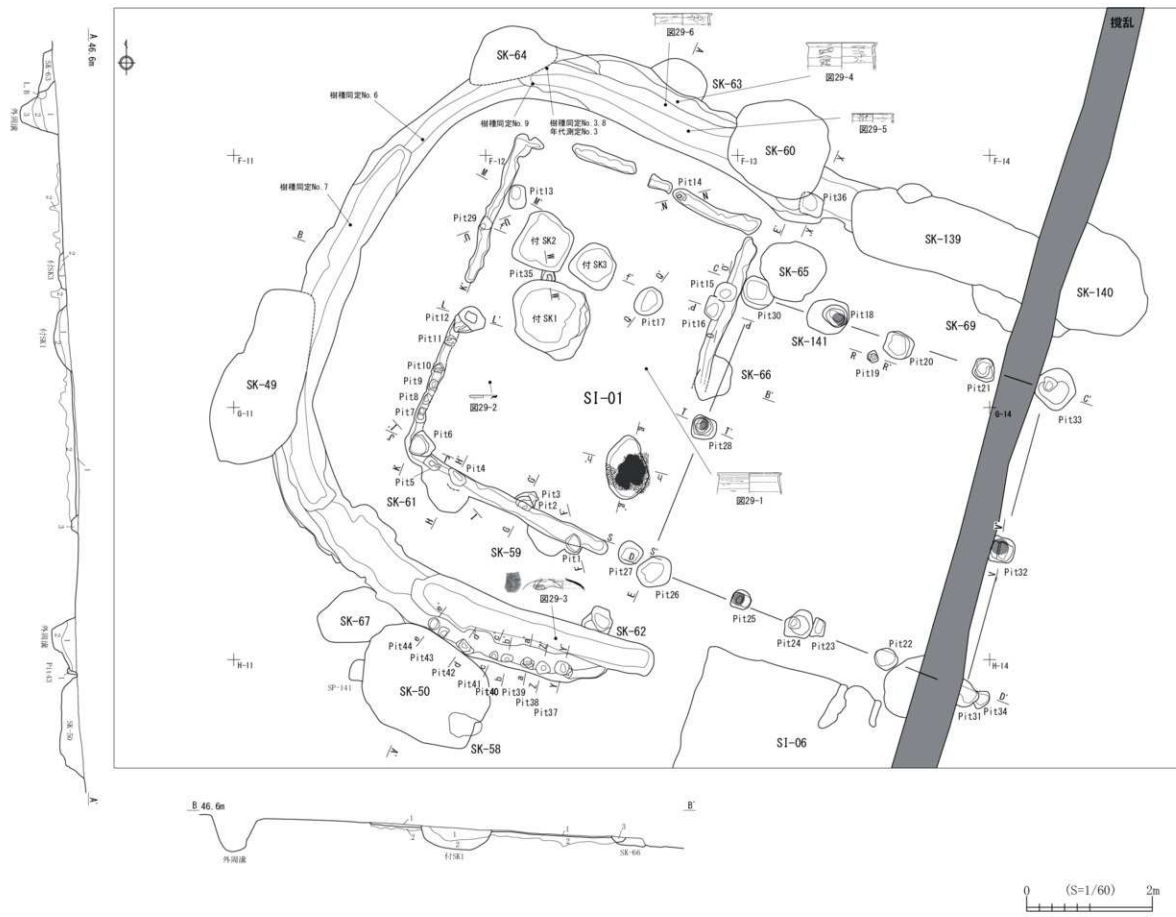
SI-09b

〔重複〕なし。〔平面形・規模・主軸〕北側は不明であるが、残存する壁溝から南北に長軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸483×短軸298cmを測る。主軸はN-95°-Eである。〔壁〕確認できなかった。〔床面〕第2・3層上面が本建物床面に相当する。やや起伏が認められる。〔壁溝〕北壁及び東壁北側は不明であるが、西、南壁及び東壁南側で検出した。東壁南側及び南壁はSI-09a壁溝に沿って構築されている。延長は東壁206cm、南壁154cm、西壁355cm、幅については東壁22cm、南壁17cm、西壁33cmを測る。〔ピット・柱穴〕確認できなかった。〔カマド〕SI-09aと同じカマドである。〔その他の付属施設〕なし。〔堆積土〕本建物床面上の土層はSI-09a貼床に相当する。床面下については掘方埋土を2層に分層でき、黒褐色主体の土層を確認した。

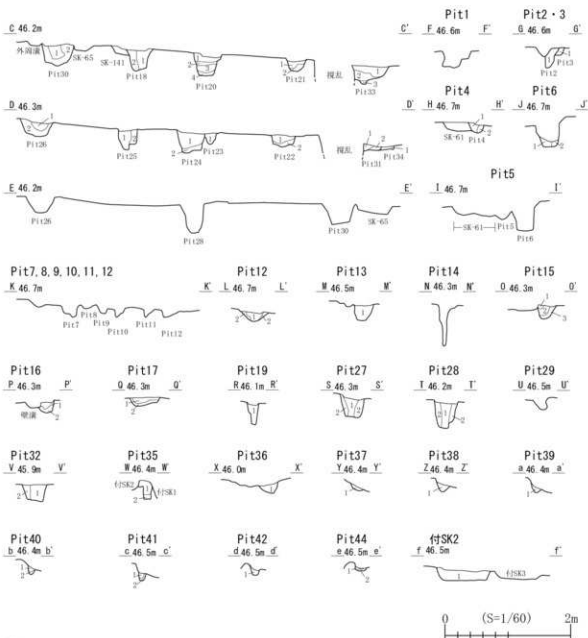
SI-10 (第26～28図)

〔位置・確認〕M-17、N・O・P-15～17グリッドに位置している。第III層を精査中に本住居跡を確認した。〔重複〕竪穴部分がSK-136、SD-17、外周溝がSK-126、129、SP-384、385と重複している。本遺構がSK-126、136、SP-385より新しく、SK-129、SD-17、SP-384が本遺構より新しい。〔平面形・規模・主軸〕東側部分が調査区外により不明であるが、残存部から方形を呈すると思われる。規模は長軸531×短軸504cmを測る。主軸はN-119°-Eである。〔壁〕床面が露出した状況での確認であったため、壁は確認できなかった。〔床面〕貼床である。ローム粒やロームブロッ

ク等を混入する黒色土上面を床面としている。ほぼ平坦である。〔壁溝〕西側でのみ検出した。Pit9部分で一部途切れている。延長371cm、幅21cm測る。〔ピット・柱穴〕ピットは28基検出した。Pit1、24、28がコーナー部に、Pit9、22、25が壁中間に位置する壁柱穴であり、Pit10、16が主柱穴と考えられる。Pit2～6は外周溝と住居跡の間に位置している。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=31×25×45cm、Pit2=21×18×19cm、Pit3=24×19×20cm、Pit4=22×19×23cm、Pit5=23×18×27cm、Pit6=(20)×(18)×28cm、Pit7=15×14×32cm、Pit8=39×33×24cm、Pit9=27×26×37cm、Pit10=55×35×29cm、Pit11=56×39×15cm、Pit12=37×31×18cm、Pit13=21×17×11cm、Pit14=12×11×16cm、Pit15=37×35×14cm、Pit16=56×43×42cm、Pit17=33×26×17cm、Pit18=31×30×23cm、Pit19=16×16×30cm、Pit20=21×19×28cm、Pit21=29×28×21cm、Pit22=26×25×15cm、Pit23=25×20×9cm、Pit24=29×22×28cm、Pit25=29×21×15cm、Pit26=33×28×20cm、Pit27=20×20×30cm、Pit28=30×23×39cmを測る。〔カマド〕東壁南寄りに位置している。東側部分が攪乱によって切られており、燃焼部のみを検出で、煙道の構造は不明である。袖部は粘土によって構築されており、第4層が相当する。幅は外壁で65cm、内壁で34cmを測る。火床面は第3層上面が相当する。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸42×短軸32cmと小型である。燃焼部下部から楕円形の掘方を検出した。〔外周溝〕竅穴の西側を囲むように位置している。北東及び南東側が調査区外にあるため、全体は不明であるが、延長13.75m、開口部幅最大155cm、最小40cm、底部幅最大68cm、最小16cm、深さ35～80cmを測る。壁は段状に急角度で立ち上がる部分とほぼ垂直に立ち上がる部分が認められ、底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分層でき、黒褐色土を主体とする土層を確認した。第2層上面にはB-Tm火山灰がブロック状に混入しており、二次堆積と考えられる。3～7層については断面観察等から自然堆積と考えられる。〔その他の付属施設〕南壁中央部付近より土坑1基を検出した(付SK1)。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸111×短軸81×深さ35cmを測る。Pit22に掘り込まれていることから、床下の土坑と考えられる。〔堆積土〕床面が露出した状態での検出により、床面上の土層については不明である。床面下の掘方埋土については黒色土で、ローム粒・焼土粒が混入している。〔出土遺物〕土師器坏4点、ミニチュア土器1点、甕3点、小甕2点、須恵器坏2点、壺2点、甕1点、鉄関連遺物1点、土製品2点を図示した(第31、32図57～71、鉄6、土2、3)。57、58、63、64、67は竅穴部掘方、59、71は外周溝、60～62、65、66、68～70、鉄6、土2、3は竅穴部堆積土の出土である。57～60は坏の口縁～体部である。器形については57、60が直線的に開く形状で、58、59は丸みを帯び内湾気味である。口唇部については、57がやや丸みを帯び、58～60は先細り気味である。61はミニチュア土器の底部で、調整はロクロナデである。62は甕の口縁～体部で、くびれの浅い形状で、口縁端部がやや外反する。63、64は小甕の口縁～体部である。63はやや厚みを持ち、丸みのある体部から緩やかに外反する形状である。64は薄い器壁で、やや丸みのある体部から口縁部へと緩やかに外反する。65、66は甕の体～底部である。65は底部が台状を呈し、体部へと丸みを帯びるような形状である。66は直線的に立ち上がる形状である。65、66ともに底部は砂底である。67は須恵器坏の口縁部、68は口縁～底部である。67は直線的に開く形状、68は底部からやや丸みを帯び、口縁部は緩やかに外反する形状である。69、70は須恵器壺の口縁部である。69に比べて70がやや外傾する形状である。71は須恵器壺の体部で、外面平行タタキ目が認められる。SI-06出土須恵器(第31図41)と同一個体と考えられる。鉄6は羽口体部破片で、外面には柁目痕が認められる。土2、3は塊状を呈する焼成粘土塊である。

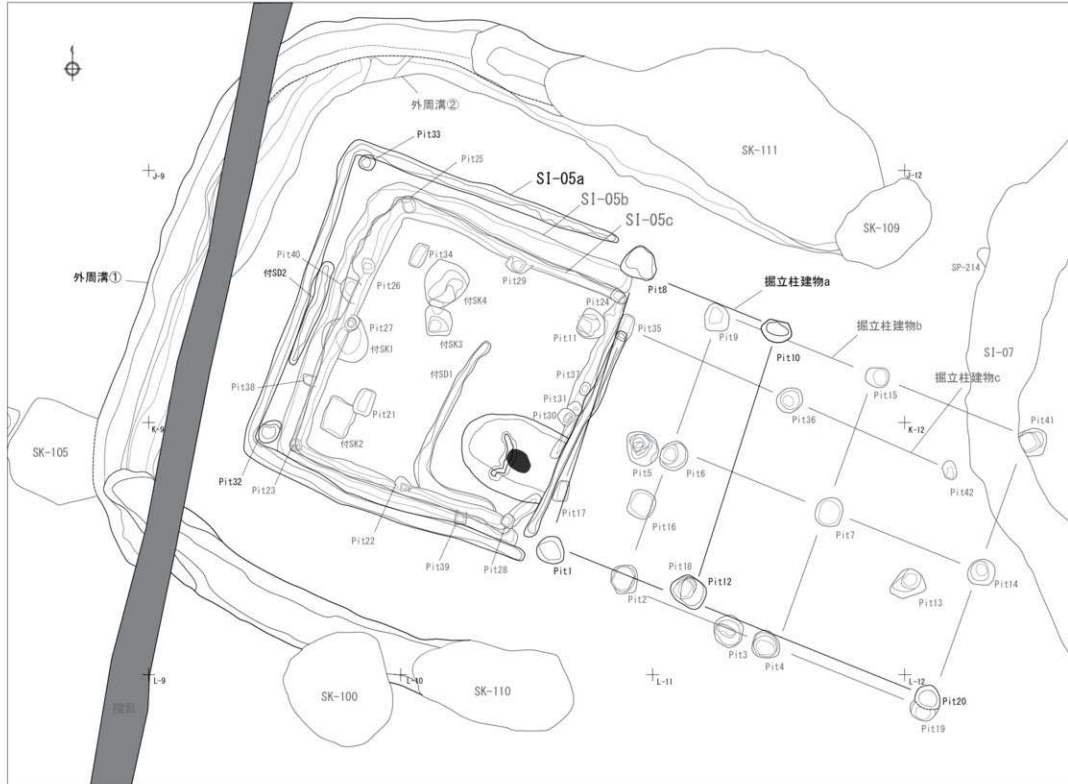


第8圖 SI-01 (1)

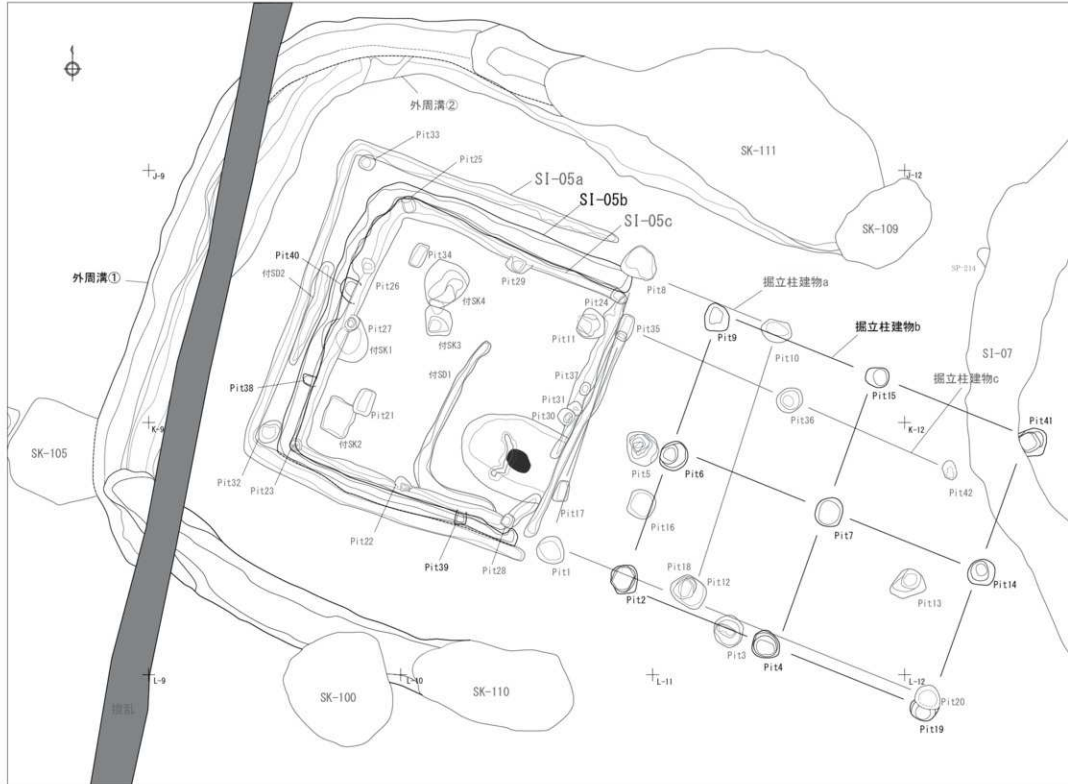


- SI-01
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量。
 焼土粒(φ1~5mm)微量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR2/3 黒褐色土と10YR6/6黄褐色土ロームの混合層 粘床層 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~100mm)中量,
 炭化粒(φ1~9mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
 粘床層 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)微量
 第3層 10YR2/1
 SI-01外周溝 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 焼土粒(φ1~9mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
 第1層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~200mm)多量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)多量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
 SI-01附SK1 第1層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量, 酸化鉄ブロック(φ10mm)微量
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SI-01附SK2 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~20mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
 SI-01附SK3 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)少量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR1/1 黒褐色土と10YR5/4にふい黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~3mm)少量
 SI-01附P112 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量, ロームブロック(φ10mm), 酸化鉄(φ1mm)微量
 SI-01附P113 第1層 10YR2/1 黒色土と10YR3/3暗褐色土の混合層 ローム粒(φ1~5mm)少量
 SI-01附P114 第1層 10YR1/1 黒褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合層 ローム粒(φ1~5mm)中量
 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 焼土粒(φ1mm)微量
 SI-01附P116 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~15mm)少量
 第2層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量
 SI-01附P112 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
 第2層 10YR5/4 黒褐色土と10YR1/1黒褐色土の混合層 酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SI-01附P113 第1層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~15mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量

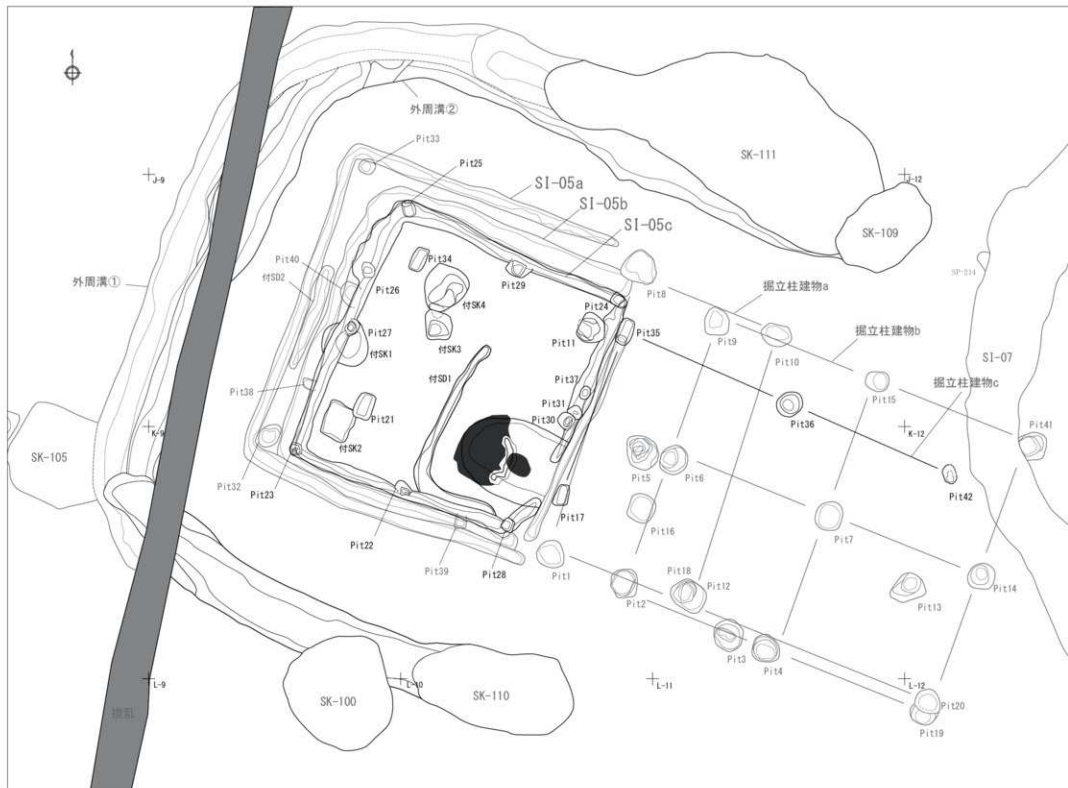
第9図 SI-01 (2)



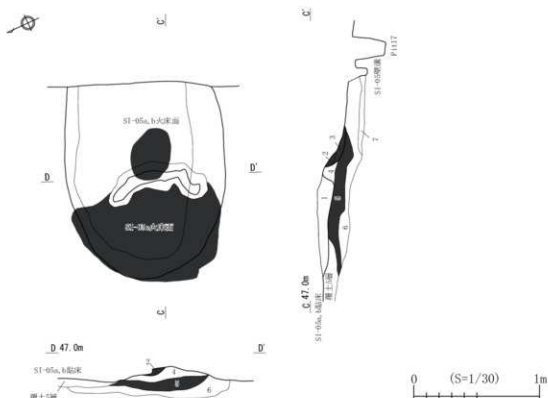
第12図 SI-05a (2)



第13図 SI-05b (3)

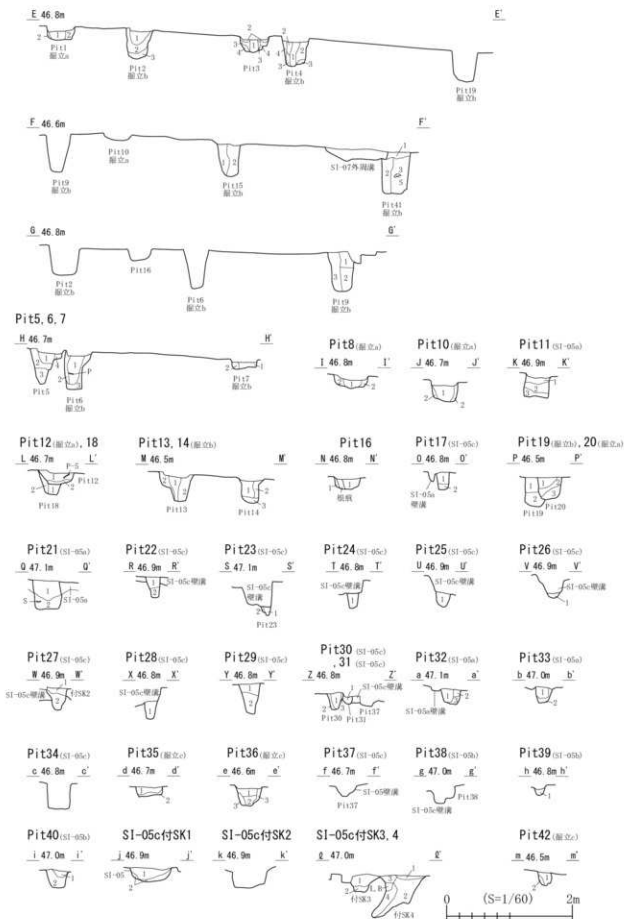


第14図 SI-05c (4)

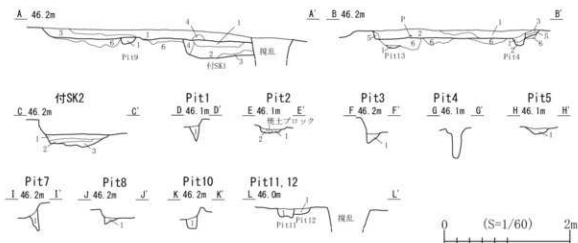
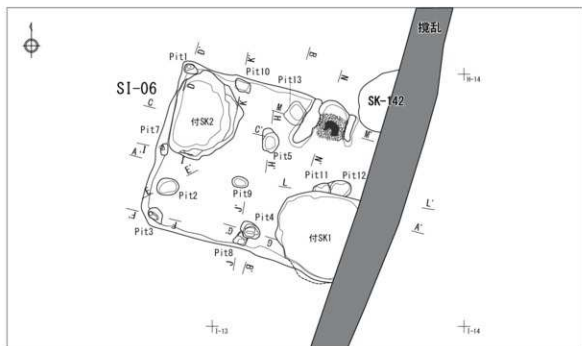


SI-05			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~50cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
第2層 10YR2/1	黒色土	SI-05a壁溝 ローム粒 (φ1~3mm) 微量	
第3層 10YR2/1	黒色土	SI-05a壁溝 ローム粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第4層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~50cm) 中量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
第5層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量	
第6層 10YR2/1	黒色土	SI-05a壁溝 ローム粒 (φ1~3mm) 微量	
第7層 10YR2/1	黒色土	SI-05a壁溝 ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~15cm) 少量	
第8層 10YR2/1	黒褐色土	掘り方 ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~100cm) 多量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
SI-05カマド			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~20cm) 少量、焼土粒 (φ1~2mm) 微量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第2層 5YR5/2	にがい赤褐色土	SI-05a, b火床面 ローム粒 (φ1~9mm) 少量、焼土粒 (φ1~9mm) 中量、焼土ブロック (φ10~20cm) 少量	
第3層 5YR5/8	暗褐色土	SI-05a, b火床面	
第4層 7.5YR5/2	灰褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、炭化粒 (φ1~5mm) 微量、焼土ブロック (φ10~20cm) 微量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第5層 10YR3/1	黒褐色土	SI-05a火床面 ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、炭化粒 (φ1~9mm) 微量、炭化物ブロック (φ10cm) 微量、焼土粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量、酸化鉄ブロック (φ10~15cm) 少量	
第6層 10YR2/1	黒色土	掘り方 ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~20cm) 少量、焼土粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第7層 10YR2/1	黒褐色土	掘り方 ローム粒 (φ1~9mm) 少量、焼土粒 (φ1~3mm) 微量	
SI-05FFS1			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 中量、酸化鉄 (φ1~3mm) 少量、焼土粒 (φ1~3mm) 微量	
SI-05FFS2			
第1層 10YR2/2	黒褐色土と10YR4/6褐色土ロームの混合物		
SI-059F溝溝1			
第1層 10YR3/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
第2層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~15cm) 少量、炭化粒 (φ1~5mm) 微量、炭化物ブロック (φ10cm) 微量、焼土粒 (φ1~2mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
第3層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、炭化粒 (φ1~3mm) 微量、炭化物ブロック (φ10cm) 微量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
SI-059F溝溝2			
第1層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~5mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第2層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~50cm) 中量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
SI-05FFSK1			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~20cm) 中量、炭化粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
第2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 多量、ロームブロック (φ10~30cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
SI-05FFSK3			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~50cm) 中量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
第2層 10YR2/2	黒褐色土と10YR5/4ににがい黄褐色土ロームの混合物		
SI-05FFSK4			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 中量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 微量、ロームブロック (φ10~20cm) 微量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第3層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 多量、ロームブロック (φ10~60cm) 多量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第4層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~100cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
SI-05FFP11			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、炭化粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 多量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ20cm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
SI-05FFP12			
第1層 10YR3/1	黒褐色土と10YR5/3ににがい黄褐色土ロームの混合物	酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~3mm) 中量、炭化粒 (φ1~6mm) 少量、酸化鉄 (φ1~9mm) 中量、酸化鉄ブロック (φ10~20cm) 少量	
第3層 10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ1~5mm) 少量、ロームブロック (φ20~40cm) 少量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
SI-05FFP13			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~5mm) 少量、ロームブロック (φ40~50cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 少量	
第2層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~2mm) 微量	
第3層 7.5YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~3mm) 微量、酸化鉄 (φ1~8mm) 少量	
第4層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~5mm) 少量、ロームブロック (φ20~30cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
SI-05FFP14			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第2層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ20~40cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第3層 10YR3/1	黒褐色土と10YR5/4ににがい黄褐色土ロームの混合物		
第4層 10YR3/2	黒褐色土と10YR5/4ににがい黄褐色土ロームの混合物		

第15図 SI-05 (5)

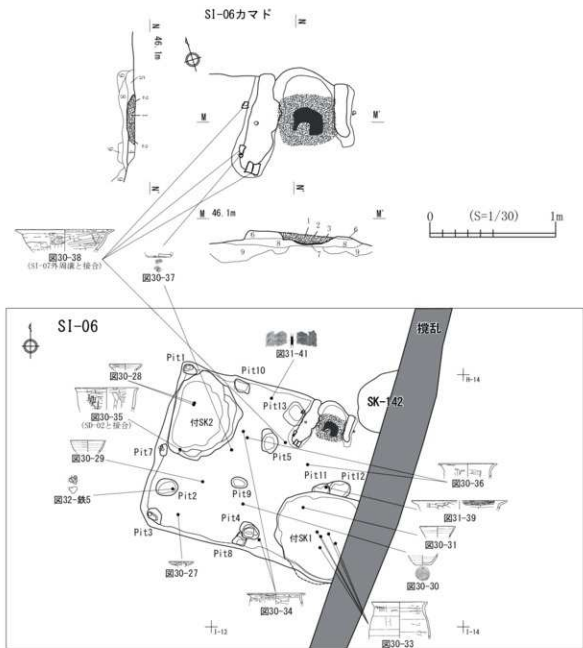


第16図 SI-05 (6)



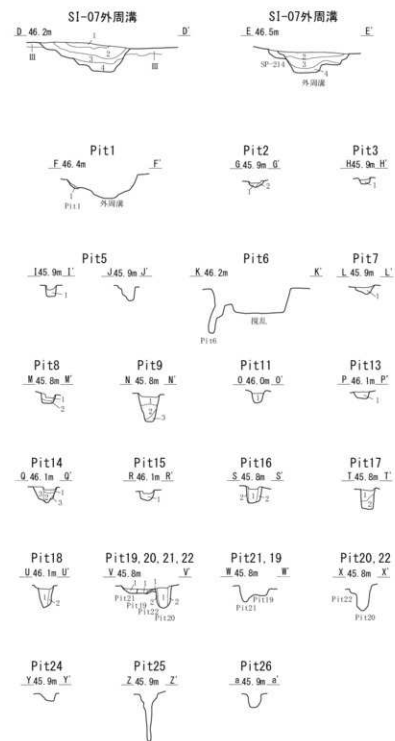
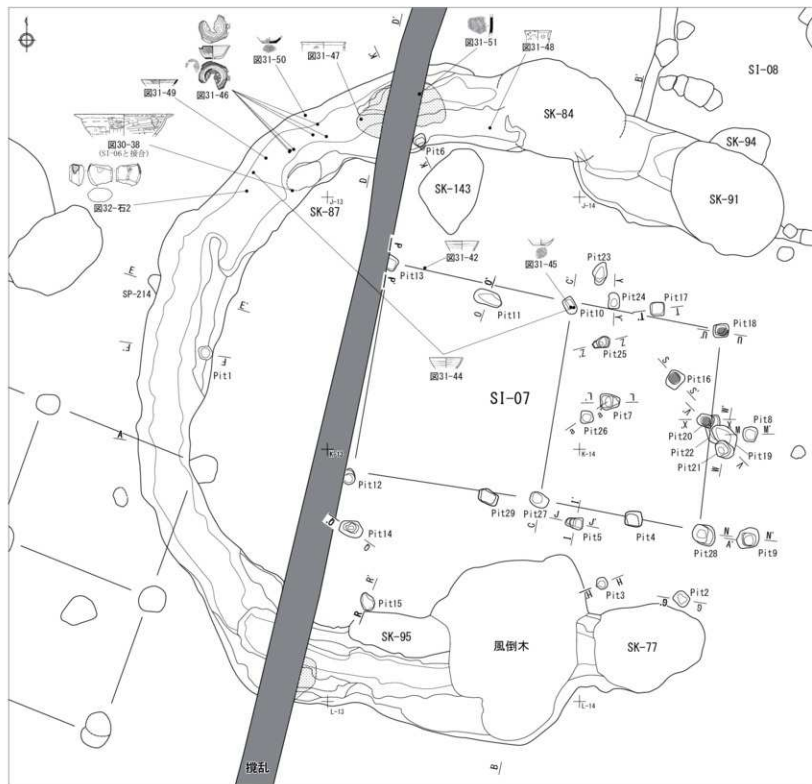
SI-06									
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量、炭化物ブロック(φ10~20mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土ブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)微量						
第2層	10YR3/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~200mm)多量、炭化粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土ブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量						
第3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)微量、焼土ブロック(φ10mm)微量						
第4層	10YR2/3	黒褐色土と10YR6/4cに多い黄褐色土ロームの混合層	酸化鉄(φ1~9mm)少量						
第5層	10YR1/7/1	黒色土と10YR5/7黄褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)多量、焼土粒(φ1~9mm)微量、焼土ブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量						
第6層	10YR1/7/1	黒色土と10YR7/6黄褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量						
SI-06付SK1									
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)中量、炭化粒(φ5mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)微量、焼土ブロック(φ10~40mm)少量						
第2層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ5mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量						
第3層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)多量、炭化粒(φ5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量						
第4層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)微量						
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量、炭化物ブロック(φ10~20mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土物ブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量						
第2層	10YR2/2	黒褐色土と10YR6/4cに多い黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量、炭化物ブロック(φ10mm)微量						
第3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ5~9mm)微量、焼土粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量						
第4層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)微量						
第5層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、焼土粒(φ1~2mm)微量、焼土ブロック(φ10~80mm)少量						
第6層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量						
SI-06付SK2									
第1層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第2層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第3層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第4層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第5層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第6層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第7層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第8層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第9層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第10層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第11層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第12層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第13層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第14層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第15層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量						
第16層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)中量、焼土ブロック(φ10~20mm)少量						

第18図 SI-06 (1)



SI-06PP17			
第1層 10YR1	7/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量	
SI-06PP18			
第1層 10YR1	7/1 黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	ローム粒(φ1~3mm)中量, 酸化鉄(φ1mm)微量	
SI-06PP19			
第1層 10YR1	7/1 黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	ローム粒(φ1~3mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量	
SI-06PP110			
第1層 10YR1	7/1 黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	ローム粒(φ1~3mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量	
SI-06PP111			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量	
SI-06PP112			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SI-06PP113			
第1層 10YR3	3 にごい黄褐色土と10YR2/2黒褐色土少量混入	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)中量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SI-06 カマド			
第1層 10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 炭化物ブロック(φ10mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)中量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量	
第2層 7.5YR5/6	明褐色土	焼土粒(φ1~5mm)少量	
第3層 2.5YR6/4	にごい棕色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)微量	
第4層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量	
第5層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第6層 10R5/3	赤色土と10YR4/2灰黄褐色土の混合層	カマド袖	
第7層 10YR5/6	黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化鉄(φ1~9mm)少量	
第8層 10YR2/1	黒褐色土と10YR5/3にごい黄褐色土ロームの混合層	燃り方	
第9層 10YR1	7/1 黒色土と10YR7/6明黄褐色土の混合層(SI-06燃り方)	ローム粒(φ1~9mm)微量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)微量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量	

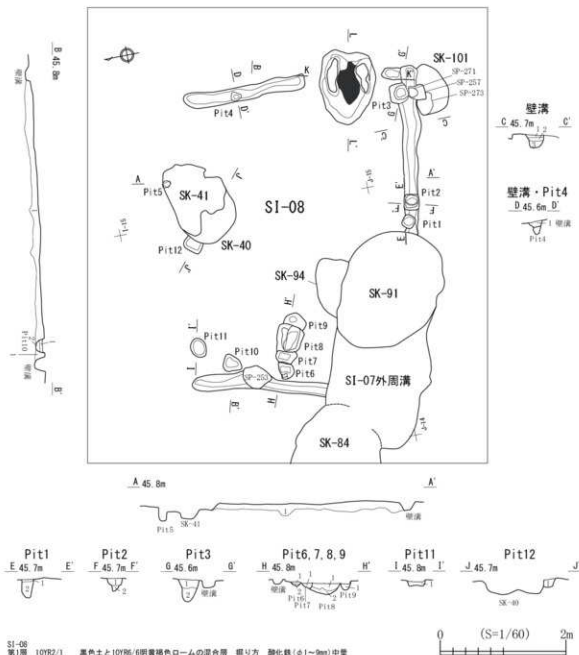
第19図 SI-06 (2)



第20図 SI-07 (1)

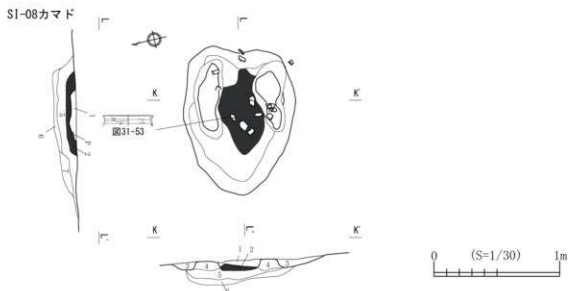
SI-07外周溝			
第1層 10YR3/2	黒褐色土と10YR5/3に多い黄褐色土火山灰との混合層	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、炭化粒($\phi 1\sim 3\text{mm}$)少量、粘土粒($\phi 1\sim 3\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
第2層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)少量、粘土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
第3層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 40\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
第4層 10YR1/7/1	黒色土と10YR3/2黒褐色土の混合層	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量、ロームブロック($\phi 10\sim 50\text{mm}$)多量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP11			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP12			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 3\text{mm}$)微量	
第2層 10YR3/2	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 3\text{mm}$)微量	
SI-07FFP13			
第1層 10YR2/1	黒色土と10YR5/4に多い黄褐色ロームの混合層	酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
SI-07FFP14			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP15			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 2\text{mm}$)微量	
第1層 10YR1/7/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 15\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
SI-07FFP18			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土と10YR5/4に多い黄褐色土ロームとの混合層	酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
SI-07FFP19			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)多量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
第3層 10YR2/1	黒色土と10YR5/6黄褐色土ロームとの混合層	酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
SI-07FFP110			
第1層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
SI-07FFP111			
第1層 10YR1/7/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 3\text{mm}$)微量	
SI-07FFP112			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 15\text{mm}$)少量、炭化粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量	
SI-07FFP113			
第1層 10YR3/2	黒褐色土と10YR5/6黄褐色土ロームの混合層	ローム粒($\phi 1\sim 3\text{mm}$)中量	
SI-07FFP114			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 30\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、酸化鉄ブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)多量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、酸化鉄ブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)中量	
第3層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP115			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 2\text{mm}$)微量	
SI-07FFP116			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)多量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP117			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 15\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土と10YR5/4に多い黄褐色土ロームとの混合層		
SI-07FFP118			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP119			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量	
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量	
SI-07FFP120			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)多量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)中量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量	
SI-07FFP121			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP122			
第1層 10YR2/1	黒色土と10YR7/4明黄褐色土ロームの混合層	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量	
SI-07FFP123			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土と10YR5/4に多い黄褐色土ロームと混合層		
SI-07FFP127			
第1層 10YR6/6	明黄褐色土ローム	酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量	
SI-07FFP128			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
第2層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)多量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
第3層 10YR2/3	黒褐色土と10YR4/6褐色土と混合層	酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量	
SI-07FFP129			
第1層 10YR2/3	黒褐色土と10YR4/6褐色土と混合層	酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量	

第21図 SI-07(2)



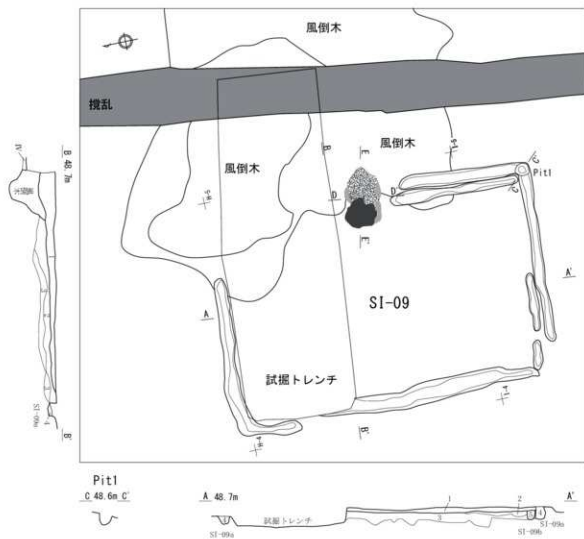
SI-08	黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	掘り方	酸化鉄(φ1~9cm)中量
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5cm)少量、酸化鉄(φ1~9cm)中量	
SI-08壁溝(C-C')	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10cm)少量、酸化鉄(φ1~9cm)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土と10YR3/1黒褐色土との混合層	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~50cm)中量、酸化鉄(φ1~9cm)中量	
第3層 10YR2/1	黒褐色土と10YR7/6明黄褐色土との混合層	酸化鉄(φ1~5cm)少量、酸化鉄ブロック(φ10cm)少量	
SI-08壁溝(少-F)	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~15cm)少量、皮化粒(φ1~3cm)微量、酸化鉄(φ1~5cm)中量	
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10~20cm)中量、酸化鉄(φ1~9cm)少量	
SI-08壁溝(P12)	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10cm)微量、酸化鉄(φ1~9cm)中量、酸化鉄ブロック(φ10~15cm)少量	
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5cm)中量、酸化鉄(φ1~9cm)少量	
SI-08壁溝(P13)	黒褐色土	ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10~30cm)少量、皮化粒(φ1~5cm)微量、酸化鉄(φ1~9cm)中量	
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~15cm)少量、酸化鉄(φ1~9cm)中量	
SI-08壁溝(P16)	黒色土	ローム粒(φ1~5cm)少量、酸化鉄(φ1~2cm)微量	
第1層 10YR1.7/1	黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	酸化鉄(φ1~5cm)少量	
SI-08壁溝(P17)	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10~50cm)中量、酸化鉄(φ1~5cm)少量	
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~30cm)少量、酸化鉄(φ1~5cm)中量	
SI-08壁溝(P18)	黒色土と10YR6/6明黄褐色ロームの混合層	酸化鉄(φ1~5cm)少量	
第1層 10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~20cm)中量、酸化鉄(φ1~3cm)微量	
第2層 10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5cm)少量、ロームブロック(φ10cm)微量、酸化鉄(φ1~2cm)微量	
SI-08壁溝(P110)	ローム土	ローム粒(φ1~5cm)中量、酸化鉄(φ1~3cm)微量	
第1層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~5cm)中量、酸化鉄(φ1~3cm)微量	
SI-08壁溝(P111)	黒褐色土と10YR2/1黒色土との混合層	ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10cm)中量、酸化鉄(φ1~5cm)少量	
第1層 10YR3/2	黒褐色土と10YR2/1黒色土との混合層	ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10cm)中量、酸化鉄(φ1~9cm)中量	
SI-08壁溝(P112)			
第1層 10YR3/2			

第22図 SI-08 (1)



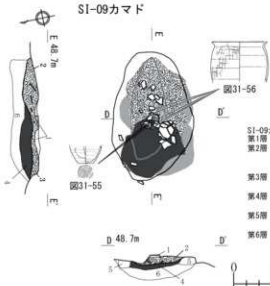
- SI-08カマド
- 第1層 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、焼土粒(φ1~5mm)中量、焼土ブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)中量
- 第2層 2.5YR6/6 褐色土と7.5YR3/2黒褐色土の混合層 火床面 ロームブロック(φ20~30mm)中量
- 第3層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、焼土粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
- 第4層 10YR4/3 に近い黄褐色土 カマド内 ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、焼土粒(φ1~5mm)中量、
焼土ブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
- 第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土ブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
- 第6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、焼土粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量
- 第7層 10YR3/1 黒褐色土と10YR5/6黄褐色ロームの混合層 焼土粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量

第23図 SI-08 (2)



SI-09	層	土質	内容
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10cm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土と10YR5/6黄褐色ロームとの混合層	酸化鉄(φ1~5mm)微量
第3層	10YR2/1	黒褐色土と10YR4/6褐色ロームとの混合層	掘り方
第4層	10YR2/1	黒色土と10YR2/3黒褐色土との混合層	SI-09a ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50cm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第5層	10YR2/1	黒色土と10YR5/4にふい黄褐色土との混合層	SI-09b

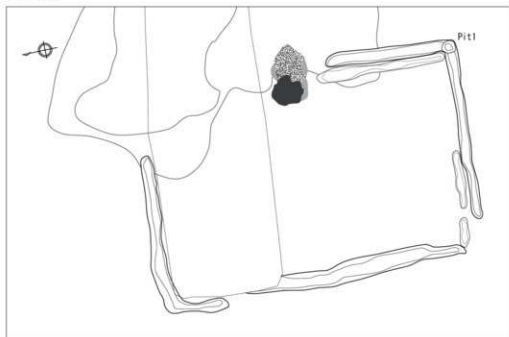
SI-09カマド



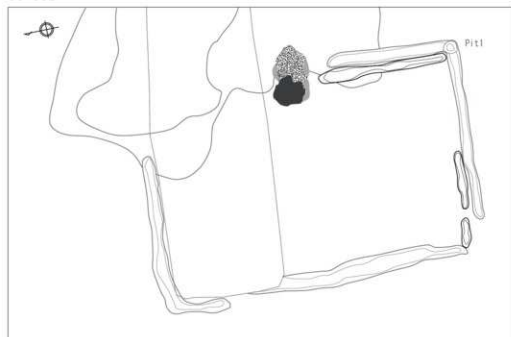
SI-09カマド	層	土質	内容
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)少量
第2層	7.5YR4/4	褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20cm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、焼土粒(φ5~9mm)少量、焼土ブロック(φ10cm)微量
第3層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土ブロック(φ10cm)微量
第4層	2.5YR4/6	赤褐色土	火床面 ローム粒(φ1~9mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)中量、焼土ブロック(φ10~20cm)少量、黒褐色土(7.5YR2/2)少量混入
第5層	10YR5/6	黄褐色土と10YR2/3黒褐色土との混合層	ソデ部 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第6層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、焼土粒(φ5mm)微量、焼土ブロック(φ10~20cm)微量

第24図 SI-09(1)

SI-09a

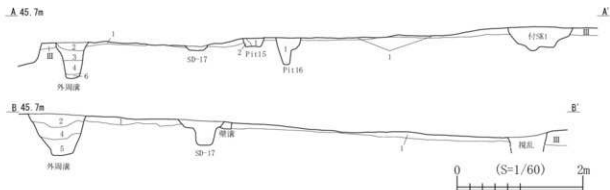
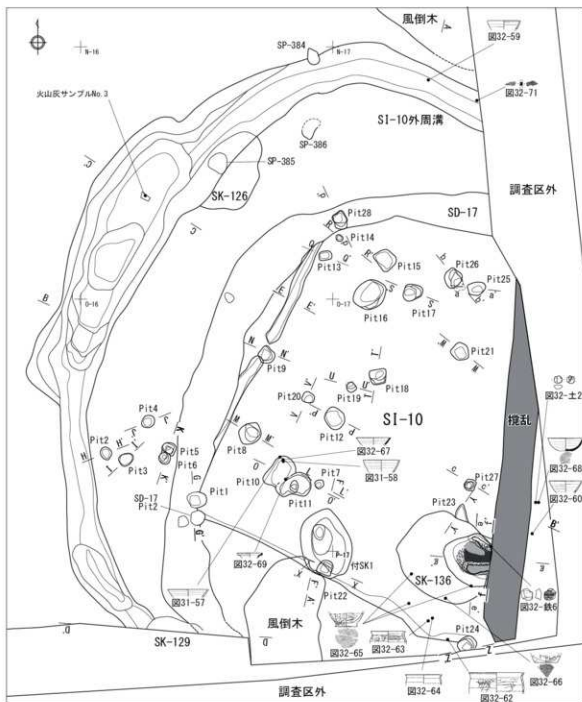


SI-09b

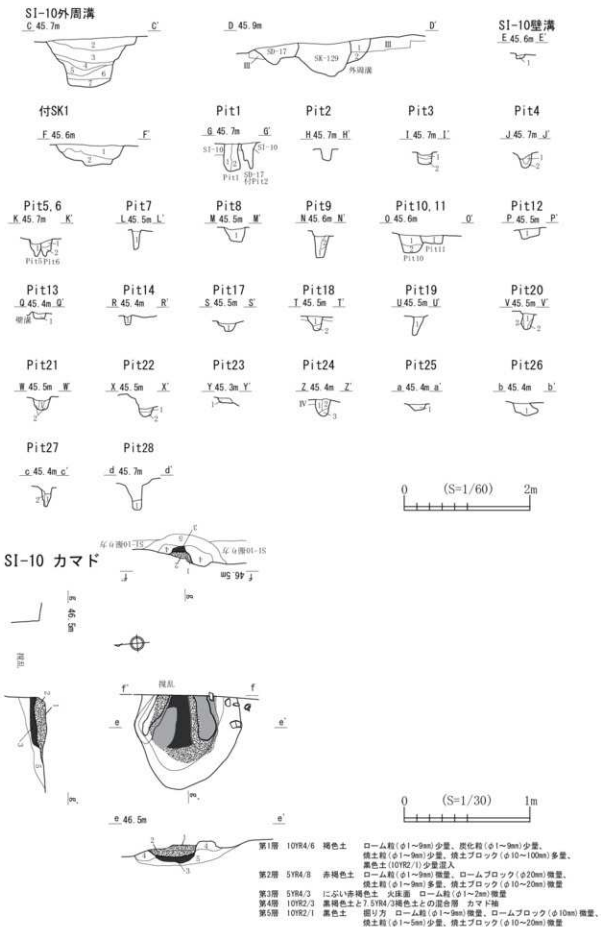


0 (S=1/60) 2m

第25図 SI-09 (2)



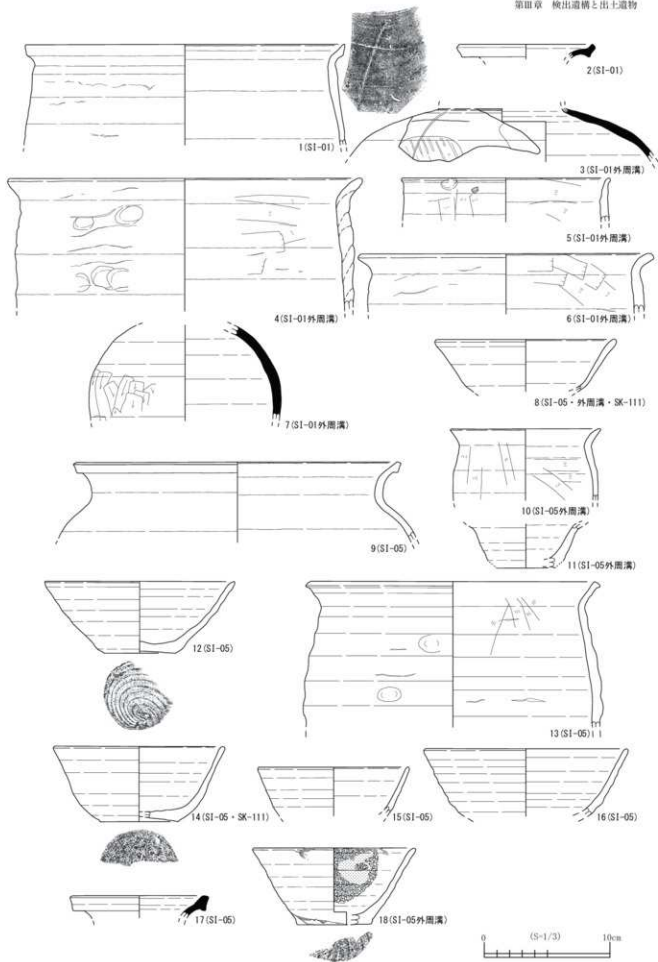
第26図 SI-10 (1)



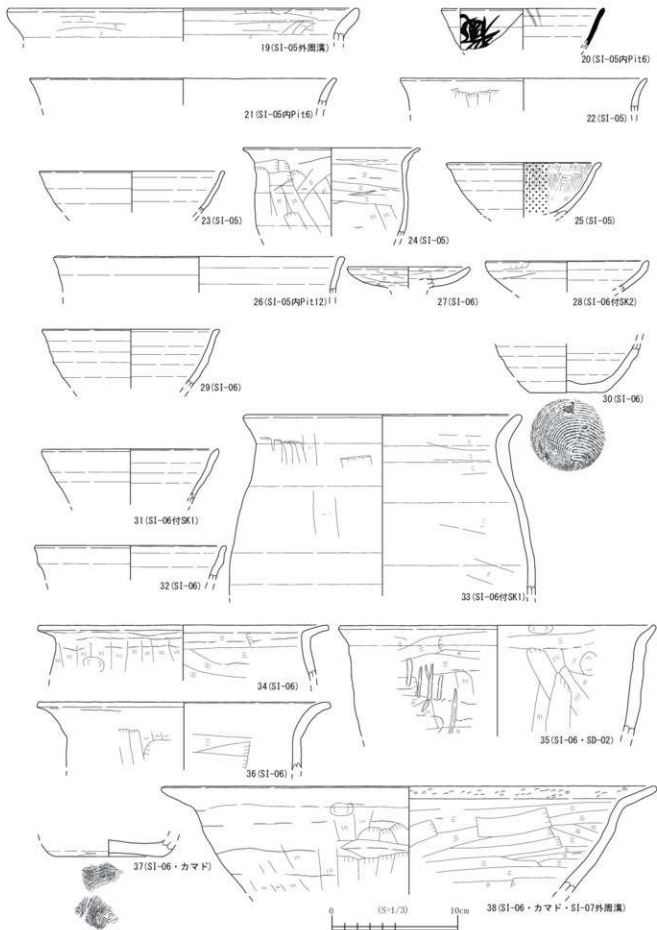
第27図 SI-10 (2)

SI-10 第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~40mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10第9層溝			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、火山灰(10YR5/3にふい黄褐色)中量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)少量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第5層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第6層	10YR3/1	黒褐色土と10YR6/4にふい黄褐色ロームとの混合層	炭化物ブロック(φ10~20mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第7層	10YR1/7 SI-10HP13	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HSK1			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
SI-10HP11			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP13			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層	10YR4/4	緑褐色土	酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP14			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層	10YR4/3	にふい黄褐色土と10YR6/4明黄褐色ロームの混合層	酸化鉄(φ1~5mm)微量
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP15			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層	10YR5/4	にふい黄褐色土	酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP17			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SI-10HP18			
第1層	10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層	10YR4/3	にふい黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
SI-10HP19			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~50mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP111			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP112			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP113			
第1層	10YR2/1	黒色土と10YR3/2黒褐色土との混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
SI-10HP114			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SI-10HP115			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SI-10HP116			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP117			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP118			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP119			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP120			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP121			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量
SI-10HP122			
第1層	10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)多量
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層	10YR3/3	緑褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)多量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SI-10HP123			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP124			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)多量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP125			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SI-10HP126			
第1層	10YR1/7	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~3mm)微量、炭化物ブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP127			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SI-10HP128			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量

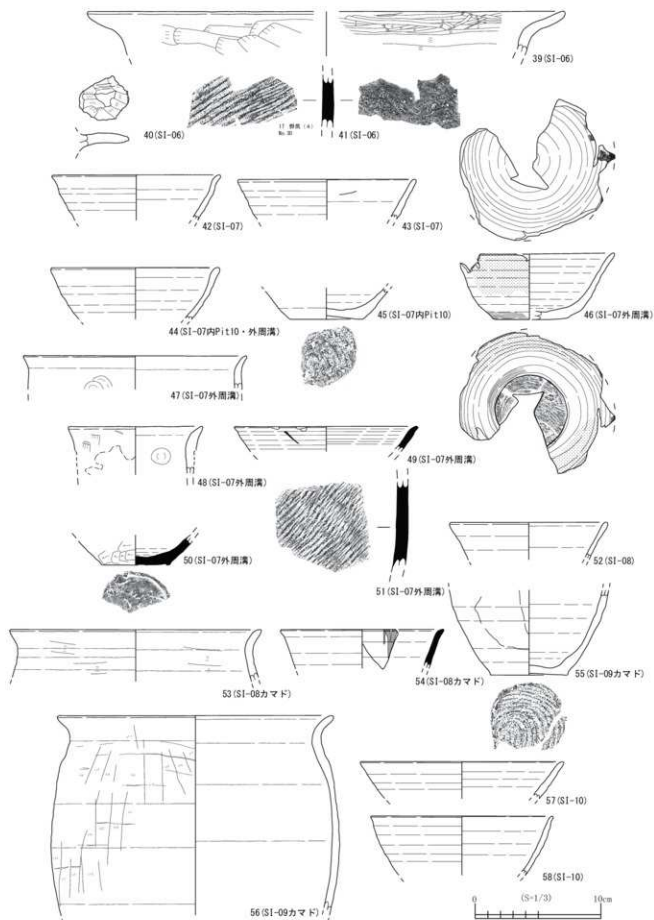
第28図 SI-10(3)



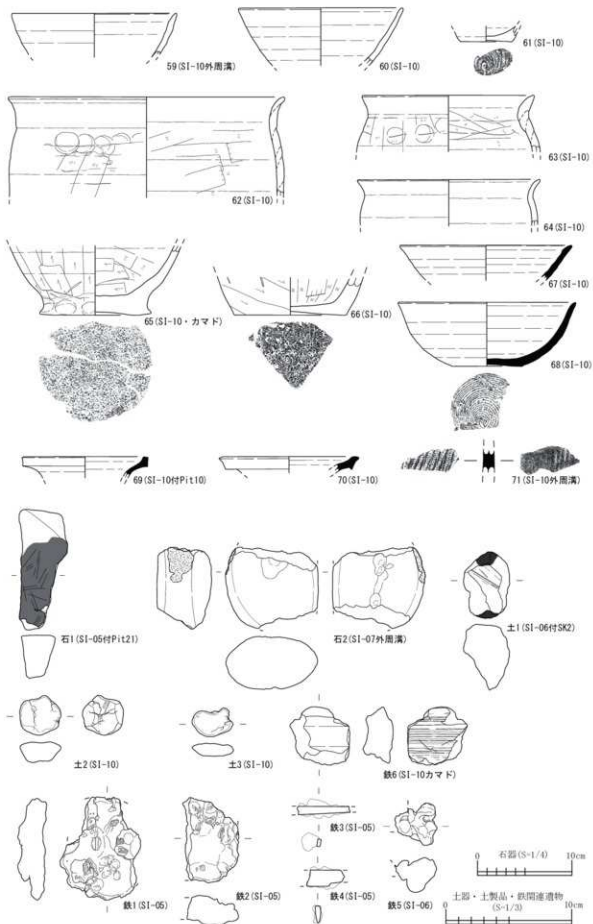
第29図 S1内出土土器(1)



第30図 S1内出土土器(2)



第31図 S1内出土土器 (3)



第32図 SI内出土土器(4)・出土遺物

第2節 土坑

土坑は69基検出した。このうち、3割が建物跡に付随する外周溝と重複する。SK-85のように確認面付近にB-Tm火山灰の堆積が認められるものもある。

SK-01 (第33図)

D・E-8グリッドで検出した。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸96×短軸70×深さ10cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は北側から南側にかけて緩やかに傾斜している。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-04 (第33図)

C-9グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸50×短軸40×深さ45cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は西側が一段低くなっている。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-10 (第33図)

E-15グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸78×短軸75×深さ40cmを測る。壁は緩やかに傾斜し、底面は中央部が一段低くなっている。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。自然堆積である。底面の凹みは柱穴の可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-18 (第33図)

F-15グリッドで検出した。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸140×短軸110×深さ18cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

SK-21 (第33図)

E-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸49×短軸36×深さ12cmを測る。東側でSK-22と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-22 (第33図)

E-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸60×短軸42×深さ15cmを測る。西側でSK-21と重複しており、本遺構が新しい。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は黒色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-23 (第33図)

D・E-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸118×短軸88×深さ12cmを測る。北側でSK-24と重複しており、本遺構が新しい。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-24 (第33図)

D-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸90×短軸80×深さ5cmを測る。南側でSK-23、西側でSK-25と重複しており、本遺構が古い。壁は緩やかに立ち上がり、底面は起伏がみられる。堆積土は黒色土と褐色土の混合層1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-25 (第33図)

D-13グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、規模は長軸146×短軸50×深さ10cmを測る。東側でSK-24と重複しており、SK-24が本遺構より古い。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-27 (第33図)

D-14グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸100×短軸75×深さ18cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる部分と急角度に立ち上がる部分が認められる。底面は北側から南側にかけて傾斜している。堆積土は2層に分層でき、黒色土を確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-31 (第33図)

G-14グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸65×短軸65×深さ10cmを測る。壁は段状に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が認められ、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は黒色土1層のみ確認した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-33 (第33図)

H-14グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸98×短軸66×深さ10cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。底面中央よりピット1基を検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸30×短軸18×深さ14cmを測る。堆積土はピットを除いて、黒色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-40 (第33図)

I-14・15グリッドで検出した。SI-08付Pit12、SK-41と重複しており、SI-08付Pit12が本遺構より古く、SK-41が本遺構より新しい。平面形は重複により全体形は不明であるが、残存部から推定すると楕円形である。規模は長軸85×短軸50×深さ14cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は西側から東側にかけて斜行している。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-41 (第33図)

I-14・15グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸113×短軸93×深さ30cmを測る。SI-08付Pit5、SK-40と重複しており、いずれも本遺構が新しい。壁はほぼ垂直に立ち上がり、

底面は起伏が認められる。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積である。遺物は出土しなかった。

SK-42 (第33図)

F-5グリッドで検出した。平面形は不整長方形を呈し、規模は長軸99×短軸65×深さ38cmを測る。壁は南側がほぼ垂直に立ち上がり、北側が緩やかに立ち上がる。底面は起伏をもち、南側から北側にかけて斜行している。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積である。遺物は出土しなかった。

SK-48 (第33図)

H-6・7グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸118×短軸117×深さ20cmを測る。壁は傾斜しており、底面は起伏をもち、中央部が一段低くなっている。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-49 (第34図)

F・G-10・11グリッドで検出した。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸270×短軸136×深さ15cmを測る。SI-01外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は土師器杯2点を図示した(第42図72、73)。72は底面、73は堆積土上層の出土である。72は口縁部、73は底部である。72は直線的な形状を呈し、73は底部に糸切痕に加え、ヘラオコシ痕が認められる。

SK-50 (第34図)

G・H-11、H-12グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸220×短軸160×深さ37cmを測る。SK-58、67、SP-141と重複しており、本遺構が新しい。堆積土は3層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は堆積土上層から出土した土師器杯1点を図示した(第42図74)。74は体部下半にかけて丸みを帯びるような形状で、口縁端部がやや外反する。

SK-53 (第34図)

G・H-16グリッドで検出した。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸96×短軸76×深さ30cmを測る。壁は段状に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒色土を確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-56 (第34図)

G-8グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸82×短軸62×深さ45cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は丸底で、断面形が漏斗状を呈する。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-57 (第34図)

H-7グリッドで検出した。平面形は不整形長方形である。規模は長軸78×短軸52×深さ20cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は起伏が認められる。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-58 (第34図)

H-11グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸40×短軸30×深さ32cmを測る。SK-50と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は暗褐色土とぶい黄褐色土の混合層を1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-59 (第34図)

G-12グリッドで検出した。重複により全体不明であるが、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸66×短軸25×深さ10cmを測る。SI-01壁溝と重複しており、本遺構が古い。堆積土は黒色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-60 (第34図)

E・F-12・13グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸173×短軸156×深さ60cmを測る。SI-01外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は起伏が認められる。堆積土は5層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。1層からは二次堆積と考えられるB-Tm火山灰の混入が認められ、ロームやロームブロックが混入する堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は、土師器6点、甕4点、小甕6点、ミニチュア土器2点、土製品1点を図示した(第42、43図75～92、第47図土4)。80のみ堆積土下層及び底面出土であり、ほかは上層出土である。75～77、79は坯の口縁～体部、78、80は口縁～底部である。直線的な器形を呈する79を除いて、丸みを帯び、口縁部へとやや内湾気味の形状を呈する。75、77は口縁端部がやや外反する形状である。80はSK-111との接合資料で、内面黒色処理が施されている。81、82は非ロクロ甕、83、84はロクロ甕の口縁部である。81は口縁～底部で、SI-08カマド出土土器との接合資料である。ややすばまるが、直胴に近い形状を呈し、緩やかに外反する口縁部を有する。口縁部断面はやや厚みがあり、端部が平坦に整形されている。底部には木葉痕が認められる。82は口縁～体部で、やや膨らんだ体部から口縁部へと外反する形状を呈する。やや厚みのある器壁で、口縁端部は平坦に整形されている。83、84はロクロ甕の口縁部で、やや膨らんだ体部から短く外反する口縁部を有する。両者とも口縁端部が平坦に整形されている。85～90は小甕で、85、86は口縁～底部、87～89は口縁～体部、90は底部である。いずれも非ロクロである。85は底部から直胴に近い形状で立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する。86は器高が比較的低く、微妙に膨らんだ体部に短くつまみ出した程度の口縁部を有する。87についても86の口縁部付近に類似した形状を呈する。88は膨らんだ体部に短い口縁部が認められ、口縁部がやや屈曲する。89はほぼ直線的な形状を呈する。90は底部から直線的に立ち上がる形状で、底部は砂底である。91、92はミニチュア土器で、91は直線的な器形、92は体部下半がやや張る形状で、口縁端部が外反する。土4は焼成粘土塊で、表面に混入されたスサの痕跡が認められる。

SK-61 (第35図)

G-11で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸90×短軸40×深さ15cmを測る。SI-01付Pit4、5と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-62 (第35図)

G-12グリッドで検出した。平面は不整形を呈し、規模は長軸45×短軸36×深さ13cmを測る。SI-01外周溝と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-63 (第35図)

E-12グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸100×短軸60×深さ20cmを測る。SI-01外周溝と重複しており、本遺構が古い。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は北側から南側にかけて傾斜している。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-64 (第35図)

E-11・12グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸123×短軸58×深さ20cmを測る。SI-01外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁は急角度に立ち上がり、底面は北側から南側にかけて傾斜している。堆積土は3層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-65 (第35図)

F-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸105×短軸94×深さ12cmを測る。SI-01付Pit30と重複しており、本遺構が新しい。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1層下層及び2層上面からB-Tm火山灰を層状に検出した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-66 (第35図)

F-12グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸74×短軸54×深さ12cmを測る。SI-01と重複しており、本遺構が古い。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-67 (第35図)

G-11グリッドで検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、規模は長軸120×短軸87×深さ17cmを測る。SI-01外周溝、SK-50と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-69 (第35図)

F-13・14グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸164×短軸50×深さ8cmを測る。SK-139、140と重複しており、本遺構が古い。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は暗褐色土1層のみ確認した。遺物は出土しなかった。

SK-70 (第35図)

G・H-6グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸83×短軸72×深さ16cmを測る。SD-02と重複しており、本遺構が新しい。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや起伏がみられる。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-73 (第35図)

G・H-7グリッドで検出した。平面形は方形を呈し、規模は長軸55×短軸42×深さ21cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は3層に分層できた。第1層が粘土層となっており、人為堆積である。遺物は出土しなかった。

SK-77 (第36図)

K-14グリッドで検出した。平面形は不整形円形を呈し、規模は長軸177×短軸136×深さ40cmを測る。北側がSI-07外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁は段状に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は5層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1層上面にはB-Tmと考えられる火山灰が混入している。二次堆積の可能性が高く、人為堆積と考えられる。遺物は、堆積土上層から出土した土師器甕3点、小甕2点、須恵器杯1点、礫石器1点を図示した(第43図93~98、第47図石3)。93は非ロクロ甕の口縁~底部付近で、体部下半がやや膨らみ、口縁部は短く緩やかに外反する。94は非ロクロ小甕の口縁~体部で、体部は直線的で、口縁部は短く緩やかに外反する。95は小甕の口縁~体部で、直線的な体部にやや屈曲する短い口縁部を有する。96は非ロクロ甕の口縁~体部で、膨らんだ体部にやや長めで外反する口縁部を有する。97はロクロ甕の口縁部である。やや外反し、口縁端部は平坦である。98は須恵器杯の口縁~底部で、SK-91、100、108との接合資料である。やや歪みが認められるが、口縁部にかけて直線的に立ち上がる形状で、口唇部が丸みを帯びる。外面体下半に刻書が認められ、底部は外縁にナデが顕著に認められる。石3は台石外縁部付近の破片と考えられる。

SK-79 (第36図)

H-6グリッドで検出した。平面形は方形を呈し、規模は長軸116×短軸88×深さ20cmを測る。SD-08、11と重複しており、本遺構が古い。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦であるが、東側へやや傾斜する。堆積土は2層に分層でき、黒色土、黒褐色土を確認した。遺物は出土しなかった。

SK-84 (第36図)

I-13・14グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸192×短軸142×深さ50cmを測る。SI-07外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁は段状に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。堆積土は6層に分層でき、黒色土を主体とする。第1層上面でB-Tmと考えられる火山灰をブロック

状に混入するが、二次堆積と考えられる。3層以下の土層は自然堆積と考えられる。遺物は2・4層中から出土した土師器坏1点、甕3点、小甕1点を図示した(第43図99~103)。99は坏の体~底部で、底部から丸みを帯びて立ち上がる形状を呈する。100は甕の口縁部で、やや外反する形状で、口唇部は丸みを帯びる。101は甕の口縁~体部で、くびれの浅い器形である。体部はやや膨らみ、口縁部は長めで緩やかに外反する形状を呈する。102は甕の体~底部で、底部から直線的に開く形状である。底部は砂底である。103は小甕で、直線的な体部につまみ出した程度の短い口縁部を有する。

SK-85 (第36図)

K-6、L-6・7グリッドで検出した。SB-02Pit1と重複しており、本遺構が古い。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸192×短軸95×深さ58cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや起伏が認められる。堆積土は5層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第2層がB-Tmと考えられる火山灰層に相当し、断面観察から自然堆積と考えられる。遺物は3層より出土した須恵器甕1点、1層より出土した縄文土器1点、礫石器1点を図示した(第43図104、105、第47図石4)。104は須恵器甕の体部で、外面には平行タキ目、内面にはナデが認められる。105は縄文時代後期の土器、石4は台石である。

SK-87 (第36図)

I-12グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸62×短軸37×深さ10cmを測る。SI-07外周溝と重複しており、本遺構が新しい。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-91 (第37図)

I・J-14グリッドで検出した。SK-94と重複しており、本遺構が新しい。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸202×短軸155×深さ47cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面北側で傾斜が認められるが、ほぼ平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積である。遺物は、堆積土中層から出土した土師器坏2点、壺1点、須恵器坏1点を図示した(第44図106~109)。106、107は坏の口縁部で、直線的な形状を呈する。108は壺の口縁~体部で、膨らんだ体部から口縁部へと窄まり、口縁部は外反する形状である。調整はクロコナデで、頸部には貫通孔が認められる。109は須恵器坏の体~底部で、器形は丸みを帯びるように立ち上がり、体部下半には刻書が認められる。

SK-94 (第37図)

I-14グリッドで検出した。SK-91と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸89×短軸46×深さ29cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は丸底である。堆積土は黒褐色土1層を確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-95 (第37図)

K-13グリッドで検出した。SI-07外周溝と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整形を呈し、規模は長軸161×短軸65×深さ35cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は2層に分層でき、黒色土を確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-100 (第37図)

K・L-9グリッドで検出した。SI-05外周溝①と重複し、本遺構が新しい。平面形は円形を呈する。規模は長軸180×短軸175×深さ68cmを測る。壁は開口部にかけて段状に立ち上がり、底面はやや起伏がある。堆積土は5層に分層でき、黒色土を主体とする。自然堆積と考えられる。遺物は、堆積土上層から土師器杯1点、甕2点、須恵器杯1点を図示した(第44図110~113)。110は杯の口縁部で、直線的な器形である。111はロクロ甕の口縁~体部で、体部がやや膨らみ、口縁部が緩やかに外反する形状を呈する。口唇部は平坦に整形されている。112はロクロ甕の口縁~体部で、体部がやや膨らみ、口縁部は短く外反する。113は須恵器杯の口縁部で、やや内湾気味の形状である。口唇部は丸みを帯びる。

SK-101 (第37図)

J-15グリッドで検出した。SI-08、SP-257、271、273と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸80×短軸40×深さ15cmを測る。壁は緩やかに傾斜しており、底面は平坦である。堆積土は黒色土1層を確認した。遺物は出土しなかった。

SK-105 (第37図)

J・K-8グリッドで検出した。SI-05外周溝①と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸147×短軸133×深さ51cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は、堆積土下層及び底面から出土した土師器杯1点、須恵器甕1点を図示した(第44図114、115)。114は杯の口縁部で、直線的な形状を呈する。115は須恵器甕の体部で、平行タタキ目が認められる。

SK-106 (第37図)

J・K-8グリッドで検出した。平面形は不整形を呈する。規模は長軸79×短軸69×深さ35cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はやや起伏がみられる。堆積土は2層に分層でき、黒色土を確認した。第1層が柱痕と考えられることから、本遺構は柱穴と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-107 (第37図)

K-4グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸70×短軸47×深さ44cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は凹凸が認められる。堆積土は3層に分層し、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-108 (第37図)

K-7・8グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、規模は長軸198×短軸125×深さ55cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は起伏がみられる。堆積土は5層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は、堆積土中層から出土した土師器皿1点、甕1点、須恵器壺1点を図示した(第44図116~118)。116はロクロ甕の体~底部で、底部から直線的に立ち上がり、体部上半でやや膨らむ形状である。117は皿の口縁部で、直線的に開く形状を呈する。118は須恵器壺の口縁部で、口唇部の断面形は方形を呈する。

SK-109 (第38図)

J-11・12グリッドで検出した。SI-05外周溝②、SK-111と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整形を呈する。規模は長軸130×短軸90×深さ43cmを測る。壁は傾斜し底面は起伏がみられる。堆積土は5層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1・2層に大粒のロームブロックが多量に混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は、堆積土上層から出土した須恵器環1点を図示した(第44図119)。119は須恵器環の口縁～底部で、底部から丸みを帯びるように立ち上がり、口縁端部がやや外反する。

SK-110 (第39図)

K・L-10グリッドで検出した。SI-05外周溝①と重複しており、本遺構が新しい。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸260×短軸125×深さ40cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は確認面及び堆積土上層より出土した土師器環4点、甕1点、須恵器甕1点、砥石1点を図示した(第44図120～125、第47図石5)。120、121は環の口縁～底部、122、123は口縁～体部である。120は底部から直線的に開く形状で、121は口縁部に浅いくびれを有する。122は全体が不明であるものの、口径に対して深めの器形を呈する。123は直線的な体部で、口縁端部が緩やかに外反する。124は非ロクロ甕の口縁～体部で、体部下半から口縁部にかけて窄まり、口縁部が外反する形状である。口唇部は平坦に整形されている。125は須恵器甕の口縁部である。石5は薄手で方形を呈する砥石で、表裏面及び側面に砥面が認められる。

SK-111 (第38図)

I・J-10・11グリッドで検出した。SI-05外周溝②、SK-109と重複しており、本遺構がSI-05外周溝②より新しく、SK-109が本遺構より新しい。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸536×短軸235×深さ80cmを測る。壁は段をもって急角度に立ち上がり、底面はやや起伏を持ち、丸みを帯びる。堆積土は9層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1～3層には細かいロームブロックが多量に混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は堆積土上層を中心として出土した土師器環6点、甕11点、小甕2点、須恵器環1点、甕2点、鉢1点、壺1点、礫石器1点、土製品1点、鉄関連遺物1点を図示した(第44～46図126～149、第47図石6、土5、鉄7)。128、141についてはSK-109と、132、144についてはSK-110と、SI-05a付Pit12、134についてはSI-05、SN-01との接合資料である。126～128、131は環の口縁～底部、129は口縁～体部、130は底部である。126は底部から丸みを帯びるように立ち上がり、口縁端部が緩やかに外反する。調整はロクロナデで、内面にはナデが認められる。127はやや厚みのある器壁で、器形は126と近い。128は底径が小さく、深めの形状を呈する。129は口縁端部が緩やかに外反する。130は底部から直線的に立ち上がる形状を呈する。131は体部下半がやや張る形状で口縁部はほぼ直線的である。内外面の口縁部を中心に灯明痕が認められる。132、136、137、139～141は非ロクロ、133～135、138、142はロクロ調整である。132は甕の口縁～底部である。底部から直線的に立ち上がる形状で、短くつまみ出した程度の口縁部を有する。133はやや膨らんだ体部に長めの外反する口縁部を有する。134は甕の口縁～体部で膨らんだ体部に外反する口縁部を有する。口縁端部には面取りが認められる。135は体部がほぼ直線的で、口縁部が緩やかに外反する形状

を呈する。136はほぼ直線的な体部に短くつまみ出した程度の口縁部を有する。137はやや膨らんだ体部に緩やかに外反する口縁部を有する。138は体部がやや膨らみ、長めで外反する口縁部を有する。139は体部がやや膨らみ、口縁部は短く外反する。140も139に近い形状であるが、139の口縁部がやや屈曲している。142は体部がやや膨らみ、短く外反する口縁部を有する。141、143は非ロクロ小甕である。141は体部下半が窄まるが、体部上半へ口縁部にかけては直線的で、極端に短い口縁部を有する。143は口縁部に浅いくびれが認められるが、直線的に近い形状である。144は非ロクロ甕の体へ底部で、底部から直線的に開く形状を呈する。145は須恵器坏口縁部で、口縁端部がやや外反する。146は甕の口縁部で、端部の断面形が方形に近い形状を呈する。147は須恵器甕の体部で、外面交叉タキ目、内面当具痕が認められる。148は鉢で、体部が膨らみ、口縁部が短く外反する形状を呈する。外面には刻書が認められる。149は壺の口縁部で、頸部には刻書が認められる。石6は礫石器で、敲打痕が認められる。土5は焼成粘土塊、鉄7は羽口や炉壁が溶解した粘土質溶解物である。

SK-112 (第39図)

I-5グリッドで検出している。SD-02と重複しており、本遺構が古い。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸110×短軸110×深さ20cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒褐色・黒色土を主体とする。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-114 (第39図)

M-7・8グリッドで検出した。SB-02Pit9、SB-03Pit6、SP-248、251と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸250×短軸230×深さ58cmを測る。壁は段状に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は7層に分層でき、黒色土を主体とする。第1～4層はローム土層となっており、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-122 (第39図)

O-13・14グリッドで検出した。SP-383と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸119×短軸111×深さ20cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は一部起伏がみられるが、ほぼ平坦である。堆積土は黒色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-123 (第39図)

O-12グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸139×短軸104×深さ75cmを測る。壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は3層に分層でき、暗褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-124 (第39図)

M・N-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈する。規模は長軸139×短軸126×深さ78cmを測る。壁は西壁が段状で、他の壁は急角度に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒色、暗褐色土を確認した。人為堆積である。遺物は出土しなかった。

SK-125 (第40図)

M-14グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸161×短軸112×深さ96cmを測る。壁は西壁が段を有し、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸が認められる。堆積土は6層に分層でき、にぶい黄褐色土を主体とする。第4層は柱痕と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-126 (第40図)

N-16グリッドで検出した。SI-10外周溝、SP-385と重複し、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸102×短軸90×深さ22cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-128 (第40図)

O-14・15グリッドに位置している。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸211×短軸166×深さ28cmを測る。南側壁寄からPit 2基を検出した。平面形は2基とも不整形を呈し、規模はPit1=29×23×28cm、Pit2=21×16×26cmである。壁は段状に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-129 (第40図)

P-16グリッドに位置している。SI-10外周溝、SD-17と重複しており、本遺構がSI-10外周溝より新しく、SD-17が本遺構より新しい。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸88×短軸22×深さ55cmを測る。壁はほぼ急角度に立ち上がり、底面は丸底である。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-130 (第40図)

L・M-16グリッドに位置している。平面形は円形を呈する。規模は長軸55×短軸50×深さ40cmを測る。壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒色土を主体とする。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-135 (第40図)

P-15グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸42×短軸39×深さ45cmを測る。壁は段状に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-136 (第40図)

O・P-17グリッドで検出した。SI-10と重複しており、本遺構が古い。平面形は円形を呈し、規模は長軸150×短軸131×深さ22cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒褐色土1層を確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK-138 (第40図)

P-7グリッドで検出した。SN-01と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸57×短軸40×深さ22cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は西側から東側にかけて傾斜している。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。人為堆積である。遺物は出土しなかった。

SK-139 (第41図)

F-13・14グリッドで検出した。SI-01外周溝、SK-69、140、SP-143と重複しており、本遺構がSI-10外周溝、SK-69より新しく、本遺構がSP-143より古い。SK-140との新旧関係は不明である。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸304×短軸116×深さ25cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は4層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1層にB-Tmと考えられる火山灰がブロック状に混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は上層から出土した土師器坏1点を図示した(第46図150)。150は坏の口縁～底部で、底部から丸みを帯びるように立ち上がり、口縁端部がやや外反する形状を呈する。

SK-140 (第41図)

F-14グリッドで検出した。SK-69、139と重複しており、本遺構がSK-69より新しい。SK-139との新旧関係は不明である。平面形は円形を呈し、規模は長軸158×短軸139×深さ54cmを測る。壁は段状に立ち上がる部分とオーバーハングして立ち上がる部分が認められ、底面はほぼ平坦である。堆積土は8層に分層でき、黒褐色土を主体とする。第1・2層中から火山灰を検出したが、二次堆積と考えられる。遺物は、堆積土上層～下層より出土した土師器坏5点、甕3点、小甕2点、ミニチュア土器1点、須恵器坏1点、甕1点を図示した(第47図151～163)。151～154は坏の口縁～体部、155は口縁～底部である。151、152は直線的な形状、153、154は体部がやや張り、口縁端部が緩やかに外反する形状を呈する。155は底部下半が丸みを帯び、口縁端部が外反する形状を呈する。内面黒色処理が施されている。156は非ロクロ小甕の口縁～体部で、体部は直線的で、短くつまみ出した口縁部を有する。157は非ロクロ甕の口縁～体部で、体部が膨らみ、口縁部は短く外反する。158は非ロクロ小甕の口縁～体部で、体部がやや膨らみ、短く外反する口縁部を有する。159は非ロクロ甕の口縁～体部で、体部がやや膨らみ、鋭く外反する口縁部を有する。160は体～底部で直線的に立ち上がる形状を呈する。161はミニチュア土器の口縁～底部である。底部からやや膨らむように立ち上がり、口縁部は短くつまみ出した程度である。162は須恵器坏底部、163は甕の体部である。

SK-141 (第41図)

F-13グリッドで検出した。SI-01付Pit18と重複しており、本遺構が古い。平面形は不整形を呈し、規模は長軸70×短軸59×深さ15cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土主体である。遺物は出土しなかった。

SK-142 (第41図)

G・H-13グリッドで検出した。視乱により全体形は不明であるが、平面形は円形を呈していると考えられ、規模は長軸103×短軸50×深さ16cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は南側に段を有する。堆積土は2層に分層でき、黒色土を確認した。遺物は出土しなかった。

SK-143 (第41図)

I・J-13グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸139×短軸93×深さ22cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層でき、黒色土主体である。遺物は出土しなかった。

第3節 溝跡

11条検出した。SD-17は建物跡に付随する外周溝であった可能性が高いが、他は建物跡に伴わない単独の溝跡である。区画、排水の用途が推定される。

SD-02 (第48図)

B・C-9・10、D-8・9、E-7・8、F・G-6・7、H-5・6、I-5、J-4・5、K-3・4グリッドにかけて検出し、南西～北東方向に直線状を呈する。SK-70、112、SD-11、SP-16、17、438、439と重複しており、本遺構がSK-112、SD-11、SP-16、17、439より新しく、本遺構がSK-70、SP-438より古い。北側及び南側で調査区外へ延びており、確認した部分の規模は延長45.14m、開口部幅105cm、深さ59cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、断面形は大部分で三角形状を呈するが、南側では浅いU字形を呈する。堆積土は3層に分層でき、黒色土主体である。第1層は黄灰色の火山灰層であるが、二次堆積と考えられる。遺物は確認面及び堆積土層から出土した土師器環1点、甕2点を図示した(第89図164～166)。164は坏の口縁部で、直線的な形状を呈する。165は甕の底部で、台状の底部からやや開くように立ち上がる。166は甕の体部で、内面ハケ目が認められる。

SD-03 (第49図)

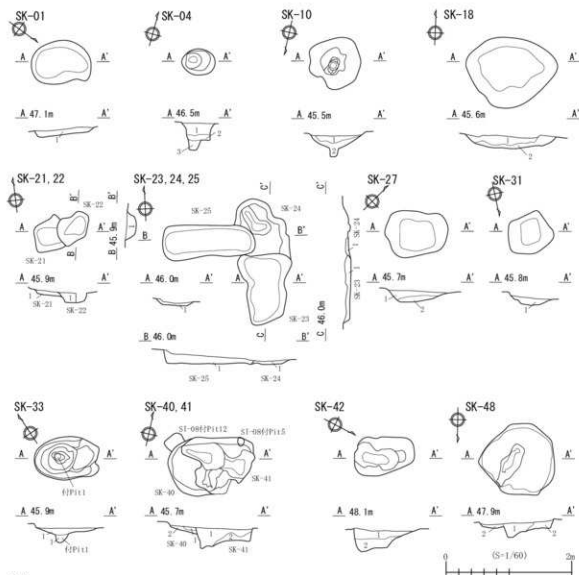
C-7～9、D-7で検出した。SP-33と重複しており、本遺構が新しい。北東～南西方向に軸を持ちC-8、9グリッド内は直線状、C-7グリッド内でやや蛇行している。規模は延長754cm、開口部幅48cm、深さ15cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸底を呈する。堆積土は黒色土1層のみ確認した。人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SD-07 (第49図)

B-15、C-15・16グリッドで検出した。東西方向に緩やかに蛇行している。規模は延長401cm、幅140cm、深さは24cmを測り、やや幅広の形態である。壁はほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が認められ、底面はやや丸みを帯びる。堆積土は3層に分層でき、黒褐色土を主体とする。断面観察から人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

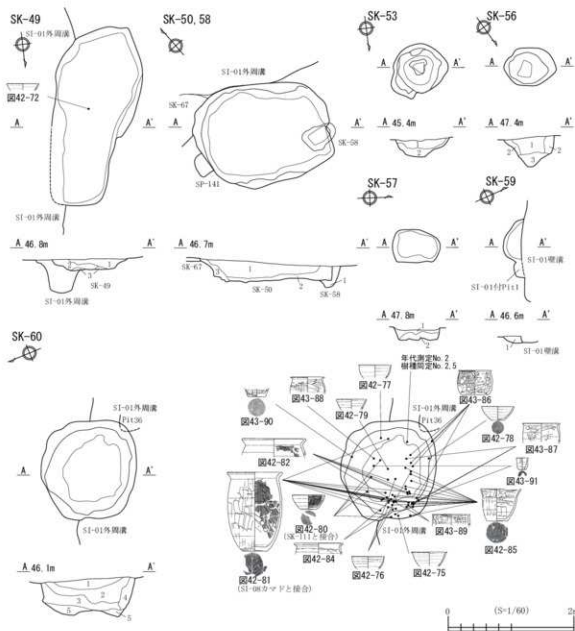
SD-08 (第50図)

H-6・7、I-7グリッドで検出した。弧状に構築されている。SD-11、SK-79と重複しており、本遺構が新しい。規模は延長710cm、幅47cm、深さ10cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。断面観察から人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。



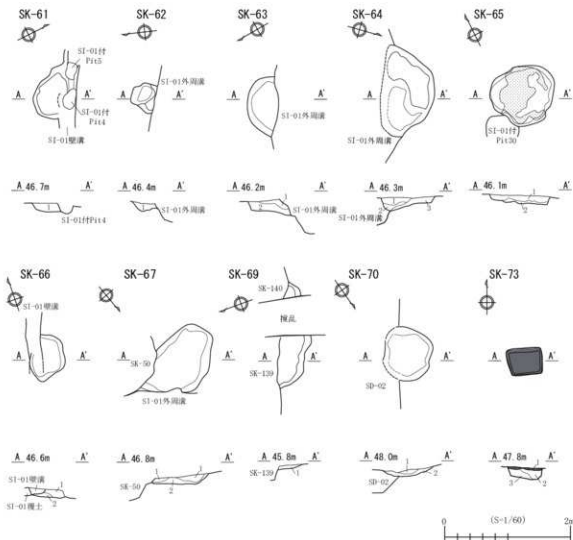
- SK-01 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SK-04 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
- SK-10 第1層 10YR3/1 黒褐色土と10YR5/2にぶい黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~3mm)微量
- SK-10 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量, ロームブロック(φ30~40mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SK-18 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)少量, ロームブロック(φ20~50mm)少量, 酸化鉄(φ1~8mm)微量
- SK-18 第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)中量, ロームブロック(φ20~60mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SK-21 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SK-22 第1層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量
- SK-22 第2層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ2~8mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SK-24 第1層 10YR2/1 黒色土と10YR4/6褐色土ロームの混合層 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量
- SK-27 第1層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ2~2mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SK-27 第2層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm)微量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
- SK-31 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
- SK-33 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)多量, 酸化鉄7°αγ(φ10mm)中量
- SK-33 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~50mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SK-33P11 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)中量, 酸化鉄(φ1mm)微量
- SK-40 第1層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)中量, 酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
- SK-41 第2層 10YR3/2 黒褐色土10YR5/4にぶい黄褐色土ロームの混合層 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~3mm)少量, 酸化鉄(φ1~3mm)少量
- SK-42 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~100mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SK-42 第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量
- SK-48 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SK-48 第2層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)少量
- SK-48 第3層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ2~9mm)少量, ロームブロック(φ10~40mm)少量
- SK-48 第4層 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/3褐色土の混合層 ローム粒(φ2~9mm)中量, ロームブロック(φ10mm)少量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量

第33図 SK (1)



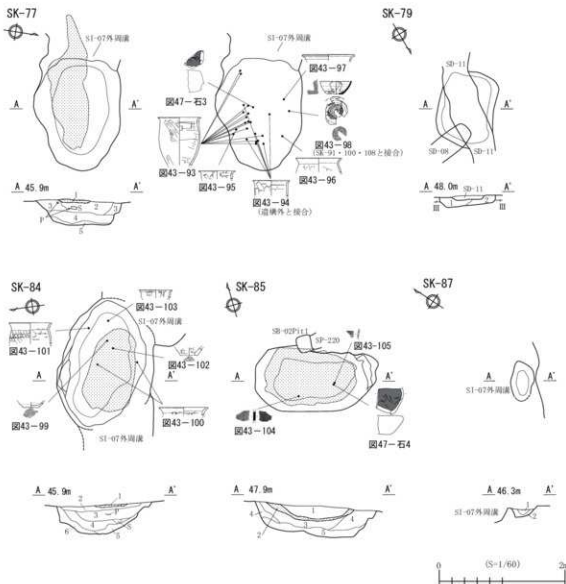
SK-49	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ2-9mm)中量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、焼土粒(φ1-3mm)微量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
第2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ2-9mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
第3層	10YR3/1	黒褐色土と10YR6/4にふい黄褐色土ロームの混合層		
SK-50	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1-9mm)中量、ロームブロック(φ10-20mm)中量、炭化粒(φ5-9mm)少量、焼土粒(φ2-5mm)微量、酸化鉄(φ1-9mm)微量	
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
第3層	10YR2/3	黒褐色土と10YR5/4にふい黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1-5mm)少量、ロームブロック(φ20-40mm)中量	
SK-53	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10-30mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
第2層	10YR1/7/3	黒色土	ローム粒(φ1-9mm)中量、ロームブロック(φ10-30mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
SK-56	第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1-5mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土と10YR4/3にふい黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1-9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)微量	
第3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量	
SK-57	第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1-5mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量
第2層	10YR2/4	暗褐色土と10YR6/6明黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1-9mm)中量、ロームブロック(φ10-50mm)少量	
SK-58	10YR3/3	暗褐色土と10YR5/4にふい黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1-5mm)少量、炭化粒(φ5mm)微量、酸化鉄(φ1-9mm)少量	
SK-59	第1層	10YR2/1	黒色土と10YR2/3黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1-3mm)少量、ロームブロック(φ10-30mm)少量、酸化鉄(φ1-2mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1-9mm)中量、ロームブロック(φ10-30mm)少量、炭化物ブロック(φ10mm)少量、焼土粒(φ1-9mm)少量、	
第3層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)少量、炭化物ブロック(φ10-20mm)少量、炭化粒(φ1-9mm)少量、炭化物ブロック(φ10-20mm)少量、	
第4層	10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、酸化鉄(φ1-5mm)微量、焼土粒(φ1-2mm)微量	
第5層	10YR2/1	黒褐色土と10YR5/4明黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1-9mm)少量、ロームブロック(φ10-20mm)少量、炭化粒(φ1-9mm)微量、炭化物ブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1-3mm)微量	

第34図 SK (2)



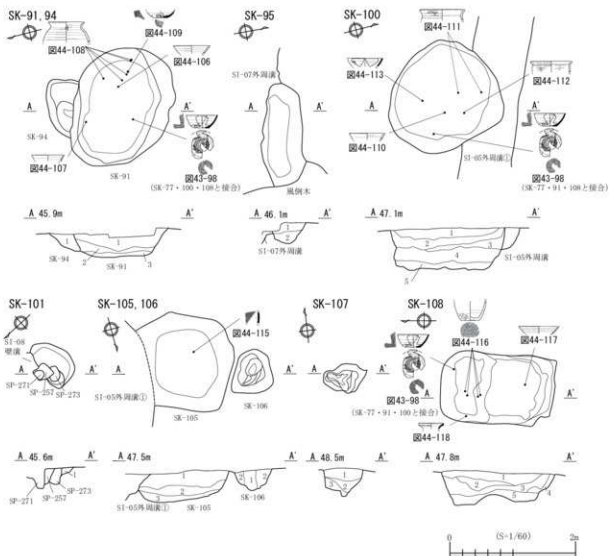
SK-61	第1層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~50mm)中量
SK-62	第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)少量
SK-63	第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,炭化物ブロック(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量,酸化鉄(φ1~2mm)微量
SK-64	第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)微量,酸化鉄(φ1~2mm)微量
SK-64	第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~5mm)微量
SK-64	第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)中量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
SK-64	第3層	10YR2/1	黒色土と10YR6/4黒褐色土ロームの混合層	酸化鉄(φ1~3mm)微量
SK-65	第1層	10YR3/1	黒褐色土と10YR4/3に多い黄褐色土の混合層	ローム粒(φ1~6mm)少量,ロームブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~2mm)微量, B-Ta(10YR7/3)層状に混入
SK-65	第2層	10YR3/3	暗褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量,酸化鉄(φ1~5mm)微量, B-Ta(10YR7/3)中量混入
SK-66	第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~40mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
SK-66	第2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物ブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量
SK-67	第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量,酸化鉄(φ1~2mm)微量
SK-67	第2層	10YR3/3	暗褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)微量,10YR2/1黒色土少量混入
SK-69	第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~40mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
SK-70	第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~100mm)多量,酸化鉄(φ1~5mm)微量
SK-70	第2層	10YR4/6	褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~3mm)少量
SK-73	第1層	10YR6/2	灰黄褐色土	粘土層
SK-73	第2層	10YR4/3	に多い黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合層	ローム粒(φ1~5mm)中量
SK-73	第3層	10YR2/2	黒褐色土と10YR4/6褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1~5mm)少量

第35図 SK(3)



SK-77		
第1層 10YR3/1	黒褐色土と10YR6/6明黄褐色B-1aの混合層	炭化粒(φ1~5mm)微量、積土粒(φ1~3mm)微量
第2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ1~3mm)微量、積土粒(φ1~2mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第3層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、炭化粒(φ1~3mm)微量、積土粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第4層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、積土粒(φ1~2mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第5層 10YR2/1	黒褐色土と10YR4/4暗褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~50mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
SK-79		
第1層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量
SK-84		
第1層 10YR2/1	黒褐色土と2.5Y6/3にぶい黄褐色B-1aの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量
第2層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、積土粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第3層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第4層 10YR1.7/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)少量、積土粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)微量
SK-85		
第5層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、炭化粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第6層 10YR1.7/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~100mm)多量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SK-85		
第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)少量、積土粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、にぶい黄褐色B-1a(10YR2/2) (φ10~50mm)中量
第2層 10YR5/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、B-1a層
第3層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量
第4層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~80mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量、炭化物ブロック(φ20mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第5層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~100mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SK-87		
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ50~80mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層 10YR3/1	黒褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土ロームの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ50mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量

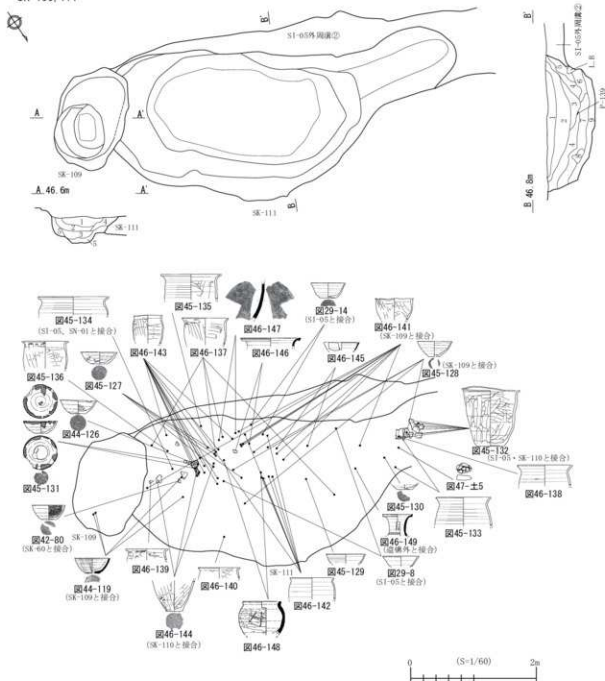
第36図 SK (4)



SK-91					
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)中量,焼土粒(φ1~3mm)微量,焼土ブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~5mm)中量		
第2層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
第3層	10YR1/7/1	黒色土と10YR3/2黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)多量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
SK-94					
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~40mm)中量,焼土粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
SK-95					
第1層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
第2層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~100mm)多量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
SK-100					
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物ブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量,酸化鉄ブロック(φ10~20mm)少量		
SK-101					
第3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
第4層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~50mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)微量,酸化鉄ブロック(φ10~15mm)微量		
SK-105					
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)中量,酸化鉄ブロック(φ10~15mm)少量		
SK-106					
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,炭化物ブロック(φ10~20mm)微量		
SK-107					
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~50mm)多量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
SK-108					
第1層	10YR1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
第2層	10YR1/7/1	黒色土と10YR6/4Cに少し黄褐色土ロームの混合層	酸化鉄(φ1~2mm)微量		
SK-107					
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)中量		
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~15mm)中量,酸化鉄(φ1~2mm)微量		
SK-108					
第1層	10YR2/2	黒褐色土と10YR6/4Cに少し黄褐色土の混合層	酸化鉄(φ1~9mm)少量		
SK-108					
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)少量		
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~50mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)少量		
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量,焼土ブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~5mm)少量		
第4層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)少量		
第5層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~100mm)多量,酸化鉄(φ1~5mm)微量		

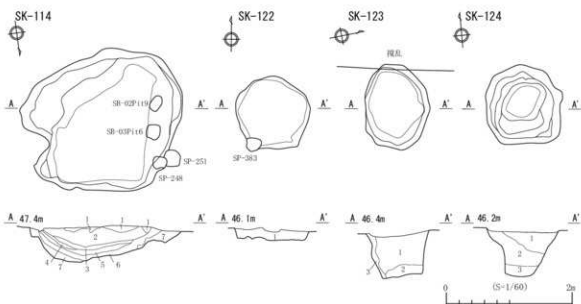
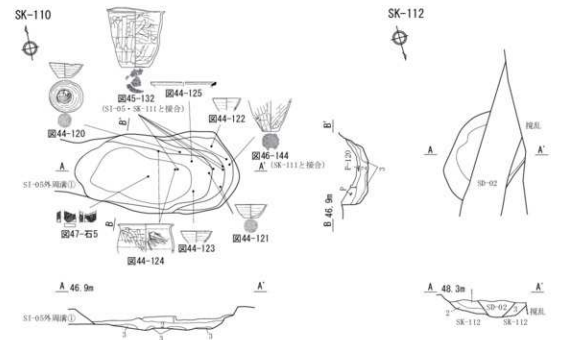
第37図 SK(5)

SK-109, 111



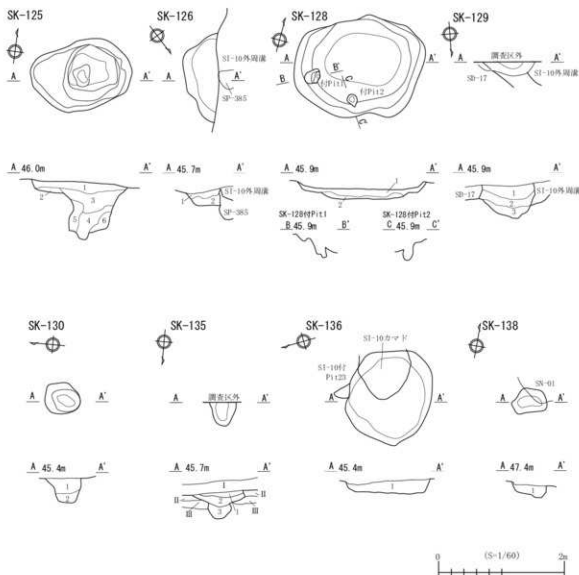
SK-109				
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~120mm) 多量、炭化粒 (φ1~9mm) 微量、炭化物ブロック (φ10mm) 微量、 焼土粒 (φ1~9mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 微量、酸化鉄ブロック (φ10mm) 微量	
第2層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~150mm) 微量、炭化物ブロック (φ10~20mm) 微量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第3層	10YR2/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~5mm) 微量、ロームブロック (φ10~20mm) 少量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第4層	10YR2/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~30mm) 中量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第5層	10YR2/1	黒褐色土と10YR6/4に多い黄褐色土の混合層	ローム粒 (φ1~3mm) 微量	
SK-111				
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 中量、ロームブロック (φ10~50mm) 中量、炭化粒 (φ1~5mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 微量、 酸化鉄ブロック (φ10mm) 微量	
第2層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 多量、ロームブロック (φ10~60mm) 多量、炭化粒 (φ1~9mm) 少量、焼土粒 (φ1~9mm) 少量、 焼土ブロック (φ10mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 少量	
第3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~60mm) 中量、炭化物ブロック (φ10mm) 微量、焼土粒 (φ1~9mm) 微量、 酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第4層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~20mm) 少量、炭化粒 (φ1~9mm) 微量、酸化鉄 (φ1~9mm) 微量	
第5層	10YR3/1	黒褐色土と10YR6/4明黄褐色土の混合層	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~20mm) 少量、酸化鉄 (φ1~3mm) 微量	
第6層	10YR2/1	黒褐色土と10YR6/4明黄褐色土の混合層	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~30mm) 少量、酸化鉄 (φ1~9mm) 微量、 酸化鉄ブロック (φ10mm) 微量	
第7層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒 (φ1~9mm) 少量、ロームブロック (φ10~80mm) 少量、酸化鉄 (φ1~5mm) 微量	
第8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		
第9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	酸化鉄 (φ1~9mm) 少量、酸化鉄ブロック (φ10mm) 少量	

第38図 SK (6)



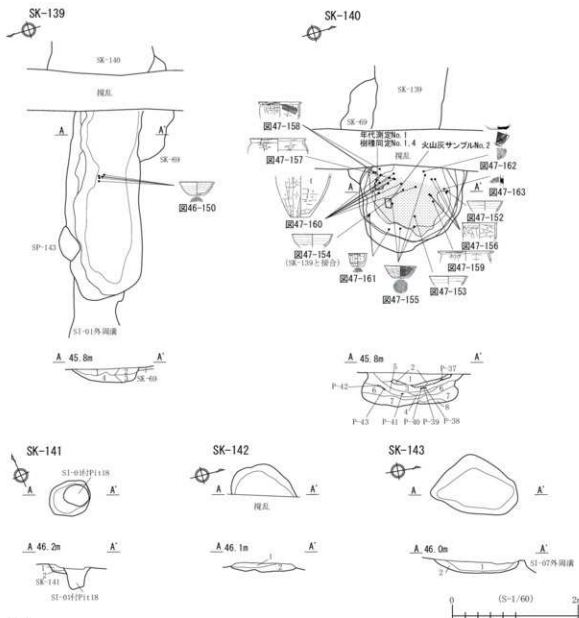
- SK-110
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)少量、炭化物ブロック(φ10~15mm)少量、
 焼土粒(φ1~9mm)少量、焼土ブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
 第2層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~100mm)多量、炭化粒(φ1~9mm)少量、炭化物ブロック(φ10mm)少量、
 焼土粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)微量
 褐色ローム
 第3層 10YR4/6
 SK-112
 第1層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)中量、焼土粒(φ3mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)微量
 にぶい黄褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合層
 第3層 10YR5/4
 SK-114
 第1層 10YR2/1 黒色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合層 酸化鉄(φ1~9mm)微量、酸化鉄ブロック(φ10~20mm)少量
 第2層 10YR4/6 褐色土 酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
 第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 酸化鉄(φ1~9mm)微量
 第4層 10YR1/7/1 黒色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合層 ローム粒(φ1~9mm)微量
 第5層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
 第6層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
 第7層 10YR1/7/1 黒色土と10YR4/4褐色土の混合層 ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
 SK-122
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
 SK-123
 第1層 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)少量、炭化物ブロック(φ10mm)微量、焼土粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
 第2層 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
 SK-124
 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~40mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
 SK-124
 第1層 10YR1/7/1 黒色土と10YR2/2黒褐色土の混合層 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~40mm)少量、焼土粒(φ1~5mm)微量、
 酸化鉄(φ1~9mm)少量
 第2層 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量

第39図 SK(7)



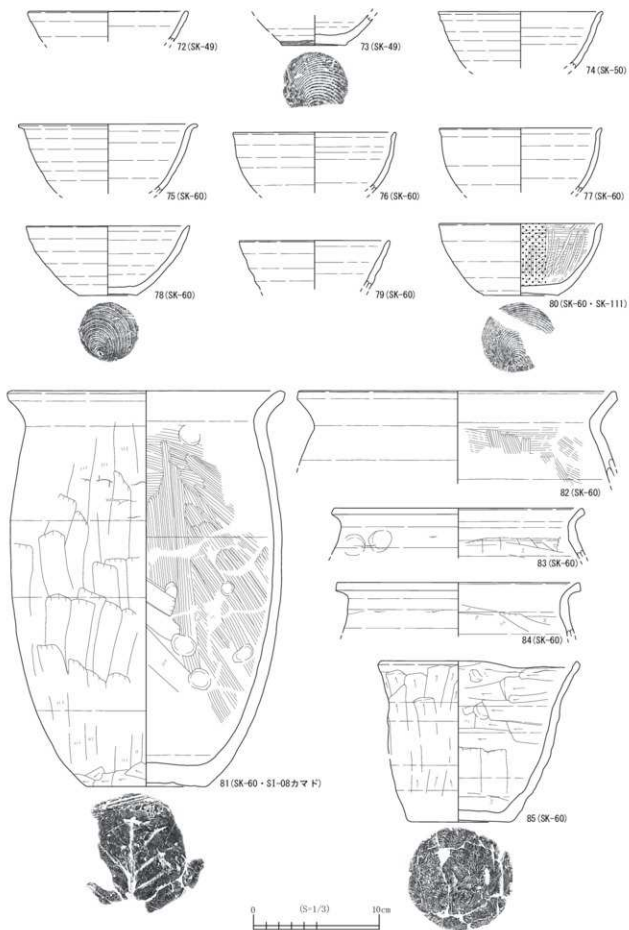
SK-125			
第1層 10YR1/1	黒色土と10YR3/1黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第2層 10YR5/3	にぶい黄褐色土	酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第3層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第4層 10YR3/4	緑褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第5層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第6層 10YR4/4	褐色土	酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SK-126			
第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
SK-128			
第1層 10YR2/1	黒色土と10YR2/2黒褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量	
第2層 10YR3/3	緑褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)中量	
SK-129			
第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~50mm)中量、炭化粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量	
第2層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、炭化粒(φ1~9mm)微量	
第3層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10~50mm)微量、炭化粒(φ1~3mm)微量	
SK-130			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	
SK-135			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、小礫少量	
第2層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、小礫中量	
第3層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、小礫中量	
SK-136			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量	
SK-138			
第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	

第40図 SK (8)

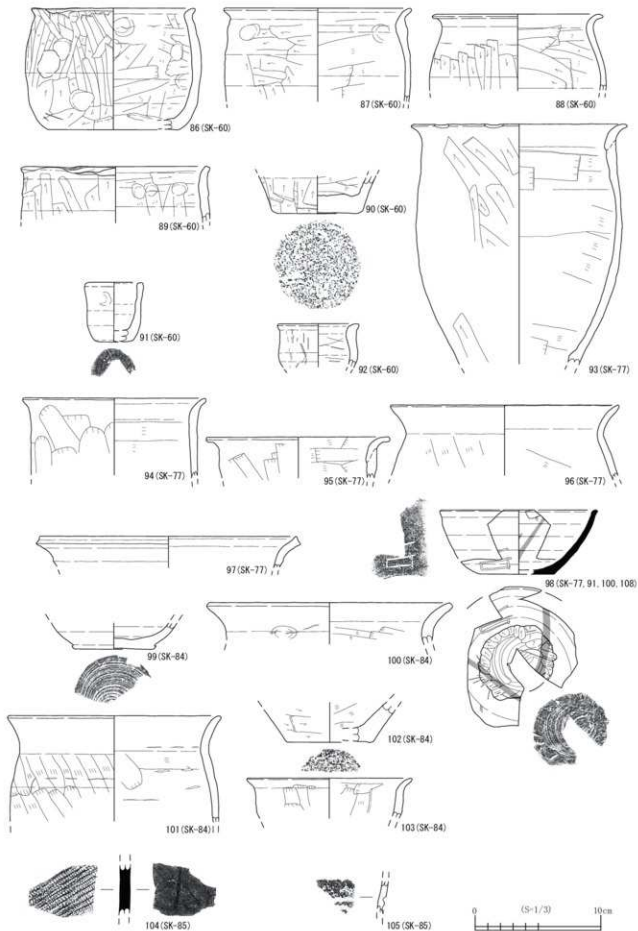


- SK-139
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、炭化粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量、
 焼土粒($\phi 2\sim 8\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄ブロック($\phi 10\text{mm}$)微量 火山灰少量混入
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)多量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量
 第3層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 40\text{mm}$)中量、炭化粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、
 焼土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量
 第4層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/3に多い黄褐色土ロームの混合層
 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 100\text{mm}$)多量、焼土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、
 酸化鉄ブロック($\phi 10\text{mm}$)微量
- SK-140
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)中量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、炭化粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量、焼土粒($\phi 2\sim 8\text{mm}$)微量、
 酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄ブロック($\phi 10\text{mm}$)微量 火山灰少量混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土(火山灰)混合層 ローム粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量、炭化粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量
 第3層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)多量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量
 第4層 10YR6/3 に多い黄褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 5\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量
 第5層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 40\text{mm}$)中量、炭化粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、焼土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、
 酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 100\text{mm}$)少量、焼土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、
 酸化鉄ブロック($\phi 10\sim 30\text{mm}$)少量
 第7層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/3に多い黄褐色土ロームの混合層 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)多量、ロームブロック($\phi 10\sim 100\text{mm}$)多量、焼土粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、
 酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、酸化鉄ブロック($\phi 10\text{mm}$)微量
 第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)少量、酸化鉄($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量
 SK-141
 第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 3\text{mm}$)微量
 SK-142
 第1層 10YR2/1 黄褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 15\text{mm}$)少量
 第2層 10YR1/7/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\sim 20\text{mm}$)中量
 SK-143
 第1層 10YR1/7/1 黒褐色土 ローム粒($\phi 1\sim 9\text{mm}$)少量、ロームブロック($\phi 10\text{mm}$)微量、酸化鉄($\phi 1\sim 3\text{mm}$)微量
 第2層 10YR1/7/1 黒褐色土と10YR5/6に多い黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄($\phi 1\sim 5\text{mm}$)少量

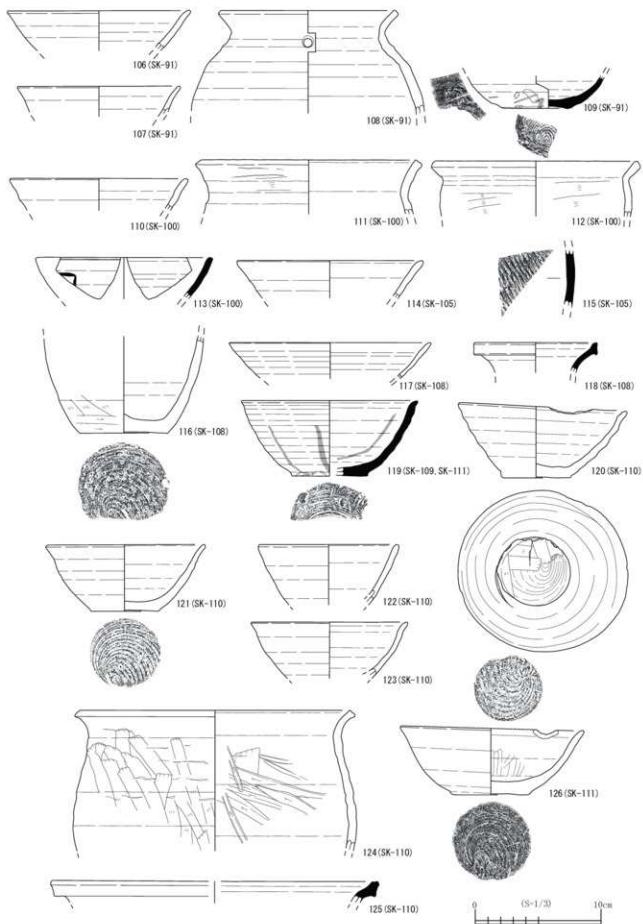
第41図 SK(9)



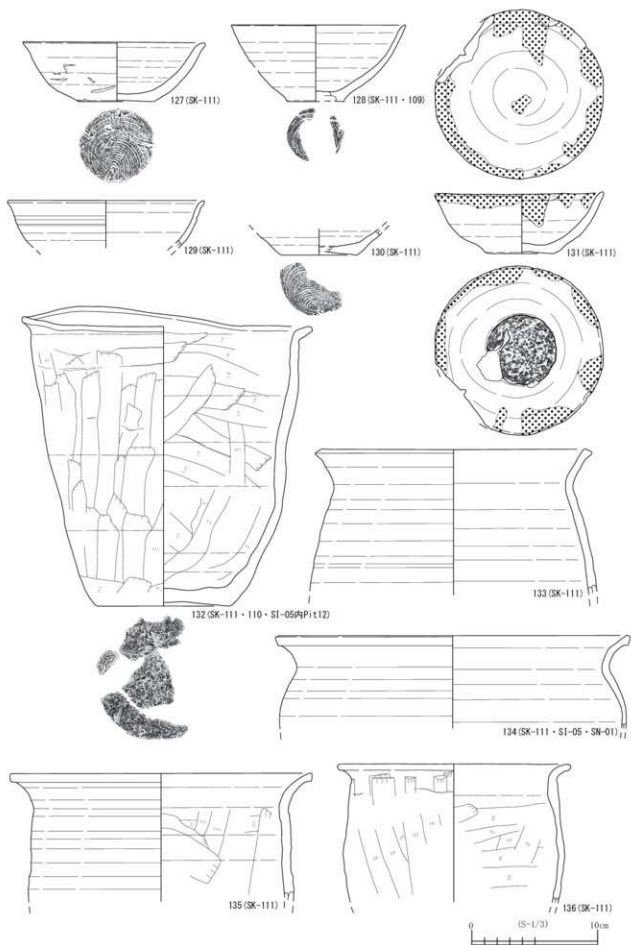
第42図 SK内出土土器(1)



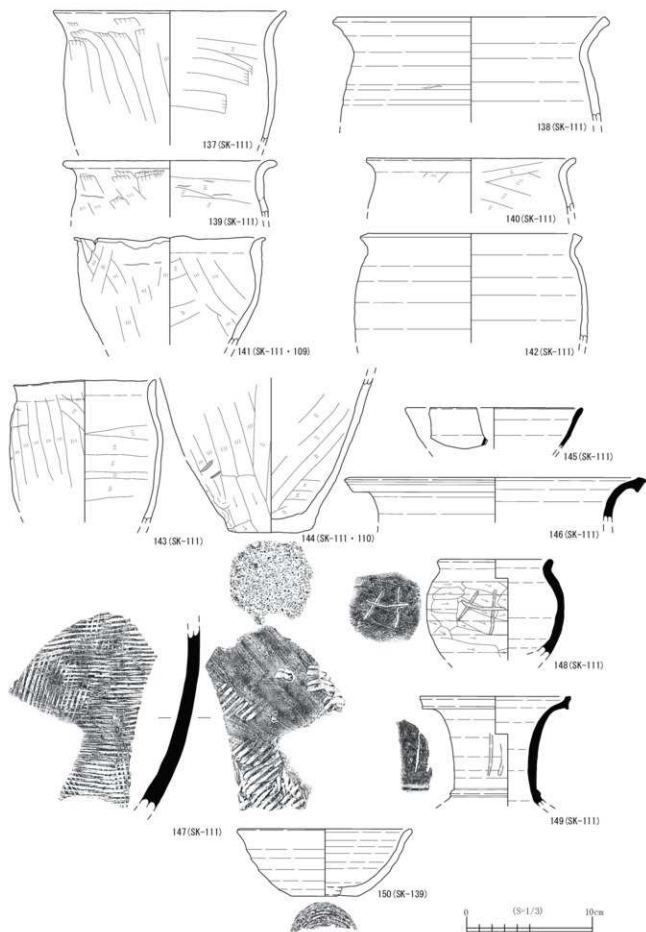
第43図 SK内出土土器(2)



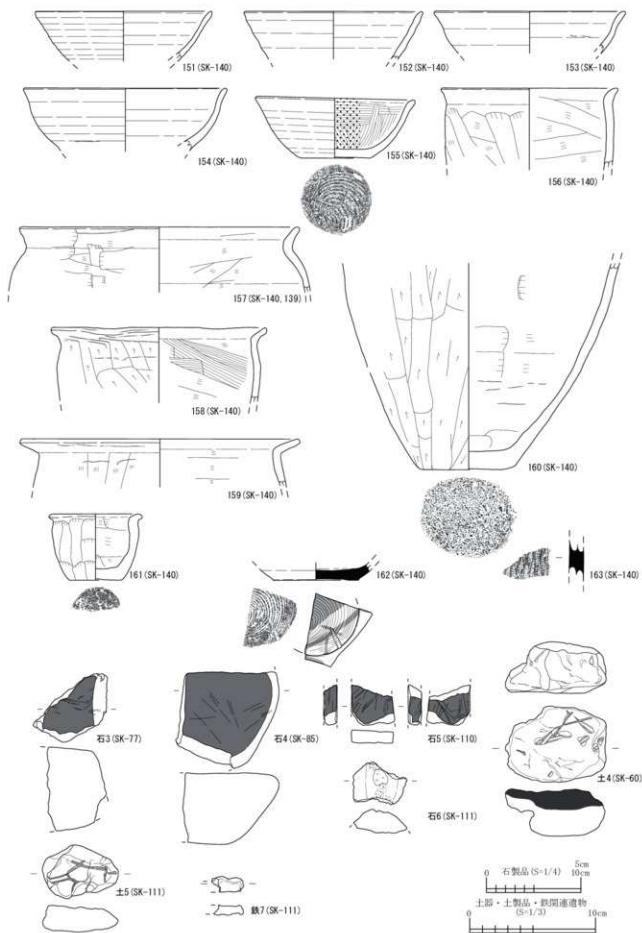
第44図 SK内出土土器（3）



第45図 SK内出土土器（4）



第46図 SK内出土土器（5）



第47図 SK内出土土器(6)・出土遺物

SD-09 (第50図)

H-6、I-5・6グリッドで検出した。北東～南西方向に直線状を呈する。規模は延長440cm、幅39cm、深さ10cmを測る。壁は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。断面観察から自然堆積と考えられる。遺物は1層から出土した土師器坏1点を図示した(第89図167)。167は坏の口縁部で、やや内湾気味の器形である。

SD-11 (第51図)

F-7、G-6・7、H～J-6、K・L-5・6、M・N-5グリッドで検出した。南北方向に直線状を呈する。K-6グリッドで一部途切れているが、同一遺構と考えられる。SK-79、SD-02、08、SN-01と重複しており、本遺構がSK-79、SN-01より新しく、本遺構がSD-02、08より古い。規模は延長29.06m、幅51cm、深さ24cmを測る。壁は、急角度に立ち上がる部分とほぼ垂直に立ち上がる部分が認められ、底面は平坦である。堆積土は3層に分層でき、黒色土主体である。断面観察から人為堆積と考えられる。遺物は、1層から出土した土師器坏1点を図示した(第89図168)。168は口縁部に浅いくびれを有し、端部がやや外反する。内面は黒色処理が施されている。

SD-12 (第52図)

K-4グリッドで検出した。南北方向に直線状を呈する。規模は延長198cm、幅34cm、深さ16cmを測り、浅く短い形態である。壁は急角度に立ち上がり、底面は東側に傾斜する。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土主体である。断面観察から自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SD-13 (第52図)

K-3・4グリッドで検出した。東西方向に直線状を呈する。規模は延長169cm、幅20cm、深さ13cmを測り、浅く短い。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は黒褐色土1層のみ確認した。断面観察から自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SD-15 (第53図)

K・L-16・17グリッドで検出した。東西方向に直線状を呈する。規模は延長226cm、幅55cm、深さ83cmを測る。壁は段状を呈しながら、直線的に立ち上がり、底面はやや丸みを有する。堆積土は2層に分層でき、黒褐色土主体である。大量のロームブロックを混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SD-16 (第53図)

M-14～16グリッドで検出した。緩やかに蛇行している。規模は延長10.21m、幅100cm、深さ15cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。M-16グリッド内の東側の底面よりピット1基を検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸17×短軸13×深さ17cmを測る。堆積土は2層に分層でき、黒色土主体である。ロームブロックを全面に混入していることから人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SD-17 (第54図)

N・O-16・17、P-16グリッドで検出した。調査区外に延びているため、全体形は不明であるが、馬蹄形を呈する。SI-10外周溝と向きや形状が類似しており、外周溝の可能性が高いが、調査区南東隅での検出であり、対応する建物跡が認められなかったことから、単独の溝跡として取り扱った。SI-10、SK-129と重複しており、本遺構が新しい。規模は延長10.15m、幅76cm、深さ41cmを測る。壁は段状に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。底面から3基のピットを検出した。平面形はいずれも不整形を呈し、各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit2=24×22×42cm、Pit3=19×18×26cm、Pit4=16×12×34cmを測る。堆積土は4層に分層でき、黒褐色土主体である。遺物は堆積土上層から出土した土師器杯1点、甕1点を図示した(第89図169、170)。169は非口クロ甕の口縁部で、やや鋭く外反する形状を呈する。170は杯の口縁～体部であり、やや丸みを帯びる形状で、口縁端部が外反する。内面黒色処理が施されている。

第4節 焼土状遺構**SN-01 (第55図)**

N-4～7、O-4～8、P-6～8グリッドで検出した。SK-138、SD-11、SP-422と重複しており、本遺構がSK-138、SP-422より新しく、本遺構がSD-11より古い。長軸14.65m、短軸4.81mの不整形の範囲で西～東側にかけて焼土が分布している。厚さは15～38cmである。土層は3層に分層でき、暗褐色土主体である。すべて焼土粒を含んだ混合土であることから、火を焚いて生じた赤化ではなく、焼土を廃棄して生じたものであり、人為堆積と考えられる。遺物はSI-05、SK-111と接合した土師器甕が出土している(第45図134)。

第5節 掘立柱建物跡

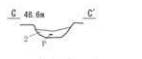
2間×1間の建物2棟、3間×1間の建物1棟検出した。遺物の出土は認められず、構築時期は近現代と考えられる。

SB-01 (第56図)

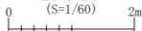
F・G-7グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、桁行2間×梁行1間の建物である。規模は長軸286×短軸178cmを測る。6基のピットで構成され、重複はみられない。各ピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、Pit1=33×29×51cm、Pit2=33×31×71cm、Pit3=30×27×38cm、Pit4=46×42×34cm、Pit5=37×35×52cm、Pit6=27×23×18cmを測る。Pit2からは柱根を検出した。各ピットの堆積土は黒色土主体である。遺物は出土しなかったが、新旧関係等から構築年代は近現代と考えられる。

SB-02 (第57、58図)

L・M-6・7グリッドで検出した。平面形は長方形で西側に庇を有する。主体部分(Pit1～11、18)は桁行3間×梁行1間、底部(Pit12～17)は桁行3間×梁行1間の建物である。Pit1がSK-85、SP-220、Pit2がSP-221、Pit3がSP-223、Pit8がSB-03、SP-227、Pit11がSP-252と重複してい

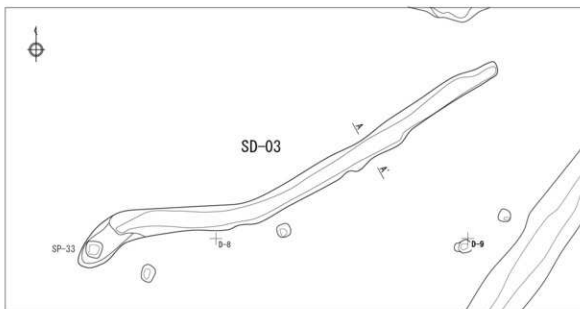


セクション
(S=1/60)



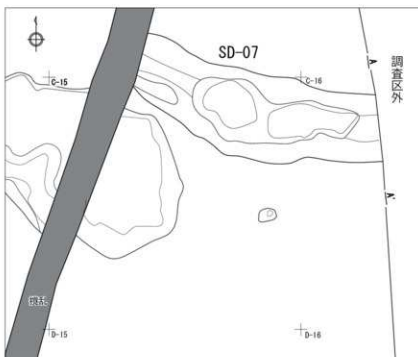
SD-02	2.574/1	黄灰色土	火山灰層
第1層	10YR2/7/1	黒色土	ローム殻(φ1~5cm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム殻(φ1~8cm)少量, ロームブロック(φ40cm)微量

第48図 SD-02



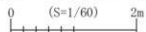
SD-03
A 46.9m A'

SD-03
第1層 7.5YR2/1 紫色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)多量、酸化鉄ブロック(φ10~20mm)多量

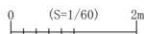
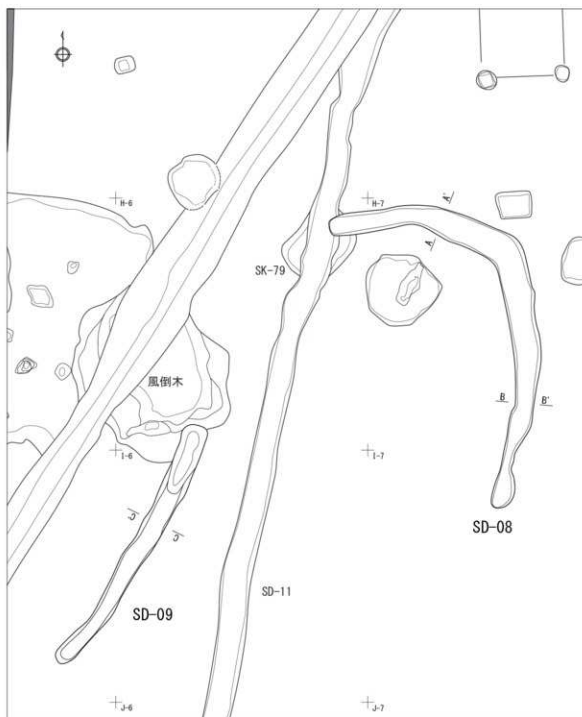


SD-07
A 45.4m A'

SD-07
第1層 10YR2/1 紫色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
第2層 10YR2/2 黄褐色土 ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
第3層 10YR3/1 黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ20~40mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量

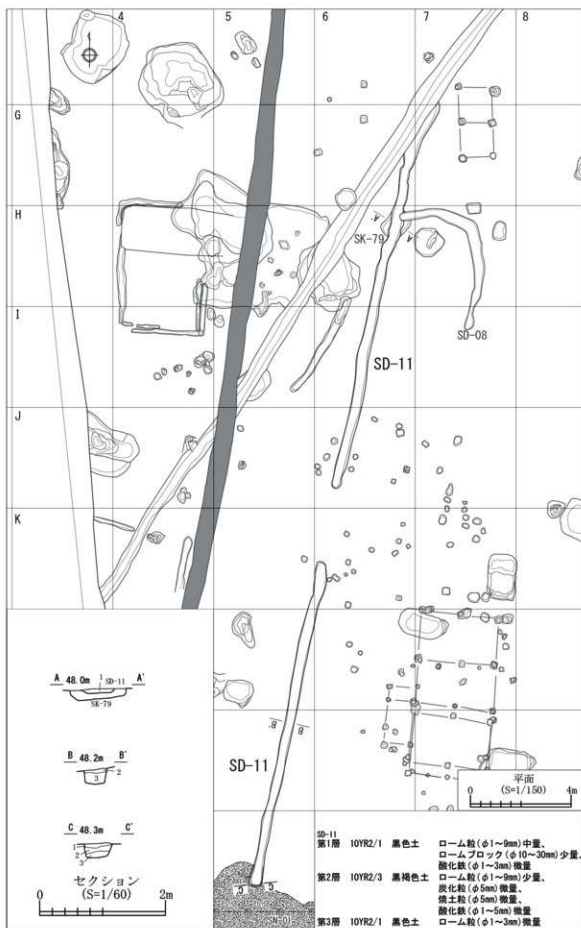


第49図 SD-03・07

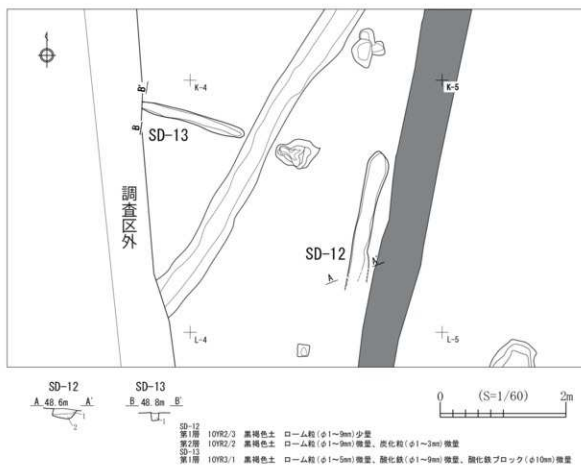


SD-08
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10~20cm)少量、焼土粒(φ5cm)微量、酸化鉄(φ1~5cm)微量
 SD-09
 第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8cm)少量、酸化鉄(φ1~2cm)微量

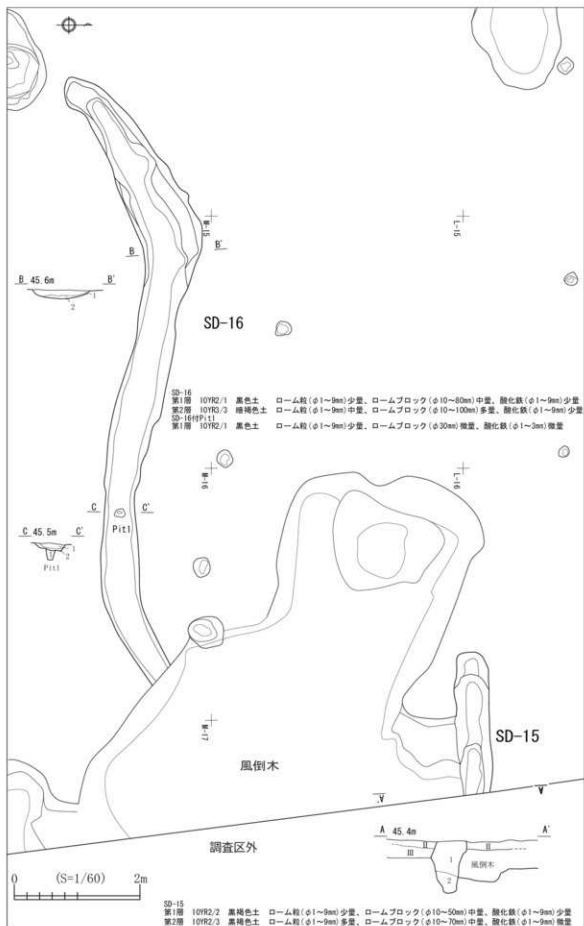
第50図 SD-08・09



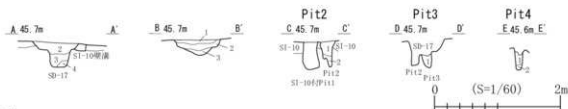
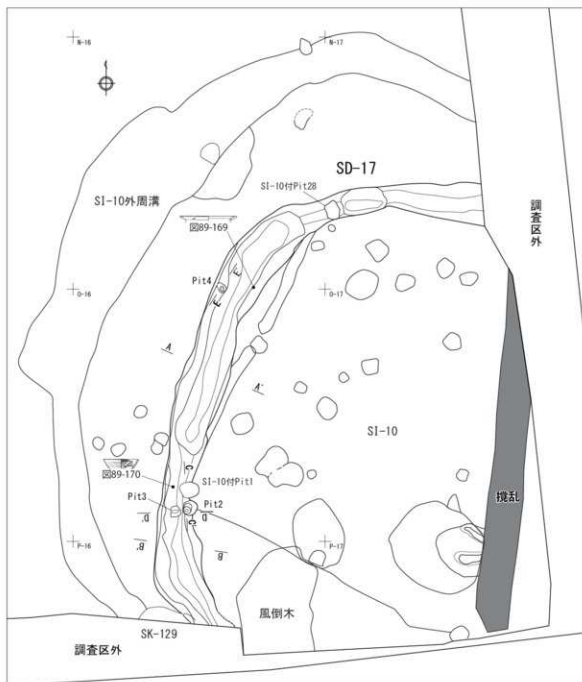
第51図 SD-11



第52図 SD-12・13

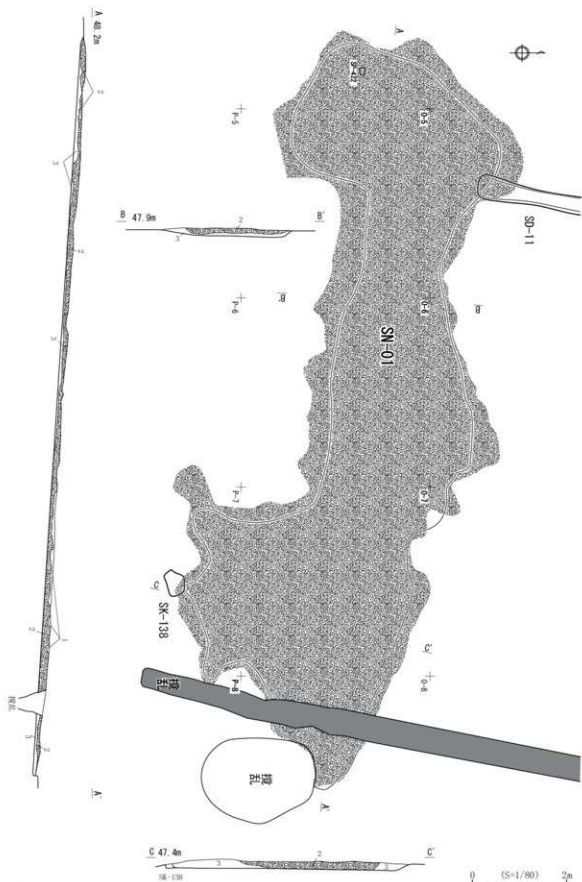


第53図 SD-15・16



SD-17			
第1層 10YR3/1	高褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第2層 10YR3/1	高褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第3層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第4層 10YR3/1	高褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ1~5mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)微量	
SD-17Pit12			
第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、皮化物(φ1~9mm)微量、皮化物ブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量	
SD-17Pit13			
第1層 10YR2/1	黒色土と10YR3/2高褐色土の混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ1~5mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SD-17Pit14			
第1層 10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 10YR3.0	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)多量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	

第54図 SD-17



SN-01
 第1層 10YR2/1 黒色土 粘土粒(φ1~9mm)中量、粘土ブロック(φ10~15mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量
 第2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘土粒(φ1~9mm)多量、粘土ブロック(φ10~50mm)多量、炭化粒(φ1~3mm)微量
 第3層 10YR1.7/1 黒色土と10YR2/2黒褐色土との混合層 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、粘土粒(φ1~9mm)少量

第55図 SN-01

る。新旧関係はすべて本遺構が新しい。主体部分の規模は長軸667×短軸334cm、庇部は長軸254×短軸127cmを測る。主体部分は12基、庇部は6基のピットで構成されている。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ）は、Pit1=26×23×36cm、Pit2=40×29×46cm、Pit3=35×34×50cm、Pit4=35×31×49cm、Pit5=38×31×52cm、Pit6=29×27×34cm、Pit7=20×18×29cm、Pit8=35×32×34cm、Pit9=26×17×36cm、Pit10=19×18×16cm、Pit11=23×22×24cm、Pit12=17×14×13cm、Pit13=26×22×15cm、Pit14=26×20×35cm、Pit15=20×19×28cm、Pit16=25×23×12cm、Pit17=30×29×15cm、Pit18=29×25×25cmを測る。ピット内の堆積土は黒褐色土主体である。遺物は出土しなかったが、新旧関係等から構築年代は近現代と考えられる。

SB-03 (第59図)

L・M-6・7グリッドで検出した。平面形は長方形を呈する。桁行2間×梁行1間の建物である。規模は長軸329×短軸211cmを測る。6基のピットで構成されている。重複はPit1がSP-235、Pit3がSB-02、Pit4がSP-249、250と重複している。新旧関係はPit1がSP-233より新しく、他は本遺構が古い。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ）は、Pit1=29×25×14cm、Pit2=27×23×24cm、Pit3=38×37×33cm、Pit4=29×9×17cm、Pit5=28×25×18cm、Pit6=26×25×16cmを測る。Pit内の堆積土は黒褐色土主体である。遺物は出土しなかったが、構築年代は近現代と考えられる。

第6節 柱穴列

SA-01 (第60、61図)

F・G-14・15、H-14グリッドで検出した。23基のピットが長さ909cmにわたって南北方向に集中している。配置は連続しているのではなく、間隔を開け一部に列状に配置しているものである。重複するピットも認められる。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ）は、Pit3=30×30×22cm、Pit4=22×20×11cm、Pit7=13×11×25cm、Pit10=53×34×27cm、Pit13=41×20×21cm、Pit17=32×30×34cm、Pit18=41×28×28cm、Pit20=31×30×32cm、Pit24=33×28×24cm、Pit26=30×19×20cm、Pit27=31×30×19cm、Pit29=37×23×23cm、Pit31=(30)×(18)×18cm、Pit32=(27)×(21)×26cm、Pit33=27×20×13cm、Pit35=35×26×20cm、Pit38=48×33×23cm、Pit43=43×37×23cm、Pit44=53×32×23cm、Pit45=40×37×26cm、Pit46=47×33×31cm、Pit54=35×30×31cm、Pit55=61×38×16cmを測る。遺物は出土しなかった。

第7節 ピット

本節は、前記第1～6節の遺構に伴わないピットを一括としてまとめたものである。ピットは調査区全体に分布しているが、特にG-5グリッドのSB-02、03北側に多くピットが分布している。形態は、円形・楕円形・方形・不整形が確認される。柱痕は一部のピットでの確認であったが、用途に関しては柱穴と考えられる。遺物は、SP-16、SP-273から出土した土師器甕、須恵器坏を图示した。なお、平面図・断面図については調査区内を「あ〜」の22箇所に分割して、区域毎に提示した。

詳細については第62～88図、第2表のとおりである。

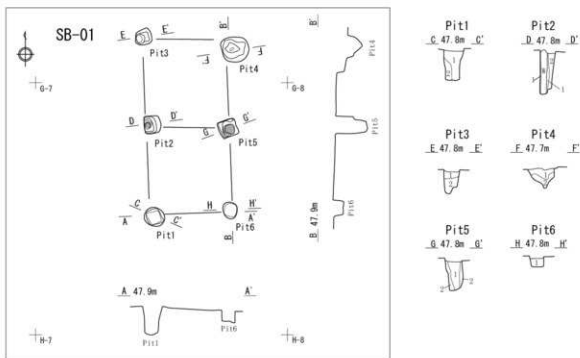
第2表 SP観察表

図号番号	遺構番号	位置	新旧関係	規模 (m)			柱間	平面形	断面形	出土遺物
				長軸	短軸	深さ				
第65図	SP-01	E-7		30	25	28		f	d	
第65図	SP-03	D-7		25	20	9		h	d	
第65図	SP-04	D-7		29	23	26		h	d	
第65図	SP-05	D-8		23	18	14		c	d	
第65図	SP-07	D-8		22	18	51		h	d	
第65図	SP-08	C-8		22	20	28		c	d	
第66図	SP-09	E-8		29	26	21		h	d	
第66図	SP-10	E-8		32	32	30	有	h	e	
第64図	SP-11	C-4		27	23	18		h	f	
第64図	SP-12	D-4		25	19	20		f	d	
第64図	SP-14	E-4		27	16	12		g	d	
第64図	SP-15	F-4		21	16	16		h	d	
第66図	SP-16	E-8	SP-16< SD-02	51	27	22	f	d		土師器類 (第89図171)
第65図	SP-17	E-6	SP-17< SD-02	29	27	10	h	d		
第64図	SP-18	E-4		25	23	20	h	d		
第64図	SP-19	B-3		22	20	32	c	d		
第64図	SP-20	C-3		22	15	46	h	d		
第64図	SP-21	C-3		33	29	24	h	d		
第65図	SP-23	E-6		29	25	13	h	a		
第65図	SP-24	E-6		26	24	20	h	d		
第65図	SP-25	E-6		19	15	7	h	d		
第64図	SP-26	E-5		21	20	13	h	d		
第64図	SP-27	E-5		22	21	12	h	d		
第65図	SP-33	D-7	SP-33< SD-03	30	28	32	c	d		
第64図	SP-36	C-5		32	30	37	c	d		
第64図	SP-37	B-5		24	15	15	b	d		
第66図	SP-40	C-9		21	21	22	c	d		
第66図	SP-41	D-8・9		29	21	17	e	d		
第66図	SP-46	E-9		26	19	25	f	e		
第66図	SP-49	E-8		23	20	10	c	d		
第66図	SP-51	E-8		29	21	16	f	j		
第66図	SP-54	E-8		30	27	17	e	d		
第66図	SP-55	E-10		22	22	32	c	e		
第67図	SP-62	C-11		24	18	15	f	d		
第67図	SP-63	C-11		23	19	15	c	d		
第67図	SP-65	C-12		22	18	15	h	d		
第68図	SP-66	C-12		24	19	14	c	d		
第68図	SP-70	B-13		11	11	7	h	d		
第68図	SP-75	C-13		20	18	19	c	d		
第68図	SP-76	C-14		16	13	37	h	d		
第68図	SP-78	C-14		27	20	20	f	d		
第68図	SP-80	C-13・14		29	23	28	f	d		
第68図	SP-81	B-14		(18)	18	68	h	a		
第68図	SP-82	B-14		13	13	24	h	f		
第68図	SP-83	B-14		22	20	18	h	d		
第68図	SP-84	B-14		14	12	17	h	h		
第68図	SP-86	B-14		22	20	14	有	h	e	
第64図	SP-87	C-5		29	24	38	有	c	h	
第64図	SP-88	D-4		24	22	42	h	d		
第67図	SP-89	C-10		29	19	34	f	d		
第65図	SP-90	D-6		38	35	21	有	h	d	
第65図	SP-91	D-7		38	35	13	h	d		
第66図	SP-93	D-8		27	17	22	f	e		
第69図	SP-95	D-16		47	46	11	h	d		
第69図	SP-97	F-8		27	22	47	c	a		
第69図	SP-99	F-6		18	17	17	h	d		
第70図	SP-100	E-16		52	47	26	h	d		
第70図	SP-101	F-15		38	33	14	h	d		
第67図	SP-104	D-11		61	51	76	f	e		
第67図	SP-106	E-11		32	27	13	h	d		
第67図	SP-109	D-12		35	33	20	h	d		
第68図	SP-111	D-12		34	22	27	e	d		
第69図	SP-116	G-5・6		33	25	34	c	d		
第69図	SP-119	G-6		30	29	58	c	a		
第67図	SP-120	D-12		23	21	8	h	d		
第67図	SP-122	D-12		29	18	20	e	d		
第68図	SP-124	D-14		30	28	14	h	d		
第69図	SP-128	F-7		39	34	43	c	e		
第69図	SP-132	F-5		42	27	17	g	d		
第69図	SP-133	F-5		35	22	16	g	d		
第71図	SP-135	H-15		23	21	36	h	d		
第71図	SP-136	H-15		23	17	46	f	d		
第70図	SP-141	H-11	SP-141< SK-50	(22)	33	26	c	e		
第70図	SP-143	F-13	SP-143>SK-139	56	31	11	f	d		
第71図	SP-144	H-13		34	33	17	h	d		
第71図	SP-146	H-13		23	17	46	f	a		
第70図	SP-147	H・I-9・10		43	31	36	f	j		
第70図	SP-149	H-11		33	30	29	h	j		
第71図	SP-152	H-12		18	15	20	h	d		
第69図	SP-153	C-15		28	20	42	f	d		

図面番号	遺構番号	位置	新旧関係	層様 (cm)			柱痕	平面形	断面形	出土遺物
				長軸	短軸	深さ				
第739号	SP-154	J-5		29	23	14		h	d	
第739号	SP-155	J-5		35	31	56		f	j	
第739号	SP-159	J-6		25	21	26		h	d	
第739号	SP-160	J-6		24	21	25		h	d	
第739号	SP-161	J-6		29	23	18		f	d	
第759号	SP-162	J-6		28	26	20		h	d	
第739号	SP-163	K-5		26	24	24		f	d	
第759号	SP-164	K-6		19	16	19		c	d	
第759号	SP-165	K-6		32	18	18		h	d	
第759号	SP-166	K-6		15	14	23		h	d	
第759号	SP-167	K-6		19	19	18		h	d	
第759号	SP-168	K-6		24	21	16		f	d	
第759号	SP-169	K-6		22	20	13		h	d	
第759号	SP-170	K-6		21	19	17		h	d	
第759号	SP-173	J-6		23	23	11		h	a	
第759号	SP-174	J-6		24	21	13		h	d	
第759号	SP-175	J-6		25	15	14		g	d	
第759号	SP-176	J-6		18	17	8		a	a	
第759号	SP-177	J-6		25	23	27		a	e	
第759号	SP-179	J-6		30	25	11		h	d	
第759号	SP-180	J-6		24	23	15		h	d	
第759号	SP-181	J-7		27	18	16		b	d	
第759号	SP-182	K-6		25	17	10		b	a	
第759号	SP-183	K-6		23	21	21		h	d	
第769号	SP-184	K-6		16	14	8		a	a	
第769号	SP-185	K-6		17	14	16		a	a	
第769号	SP-189	K-7		28	20	7		f	a	
第769号	SP-193	K-7		40	29	11		f	d	
第769号	SP-194	J・K-7		26	17	11		f	a	
第769号	SP-195	J-7		29	18	14		f	d	
第769号	SP-196	J-7		49	27	20		f	d	
第769号	SP-197	J-7		30	23	15		f	d	
第769号	SP-198	J-7		40	32	23		f	d	
第769号	SP-199	K-7		31	30	15		h	h	
第769号	SP-200	K-7		23	17	14		f	d	
第769号	SP-201	K-7		29	21	12		f	d	
第769号	SP-202	K-7		23	17	16		f	d	
第769号	SP-203	K-7		33	26	12		f	a	
第769号	SP-204	J・K-7		23	21	12		h	a	
第769号	SP-205	J-7		20	12	10		f	d	
第769号	SP-206	L-6		25	25	19		h	a	
第769号	SP-207	L-6		16	16	14		c	d	
第779号	SP-208	L-6		26	22	20		h	d	
第779号	SP-209	K-6		25	22	18		c	a	
第779号	SP-210	K-6		22	19	18		c	e	
第779号	SP-211	K-7		30	29	19		a	i	
第779号	SP-212	K-7		48	39	20		h	d	
第779号	SP-213	K-7		32	30	22		c	d	
第809号	SP-214	J-12	SP-214<SI-07外周溝	(19)	29	16		f	d	
第779号	SP-220	K・L-7	SP-220>SB-02Pt1 SP-236とは新旧不明	25	25	34		c	d	
第779号	SP-221	K・L-7	SP-221<SB-02Pt2	(23)	32	32		h	j	
第779号	SP-222	L-7		36	32	12		c	d	
第779号	SP-223	L-7	SP-223<SB-02Pt3	37	36	32		c	e	
第779号	SP-224	L-7		20	17	16	有	h	d	
第779号	SP-225	L-7		23	18	56	有	d	e	
第779号	SP-226	L-7		29	26	12		h	d	
第779号	SP-227	L-7		18	17	18		c	d	
第779号	SP-228	L-7		15	13	58		h	a	
第779号	SP-230	L-7		25	20	26		c	j	
第779号	SP-231	L-6		14	11	10		c	d	
第789号	SP-235	M-7	SP-433<SP-235<SB-03Pt1	(22)	20	11		h	d	
第779号	SP-236	K・L-7	SP-236<SP-220	(21)	19	32		a	d	
第789号	SP-241	M-6		21	19	20		h	d	
第789号	SP-243	M-6		32	19	28		f	e	
第789号	SP-248	M-7	SK-114<SP-248>SP-251	22	18	19		c	d	
第789号	SP-249	M-6	SB-03Pt4とは新旧不明	17	14	18		h	d	
第789号	SP-250	M-6	SP-250>SB-03Pt4	22	19	28		h	d	
第789号	SP-251	M-7	SP-251>SK-114	27	27	15		h	d	
第789号	SP-252	M-6	SP-252<SB-02Pt1	(20)	18	9		h	d	
第719号	SP-253	L-14	SP-253>SP-08	45	36	37		e	j	
第829号	SP-254	J-14		26	23	26		h	d	
第829号	SP-257	J-15	SP-257>SP-273、SK-101 SI-08、SP-271とは新旧不明	24	(15)	25		c	d	
第829号	SP-258	J-14・15	SP-258<SP-259	25	(23)	10		c	h	
第829号	SP-259	J-14・15	SP-259>SP-258	21	18	21		c	h	
第829号	SP-260	J・K-14		23	20	23		h	d	
第829号	SP-263	K-15		36	32	18		h	e	
第829号	SP-265	K-14・15		26	20	25		f	e	
第829号	SP-268	K-15		22	20	48		h	d	
第789号	SP-269	M-7		15	14	17		h	d	
第789号	SP-270	M-7		16	14	48		h	d	

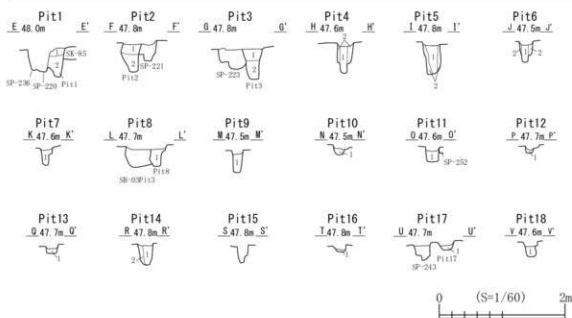
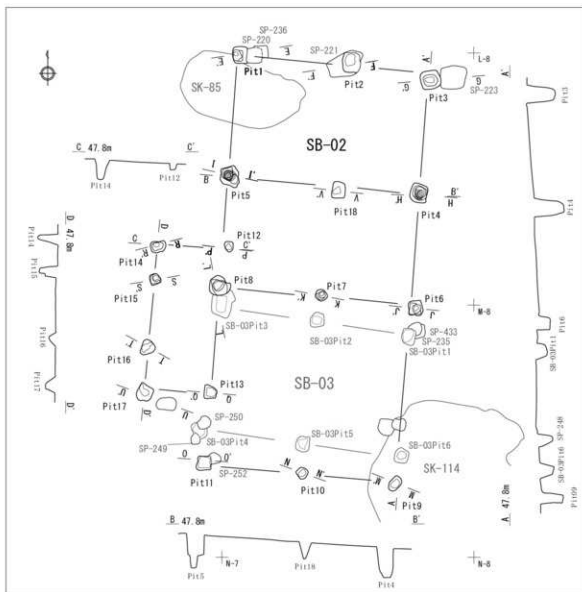
野尻(4)遺跡 発掘調査報告書目

図面番号	遺構番号	位置	新旧関係	規模 (cm)			柱痕	平面形	断面形	出土遺物
				長軸	短軸	深さ				
第62図	SP-271	J-15	SP-271>SI-08, SP-257とは新旧不明	20	(14)	34		c	d	
第62図	SP-273	J-15	SP-273>SK-101, SP-257	37	26	13		f	d	遺患骨片(第89図172)
第77図	SP-274	L-7・B		30	24	20		e	d	
第77図	SP-276	L-7		33	18	19		g	d	
第77図	SP-278	L-6		30	21	19		e	e	
第78図	SP-280	M-6		16	14	26		h	d	
第78図	SP-282	N-7		27	20	19		f	d	
第78図	SP-283	M・N-7		50	35	25		f	d	
第78図	SP-284	N-7		36	30	22		c	d	
第78図	SP-285	M・N-7		31	26	21		h	d	
第73図	SP-289	L-4		19	19	36		c	d	
第66図	SP-298	L-11		27	22	18		h	d	
第66図	SP-299	L-11		25	24	24		h	d	
第66図	SP-300	L-11		25	20	20		a	d	
第66図	SP-303	M-12		32	20	46		f	d	
第66図	SP-310	M-10・11		33	17	37		f	d	
第66図	SP-311	M-11		26	22	21		h	d	
第66図	SP-312	M-12		32	24	32		f	d	
第66図	SP-313	L-12		19	16	18		h	d	
第66図	SP-314	L-13		27	22	14		h	d	
第66図	SP-315	N-4		26	24	44		c	d	
第66図	SP-318	M-13		40	31	25	有	f	e	
第66図	SP-320	M-13		27	17	16		b	d	
第62図	SP-324	L-15		28	25	22		h	d	
第62図	SP-325	L-15		28	26	24		h	d	
第66図	SP-326	M-13		22	18	16		c	d	
第62図	SP-329	K-15		19	16	20		h	d	
第62図	SP-331	K-16		25	19	17		f	d	
第62図	SP-335	K-16		37	27	70		f	j	
第62図	SP-341	M-16		32	28	20		c	d	
第63図	SP-344	O-9		19	15	19		h	d	
第63図	SP-346	O-10		19	17	36		h	d	
第63図	SP-350	O-10		40	28	30		f	e	
第63図	SP-351	P-10		19	17	27		h	a	
第63図	SP-353	P-11		24	21	17		c	e	
第66図	SP-357	O-11		23	21	18		h	d	
第63図	SP-360	N-9		17	16	20		h	d	
第63図	SP-365	N-10・11		19	16	40		h	d	
第66図	SP-369	N-12		26	20	29		f	d	
第66図	SP-373	P-13		19	18	31		c	d	
第66図	SP-374	P-13		24	21	17		h	d	
第66図	SP-375	P-13		18	17	32		h	d	
第66図	SP-380	O-14		27	23	25		c	e	
第66図	SP-382	O-13		19	14	26		c	h	
第66図	SP-383	O-13・14	SP-383>SK-122	25	22	46		h	d	
第67図	SP-384	N-16	SP-384>SI-10外周溝	28	18	11		f	d	
第67図	SP-385	N-16	SI-10外周溝>SP-385>SK-126	34	30	48		h	h	
第67図	SP-386	N-16		34	20	24		f	a	
第68図	SP-389	O-15		15	12	19		h	d	
第68図	SP-397	O-15		23	19	38		f	e	
第68図	SP-400	P-15		39	(15)	23		h	d	
第68図	SP-401	P-15		24	(18)	30		c	h	
第68図	SP-402	P-15		22	19	12		h	d	
第68図	SP-403	P-15		25	23	14		c	d	
第68図	SP-404	P-15		22	18	19		c	d	
第68図	SP-408	N-15		30	27	25		h	e	
第68図	SP-409	N-15		33	29	19		c	d	
第60図	SP-416	M-4		26	20	24		c	a	
第60図	SP-419	N-4		17	15	20		c	d	
第60図	SP-422	O-4	SP-422<SN-01	15	12	16		c	a	
第60図	SP-425	O-4		19	15	26		h	d	
第60図	SP-426	O-5		24	19	30		c	j	
第60図	SP-428	P-5		22	18	21		c	j	
第71図	SP-432	H-15		21	19	29		h	d	
第78図	SP-433	M-7	SP-433<SP-235<SB-03Pt1	(20)	(20)	11		c	d	
第67図	SP-434	N-15		40	25	31		e	a	
第73図	SP-435	J-4	SP-436・437とは新旧不明	47	33	24		e	d	
第73図	SP-436	J-4	SP-435・437とは新旧不明	22	20	16		e	a	
第73図	SP-437	J-4	SP-437>SP-435 SP-436とは新旧不明	25	23	15		f	a	
第73図	SP-438	J-4	SP-438>SP-439, SD-02	(31)	30	20		b	h	
第73図	SP-439	J-4	SP-439<SP-438, SD-02	(69)	(51)	23		x	e	
第73図	SP-440	I-4		22	21	31		c	e	
第73図	SP-441	I-4	SP-441>SP-449	38	32	21		f	e	
第73図	SP-442	I-4・5	SP-442>SP-449	48	35	16		f	d	
第73図	SP-443	I-5		48	40	27		e	d	
第73図	SP-444	I-4・5		48	32	24		f	d	
第73図	SP-445	I-4		22	19	22		e	d	
第73図	SP-446	I-4		38	23	24		f	i	
第73図	SP-447	I-4		29	20	23		e	a	
第73図	SP-448	I-4		33	29	22		e	a	
第73図	SP-449	I-4	SP-449<SP-441・442	21	19	12		x	d	



- SB-01Pit1
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)中量、ロームブロック(φ10~50cm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
 第2層 10YR2/1 黒色土と10YR5.4黄褐色ロームとの混合層 ローム粒(φ1~9cm)多量
- SB-01Pit2
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)少量
 第2層 10YR2/1 黒色土と10YR6.9明黄褐色ロームとの混合層 ローム粒(φ1~9cm)多量
- SB-01Pit3
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)少量、ロームブロック(φ10cm)少量
 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)中量、ロームブロック(φ10cm)少量
- SB-01Pit4
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3cm)微量
 第2層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6.4にぶい黄褐色ロームとの混合層
- SB-01Pit5
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
 第2層 10YR3/2 黄褐色土と10YR2/1黒色土との混合層
- SB-01Pit6
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)少量

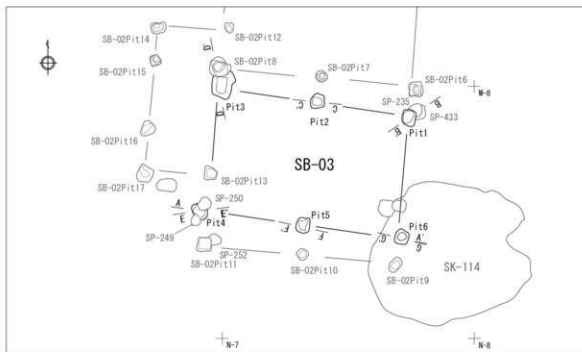
第56図 SB-01



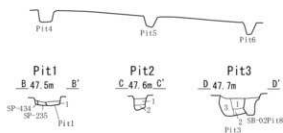
第57図 SB-02 (1)

SB-02P11	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第1層 IOYR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)多量
SB-02P12		
第1層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
第2層 IOYR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)多量
SB-02P13		
第1層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
第2層 IOYR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)多量
SB-02P14		
第1層 IOYR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
第2層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
SB-02P15		
第1層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
第2層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SB-02P16		
第1層 IOYR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SB-02P17		
第1層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SB-02P18		
第1層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SB-02P19		
第1層 IOYR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ5~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SB-02P20		
第1層 IOYR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10~30mm)少量
SB-02P21		
第1層 IOYR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10~20mm)少量
SB-02P22		
第1層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
SB-02P23		
第1層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、炭化粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SB-02P24		
第1層 IOYR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SB-02P25		
第1層 IOYR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SB-02P26		
第1層 IOYR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)微量
SB-02P27		
第1層 IOYR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)少量

第58図 SB-02(2)



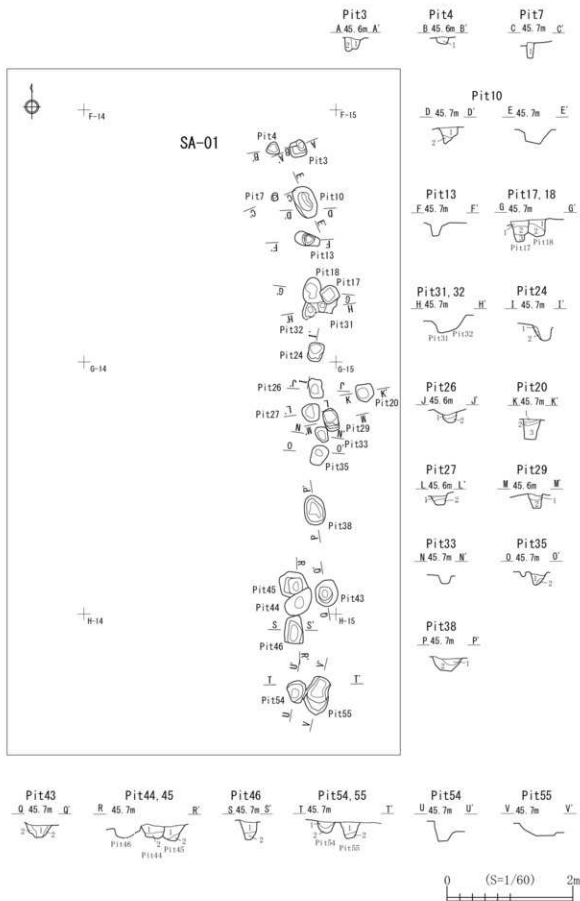
A 47.8m



0 (S=1/60) 2m

SB-03Pit1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)多量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量	
第1層 10YR3/1	SB-03Pit2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、炭化粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
第1層 10YR2/2	第2層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ20mm)微量
SB-03Pit3	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層 10YR2/1	第3層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SB-03Pit4	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10~70mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量
第2層 10YR3/1	SB-03Pit5	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量、酸化鉄ブロック(φ10~30mm)中量
第1層 10YR3/1	第2層 10YR2/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10~30mm)中量
SB-03Pit6	第1層 10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)少量
第2層 10YR2/1	第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第1層 10YR3/1	第2層 10YR2/1	黒褐色土と10YR4/3に多い黄褐色ロームとの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
		黒色土と10YR4/3に多い黄褐色ロームとの混合層	

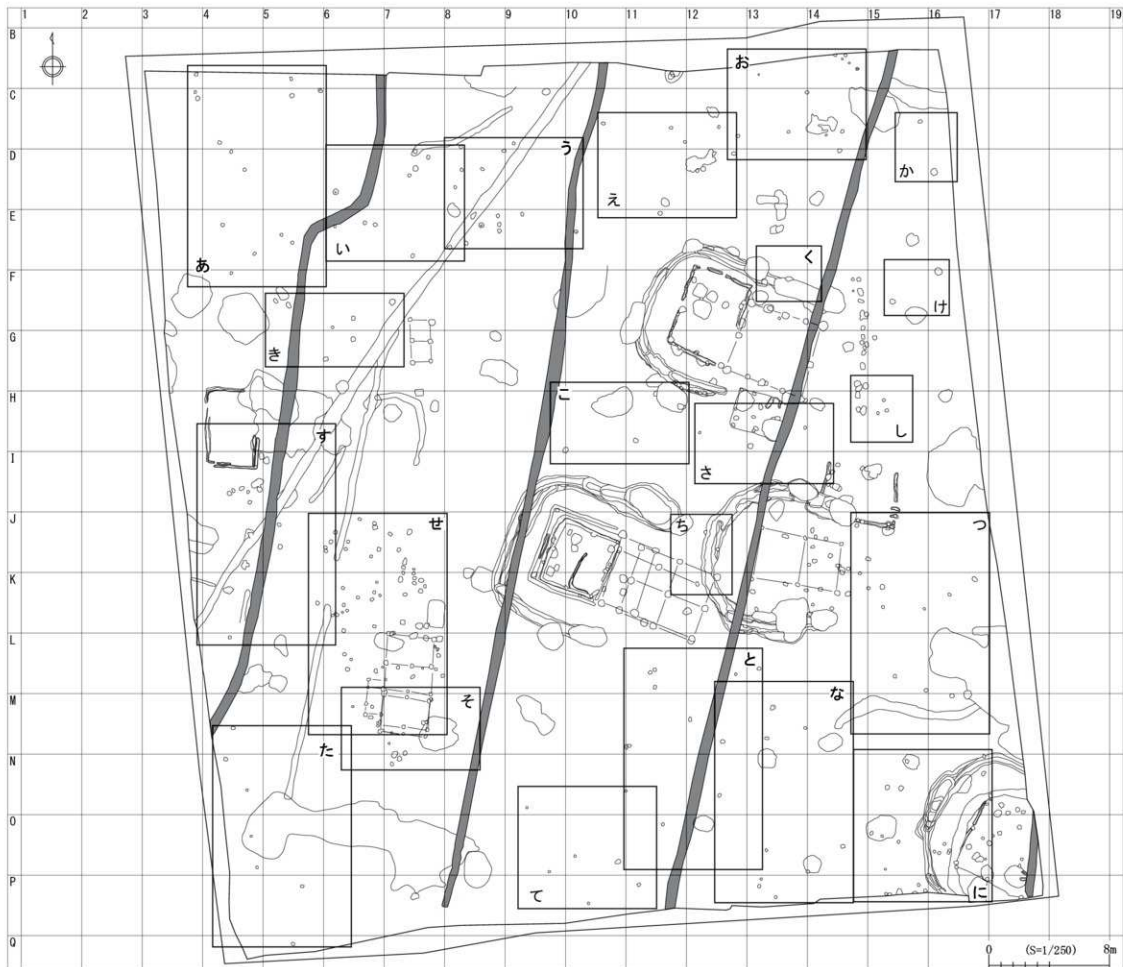
第59図 SB-03



第60図 SA-01 (1)

SA-01P113			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	
第2層 101R3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	
SA-01P114			
第1層 7_51R3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)中量、酸化鉄層状に混入	
SA-01P117			
第1層 101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量	
SA-01P110			
第1層 101R2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10~15mm)少量	
第2層 101R3/1	黒褐色土と101R6/6明黄褐色ロームとの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量	
SA-01P117			
第1層 101R3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量	
第2層 101R2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量	
第3層 101R2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
SA-01P118			
第1層 101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)多量、酸化鉄(φ2~9mm)微量	
第2層 101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~50mm)多量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SA-01P120			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
第2層 101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量	
第3層 101R2/1	黒色土と101R4/4褐色ロームとの混合層	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SA-01P124			
第1層 101R2/1	黒色土と101R6/6明黄褐色ロームとの混合層	ローム粒(φ1~9mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SA-01P126			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	
第2層 101R2/2	褐色土	ローム粒(φ1~5mm)多量、酸化鉄(φ1~3mm)中量	
SA-01P127			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)中量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)少量	
SA-01P129			
第1層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	
SA-01P135			
第1層 101R3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量	
第2層 101R4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)中量	
SA-01P138			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)中量	
第2層 101R3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~20mm)中量、酸化鉄(φ1~3mm)中量	
SA-01P143			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 101R4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	
SA-01P144			
第1層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)中量	
SA-01P145			
第1層 101R2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)少量	
第2層 101R2/1	黒色土と101R3/2黒褐色土との混合層		
SA-01P146			
第1層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)少量	
第2層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)多量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量	
SA-01P154			
第1層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	
第2層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量	
SA-01P155			
第1層 101R1/7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)中量	
第2層 101R1/7/1	黒色土と101R5/4(1)ぶい黄褐色土ロームの混合層		

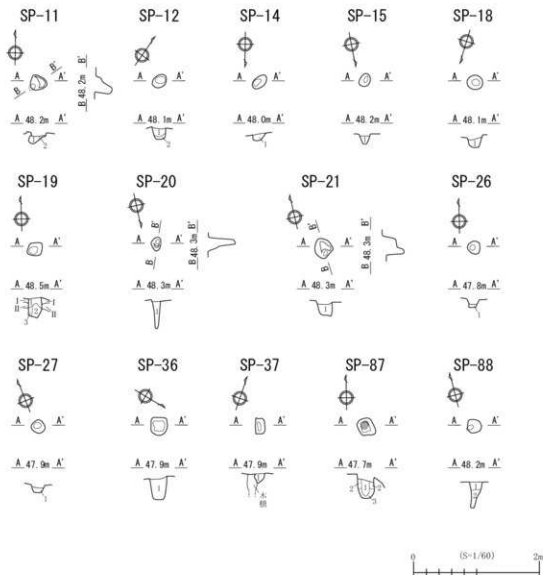
第61図 SA-01(2)



第62図 SP分割図

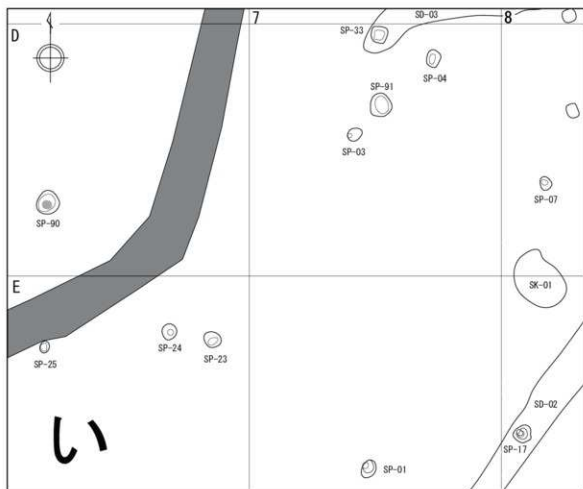


第63図 SPあ(1)



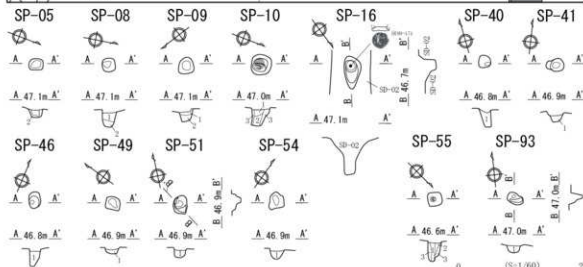
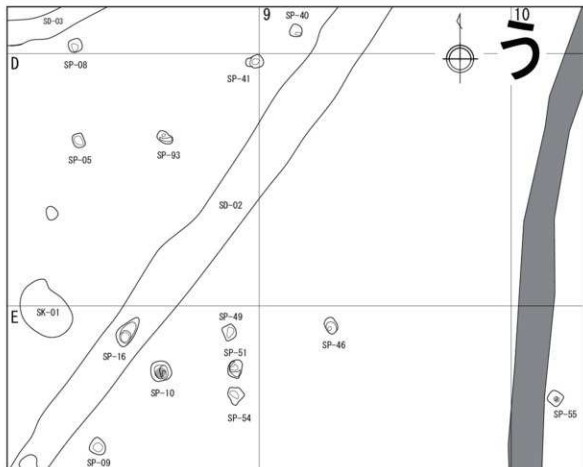
SP-11 第1層 10YR1.7/1 黒色土 第2層 10YR3/4 暗褐色土と10Y8.4/2灰黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~5mm)微量	ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	SP-21 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ30mm)混入、酸化鉄(φ1~10mm)多量
SP-12 第1層 10YR2/2 黒褐色土と10Y8.4/2灰黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~5mm)微量	ローム粒(φ1~8mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	SP-26 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ20~50mm)多量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-14 第1層 10YR3/2 黒褐色土 第2層 10YR2/1 黒色土 第3層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~8mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-27 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)中量、ロームブロック(φ10~40mm)多量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
SP-18 第1層 10YR5.4 に近い黄褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)微量、10YR2.2黒褐色土の混入	SP-36 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ20mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-19 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR3/1 黒褐色土 第3層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量	SP-37 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-20 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ15mm)混入、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-87 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ20~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
		SP-88 第1層 7.5YR2/1 黒色土と7.5YR2/2黒褐色土の混合層 第2層 10YR3/1 黒褐色土 第3層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~8mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)中量、ローム粒(φ1~8mm)中量、酸化鉄(φ1~8mm)中量

第64図 SPあ(2)



<p>SP-01 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 7.5YR3/1 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 中量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、ロームブロック (φ10~20cm) 中量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 10YR4/3にふい黄褐色土ロームの混合物 酸化鉄 (φ1~5cm) 中量、酸化鉄ブロック (φ1~30cm) 中量</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 少量 ローム粒 (φ1~2cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 少量</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 中量、ロームブロック (φ10~30cm) 中量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、ロームブロック (φ10~40cm) 中量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量</p>	<p>SP-03 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 中量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量</p>	<p>SP-04 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 中量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~5cm) 少量</p>	<p>SP-07 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量</p>	<p>SP-17 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量</p>	<p>SP-23 第1層 10YR2/1 黒色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土</p> <p>ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量 ローム粒 (φ1~5cm) 少量、酸化鉄 (φ1~3cm) 微量</p>
---	---	--	--	--	--

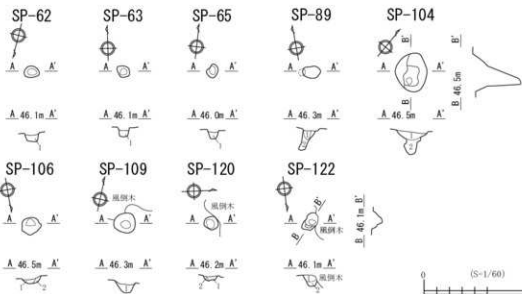
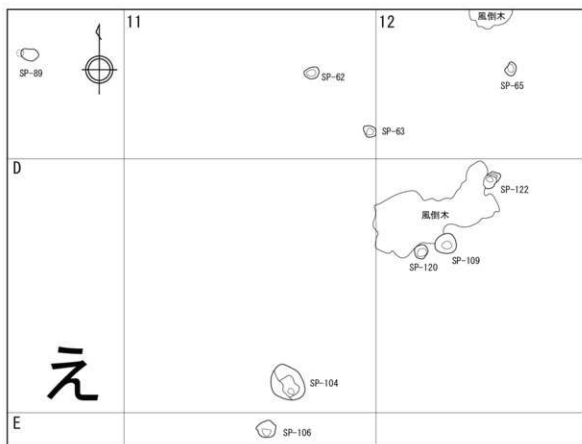
第65図 SPI



- SP-05
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/3に多い黄褐色土の混合物 酸化鉄(φ1~5mm)少量、粘土ブロック(φ20mm)少量
- SP-08
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~8mm)中量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SP-09
第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土と10YR4/2灰黄褐色土の混合物 酸化鉄(φ1~8mm)微量
- SP-10
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ20mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ20~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)少量
第3層 10YR3/2 黒褐色土と10YR5/3に多い黄褐色土-ロームの混合物 酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SP-16
第1層 10YR3/1 黒褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土-ロームの混合物 酸化鉄(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SP-40
第1層 10YR3/1 黒褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土-ロームの混合物 酸化鉄(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~8mm)少量

- SP-41
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ20~50mm)中量、酸化鉄(φ1~10mm)少量
- SP-46
第1層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SP-49
第1層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SP-51
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SP-54
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ20~30mm)中量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SP-55
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~8mm)多量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~8mm)少量、10YR2/2黒褐色土の混入
- SP-93
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~8mm)微量

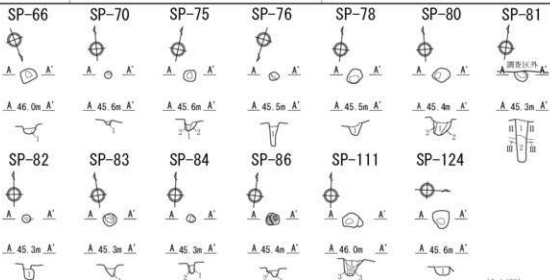
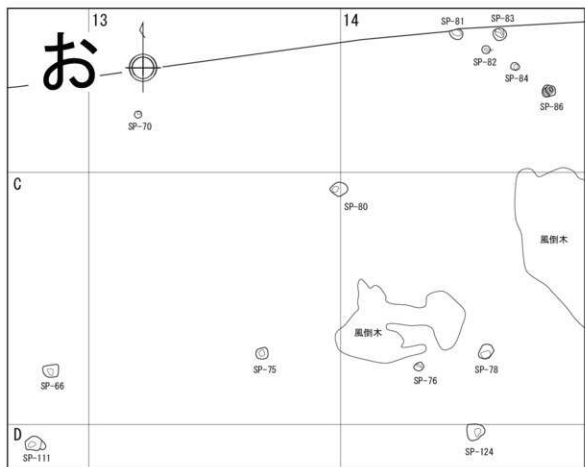
第66図 SP⑤



- SP-62
第1層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ20~30mm)少量, 酸化鉄(φ1~8mm)少量, 酸化鉄ブロック(φ10~30mm)中量
- SP-63
第1層 10YR3/1 黒褐色土
ローム粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ30mm)少量, 酸化鉄(φ1~8mm)中量
- SP-65
第1層 10YR3/1 黒褐色土
ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量, 酸化鉄ブロック(φ40mm)少量
- SP-89
第1層 10YR3/1 黒褐色土
第2層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~8mm)多量, 酸化鉄(φ1~3mm)少量
ローム粒(φ1~8mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄ブロック(φ1~8mm)微量
- SP-104
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~3mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量(φ10~15mm)少量, 酸化鉄(φ1~3mm)少量

- SP-106
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR3/1 黒褐色土
ローム粒(φ1~2mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
10YR5/4に占め黄褐色ロームの混合物
ローム粒(φ1~9mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SP-109
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~2mm)微量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
ローム粒(φ1~2mm)微量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1mm)微量
ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
- SP-122
第1層 10YR1. 7/1 黒色土
第2層 10YR3/3 黒褐色土
ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
ローム粒(φ1~5mm)中量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量

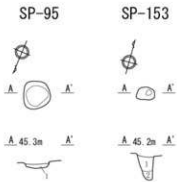
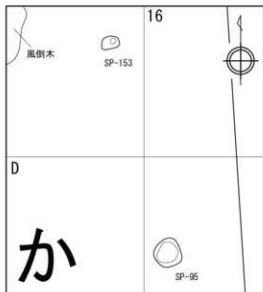
第67図 SPえ



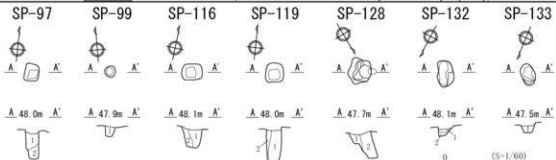
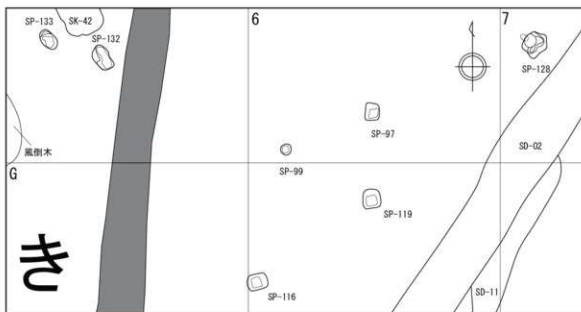
- SP-66 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)中量,酸化鉄(φ1~8mm)少量
 第1層 SP-70 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,酸化鉄(φ1~8mm)少量
 SP-75 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,酸化鉄(φ1~8mm)少量
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,酸化鉄(φ1~8mm)少量
 第2層 10YR4/3 にふい黄褐色土 酸化鉄(φ1~8mm)微量,10YR2/2黒褐色土の混入
 SP-76 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)少量
 SP-78 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,酸化鉄(φ1~5mm)微量
 SP-80 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)微量,粘土ブロック(φ25mm)混入
 第2層 10YR5/3 にふい黄褐色土 酸化鉄(φ1~10mm)少量,10YR3/1黒褐色土の混入
 SP-81 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ20~40mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)少量
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)少量,酸化鉄(φ1~8mm)少量

- SP-82 10YR2/1 黒色土と10YR5/3黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SP-83 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量,酸化鉄ブロック(φ1~3mm)微量
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量,酸化鉄ブロック(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄ブロック(φ1~8mm)微量
 SP-86 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄ブロック(φ1~5mm)微量
 SP-111 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)微量,ロームブロック(φ20mm)微量,酸化鉄ブロック(φ1~5mm)少量
 SP-124 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm)微量,酸化鉄(φ1~5mm)少量
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)中量,酸化鉄(φ1~5mm)少量
 第3層 10YR5/4 にふい黄褐色土と10YR3/1黒褐色土の混合層 酸化鉄(φ1~2mm)少量
 SP-124 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄(φ1~2mm)微量

第68図 SPお

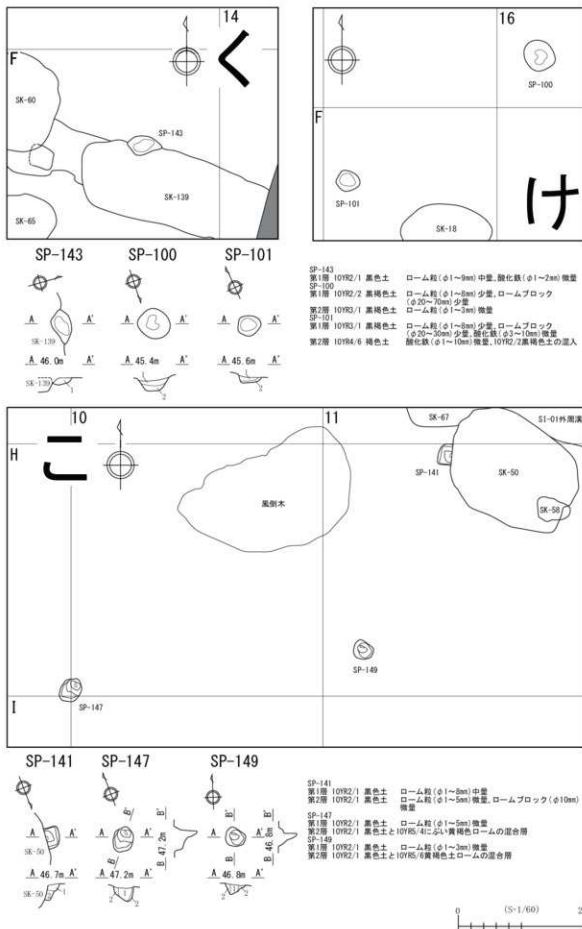


- SP-95
第1層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ20~60mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
- SP-153
第1層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)中量
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土
ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10~15mm)中量、酸化鉄(φ1~5mm)多量

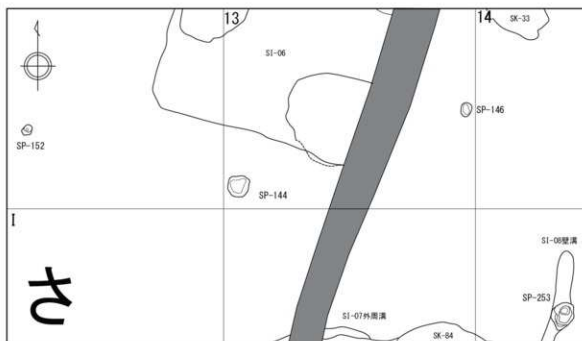


- SP-97
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR3/1 黒褐色土
ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ20~30mm)少量、酸化鉄(φ1~8mm)少量
- SP-99
第1層 10YR3/1 黒褐色土
第2層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~8mm)中量、ロームブロック(φ20~25mm)少量
- SP-116
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR3/1 黒褐色土
ローム粒(φ1~3mm)微量
ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
- SP-119
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
ローム粒(φ1~3mm)少量、ロームブロック(φ10mm)中量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
ローム粒(φ1~5mm)中量
- SP-128
第1層 10YR2/2 黒褐色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-132
第1層 10YR1.7/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ20~30mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量
ローム粒(φ1~8mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
- SP-133
第1層 10YR1.7/1 黒色土
ローム粒(φ1~2mm)微量
ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~30mm)中量
- SP-133
第1層 10YR1.7/1 黒色土
ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)微量

第69図 SPか・き



第70図 SP・け・こ



SP-144



SP-146



SP-152



SP-253



SP-144

第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)少量,ロームブロック(φ10cm)少量,焼土粒(φ1~3cm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土と10YR5/4にふいり黄褐色ロームの混合層 ローム粒(φ1~5cm)微量,酸化鉄(φ1~3cm)微量

SP-146

第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)少量,ロームブロック(φ10cm)少量,酸化鉄(φ1~3cm)微量

SP-152

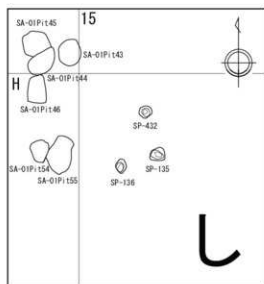
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5cm)少量,酸化鉄(φ1~3cm)微量

SP-253

第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9cm)中量,ロームブロック(φ10~30cm)中量,酸化鉄(φ1~2cm)微量

第2層 10YR2/1 黒色土

ローム粒(φ1~9cm)少量,ロームブロック(φ10~30cm)中量,酸化鉄(φ1~5cm)少量



SP-135



SP-136



SP-432



SP-135

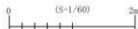
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)微量,酸化鉄(φ1~3cm)微量
第2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~5cm)多量,酸化鉄(φ1~9cm)微量

SP-136

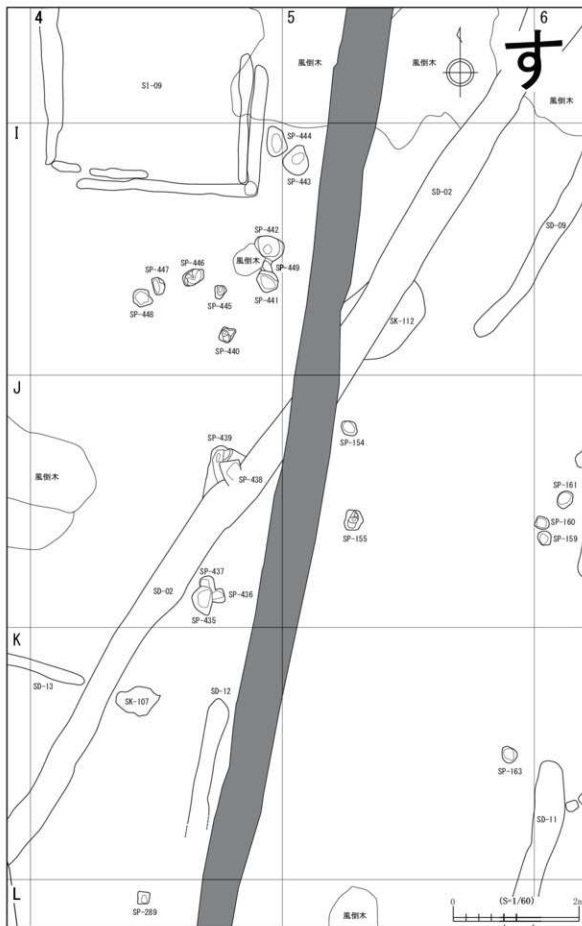
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)微量,酸化鉄(φ1~5cm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5cm)少量,ロームブロック(φ10~30cm)少量

SP-432

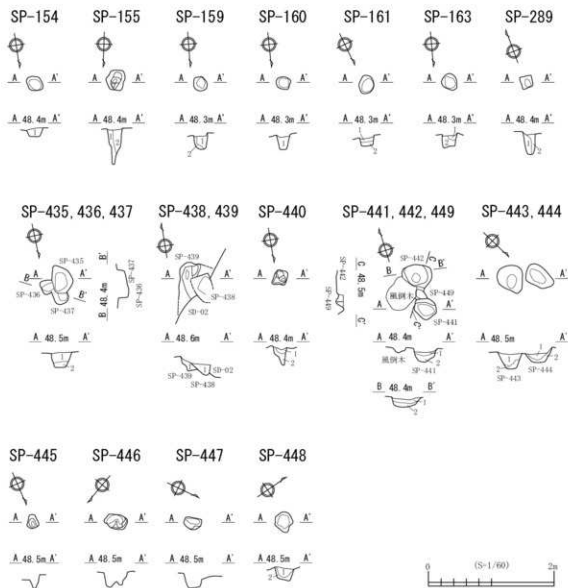
第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~5cm)少量,酸化鉄(φ1~5cm)少量



第71図 SPさ・し



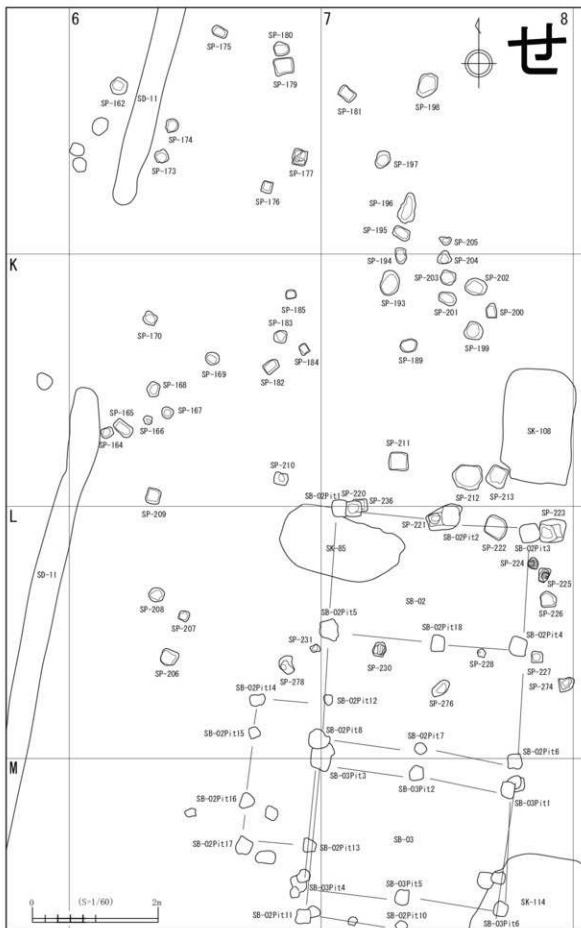
第72図 SP寸(1)



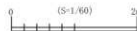
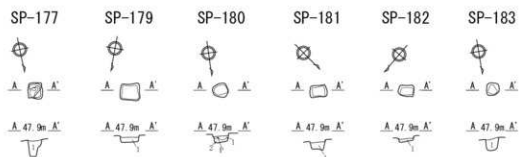
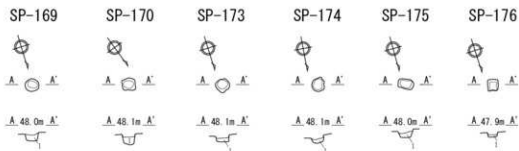
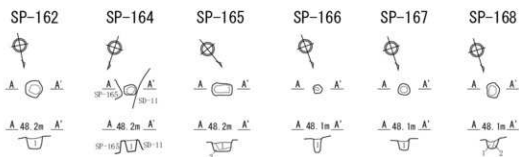
SP-154
第1層 10YR2/1 黒色土
SP-155
第1層 10YR1.7/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-159
第1層 10YR1.7/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-160
第1層 10YR1.7/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-161
第1層 10YR1.7/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-163
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR3/1 黒褐色土
SP-289
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-435
第1層 10YR2/1 黒色土
SP-436
第1層 10YR2/1 黒色土
SP-437
第1層 10YR2/1 黒色土
SP-438
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-439
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-440
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-441
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-442
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-443
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-444
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-445
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-446
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-447
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-448
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土

SP-440
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR2/1 黒色土
SP-441
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-442
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-443
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-444
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-445
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-446
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-447
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
SP-448
第1層 10YR2/1 黒色土
第2層 10YR1.7/1 黒色土
第3層 10YR1.7/1 黒色土
第4層 10YR1.7/1 黒色土
第5層 10YR1.7/1 黒色土
第6層 10YR1.7/1 黒色土
第7層 10YR1.7/1 黒色土
第8層 10YR1.7/1 黒色土
第9層 10YR1.7/1 黒色土
第10層 10YR1.7/1 黒色土
第11層 10YR1.7/1 黒色土
第12層 10YR1.7/1 黒色土
第13層 10YR1.7/1 黒色土
第14層 10YR1.7/1 黒色土
第15層 10YR1.7/1 黒色土
第16層 10YR1.7/1 黒色土
第17層 10YR1.7/1 黒色土
第18層 10YR1.7/1 黒色土
第19層 10YR1.7/1 黒色土
第20層 10YR1.7/1 黒色土
第21層 10YR1.7/1 黒色土
第22層 10YR1.7/1 黒色土
第23層 10YR1.7/1 黒色土
第24層 10YR1.7/1 黒色土
第25層 10YR1.7/1 黒色土
第26層 10YR1.7/1 黒色土
第27層 10YR1.7/1 黒色土
第28層 10YR1.7/1 黒色土
第29層 10YR1.7/1 黒色土
第30層 10YR1.7/1 黒色土
第31層 10YR1.7/1 黒色土
第32層 10YR1.7/1 黒色土
第33層 10YR1.7/1 黒色土
第34層 10YR1.7/1 黒色土
第35層 10YR1.7/1 黒色土
第36層 10YR1.7/1 黒色土
第37層 10YR1.7/1 黒色土
第38層 10YR1.7/1 黒色土
第39層 10YR1.7/1 黒色土
第40層 10YR1.7/1 黒色土
第41層 10YR1.7/1 黒色土
第42層 10YR1.7/1 黒色土
第43層 10YR1.7/1 黒色土
第44層 10YR1.7/1 黒色土
第45層 10YR1.7/1 黒色土
第46層 10YR1.7/1 黒色土
第47層 10YR1.7/1 黒色土
第48層 10YR1.7/1 黒色土
第49層 10YR1.7/1 黒色土
第50層 10YR1.7/1 黒色土
第51層 10YR1.7/1 黒色土
第52層 10YR1.7/1 黒色土
第53層 10YR1.7/1 黒色土
第54層 10YR1.7/1 黒色土
第55層 10YR1.7/1 黒色土
第56層 10YR1.7/1 黒色土
第57層 10YR1.7/1 黒色土
第58層 10YR1.7/1 黒色土
第59層 10YR1.7/1 黒色土
第60層 10YR1.7/1 黒色土
第61層 10YR1.7/1 黒色土
第62層 10YR1.7/1 黒色土
第63層 10YR1.7/1 黒色土
第64層 10YR1.7/1 黒色土
第65層 10YR1.7/1 黒色土
第66層 10YR1.7/1 黒色土
第67層 10YR1.7/1 黒色土
第68層 10YR1.7/1 黒色土
第69層 10YR1.7/1 黒色土
第70層 10YR1.7/1 黒色土
第71層 10YR1.7/1 黒色土
第72層 10YR1.7/1 黒色土
第73層 10YR1.7/1 黒色土
第74層 10YR1.7/1 黒色土
第75層 10YR1.7/1 黒色土
第76層 10YR1.7/1 黒色土
第77層 10YR1.7/1 黒色土
第78層 10YR1.7/1 黒色土
第79層 10YR1.7/1 黒色土
第80層 10YR1.7/1 黒色土
第81層 10YR1.7/1 黒色土
第82層 10YR1.7/1 黒色土
第83層 10YR1.7/1 黒色土
第84層 10YR1.7/1 黒色土
第85層 10YR1.7/1 黒色土
第86層 10YR1.7/1 黒色土
第87層 10YR1.7/1 黒色土
第88層 10YR1.7/1 黒色土
第89層 10YR1.7/1 黒色土
第90層 10YR1.7/1 黒色土
第91層 10YR1.7/1 黒色土
第92層 10YR1.7/1 黒色土
第93層 10YR1.7/1 黒色土
第94層 10YR1.7/1 黒色土
第95層 10YR1.7/1 黒色土
第96層 10YR1.7/1 黒色土
第97層 10YR1.7/1 黒色土
第98層 10YR1.7/1 黒色土
第99層 10YR1.7/1 黒色土
第100層 10YR1.7/1 黒色土

第73図 SPす(2)



第74図 SP世(1)



SP-162
第1層 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~2mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量

SP-164
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)中量

SP-165
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量

SP-166
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)中量

SP-167
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量

SP-168
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)中量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量

SP-169
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)中量

SP-170
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量

SP-173
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量

SP-174
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)中量

SP-175
第1層 10YR1 7/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)少量

SP-176
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量

SP-177
第1層 10YR1 7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量

SP-179
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量

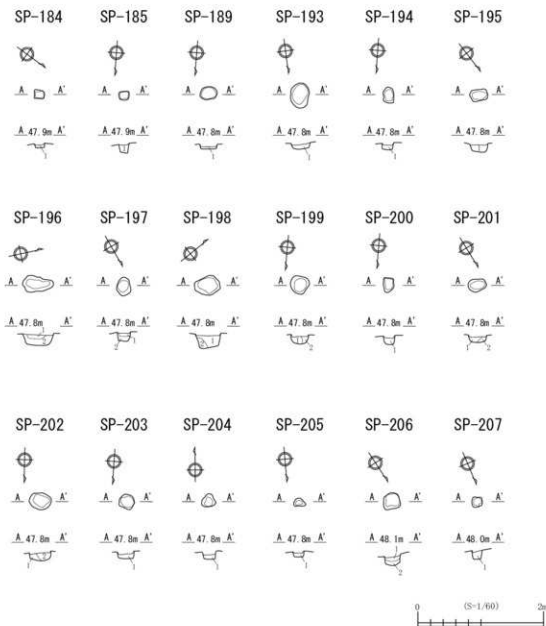
SP-180
第1層 10YR1 7/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量

SP-181
第1層 10YR1 7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量

SP-182
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)少量

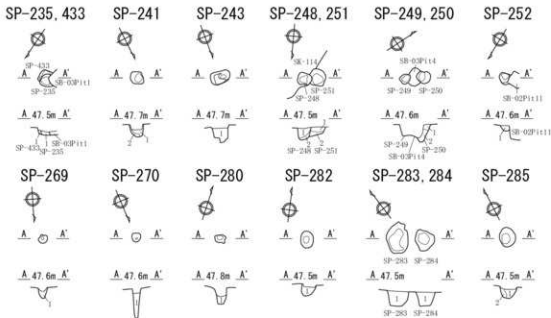
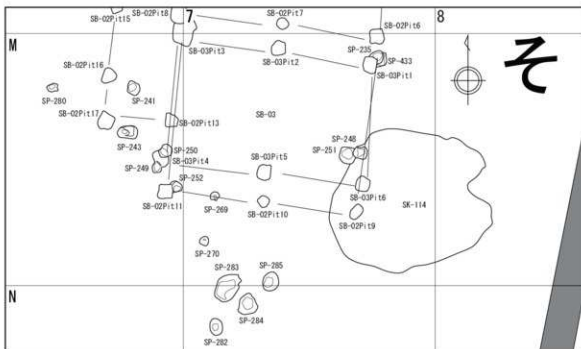
SP-183
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量

第75図 SPせ(2)



SP-184 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-189 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-190 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量
SP-185 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-193 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-200 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-189 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-194 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-201 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-193 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-196 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-202 第1層 10YR3/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量
SP-194 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-197 第1層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-195 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-196 第1層 10YR3/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、焼土粒(φ1~2mm)微量	SP-198 第2層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-199 第2層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
SP-197 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量	SP-200 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-201 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-198 第2層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)少量	SP-202 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-203 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-199 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-204 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-204 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-200 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量	SP-205 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-205 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量
SP-201 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量	SP-206 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-206 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)少量
SP-202 第1層 10YR3/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	SP-207 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-207 第2層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~15mm)少量、酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-203 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量	SP-207 第2層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量	SP-207 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1mm)微量
SP-204 第2層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量				
SP-205 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)中量、酸化鉄ブロック(φ1~5mm)微量				
SP-206 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、酸化鉄(φ1~2mm)微量				
SP-207 第2層 10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量				

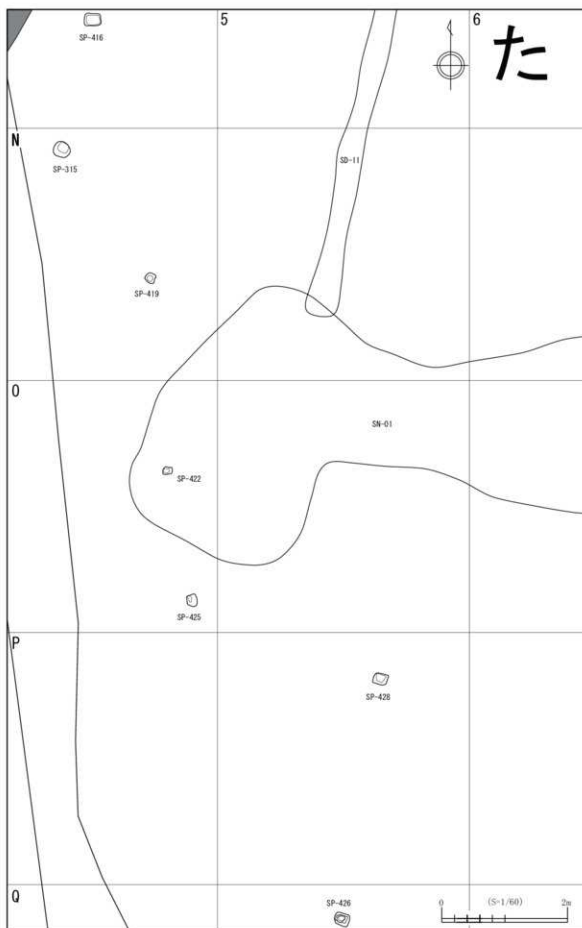
第76図 SPせ(3)



SP-235
第1層 10YR2/3 高褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)中量, 酸化鉄ブロック(φ10mm)少量
SP-241
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)微量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
SP-243
第1層 10YR3/1 高褐色土と10YR5/4に亘る褐色土ロームの混合層
第2層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)微量
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 10YR4/4 褐色土
SP-248
第1層 10YR2/1 黒色土 ロームの混合層 酸化鉄(φ1~5mm)中量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)中量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
SP-251
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
第2層 10YR3/1 高褐色土と10YR4/4褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1mm)微量
SP-252
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量

SP-249
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
SP-250
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄(φ1~5mm)少量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-251
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量
SP-252
第1層 10YR2/2 高褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~2mm)微量

第78図 SPそ



第79図 SPた (1)

SP-315



SP-416



SP-419



SP-422



SP-425



SP-426



SP-428



SP-315
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量

SP-416
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量

SP-419
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量、ロームブロック(φ10mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量

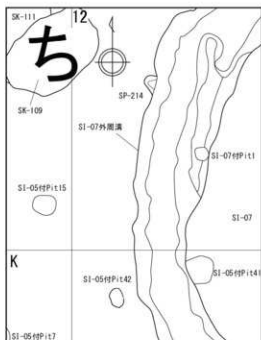
SP-422
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)中量

SP-425
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10~40mm)少量

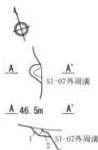
SP-426
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量

SP-428
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~30mm)多量

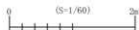
SP-428
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量



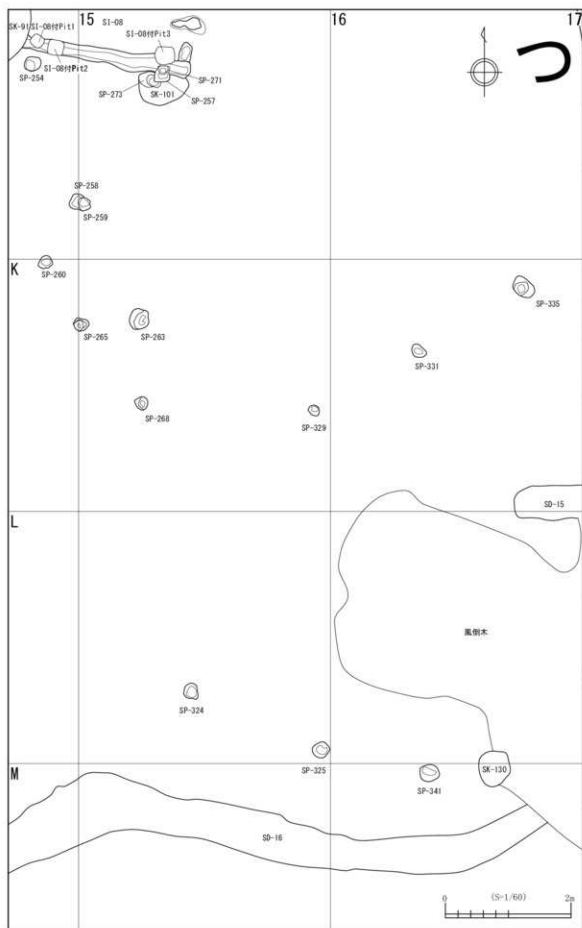
SP-214



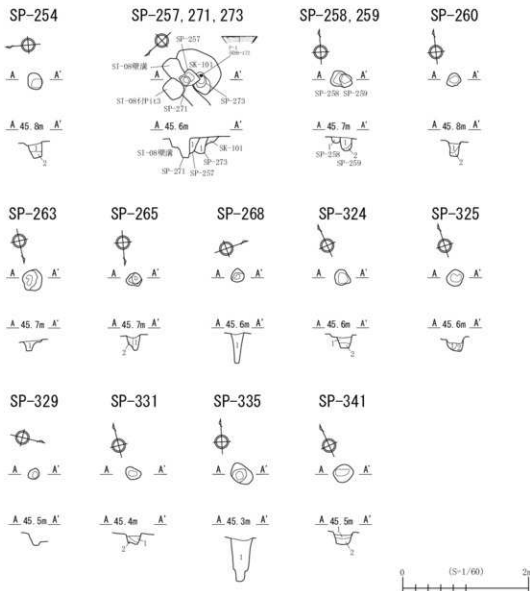
SP-214
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ5mm)微量、焼土粒(φ1~3mm)微量、酸化鉄(φ1~5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR8/4に近い黄褐色土ロームの混合層 酸化鉄(φ1~9mm)少量



第80図 SPた(2)・SPち

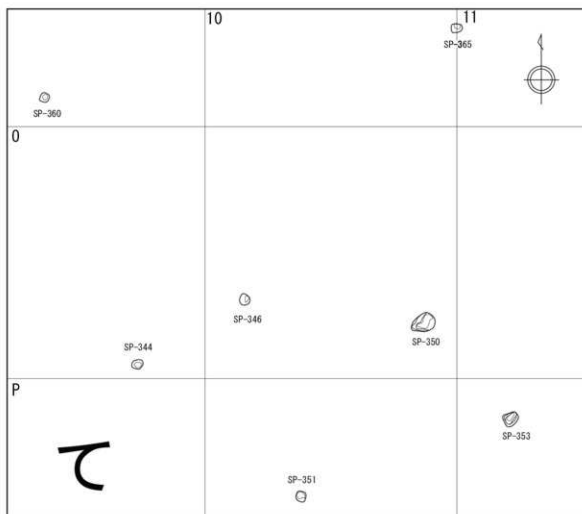


第81図 SPツ (1)

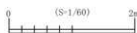
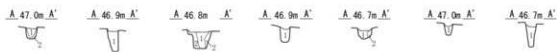


SP-254 第1層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)	SP-265 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
第2層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~40mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)微量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量	第2層 10YR4/3 SP-258 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-257 第1層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄ブロック(φ10mm)微量	SP-273 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量
SP-258 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~40mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)微量、酸化鉄ブロック(φ10mm)少量	SP-324 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-259 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)微量、酸化鉄(φ1~9mm)微量	SP-325 第2層 10YR4/4 SP-325 第1層 10YR1, 2/1 第2層 10YR2/2 SP-331	黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量、ロームブロック(φ10mm)微量 黒褐色土と10YR4/4褐色土ロームの混合層
SP-260 第1層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量、ローム粒(φ1~9mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	第1層 10YR2/2 SP-335 第1層 10YR3/1 SP-341	黒褐色土、ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量 黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合層 酸化鉄(φ1~5mm)微量
SP-263 第2層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10mm)中量、酸化鉄(φ1~9mm)少量	第1層 10YR3/1 SP-341 第1層 10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~50mm)少量、酸化鉄(φ1~3mm)微量
SP-265 第1層 10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)多量、ロームブロック(φ10~20mm)少量、酸化鉄(φ1~5mm)微量	第2層 10YR2/3 SP-341	黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量、ロームブロック(φ10~30mm)少量、ローム粒(φ1~9mm)少量、酸化鉄(φ1~9mm)少量

第82図 SPツ(2)

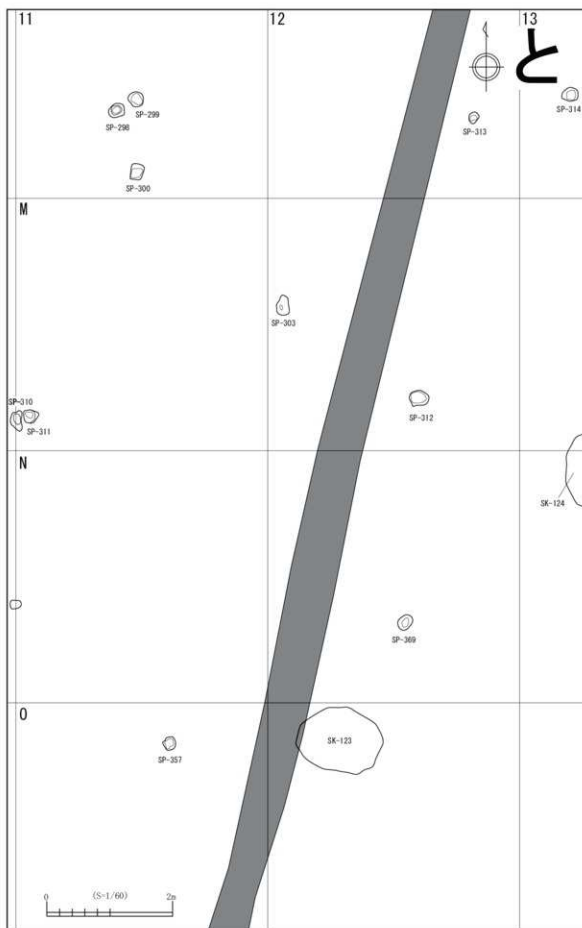


SP-344 SP-346 SP-350 SP-351 SP-353 SP-360 SP-365

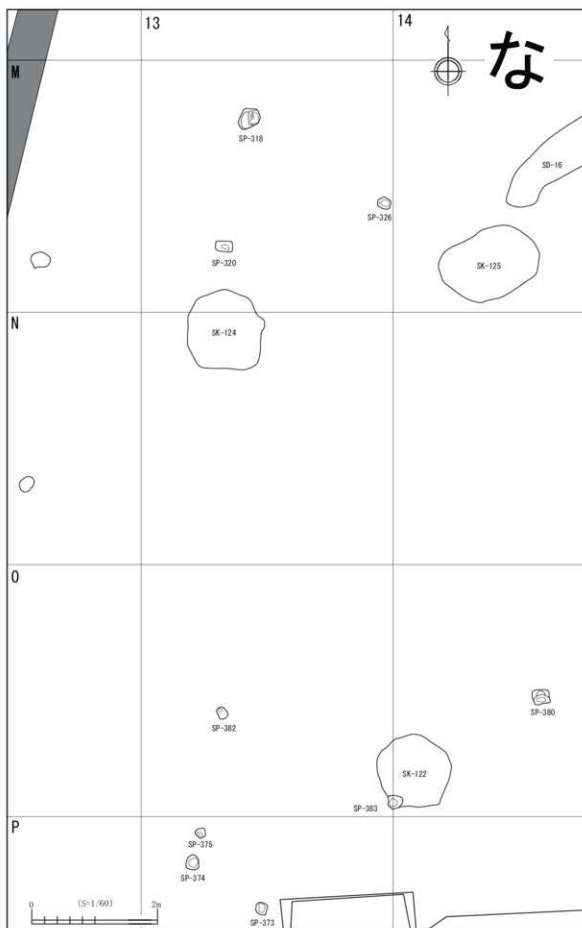


- SP-344
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10mm)微量,酸化鉄(φ1~2mm)微量
 第2層 10YR4/6 褐色土と10YR2/1黒色土の混合層 酸化鉄(φ1~2mm)微量
 SP-346
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~9mm)微量
 SP-350
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,酸化鉄(φ1~5mm)微量
 SP-351
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SP-353
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~20mm)中量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SP-360
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~3mm)微量
 SP-365
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,酸化鉄(φ1~9mm)少量

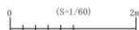
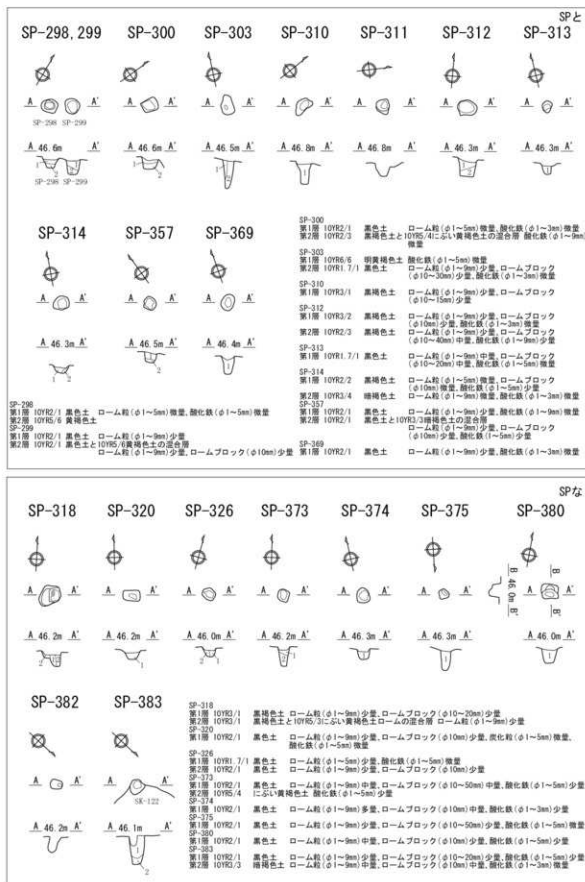
第83図 SPて



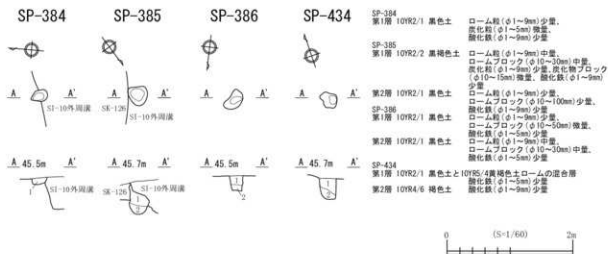
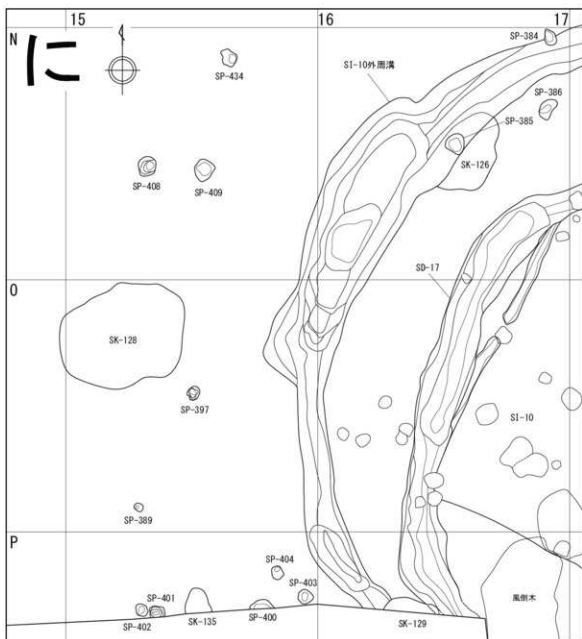
第84図 SPと(1)



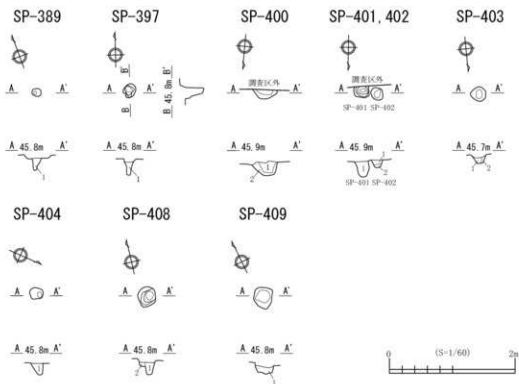
第85図 SPな(1)



第86図 SPと(2)・な(2)

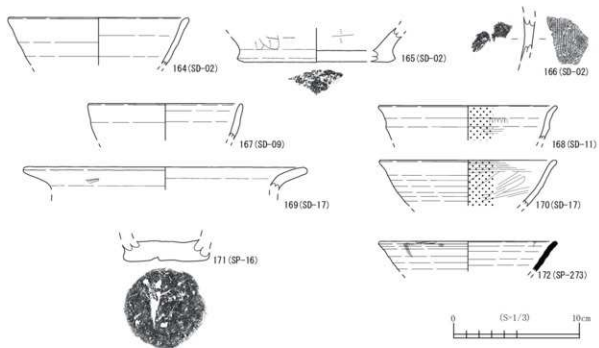


第87図 SPに(1)



- SP-389
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
- SP-397
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
- SP-400
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量, 酸化鉄(φ1~9mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~3mm)微量
- SP-401
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量, ロームブロック(φ10~50mm)少量
- SP-402
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量, ロームブロック(φ10~20mm)少量
- SP-403
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ20mm)微量
- SP-404
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 酸化鉄(φ1~9mm)微量
- SP-408
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量, ロームブロック(φ10~40mm)多量
- SP-409
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~40mm)多量, 酸化鉄(φ1~9mm)少量

第88図 SPに(2)



第89図 SD・SP内出土土器

第8節 遺構外出土遺物

(1) 土器

土師器杯13点、甕16点、小甕6点、ミニチュア土器1点、製塩土器1点、須恵器杯4点、壺2点、甕10点を図示した(第90～93図173～225)。土師器杯は173、176～178が口縁～体部、174、175、179～185が体～底部である。口縁部形状については、173、176がやや内湾気味、177が直線的、178が丸みを帯び、口縁端部が外反する。体～底部については174、179、182、183が底部から丸みを帯びて立ち上がり、175、180、181、184、185が底部から直線的に立ち上がる。調整はロクロナデで、173～175が内面黒色処理、183が外面ヘラナデが認められる。179は内外面灯明痕と考えられる。甕は186、190、191、192がロクロ調整、その他は非ロクロである。ロクロ調整の口縁部については、外反し、口唇部が平坦に整形されるものが主体であるが、186のように内屈気味のものも認められる。非ロクロの口縁部については、外反するもの(189、196、197)、口縁部が短く、外反の度合いが弱いもの(188、195、199、200)、ほぼ直線的なもの(191、201)、頸部を有するもの(198)が認められる。203は甕の体部で外面ヘラナデ、内面ハケ目調整が施されている。205は甕の体～底部であり、底部からやや丸みを帯びるように立ち上がる形状を呈する。187、194、202、204、206、207は小甕で、187、204はロクロ調整、その他は非ロクロである。187は口縁部が外反し、口唇部が平坦に調整されている。194は体部がやや膨らみ、口縁部が外反する形状である。202はつまみ出された程度の短い口縁部を有する。204、206、207は体～底部である。204、207は直線的に立ち上がり、206は台状の底部を有する。208はミニチュア土器の体～底部である。ナデによって調整されている。209は製塩土器体部である。210～213は須恵器杯の体～底部である。212は形状不明であるが、210、211、213は丸みを帯びるように立ち上がる。214、215は須恵器壺体～底部である。底部には菊花状ケズリが施され、外縁部には貼り付け高台が認められる。216～225は須恵器甕である。223、225は一部交叉タタキ目が認められるが、ほかは平行タタキ目である。218、219、222、223は内面当具痕が認められる。

(2) 石器

剥片石器1点、礫石器2点を図示した(第93図石7～9)。石7は石匙、石8は磨石、石9は砥石である。

(3) 鉄関連遺物

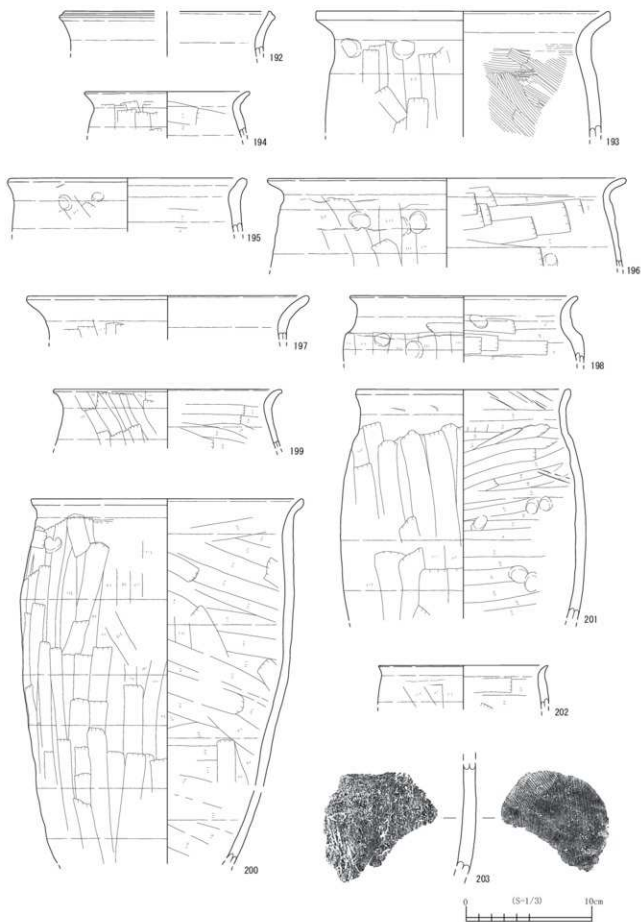
4点図示した(第93図鉄8～11)。鉄8は梃形鍛冶滓、鉄9は蹄鉄、鉄10、11は鍋である。

(4) 古銭

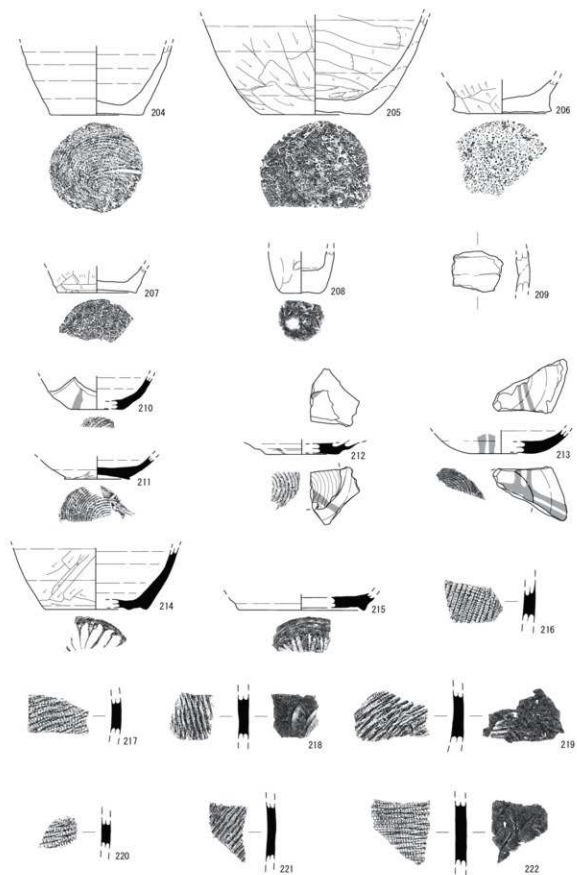
昭和21年銘の50銭が出土した(第93図銭1)。



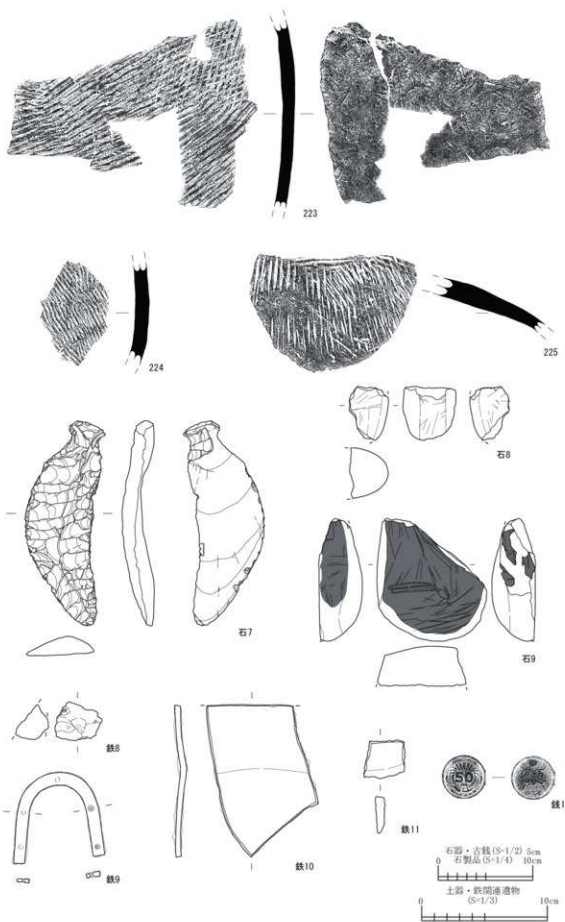
第90図 遺構外出土土器（1）



第91図 遺構外出土土器(2)



第92図 遺構外出土土器（3）



第93図 遺構外出土遺物

第3表 出土土器観察表

図録番号	No.	通称名	位置・部位	種類	器種	部位	計測値(mm)		色澤		文様・模様		土質物		備考		
							口径	器高	外径	内径	外面	内面	砂	赤		黒	灰
第290号	1	S-01	第六層P-2	土師器	壺	口縁～底部	25.2	8.0	7.5R 6/6	7.5R 7/4	口ロナテ	口ロナテ	少	少	内面黒褐色		
第290号	2	S-01	第六層P-8	土師器	壺	口縁部	10.5	1.1	7.5R 3/1	7.5R 2/2	口ロナテ	口ロナテ	少	少	内面黒褐色		
第290号	3	S-01	外庫裏1層P-10	土師器	壺	体部	-	4.3	N 3/0	N 4/0	口ロナテ	口ロナテ	中	少	外内黒褐色、灰褐色、灰赤く付		
第290号	4	S-01	外庫裏1層P-7	土師器	壺	口縁～体部	26.0	10.6	7.5R 7/6	7.5R 5/4	ナテ	ヘナテ	中	多	外内黒褐色、外面黒褐色		
第290号	5	S-01	外庫裏1層P-13	土師器	壺	口縁～体部	16.4	3.5	5YR 5/4	7.5R 4/2	ナテ	ヘナテ	少	中	内面黒褐色、黒褐色付		
第290号	6	S-01	外庫裏1層P-14	土師器	壺	口縁～体部	23.0	4.8	10YR 5/2	10YR 7/4	ナテ	ヘナテ	少	中	外内黒褐色、外面黒褐色		
第290号	7	S-01	外庫裏1層P-X	土師器	壺	体部	-	7.6	5P8 5/1	5P8 4/1	口ロナテ	口ロナテ	少	少	外内黒褐色、破綻至厚減		
第290号	8	S-05	第六層P-11	土師器	杯	口縁～体部	14.0	4.2	5YR 6/6	5YR 6/6	口ロナテ	口ロナテ	少	中	多		
第290号	9	S-05	外庫裏1層P-15	土師器	壺	口縁～体部	25.4	6.4	5YR 7/6	5YR 6/6	口ロナテ	口ロナテ	中	中	多	外内黒褐色、内面口縁部黒褐色	
第290号	10	S-05	外庫裏1層P-X	土師器	小壺	口縁～体部	12.0	5.7	5YR 5/4	7.5R 7/6	ナテ	ナテ	中	少	中	外内黒褐色、内面口縁部黒褐色	
第290号	11	S-05	第六層P-12	土師器	杯	口縁～体部	15.0	5.7	5YR 7/6	5YR 6/6	口ロナテ	口ロナテ	少	少	中	右面黒褐色	
第290号	12	S-05a+b	第六層P-12	土師器	杯	口縁～体部	15.0	5.7	5YR 7/6	5YR 6/6	口ロナテ	口ロナテ	少	少	中	右面黒褐色	
第290号	13	S-05a+b	第六層P-25	土師器	壺	口縁～体部	(22.6)	(11.6)	5YR 6/6	5YR 6/6	口ロナテ	口ロナテ	中	中	中	外内黒褐色、灰褐色、外	
第290号	14	S-05a+b	第六層P-44	土師器	壺	口縁～体部	13.4	6.0	6.2	10YR 8/3	10YR 8/4	口ロナテ	口ロナテ	少	中	中	黒褐色
第290号	15	S-05a+b	第六層P-115、176	土師器	杯	口縁～体部	32.0	3.9	7.5R 7/4	7.5R 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	中	黒褐色
第290号	16	S-05a+b	第六層P-27	土師器	杯	口縁～体部	12.0	3.9	7.5R 7/4	7.5R 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	中	黒褐色
第290号	17	S-05a+b	第六層P-31	土師器	壺	口縁～体部	(16.0)	(5.4)	10YR 7/4	10YR 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	中	黒褐色
第290号	18	S-05a+b	第六層P-40	土師器	壺	口縁～体部	11.0	1.8	N 4/0	2.5YR 5/1	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	中	黒褐色
第290号	19	S-05a+b	第六層P-18	土師器	杯	口縁～体部	13.0	6.1	6.0	5YR 7/6	7.5R 7/4	口ロナテ	口ロナテ	中	少	少	外黒褐色、打削痕付、
第300号	19	S-05a+b	外庫裏1層P-9	土師器	壺	口縁部	27.6	2.6	10YR 4/2	10YR 3/2	ナテ	ナテ	少	少	少	内面黒褐色	
第300号	20	S-05b	外庫裏1層P-X	土師器	壺	口縁～体部	13.0	3.3	10YR 6/2	10YR 6/2	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	21	S-05b	外庫裏1層P-X	土師器	壺	口縁部	(24.4)	(2.1)	5YR 6/6	5YR 5/6	ナテ	ナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	22	S-05b	外庫裏1層P-X	土師器	壺	口縁部	(19.6)	(2.6)	10YR 7/4	10YR 6/4	ナテ	ナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	23	S-05c	外庫裏1層P-38	土師器	杯	口縁～体部	(14.8)	(3.3)	10YR 6/3	10YR 6/3	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	24	S-05c	第六層P-32、37	土師器	小壺	口縁～体部	(14.0)	(7.0)	7.5R 7/4	5YR 6/6	ナテ	ナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	25	S-05c	第六層P-46	土師器	杯	口縁～体部	22.0	4.3	7.5R 5/4	7.5R 1/1	口ロナテ	口ロナテ	-	少	多	少	内面黒褐色、灰褐色、外面黒褐色
第300号	26	S-05c	第六層P-6	土師器	壺	口縁部	(22.6)	(2.6)	10YR 7/3	10YR 7/3	口ロナテ	口ロナテ	-	中	中	中	内面黒褐色
第300号	27	S-05c	第六層P-14	土師器	小壺	口縁～体部	(9.8)	(1.7)	10YR 7/3	10YR 6/3	口ロナテ	口ロナテ	-	中	中	中	内面黒褐色
第300号	28	S-06	外庫裏1層P-7	土師器	壺	口縁～体部	(12.6)	(2.4)	10YR 7/4	10YR 7/4	ナテ	ナテ	-	中	中	中	内面黒褐色
第300号	29	S-06	第六層P-26	土師器	壺	口縁～体部	(14.0)	(4.7)	10YR 7/4	10YR 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	中	中	中	内面黒褐色
第300号	30	S-06	第六層P-20	土師器	杯	口縁～体部	5.9	4.9	10YR 6/3	10YR 6/3	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	31	S-06	第六層P-1	土師器	壺	口縁～体部	14.0	4.4	7.5R 7/4	7.5R 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	32	S-06	第六層P-X	土師器	小壺	口縁部	(15.0)	(2.7)	10YR 7/4	10YR 7/4	口ロナテ	口ロナテ	-	少	少	少	内面黒褐色
第300号	33	S-06	第六層P-3	土師器	壺	口縁～体部	21.8	14.4	7.5R 7/4	7.5R 7/4	ナテ	ナテ	-	多	少	中	内面黒褐色
第300号	34	S-06	第六層P-3	土師器	壺	口縁～体部	(23.0)	(4.4)	7.5R 7/3	7.5R 7/4	ナテ	ナテ	-	中	少	中	内面黒褐色
第300号	35	S-02	第六層P-21	土師器	壺	口縁～体部	(24.8)	(8.8)	10YR 3/1	10YR 8/2	ナテ	ナテ	-	少	少	中	内面黒褐色
第300号	36	S-06	第六層P-34	土師器	壺	口縁～体部	(23.0)	(5.4)	10YR 8/4	10YR 8/4	ナテ	ナテ	-	少	少	中	内面黒褐色

図号 番号	No.	遺構名	位置・構造	説明	部材	計測値(m)			位置		方位	文書・図説	発掘日時		発掘者	備考	
						口幅	幅	高さ	西端	東端			西面	東面			西面
第300段	37	S4-06 瓦葺P-11	瓦葺P-11	土葺露	庇部	-	(1.3)	(9.2)	7.5YR 7/6	5YR 7/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少		
		S4-06 瓦葺P-23	瓦葺P-23	土葺露	庇部	-	(1.3)	(9.2)	7.5YR 7/6	5YR 7/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少		
		S4-06 瓦葺P-28	瓦葺P-28	土葺露	庇部	-	(1.3)	(9.2)	7.5YR 7/6	5YR 7/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少		
第300段	38	S4-06 カマド6層P-1、3	カマド6層P-1、3	土葺露	口縁～体部	(3.0)	(8.5)	-	10YR 7/4	7.5YR 6/3	瓦	ヘラナナナナナ	ヘラナナナナナ	中	少	外周面は土葺有、内周面は 瓦、内外面積換算有	
第310段	39	S4-06 1層P-31	1層P-31	土葺露	口縁部	(3.0)	(3.5)	-	10YR 7/3	7.5YR 6/4	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	40	S4-06 1層P-X、東端P-1	1層P-X、東端P-1	土葺露	庇部	-	-	-	10YR 8/3	7.5YR 7/4	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	41	S4-07 破砕土P-2	破砕土P-2	土葺露	口縁～体部	(1.32)	(3.6)	-	10YR 4/2	7.5YR 4/3	瓦	ナナ	ナナ	少	多	内外面積換算有	
第310段	42	S4-07 破砕土P-X	破砕土P-X	土葺露	口縁～体部	(1.4)	(3.2)	-	10YR 6/2	10YR 6/2	瓦	口コナナ	口コナナ	中	多	内外面積換算有	
第310段	43	S4-07 中P1(破砕土)P-1	中P1(破砕土)P-1	土葺露	口縁～体部	(1.32)	(4.1)	-	5YR 5/6	5YR 5/6	瓦	口コナナ	口コナナ	中	多	内外面積換算有	
第310段	44	S4-07 外周溝掘削土P-3B	外周溝掘削土P-3B	土葺露	口縁部	(1.32)	(4.1)	-	5YR 5/6	5YR 5/6	瓦	口コナナ	口コナナ	中	多	内外面積換算有	
第310段	45	S4-07 中P1(破砕土)P-2	中P1(破砕土)P-2	土葺露	口縁部	(2.5)	(5.8)	5.8	7.5YR 7/4	7.5YR 7/3	瓦	口コナナ	口コナナ	中	中	内外面積換算有、土の多い所に 心切	
第310段	46	S4-07 外周溝掘削土P-8、破砕土 P-7-8、14、15、16、X	外周溝掘削土P-8、破砕土 P-7-8、14、15、16、X	土葺露	口縁部	(2.2)	(5.3)	5.6	10YR 7/4	10YR 7/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有、灯明溝有	
第310段	47	S4-07 外周溝掘削土P-6	外周溝掘削土P-6	土葺露	口縁部	(1.7)	(2.7)	-	10YR 7/2	10YR 6/2	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有、外周溝掘 削、割罫	
第310段	48	S4-07 外周溝掘削土P-40	外周溝掘削土P-40	土葺露	口縁部	(1.0)	(3.8)	-	7.5YR 6/4	10YR 6/4	瓦	ヘラナナ	ナナ	少	中	内外面積換算有	
第310段	49	S4-07 外周溝掘削土P-18	外周溝掘削土P-18	土葺露	口縁部	(1.4)	(2.0)	-	2.5YR 6/1	2.5YR 6/1	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	50	S4-07 外周溝掘削土P-9	外周溝掘削土P-9	土葺露	口縁部	-	(2.4)	(5.4)	5Y 5/1	5Y 5/1	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	51	S4-07 外周溝掘削土P-52	外周溝掘削土P-52	土葺露	口縁部	-	(2.4)	(5.4)	5Y 5/1	5Y 5/1	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	52	S4-08 瓦葺P-X	瓦葺P-X	土葺露	体部	-	-	-	7.5Y 3/1	N 4/0	瓦	ヘラナナ	ヘラナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	53	S4-08 カマド2層P-9	カマド2層P-9	土葺露	口縁部	2.0	3.8	-	10YR 6/3	10YR 6/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	54	S4-08 カマド1層P-X	カマド1層P-X	土葺露	口縁部	2.0	3.8	-	10YR 7/3	7.5YR 6/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	55	S4-09 カマド1層P-8、11、12	カマド1層P-8、11、12	土葺露	体部～庇部	-	6.7	6.0	5Y 4/1	5Y 5/1	瓦	口コナナ	口コナナ	少	多	内外面積換算有	
第310段	56	S4-09 カマド2層P-7、10、25	カマド2層P-7、10、25	土葺露	口縁部	2.1	15.9	-	5YR 6/8	2.5YR 7/1	瓦	ナナ	ナナ	多	少	中	内外面積換算有、外周溝掘削、 内外面積換算
第310段	57	S4-10 壁下部埋方P-18	壁下部埋方P-18	土葺露	口縁部	(16.0)	(2.9)	-	7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第310段	58	S4-10 壁下部埋方P-21	壁下部埋方P-21	土葺露	口縁部	(14.4)	(4.7)	-	7.5YR 7/6	5YR 6/6	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	59	S4-10 外周溝掘削土P-18	外周溝掘削土P-18	土葺露	口縁部	(1.3)	(3.5)	-	10YR 6/6	10YR 6/6	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	60	S4-10 遺構外 O-17 1層P-4	遺構外 O-17 1層P-4	土葺露	口縁部	(3.0)	4.6	-	7.5YR 8/6	7.5YR 7/6	瓦	口コナナ	口コナナ	少	多	内外面積換算有	
第320段	61	S4-10 壁下部埋方P-X	壁下部埋方P-X	土葺露	口縁部	-	1.2	4.2	10YR 7/4	10YR 6/4	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	62	S4-10 壁下部埋方P-11、X	壁下部埋方P-11、X	土葺露	口縁部	2.0	8.0	-	7.5Y 6/4	7.5YR 6/2	瓦	ナナ+ヘラナナ	ナナ+ヘラナナ	中	少	内外面積換算有、直線状溝有	
第320段	63	S4-10 壁下部埋方P-25	壁下部埋方P-25	土葺露	口縁部	1.36	4.5	-	5YR 6/3	5YR 6/6	瓦	ナナ	ナナ	中	多	内外面積換算有	
第320段	64	S4-10 壁下部埋方P-9	壁下部埋方P-9	土葺露	口縁部	1.44	3.7	-	10YR 5/3	7.5YR 7/4	瓦	ナナ	ナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	65	S4-10 カマド4層P-4	カマド4層P-4	土葺露	体部～庇部	-	5.5	9.0	10YR 6/3	7.5YR 6/4	瓦	ナナ+ヘラナナナ	ナナ+ヘラナナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	66	S4-10 壁下部埋方P-24	壁下部埋方P-24	土葺露	口縁部	-	(3.0)	(9.0)	10YR 6/6	10YR 6/6	瓦	ナナ+ヘラナナ	ナナ+ヘラナナ	中	少	内外面積換算有	
第320段	67	S4-10 遺構外 O-15 1層	遺構外 O-15 1層	土葺露	口縁部	(13.6)	(2.8)	-	5YR 6/6	5YR 6/6	瓦	口コナナ	口コナナ	少	中	内外面積換算有	
第320段	68	S4-10 壁下部埋方P-13、破方 P-27	壁下部埋方P-13、破方 P-27	土葺露	口縁部	1.40	5.1	5.5	5YR 6/6	5YR 7/6	瓦	口コナナ	口コナナ	中	多	多	
第320段	69	S4-10 中P1(破砕土)P-1	中P1(破砕土)P-1	土葺露	口縁部	1.00	1.7	-	6.8R 4/1	6.8R 4/1	瓦	口コナナ	口コナナ	中	少	内外面積換算有、外周溝 掘削土有	
第320段	70	S4-10 壁下部埋方P-X	壁下部埋方P-X	土葺露	口縁部	1.10	1.3	-	10YR 4/1	2.5YR 4/1	瓦	口コナナ	口コナナ	少	少	多	

図号 番号	No.	通称名	位置、部位	種類	面積	単位	計算値(mm)		色数		形状	文様・模様		塗入量		備考	
							口縁	幅高	外周	内径		外面	内面	1層	2層		1層
第32図	71	SK-10	外周溝3線幅4-	土師器	環	口縁部	12.6	(2.4)	10YR 5/4	10YR 4/6	丸	ナリ+通員線	少	少	中	内面底面着色	
第42図	72	SK-49	底面P-1	土師器	杯	口縁部	10YR 8/4		10YR 8/4	10YR 8/4	皿	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	73	SK-49	2線P-X	土師器	杯	底面	(2.4)	(5.1)	10YR 7/4	10YR 7/4	皿	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	74	SK-50	2線P-X	土師器	杯	口縁~底面	(13.0)	(4.5)	7.5YR 7/4	7.5YR 6/4	皿	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	75	SK-60	1線P-28	土師器	杯	口縁~底面	14.0	5.5	2.5YR 6/6	7.5YR 5/2	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	76	SK-60	1線P-6-137、2線P-157	土師器	杯	口縁~底面	13.0	4.8	10YR 8/4	10YR 8/3	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	77	SK-60	1線P-72	土師器	杯	口縁~底面	13.0	5.1	10YR 8/3	10YR 7/4	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	78	SK-60	1線P-106	土師器	杯	口縁~底面	13.0	5.5	4.8	5YR 6/6	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	79	SK-60	1線P-152	土師器	杯	口縁~底面	12.0	3.9	10YR 8/2	10YR 6/2	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	80	SK-60	5線P-143、底面P-139、 145、169	土師器	杯	口縁~底面	13.0	5.7	6.0	5YR 6/6	N 2/0	丸	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色、一部底面着色
第42図	81	SK-60	1線P-25-49-50-56* 73-109-114-117、 122ト線P-X	土師器	盤	口縁~底面	21.4	31.4	9.7	7.5YR 6/6	7.5YR 4/2	丸	ナリ+ハケメ	多	多	中	内面底面着色
第42図	82	SK-60	1線P-22-24-96-129、 134	土師器	盤	口縁~底面	25.0	7.3	10YR 7/4	7.5YR 4/2	丸	ナリ	ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色
第42図	83	SK-60	1線P-X	土師器	盤	口縁~底面	19.8	4.0	10YR 6/4	10YR 4/1	丸	口ロコナリ ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色、輪縁面着色	
第42図	84	SK-60	1線P-7-57-X	土師器	盤	口縁~底面	19.2	4.3	7.5YR 7/6	7.5YR 6/6	丸	口ロコナリ ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色	
第42図	85	SK-60	1線P-12-15-21-44* 56-60-81-62-65、 93-98-110	土師器	小壺	口縁~底面	(15.7)	12.8	8.3	2.5YR 5/6	7.5YR 5/4	丸	ナリ+ハケメ	多	中	中	内面底面着色、底面着色、 外周底面底面着色
第43図	86	SK-60	1線P-4-8、3線P-165、 166-167-173	土師器	小壺	口縁~底面	13.0	9.7	10.0	7.5YR 8/4	10YR 7/4	丸	ナリ	少	少	中	内面底面着色、外周底面着色、 底面着色
第43図	87	SK-60	1線P-18-55-91	土師器	小壺	口縁~底面	14.6	7.4	10YR 7/3	10YR 7/4	丸	ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	88	SK-60	3線P-147	土師器	小壺	口縁~底面	13.0	6.1	7.5YR 5/2	10YR 5/3	丸	ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色、外周底面着色	
第43図	89	SK-60	1線P-48-53	土師器	小壺	口縁~底面	14.4	4.5	5YR 6/4	7.5YR 5/3	丸	ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	90	SK-60	1線P-67	土師器	小壺	底面	3.0	7.0	7.5YR 4/3	7.5YR 3/1	丸	ナリ+ハケメ	多	少	中	内面底面着色	
第43図	91	SK-60	1線P-17-149-X	土師器	小壺	口縁~底面	4.5	4.7	3.0	10YR 4/4	10YR 6/4	丸	ナリ	少	少	中	内面底面着色
第43図	92	SK-60	1線P-X	土師器	小壺	口縁~底面	6.0	3.5	10YR 5/2	10YR 6/2	丸	ナリ+ハケメ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	93	SK-77	2線P-6-15-18-26* 27-29-31-32-38-39- 40-55-56、3線P-87	土師器	盤	口縁~底面	(17.2)	(19.1)	2.5YR 5/8	10YR 8/4	皿	ハケメ	少	多	中	内面底面着色、内周輪縁着色、底面着色	
第43図	94	SK-11	2線P-14-20-48-53、 53線P-60	土師器	小壺	口縁~底面	(14.4)	(6.3)	7.5YR 6/4	7.5YR 6/4	丸	ナリ+ハケメ	中	中	中	内面底面着色	
第43図	95	SK-77	2線P-25	土師器	小壺	口縁~底面	(14.4)	(3.2)	7.5YR 4/2	7.5YR 3/1	丸	ナリ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	96	SK-77	2線P-68	土師器	盤	口縁~底面	(18.0)	(5.9)	7.5YR 7/4	7.5YR 6/3	皿	ハケメ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	97	SK-77	3線P-86	土師器	盤	口縁部	(20.4)	(2.5)	7.5YR 6/4	7.5YR 7/6	不詳	口ロコナリ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	98	SK-91	底面P-25	土師器	杯	口縁~底面	(12.6)	5.1	5.9	10YR 6/3	10YR 6/3	丸	口ロコナリ	少	多	中	外周底面着色、内周底面着色、 外周底面底面着色
第43図	99	SK-100	4線P-1	土師器	杯	口縁部	(19.0)	(3.3)	10YR 8/2	10YR 8/3	皿	ナリ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	100	SK-84	2線P-7、3線P-35	土師器	盤	口縁部	(16.6)	(8.4)	10YR 8/3	10YR 8/3	皿	ナリ	少	少	中	内面底面着色	
第43図	101	SK-64	2線P-13	土師器	盤	口縁~底面	(16.6)	(8.4)	10YR 8/3	10YR 8/3	皿	ナリ	少	少	中	内面底面着色	

回火 番号	No.	通称名	位置・構造	焼跡	焼跡 形状	周辺		距離	方位	針角値(度)		延長	幅員	周囲 形状	支線・通称		防火		建築物 形状	備考	
						全長	幅員			北線	東線				西線	南線	防火 方式	防火 状況			
第43回	102 SK-64	土間舗	4層P-28	土間舗	壁	全長	幅員	7.5R/6.4	7.5R/6.4	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第43回	103 SK-64	土間舗	4層P-31	土間舗	壁	全長	幅員	7.5R/6.6	2.5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第43回	104 SK-85	土間舗	4層P-3	土間舗	壁	全長	幅員	7.5R/5.6	7.5R/5.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第43回	105 SK-85	土間舗	2層P-4	土間舗	壁	全長	幅員	7.5R/4.1	10R/3.2	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第44回	106 SK-91	土間舗	2層P-13	土間舗	壁	全長	幅員	10R/7.4	7.5R/7.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	107 SK-91	土間舗	2層P-23	土間舗	壁	全長	幅員	10R/7.4	10R/7.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	108 SK-91	土間舗	2層P-17・18・19・20・21	土間舗	壁	全長	幅員	10R/8.2	5R/8.2	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第44回	109 SK-91	土間舗	1層P-9	土間舗	壁	全長	幅員	(5.0)	10R/6.2	10R/6.1	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第44回	110 SK-100	土間舗	2層P-6	土間舗	壁	全長	幅員	(2.6)	10R/8.4	10R/8.9	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	111 SK-100	土間舗	2層P-7・3層P-20	土間舗	壁	全長	幅員	(17.0)	7.5R/8.4	10R/8.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	112 SK-100	土間舗	2層P-10	土間舗	壁	全長	幅員	(6.0)	7.5R/6.6	7.5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	113 SK-100	土間舗	1層P-18	土間舗	壁	全長	幅員	(13.6)	10R/6.2	10R/6.2	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	114 SK-105	土間舗	壁+P-X	土間舗	壁	全長	幅員	(14.6)	7.5R/7.6	7.5R/7.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	115 SK-105	土間舗	壁+P-X	土間舗	壁	全長	幅員	—	N/3.0	N/4.0	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	116 SK-108	土間舗	2層P-7・3層P-12・13・14	土間舗	壁	全長	幅員	(7.7)	5R/6.6	7.5R/6.4	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第44回	117 SK-108	土間舗	3層P-6	土間舗	壁	全長	幅員	(16.0)	(2.9)	7.5R/6.6	5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	118 SK-108	土間舗	1層P-4	土間舗	壁	全長	幅員	(9.6)	(2.4)	N/5.0	10R/6.0	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	119 SK-109	土間舗	1層P-18・19	土間舗	壁	全長	幅員	(14.0)	(6.0)	10R/7.2	10R/7.2	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	120 SK-110	土間舗	2層P-57・4層P-205	土間舗	壁	全長	幅員	(14.0)	(6.0)	10R/7.2	10R/7.2	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	121 SK-110	土間舗	1層P-9・3層P-X	土間舗	壁	全長	幅員	13.4	6.0	5.5	10R/7.4	10R/7.3	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	122 SK-110	土間舗	壁P-3	土間舗	壁	全長	幅員	12.7	5.3	5.4	7.5R/6.6	7.5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	123 SK-110	土間舗	壁P-32	土間舗	壁	全長	幅員	11.0	4.8	—	10R/6.2	10R/6.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	124 SK-110	土間舗	1層P-15・26	土間舗	壁	全長	幅員	12.4	4.5	—	5R/6.6	7.5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	125 SK-110	土間舗	2層P-41	土間舗	壁	全長	幅員	(26.0)	1.7	—	10R/4.1	10R/6.2	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第44回	126 SK-111	土間舗	6層P-217	土間舗	壁	全長	幅員	146	5.5	6.0	10R/6.4	10R/6.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	127 SK-111	土間舗	3層P-203・4層P-196・5層P-210	土間舗	壁	全長	幅員	145	4.8	6.0	7.5R/7.6	7.5R/7.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	128 SK-111	土間舗	1層P-18・2層P-127・4層P-65・5層P-175	土間舗	壁	全長	幅員	(13.8)	6.1	4.5	7.5R/6.6	7.5R/7.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	129 SK-111	土間舗	4層P-153	土間舗	壁	全長	幅員	(15.5)	(3.8)	—	5R/6.6	5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	130 SK-111	土間舗	2層P-99	土間舗	壁	全長	幅員	(21.1)	(6.0)	5R/6.6	5R/6.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	131 SK-111	土間舗	6層P-216・218	土間舗	壁	全長	幅員	13.4	4.9	5.4	10R/6.4	10R/7.3	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
第45回	132 SK-110	土間舗	2層P-87・89・90・92・93・95・96・3層P-108	土間舗	壁	全長	幅員	230	23.8	10.6	10R/4.3	7.5R/7.6	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
第45回	6105A	土間舗	11層P-21層P-9・10・11・12・13・14・屋根部P-7・壁P-X	土間舗	壁	全長	幅員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第45回	133 SK-111	土間舗	2層P-97・6層P-61	土間舗	壁	全長	幅員	(20.8)	(11.6)	—	10R/6.4	10R/6.4	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁

図号 番号	No.	遺構名	位置・構造	種類	規模	部位	計測値(m)		方位		文書・図解		出入物		備考			
							口徑	幅長	方位	内面	外面	内面	外面	種		数		
		SK-111	6層P-226															
第45段	134	SK-105	a・b面床土P-13、b・c 面床下P-41	土階層	壁	口壁～外壁	(25)	(7.4)	-	5°R/6°	5°R/6°	不詳	ロコナテ	ロコナテ	中	多	内外面保存遺	
第45段	135	SK-111	壁土P-X	土階層	壁	口壁～外壁	(24)	(10.2)	-	7.5°R/6°	7.5°R/6°	並	ロコナテ	ロコナテ	中	多	内外面保存遺	
第45段	136	SK-111	2層P-143	土階層	壁	口壁～外壁	(18.6)	(11.0)	-	10°R/7.3	10°R/7.3	並	ヘラナテ	ヘラナテ	中	多	外延縁部直置、底付置	
第46段	137	SK-111	2層P-192、4層P-197、5 層P-199、207	土階層	壁	口壁～外壁	(18.6)	(10.7)	-	10°R/6.4	5°R/6.4	並	ヘラナテ	ヘラナテ	中	多	内外面保存遺	
第46段	138	SK-111	2層P-98	土階層	壁	口壁部	(21.2)	(8.4)	-	7.5°R/6.4	7.5°R/6.4	並	ロコナテ	ロコナテ	中	多	外延縁部直置	
第46段	139	SK-111	4層P-223	土階層	壁	口壁部	(17.0)	(4.5)	-	10°R/6.4	10°R/6.4	並	ヘラナテ	ヘラナテ	中	少	内外面縁部直置	
第46段	140	SK-111	5層P-90	土階層	壁	口壁部	(16.6)	(4.4)	-	10°R/6.3	10°R/6.3	不詳	ヘラナテ	ヘラナテ	中	少	内外面縁部直置	
第46段	141	SK-111	2層P-39・119・121・154、 3層P-156、4層P-110、5 層P-122、壁土P-106	土階層	小屋	口壁～外壁	(15.2)	(8.5)	-	2.5°R/6°	10°R/6°	不詳	ヘラナテ	ヘラナテ	少	少	外延縁部直置、内面保存遺	
第46段	142	SK-109	壁土階層P-4 P-114、138	土階層	壁	口壁～外壁	(16.4)	(8.7)	-	5°R/6°	7.5°R/6°	不詳	ロコナテ	ロコナテ	多	中	外延縁部直置、内面炭化粉付置	
第46段	143	SK-111	2層P-133・141・139 P-148、4層P-166・167・ 176、5層P-122・134・ 135	土階層	小屋	口壁～外壁	11.4	(11.3)	-	5°R/6°	10°R/7.3	並	ヘラナテ	ヘラナテ	多	中	外延縁部直置、内面保存遺	
第46段	144	SK-111	2層P-130・132、4層 P-222	土階層	壁	外壁～底壁	-	(12.3)	6.4	10°R/7.4	10°R/7.4	並	ヘラナテ	ヘラナテ	多	中	外延縁部直置、内面保存遺	
第46段	145	SK-110	壁土階層P-1	土階層	壁	口壁～外壁	(14.0)	(3.2)	-	10°R/8.1	10°R/7.1	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	外延縁部直置、底壁部のみ炭 化部あり、内面口壁部に火置 部あり	
第46段	146	SK-111	3層P-158、4層P-67	須磨層	坪	口壁～外壁	(23.0)	(3.6)	-	N/5.0	N/5.0	良	ロコナテ	ロコナテ	中	中	内面口壁部有	
第46段	147	SK-111	2層P-191、6層P-213	須磨層	壁	口壁部	(8.0)	(8.0)	-	N/3.0	N/5.0	良	ヘラナテ	ヘラナテ	中	中	内面口壁部有	
第46段	148	SK-111	2層P-120、5層P-59	須磨層	壁	外壁	-	-	-	2.5°R/1	2.5°R/1	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	外延縁部直置、内面口壁部有	
第46段	149	SK-111	2層P-104	須磨層	長巻壁	壁部	(12.0)	(8.7)	-	10°R/4.2	10°R/5.2	並	ロコナテ	ロコナテ	-	一	外延縁部直置、底壁あり	
第46段	150	SK-139	3層P-4・5・7・8・9	土階層	坪	口壁～底壁	(13.6)	5.3	(5.4)	7.5°R/6°	7.5°R/6°	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	内面炭化粉付置	
第47段	151	SK-140	壁土P-X	土階層	坪	口壁部	(14.0)	(4.0)	-	7.5°R/6°	7.5°R/6°	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	内外面保存遺	
第47段	152	SK-140	5層P-82	土階層	坪	口壁部	(14.0)	(3.8)	-	5°R/6°	7.5°R/6°	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	内外面保存遺	
第47段	153	SK-140	1層P-7	土階層	坪	口壁部	(15.0)	(3.4)	-	10°R/7.3	10°R/6.3	良	ロコナテ	ロコナテ	-	一	内外面保存遺	
第47段	154	SK-140	1層P-47	土階層	坪	口壁部	(16.0)	(5.0)	-	10°R/8.4	10°R/7.4	並	ロコナテ	ロコナテ	-	一	内外面保存遺	
第47段	155	SK-140	2層P-27・X、3層P-21・ 22、壁土P-X	土階層	坪	口壁～外壁	12.6	4.9	5.4	7.5°R/8.4	N/15.0	並	ロコナテ	ロコナテ	少	中	外延縁部直置、火ハナテ、内面 炭化部有	
第47段	156	SK-140	1層P-6、3層P-29・30 40・41	土階層	小屋	口壁部	(14.0)	(6.5)	-	7.5°R/4.4	7.5°R/6.4	不詳	ナテ	ナテ	少	多	内外面保存遺	
第47段	157	SK-140	5層P-75	土階層	壁	口壁部	(22.0)	(5.2)	-	10°R/7.4	10°R/6.3	並	ヘラナテ	ヘラナテ	中	中	外延縁部直置	
第47段	158	SK-140	2層P-52・55、3層P-60	土階層	小屋	口壁部	(16.0)	(6.0)	-	10°R/6.3	10°R/6.3	並	ナテ	ナテ	中	中	外延縁部直置	
第47段	159	SK-140	1層P-2	土階層	壁	口壁部	(22.0)	(3.8)	-	10°R/6.2	10°R/6.2	並	ナテ	ナテ	中	中	外延縁部直置	
第47段	160	SK-140	3層P-63・X、5層P-33・ 70・71・74・76・77・ 78・79・80	土階層	壁	外壁～底壁	-	(16.4)	7.6	7.5°R/5.4	7.5°R/7.3	並	ナテ	ナテ	中	中	少	少
第47段	161	SK-140	1層P-119壁土P-X 1層P-12	土階層	壁	口壁～外壁 底壁	(6.9)	(5.3)	(6.2)	10°R/6.4	10°R/6.3	並	ナテ	ナテ	中	中	外延縁部直置	

図説番号	No.	遺構名	位置・構造	説明	部材	計測値(m)			方位		文書・図説			発掘状況		備考	
						口幅	幅高	長さ	外周	内周	外周	内周	断面	断面	層位		層位
第47図	162	SK-140	7層P-87	土塀跡	廊下	(1.4)	(6.8)	7.5R/5.1	10.9R/5.1	10.9R/5.1	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀大溝痕跡、内堀成かぶり	
第48図	163	SK-140	7層P-85	土塀跡	廊下	—	—	7.5R/4.3	10.9R/4.6	10.9R/4.6	タタキ	タタキ	少	少	少	—	
第49図	164	SK-140	7層P-33	土塀跡	廊下	(14.2)	(2.7)	10.9R/7.4	10.9R/7.3	10.9R/7.3	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	—	
第89図	165	SD-02	礎石P-3	土塀跡	廊下	(3.7)	(1.15)	7.5R/5.4	10.9R/7.3	10.9R/7.3	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り	
第89図	166	SD-02	1層P-3	土塀跡	廊下	—	—	7.5R/6.4	7.5R/6.4	7.5R/6.4	ハツキ	ハツキ	少	少	少	外堀成り	
第89図	167	SD-09	1層P-X	土塀跡	廊下	(12.1)	(2.9)	7.5R/7.4	7.5R/7.6	7.5R/7.6	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	—	
第89図	168	SD-11	1層P-X	土塀跡	廊下	(14.0)	(2.7)	10.9R/6.2	10.9R/4.1	10.9R/4.1	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第89図	169	SD-17	1層P-3	土塀跡	廊下	(22.0)	(1.8)	10.9R/8.3	10.9R/8.3	10.9R/8.3	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第89図	170	SD-17	2層P-6	土塀跡	廊下	(14.0)	(4.1)	10.9R/6.2	10.9R/3.1	10.9R/3.1	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第89図	171	SP-16	竪土	土塀跡	廊下	—	—	6.9	10.9R/7.4	10.9R/7.4	—	—	少	少	少	外堀成り	
第89図	172	SP-273	1層P-1	土塀跡	廊下	(14.0)	(2.4)	10.9R/7.2	10.9R/6.2	10.9R/6.2	—	—	少	少	少	外堀成り	
第90図	173	SP-273	土塀跡	廊下	口縁部	1.28	4.2	—	5.9R/6.4	N 1.5/0	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	174	遺構外	E-3 1層	土塀跡	廊下	—	—	2.7	6.4	10.9R/17.1	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	175	遺構外	E-4 1層	土塀跡	廊下	—	—	2.2	5.9R/6.4	N 1.5/0	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	176	遺構外	C-7 1層	土塀跡	廊下	1.20	4.0	10.9R/7.4	10.9R/6.3	10.9R/6.3	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	177	遺構外	C-7 礎石部	土塀跡	廊下	1.40	4.5	—	5.9R/7.6	5.9R/6.6	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	178	遺構外	D-6 1層	土塀跡	廊下	1.20	4.1	—	10.9R/7.4	10.9R/6.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	179	遺構外	D-17 1層P-2・3	土塀跡	廊下	—	—	3.7	5.3	7.5R/6.4	7.5R/4.2	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	180	遺構外	C-8 礎石部	土塀跡	廊下	—	—	2.9	6.0	10.9R/7.3	7.5R/7.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	181	遺構外	D-5 1層	土塀跡	廊下	—	—	2.9	4.8	7.5R/7.6	7.5R/7.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	182	遺構外	J-8 1層	土塀跡	廊下	—	—	3.9	5.2	10.9R/6.3	10.9R/8.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	183	遺構外	D-8 1層P-X	土塀跡	廊下	—	—	2.0	5.4	10.9R/7.3	7.5R/7.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	184	遺構外	C-7 1層	土塀跡	廊下	—	—	1.4	5.0	10.9R/5.1	10.9R/5.3	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	185	遺構外	F-16 1層	土塀跡	廊下	—	—	1.7	5.0	10.9R/6.3	10.9R/6.3	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	186	遺構外	C-7 1層	土塀跡	廊下	1.86	2.8	—	7.5R/6.4	7.5R/6.6	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	187	遺構外	F-4 1層	土塀跡	廊下	1.3.5	2.7	—	5.9R/6.4	5.9R/5.4	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	188	遺構外	L-12 1層	土塀跡	廊下	(22.4)	2.0	—	7.5R/6.3	10.9R/7.3	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り	
第90図	189	遺構外	P-17 1層P-X	土塀跡	廊下	口縁部	21.6	4.6	—	7.5R/4.2	7.5R/6.3	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	190	遺構外	E-2 礎石部P-X	土塀跡	廊下	口縁部	20.2	6.8	—	10.9R/5.4	10.9R/7.4	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第90図	191	遺構外	H-1 1層P-X	土塀跡	廊下	口縁部	14.5	3.7	—	10.9R/6.3	10.9R/7.4	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	192	遺構外	H-4 1層	土塀跡	廊下	口縁部	33.2	10.0	—	7.5R/6.4	7.5R/4.2	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	194	遺構外	H-6 礎石部	土塀跡	廊下	口縁部	33.7	3.7	—	2.9R/5.4	10.9R/6.6	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	195	遺構外	H-7 1層	土塀跡	廊下	口縁部	18.2	4.3	—	10.9R/7.3	10.9R/7.4	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	196	遺構外	J-9 1層	土塀跡	廊下	口縁部	28.0	7.1	—	10.9R/7.4	10.9R/6.2	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	197	遺構外	L-4 1層	土塀跡	廊下	口縁部	22.0	4.0	—	5.9R/7.6	7.5R/8.4	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	198	遺構外	P-17 1層P-X	土塀跡	廊下	口縁部	18.0	5.3	—	7.5R/6.4	7.5R/6.4	ナシ	ナシ	少	少	少	外堀成り
第91図	199	遺構外	障土P-X	土塀跡	廊下	口縁部	18.0	4.7	—	7.5R/7.4	2.5R/6.6	ロクロナシ	ロクロナシ	少	少	少	外堀成り

図号 番号	No.	遺構名	位置・構造		説明	規模	部位	計測値(m)		基礎	敷層		瓦	文書・遺物		埋入物		備考	
			C-9埋設部面(埋設部面)	C-7埋設部面(埋設部面)				口深	埋高		基礎	瓦葺		内面	外面	内面	外面		埋込物
第01区	200	溝溝外 SD-03	1層		土砂盛	溝	口縁～外縁	21.6	29.0	-	7.5R 6/3	7.5R 6/6	瓦	ナデ+ヘラナデ	ナデ+ヘラナデ	中	多	中	外区埋設部、内区埋設部、埋設部
第01区	201	溝溝外 O-5 II層	土砂盛		土砂盛	溝	口縁～外縁	16.8	18.3	-	7.5R 5/3	7.5R 5/2	瓦	ナデ+ヘラナデ	ナデ+ヘラナデ	多	少	少	外区埋設部、内区埋設部、埋設部
第01区	202	溝溝外 J-1 I層	土砂盛		小壁	溝	口縁～外縁	13.4	3.5	-	2.5R 5/6	5YR 5/4	瓦	ナデ+ヘラナデ	ナデ+ヘラナデ	少	少	少	外区埋設部、埋設部
第01区	203	溝溝外 G-8 II層	土砂盛		土砂盛	溝	体部	-	-	-	10YR 4/3	10YR 6/4	瓦	ヘラナデ	ヘラナデ	多	中	中	外区埋設部、埋設部
第02区	204	溝溝外 D-9 I層	土砂盛		土砂盛	溝	体部～底面	-	5.5	7.5	7.5R 6/6	7.5R 6/4	瓦	ロクロナデ	石田転削切+ヘラナデ	多	中	少	外区埋設部、埋設部
第02区	205	溝溝外 E-12 II層	土砂盛		土砂盛	溝	体部～底面	-	7.9	8.6	7.5R 4/2	10YR 6/4	瓦	ナデ+ヘラナズリ	ナデ	多	中	少	外区埋設部、埋設部
第02区	206	溝溝外 I-7 I層P-X	土砂盛		小壁	溝	底面	-	(2.7)	(7.8)	7.5R 5/4	10YR 6/4	瓦	ヘラナデ+ナズリ	ナデ+ヘラナズリ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	207	溝溝外 I-13 II層	土砂盛		土砂盛	溝	底面	-	(2.1)	(6.2)	10YR 6/4	10YR 7/4	瓦	ヘラナデ	ヘラナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	208	溝溝外 I-14 II層	土砂盛		土砂盛	溝	体部～底面	-	(3.3)	(3.0)	10YR 6/2	10YR 9/2	瓦	ナデ	ナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	209	溝溝外 I-14埋設部	土砂盛		土砂盛	溝	体部～底面	-	3.3	4.2	10YR 6/1	7.5R 7/4	瓦	ナデ	ナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	210	溝溝外 G-7 I層P-X	土砂盛		土砂盛	溝	体部～底面	-	2.5	4.2	N 5/0	N 9/0	瓦	ロクロナデ	ロクロナデ	少	少	少	外区埋設部、埋設部
第02区	211	溝溝外 I-14 II層	須弥盛		須弥盛	坪	底面	-	(1.8)	(6.2)	10YR 6/2	10YR 7/1	瓦	ロクロナデ	ロクロナデ	埋	少	埋	外区埋設部、埋設部
第02区	212	溝溝外 L-5 II層	須弥盛		須弥盛	坪	体部～底面	-	1.2	6.0	2.5YR 7/4	2.5YR 7/3	瓦	ロクロナデ	ロクロナデ	少	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	213	溝溝外 H-5 II層	須弥盛		須弥盛	坪	体部～底面	-	1.8	5.0	2.5Y 7/2	2.5Y 7/1	瓦	ロクロナデ	ロクロナデ	少	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	214	溝溝外 K-L 0 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部～底面	-	4.9	8.0	N 3/0	N 4/0	瓦	ロクロナデ	ロクロナデ	埋	少	中	外区埋設部、埋設部
第02区	215	溝溝外 I-7 I層P-X	須弥盛		須弥盛	溝	底面	-	(1.3)	(10.0)	10YR 4/1	10YR 4/1	瓦	ナデ	ナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	216	溝溝外 H-4 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	N 4/0	10Y 5/1	瓦	ナデ+当貝類	ナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	217	溝溝外 I-7 I層P-X	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	7.5Y 3/1	7.5Y 4/1	瓦	ナデ	ナデ	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	218	溝溝外 I-7 I層P-X	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	N 3/0	N 5/0	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	埋	埋	埋	内区埋設部、埋設部
第02区	219	溝溝外 I-7 I層P-X	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	2.5Y 3/2	7.5YR 5/4	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	少	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	220	溝溝外 K-4 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	5Y 5/1	5Y 5/2	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	埋	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	221	溝溝外 K-4 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	N 4/0	7.5Y 5/1	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	埋	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	222	溝溝外 K-8 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	N 4/0	7.5Y 5/1	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	埋	少	少	内区埋設部、埋設部
第02区	223	溝溝外 L-12 II層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	7.5YR 6/4	7.5YR 6/4	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	少	少	少	内区埋設部、埋設部
第03区	224	溝溝外 D-6 I層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	5Y 6/1	2.5Y 6/1	瓦	ナデ+当貝類	ナデ+当貝類	少	少	少	内区埋設部、埋設部
第03区	225	溝溝外 G-12 I層	須弥盛		須弥盛	溝	体部	-	-	-	7.5YR 6/3	10YR 6/4	下層	ナデ	ナデ	少	中	中	外区埋設部、埋設部

第4表 石器観察表

図号番号	No.	遺物名	位置・層位	種類	計測値(mm)			重量(g)	石質	備考
					長径	短径	厚さ			
第32図	E1	S-05	PK21 2層G-1	礎石	12.50	5.20	4.50	343.90	凝灰岩	
第32図	E2	S-07	外堀2段RS-1	礎石	8.60	9.60	5.60	522.00	火山岩	
第32図	E3	S-07	2層S-1	礎石	7.30	7.90	7.90	113.00	火山岩	
第47図	E4	SC-87	1層S-1	礎石	10.90	10.90	7.60	113.00	凝灰岩	
第47図	E5	SC-110	1層S-1	礎石	4.30	4.60	1.40	21.90	凝灰岩	表面に黒色皮層あり
第47図	E6	SC-111	層15-X	礎石	4.50	5.70	2.50	58.00	火山岩	
第93図	E7	遺物外	C-11埋込遺S-1	礎石	10.80	4.20	1.60	41.10	凝灰岩	
第93図	E8	遺物外	D-5 1層	礎石	5.70	4.20	5.40	147.90	火山岩	
第93図	E9	遺物外	H-4 埋込層5-X	礎石	13.00	11.65	4.60	724.00	凝灰岩	

第5表 土製品観察表

図号番号	No.	遺物名	位置・層位	種類	計測値(mm)			厚さ	重量	調製	備考
					長径	短径	口径				
第32図	T-1	S-06	井道	5.30	3.70	5.20	ヘラナテ	—	—		
第32図	T-2	S-10	壁内埋込土層	3.15	3.30	1.60	ナテ	ナテ	—	スリ痕有り。	
第32図	T-3	S-10	壁内埋込土層	2.30	3.30	1.00	ナテ	ナテ	—		
第47図	T-4	SC-60	壁土	6.00	8.00	4.10	ナテ	ナテ	ナテ	胎土にスリが混じる。	
第47図	T-5	SC-111	1層	調整粘土層	4.30	6.00	2.10	ナテ	ナテ	胎土にスリが混じる。	

第6表 鉄関連遺物観察表

図号番号	No.	遺物名	位置・層位	種類	計測値(mm)			厚さ	重量(g)	メタル度	組織度	備考
					長径	短径	口径					
第32図	鉄1	S1-05a・b	第六層4層	鉄削線切深(N)	8.20	6.40	2.30	117.10	H(E)	3		表面に木灰や木灰層が多く見られる
第32図	鉄2	SI-05c	壁内埋込土0層	鉄削線切深(N)	6.70	4.40	2.40	93.90	H(E)	2		
第32図	鉄3	SI-05c	壁内埋込土0層	鉄製品(77子)	4.20	0.65	0.30	5.90	調化(L)	2		
第32図	鉄4	SI-05c	壁内埋込土7層	鉄製品(77子)	3.00	1.80	0.40	4.30	調化(L)	2		
第32図	鉄5	SI-06	井道	線切深	3.30	3.30	2.70	19.10	調化(L)	1		
第47図	鉄6	SI-10	カマド基部	削口	4.60	2.60	2.40	35.20	なし	1		表面は目録有り
第47図	鉄7	SC-111	6層	粘土質塗層物	1.30	2.60	0.80	3.00	なし	1		
第93図	鉄8	遺物外	埋込土	鉄削線切深(N)	3.10	3.70	2.80	28.90	L(L)	2		
第93図	鉄9	遺物外	J-7 1層	鉄製品(薄鉄)	7.40	7.50	0.45	26.20	L(L)	4		
第93図	鉄10	遺物外	H-3 1層	調整粘土層	12.20	9.40	1.20	27.70	L(L)	5		
第93図	鉄11	遺物外	H-10 1層	調整粘土層	3.10	3.30	2.10	21.20	L(L)	6		

※表中のメタル度は物質顕微鏡測定によって判定された組織の程度を示すもので、基準度は下記のとおりである。

調化(L) : 表面が粗く、組織の粗さが小さく、組織の粗さが小さく、組織の粗さが小さいものを示す。
 M(O) : Mは中間程度で、Mの倍以上の大きさの組織(4~5mm)が混入することを示す。
 L(●) : Lは粗度で、Mの倍以上の大きさの組織(10~12mm)が混入することを示す。

第7表 古銭観察表

図号番号	No.	遺物名	位置・層位	銘文	計測値(mm)			重量(g)	初年度	備考
					外径	孔径	外縁厚			
第93図	銭1	遺物外	D-6 1層	五十銭背朝顔	23.41	—	1.52	1.54	3.9	昭和二十一年

第IV章 自然科学分析

第1節 野尻(4)遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定・樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

青森県青森市浪岡大字徳才子字山本に所在する野尻(4)遺跡は、大釈迦川右岸の低位段丘上に位置し、平安時代の集落跡を主体とし、その他に縄文時代、鎌倉時代、江戸時代の遺構・遺物が確認されている。

本報告では、掘立柱建物跡を伴う竪穴建物跡の外周溝および、外周溝と重複する土坑から出土した炭化材について、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施する。

I. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、SK-140、SK-60、SI-01外周溝から出土した炭化材3点(Na1-3)である。各試料の詳細と年代測定試料採取状況を表1に示す。

表1. 放射性炭素年代測定試料

No.	出土遺構名	層位	遺物No.	状態	形状	樹皮	年輪数	測定試料	重量	備考
1	SK-140	5層	C-1	炭化材	ミカン餅状	無	53年	外側10年分	0.1g	
2	SK-60	1層	W-1	炭化材	紐目板状破片	無	3年	半割	0.08g	破片多数から最大片選択
3	SI-01外周溝	1層	W-3	炭化材	節部分	無	不明	外側10年分	0.2g	

2. 分析方法

炭化材表面の土砂や付着物などをメスやピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。次に塩酸(HCl)や水酸化ナトリウム(NaOH)を用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する(酸-アルカリ-酸(AAA)処理)。その後超純水で中性になるまで洗浄し、乾燥させる。なお、アルカリ処理は、0.001M~1Mまで濃度を上げ、試料の状況をみながら処理を進める。1Mの水酸化ナトリウムで処理が可能であった場合はAAA、濃度を1Mまで上げることができず、薄めた状態で処理した場合にはAaAと記す。

上記した処理後の試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

なお、暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5,730 \pm 40年) を較正することである。暦年較正は、OxCal4.3.2 (Bronk,2009) を使用し、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線 (Intcal13; Reimer et al.,2013) を用いる。暦年較正結果は $1\sigma \cdot 2\sigma$ (1σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲) の値を示す。

3. 結果

炭化材の放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表2、図1に示す。同位体効果の補正を実施した補正年代は、Na1が $1,110 \pm 20\text{BP}$ 、Na2が $1,210 \pm 20\text{BP}$ 、Na3が $2,470 \pm 20\text{BP}$ である。また、暦年較正結果 (2σ 暦年代範囲) は、Na1がcalAD892-974、Na2がcalAD725-739 (4.6%) および767-886 (90.8%)、Na3がcalBC766-488 (calBP2,715-2,437) である。

表2 放射性炭素年代測定結果

番号遺構	状態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用)	誤差	暦年較正結果			Code No	
						cal BC	cal BP	%		
No1 SK-140	炭化材	AAA (1M)	-25.1 ± 0.6	1110 ± 20 (1108 ± 21)	σ	cal AD 898	cal AD 925	cal BP 1,052 - 1,025	32.7	pal-10973 TKA-18716
						cal AD 944	cal AD 974	cal BP 1,006 - 978	35.5	
						cal AD 892	cal AD 986	cal BP 1,058 - 964	95.4	
No2 SK-60	炭化材	AAA (1M)	-26.7 ± 0.5	1210 ± 20 (1210 ± 21)	σ	cal AD 772	cal AD 778	cal BP 1,178 - 1,172	5.3	pal-10974 TKA-18717
						cal AD 790	cal AD 868	cal BP 1,160 - 1,082	62.9	
						cal AD 725	cal AD 739	cal BP 1,225 - 1,211	4.6	
No3 SI-01 外周溝	炭化材	AAa (0.1M)	-27.1 ± 0.5	2470 ± 20 (2471 ± 22)	σ	cal BC 750	cal BC 683	cal BP 2,699 - 2,632	29.9	pal-10975 TKA-18718
						cal BC 668	cal BC 637	cal BP 2,817 - 2,586	14.3	
						cal BC 622	cal BC 616	cal BP 2,571 - 2,565	2.4	
					2σ	cal BC 591	cal BC 540	cal BP 2,540 - 2,489	21.6	
						cal BC 766	cal BC 488	cal BP 2,715 - 2,437	95.4	

- 1) 暦年の計算には、Oxcal4.3.2を使用。
- 2) yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 行記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) AAaは、酸、アルカリ、酸化処理、AAaは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、補正年代に () で示した、1の位を丸める前の値を使用している。
- 6) 年代測定結果の表記は、1の位を丸めるのが判明だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、丸めていない値も付記している。
- 7) 統計的に真の値が入る確率は σ は68.2%、 2σ は95.4%である。

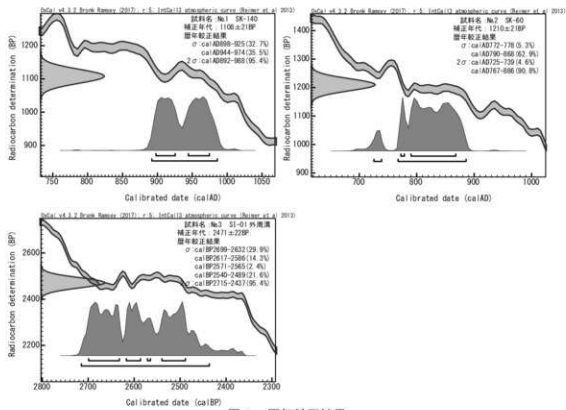


図1 暦年較正結果

4. 考察

炭化材が出土した各遺構は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半を主体とすると考えられている。このうち、2基の土坑は、SI-01外周溝を切って構築されており、SI-01外周溝より新しいことが推定される。年代測定結果をみると、SK-140の炭化材が $1,110 \pm 20BP$ 、SK-60の炭化材が $1,210 \pm 20BP$ 、SI-01外周溝の炭化材が $2,470 \pm 20BP$ であった。このうち、土坑2基の暦年校正結果は、SK-140が9世紀後半～10世紀後半頃、SK-60が8世紀後半～9世紀後半の範囲を示す。SK-140の結果は、調査所見とも整合的である。一方、SK-60については調査所見よりもやや古いが、これについては、炭化材が樹皮の無い柾目状の破片であり、最外年輪が残っておらず、年輪の古木効果で古い時期を示した可能性がある。

SI-01外周溝の炭化材で得られた値は、東日本における縄文時代晩期の年代範囲に入り（小林, 2017）、推定年代より1000年以上古い年代を示している。試料は節付近の炭化材で、樹皮が残っていないが、樹種はコナラ節であり、年輪の古木効果で1000年以上古い値が得られることは考えにくい。隣接し、本遺跡よりも標高が高い野尻（1）遺跡では、縄文時代晩期の遺物が少量であるが出土しており、また本遺跡内でも白頭山から10世紀に噴出した火山灰B-Tmが自然堆積する土坑内で縄文後期の土器の混入が確認されている。これらの点を考慮すると、縄文時代晩期の炭化材が外周溝に混入した可能性がある。SI-01外周溝では、今回年代測定を実施した炭化材からはやや離れた場所で樹種の異なる炭化材が出土している。今後、これらの炭化材を用いた年代測定を実施することで、遺構の構築・使用年代に関する資料が得られる可能性がある。

II. 樹種同定

1. 試料

試料は、SK-140、SK-60、SI-01外周溝から出土した炭化材9点（Na1-9）である。このうち、Na1-3は、放射性炭素年代測定を実施した炭化材から分割した破片を試料としている。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の薄断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表3に示す。炭化材は、広葉樹4分類群（ブナ属・コナラ属コナラ節・モクレン属・カエデ属）とイネ科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

表3 樹種同定結果

No.	出土遺構名	層位	遺物No.	形状	種類	備考
1	SK-140	5層	C-1	ミカン割状	ブナ属	AMSと同一破片
2	SK-60	1層	W-1	板目板状	モクレン属	AMSと同一破片
3	SI-01外周溝	1層	W-3	節部分	コナラ属コナラ節	AMSと同一破片
4	SK-140	5層	C-1	丸木状	イネ科	イネ科の稈が密集した状態
5	SK-60	1層	W-1	破片	モクレン属	
6	SI-01外周溝	1層	W-1	板目板状	カエデ属	
7	SI-01外周溝	1層	W-2	芯持丸木	モクレン属	当年性の小枝、同定中
8	SI-01外周溝	1層	W-3	ミカン割状	コナラ属コナラ節	
9	SI-01外周溝	1層	W-4	ミカン割状	コナラ属コナラ節	

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・イネ科 (*Gramineae*)

試料は、直径4mmの丸棒状を呈し、中央部は中空となる。横断面では、2対4個の道管の外側に節部細胞があり、これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。維管束は、維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

4. 考察

SK-140、SK-60、SI-01外周溝から出土した炭化材9点は、広葉樹4分類群とイネ科に同定された。各分類群の材質等を見ると、ブナ属は山地・丘陵地に生育する落葉高木で、冷温帯性落葉広葉樹林の主要な構成種であるブナを含む。木材は重硬な部類に入るが、加工は容易で、保存性は低い。コナラ節は山地・丘陵地に生育する落葉高木で、二次林の主要な構成種であるコナラや山地の冷温帯性落葉広葉樹林の構成種であるミズナラ等が含まれる。木材は重硬で強度が高い。モクレン属は二次林や溪畔等に生育する落葉高木で、ホオノキやコブシ等が含まれる。木材は軽軟で、強度と保存性は低い。カエデ属には多くの種類が含まれ、山地・丘陵地に広く分布する落葉低木～高木である。木材は重硬・緻密で強度が高い。イネ科は木質化する種類と考えられ、タケ亜科のほか、ヨシ属などの可能性もある。一般的に強度・靱性・耐水性等が高い。遺構別にみると、SI-01は掘立柱と外周溝を伴う住居跡である。炭化材は、いずれも外周溝の1層から出土しており、No.3, 8, 9が住居北側部分、No.6, 7が住居西側部分から出土している。樹種をみると、北側部分の3点は全てコナラ節、西側部分の2点はカエデ属とモクレン属に同定された。北側部分のコナラ節のうち、No.3は年代測定で縄文時代晩期に相当する年代が得られ、古い時期の炭化材が混入した可能性がある。同じコナラ節の炭化材が狭い範囲に集中していることから、No.8, 9についても縄文時代晩期の年代が得られたNo.3と由来を同じくする試料の可能性があ

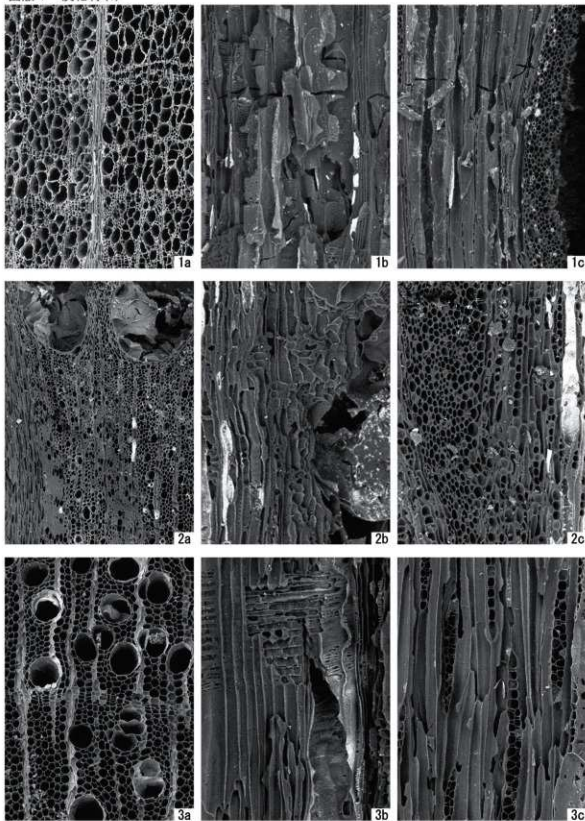
る。伊東・山田(2012)のデータベースによれば、本遺跡周辺では縄文時代晩期にコナラ節が確認された例は知られていない。一方、本遺跡からは離れるが、亀ヶ岡遺跡の自然木ではスギ、ヒバ、ドロノキ、ホオノキ等に混じってコナラ節(報告ではミズナラとカシワ)が報告されており、小三内遺跡の自然木でもクリ、ニレ属、ハンノキ亜属、トチノキ、カエデ属、エゴノキ属、ハリギリと共にコナラ節の根材が確認されている。今回の結果は、縄文時代晩期の本遺跡周辺でもコナラ節が生育し、その木材を何らかに利用したことを示す可能性がある。

一方、外周溝の西側部分や土坑から出土したブナ属、カエデ属、モクレン属は、古代の本遺跡周辺にこれらの落葉広葉樹が生育していた可能性を示唆する。また、SK-140からブナ属と共に出土したイネ科の炭化物は、丸木状の形を保ったイネ科の稈の他、壊れて潰れたイネ科の稈が多数重なっており、さらに灰も混じって塊状に固まっていた。灰の由来は不明であるが、繊維状に見える部分もあることから、植物珪酸体分析でイネ科の葉部が混じっているか検証することでイネ科の利用状況をさらに詳細に検討できる可能性がある。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
- 小林謙一, 2017, 縄文時代の実年代 —土器形式編年と炭素14年代—. 同成社, 263p.
- Reimer P.J., Bard E., Bayliss A., Beck J.W., Blackwell P.G., Bronk Ramsey C., Buck C.E., Cheng H., Edwards R.L., Friedrich M., Grootes P.M., Guilderson T.P., Hafflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton T.J., Hoffmann D.L., Hogg A.G., Hughen K.A., Kaiser K.F., Kromer B., Manning S.W., Niu M., Reimer R.W., Richards D.A., Scott E.M., Southon J.R., Staff R.A., Turney C.S.M., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Stuiver M. & Polach A.H., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
- Wheeler E.A., Bass P. & Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

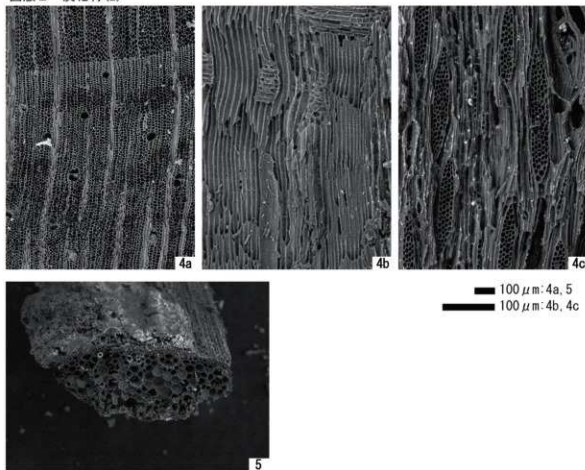
図版 1 炭化材(1)



1. プナ属 (No.1)
 2. コナラ属コナラ節 (No.8)
 3. モクレン属 (No.5)
- a:木口, b: 柱目, c: 板目

100 μm: a
100 μm: b, c

図版2 炭化材(2)



4. カエデ属(No.6) a:木口, b: 柱目, c: 板目
5. イネ科(No.4) 横断面

第2節 野尻(4)遺跡火山灰分析

関東文化財振興会株式会社

1 概要

本分析は火山灰試料3試料について火山灰分析(色調判定、全鉱物組成分析・火山ガラスの形態分析・火山ガラスの屈折率測定・重鉱物組成分析)を行い、どのテフラに相当するか検討する。

1-1 試料

分析に供する試料は以下の3試料で、各試料1/4~1/8mm(#60-120)、1/8~1/16mm(#120-250)の2フラクション、全6セットの分析を行う。

- 1) SD-02
- 2) SK-140
- 3) SI-10外周溝

1-2 作業内容・数量

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 色調判定 | 3試料 |
| (2) 火山灰分析セット | 6試料 |

*セット内容：全鉱物組成分析・火山ガラスの形態分析・火山ガラスの屈折率測定・重鉱物組成分析

2 火山灰分析

火山灰分析用試料は、青森県野尻(4)遺跡で採取された3試料である。依頼時の指定により、分析粒径を1/4~1/8mm(#60-120)、粒子モード計数を250個とすることで作業を開始した。しかし、前処理段階で試料粒径が全体に細粒であることや、重鉱物の含有が少ないことが判明した。さらに、試料が細粒であるため、対象粒度の違いが分析結果に影響を与える懸念が生じた。そのため、分析粒径1/8~1/16mm(#120-250)も加えて実施することとした。

2-1 色調判定

未処理試料を白紙上にとり、新版標準土色帳(農林水産技術会議事務局監修、1970)により判定した。SD-02は10YR3/2、SK-140は7.5YR7/4~6、SI-10外周溝は7.5YR7/3であった。

2-2 試料処理

火山灰試料の処理・記載は、吉川(1976)と同様の方法で行った。試料は湿潤状態で約20g採取秤量し、超音波洗浄器を用いて洗浄した後、50℃で15時間乾燥させた。乾燥した試料は試料の汚染を防ぐため、使い捨てのメッシュクロスを用い、3段階の篩別(1/4mm、1/8mm、1/16mm径)を行った。篩別後の試料から、封入剤(屈折率=1.54)を用いて封入薄片を作製した。

2-3 全鉱物組成分析

2-2で作製した封入薄片を用いて火山ガラス、軽鉱物、重鉱物、岩片、その他の5項目について総計250粒同定してその個数比を求めた。結果は図1に示す。SD-02試料は火山ガラスの含有量が少なく、(#60-120)で3.6%、(#120-250)で16.4%であった。また、全ての試料において重鉱物の含有量が少なく、SK-140(#60-120)で10.8%、他の試料は4%未満である。SD-02試料にはその他に分類される球状の方解石粒子が多い。

2-4 火山ガラスの形態分析・屈折率測定

火山ガラスの形態については、吉川(1976)に基づいて扁平型(突起のないHa型+1~3本の突起ありHb型)、中間型(HbとTaの間であるCa型+平板状の面に直線平行な突起が3本以上あるCb型)、多孔質型(不規則な多角形で曲線状の突起が密にあるTa型+繊維状に直線平行な突起が密にあるTb型)に区分した。またいずれにも属さないものについては不規則型(It型)に区分した。以上の区分に基づき試料中の火山ガラス粒子を分類し、各個数比を求めた(図2)。その過程で着色ガラスやスコリア質のものおよび亀ノ甲型と呼ばれる特異な形態をもつ火山ガラス(branching quench-crack structure: Büttner et al., 1999)の有無もチェックした。さらに火山ガラスの水和現象を観察し、山下・檀原(1995)に基づき水和(hydration)やスーパーハイドレーション(super hydration)の程度についても可能な限り半定量的に記載した。

火山ガラスの屈折率は、前処理により調整された試料を対象に、温度変化型屈折率測定装置(RIMS)(横山ほか1986、Danbara et al., 1992、壇原1993)を用いて測定した。測定に際しては60個以上の火山ガラス片を測定した(図3)。

2-5 重鉱物組成分析

2-2で作製した封入薄片を用いて重鉱物組成分析を行った。ここでは試料中の重鉱物について総計250粒の粒子の同定を行い、その個数比を求めた。SK-140(#60-120)は250粒子を計測したが、他の試料は重鉱物の含有量が少なく、250粒に満たなかった。

3 結果と考察

分析結果は前掲の図1~4に集約して示す。さらに屈折率は資料1-7のデータ・シートに顕微鏡写真とともに示した。以下には試料ごとに、主に火山ガラスの識別にもとづき含有テフラの対比を簡潔に述べる。

3-1 SD-02試料

火山ガラスの含有率が粗粒部(#60-120)で3.6%、細粒部(#120-250)で16.4%を示し、細粒部での含有率が高い。火山ガラスの識別を、①水和層厚、②屈折率、③形態的特徴などから総合的に行った。このうち細粒部のみ検出されるB-Tm(白頭山苦小牧)ガラスは $n=1.510$ と 1.521 の完全に分離した2つの成分からなるもので、アルカリ長石(af)も含まれ、その特異性から同定は確実である。また粗粒部にはTo-a(十和田a)ガラスが少量検出される。これら以外に屈折率 $n=1.500$ 付近に水和が完了した火山ガラス(約3万年以前)が含まれるが、現時点では対比は困難である。

3-2 SK-140試料

細粒部が粗粒部の2倍近くの火山ガラス含有率を示すが、全体として分析値の粒径による大きな違いはない。火山ガラスの付着が目立つ重鉱物 (Opx、Hb、Cpx) が含まれる。軽石型とバブルウォール型の混在する火山ガラスの屈折率は $n=1.499-1.509$ (モード: 1.503) と広い分布幅をもち、1破片中で屈折率が均一でない特徴から、確実にTo-H (十和田八戸) テフラに対比される。

3-3 SI-10外周溝試料

火山ガラスの含有率が細粒部で92.8%、粗粒部で53.6%と高く、純層に近いB-Tmテフラ層である。B-Tmガラス以外の $n=1.500$ 付近の珪長質ガラスはSD-02試料で検出されたガラスとよく似ており、同源ガラスの可能性が高いが、対比は不明である。

参考文献

- 吉川周作 (1976) : 大阪層群中の火山灰層について 地質学雑誌, 82 (8) 479-515
- Büttner, R., Dellino, D. and Zimanowski, B. (1999) : Identifying magma-water interaction from the surface features of ash particles. *Nature*, 401, 688-690.
- 山下透・檀原徹 (1995) : 火山ガラスのhydrationとsuper hydration-日本の広域テフラについて-. フィッション・トラックニュースレター第8号, 41-46.
- 横山卓雄・檀原徹・山下透 (1986) : 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定 第四紀研究 25 (1), 21-30.
- Danhara T., Yamashita T., Iwano H. and Kasuya M. (1992) : An improved system for measuring refractive index using the thermal immersion method. *Quaternary International*, 13/14, 89-91
- 檀原徹 (1993) : 温度変化型屈折率測定法 日本第四紀学会編 第四紀試料分析法 2 研究対象別分析法 149-157 東京大学出版会

全鉱物組成

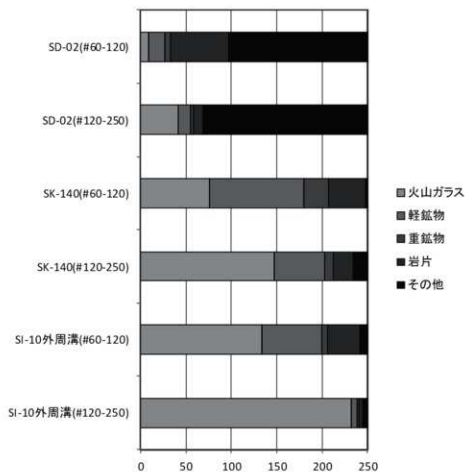


図1 3試料6セットの全鉱物組成分析結果。各試料中に含まれる火山ガラス、軽鉱物、重鉱物、岩片、その他の粒子数を横軸に示している。

火山ガラスの形態分類

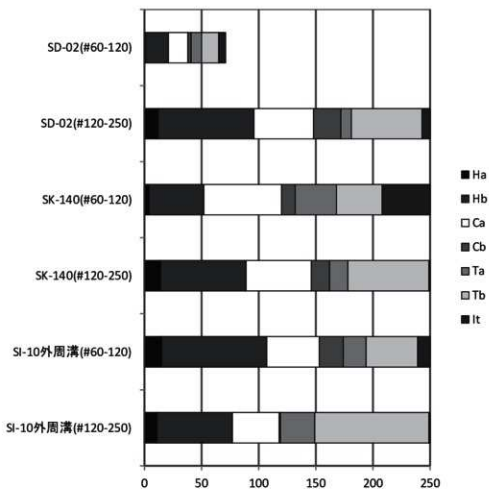


図2-3 試料6セットの火山ガラスの形態分類結果。横軸は粒子数を示している。形態の分類は吉川(1976)に従い扁平型(Ha, Hb)、中間型(Ca, Cb)、多孔質型(Ta, Tb)とした。またいずれにも属さないものを不規則型(It)とした。SD-02(#60-120)は火山ガラスの含有量が少なく、計測数が250粒子に満たない。

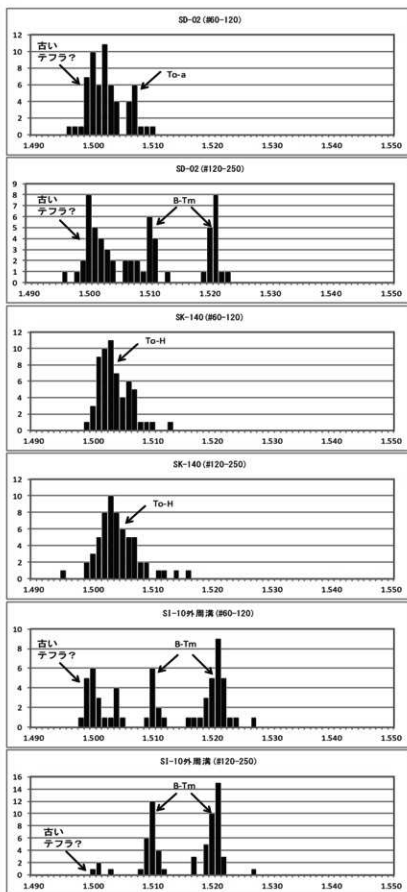


図3 3試料6セットの火山ガラスの屈折率のヒストグラム。縦軸は頻度(個)、横軸はガラスの屈折率をそれぞれ示す。

重鉱物組成

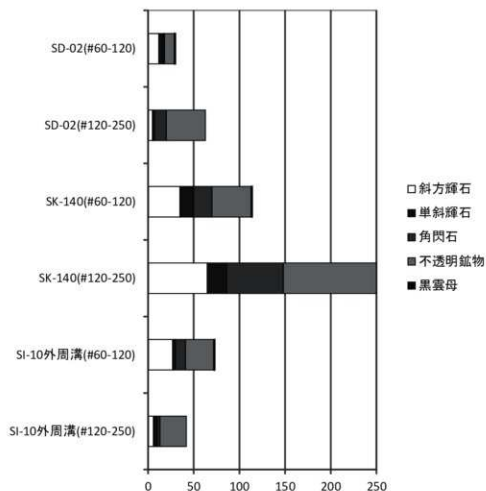


図4 3 試料6セットの重鉱物分析結果。横軸は粒子数を示している。全体的に重鉱物の含有量が少なく、250粒子に満たない。

資料I-1: 全鉱物組成分析結果表

試料	火山ガラス	軽鉱物	重鉱物	岩片	その他	合計
SD-02(#60-120)	9	18	6	64	153	250
SD-02(#120-250)	41	14	3	11	181	250
SK-140(#60-120)	76	104	27	41	2	250
SK-140(#120-250)	147	56	9	23	15	250
SI-10外周溝(#60-120)	134	66	6	36	8	250
SI-10外周溝(#120-250)	232	7	2	4	5	250

資料I-2: 全鉱物組成分析結果表(百分率)

試料	火山ガラス	軽鉱物	重鉱物	岩片	その他	合計
SD-02(#60-120)	3.6	7.2	2.4	25.6	61.2	100
SD-02(#120-250)	16.4	5.6	1.2	4.4	72.4	100
SK-140(#60-120)	30.4	41.6	10.8	16.4	0.8	100
SK-140(#120-250)	58.8	22.4	3.6	9.2	6	100
SI-10外周溝(#60-120)	53.6	26.4	2.4	14.4	3.2	100
SI-10外周溝(#120-250)	92.8	2.8	0.8	1.6	2	100

資料I-3: 火山ガラスの形態分類結果表

試料	Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計
SD-02(#60-120)	1	20	17	3	9	15	6	71
SD-02(#120-250)	12	84	52	24	9	62	7	250
SK-140(#60-120)	4	48	68	12	36	40	42	250
SK-140(#120-250)	14	75	57	16	16	71	1	250
SI-10外周溝(#60-120)	15	92	46	21	20	45	11	250
SI-10外周溝(#120-250)	11	66	41	1	30	100	1	250

資料I-4: 火山ガラスの形態分類結果表(百分率)

試料	Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計
SD-02(#60-120)	1.4	28.2	23.9	4.2	12.7	21.1	8.5	100
SD-02(#120-250)	4.8	33.6	20.8	9.6	3.6	24.8	2.8	100
SK-140(#60-120)	1.6	19.2	27.2	4.8	14.4	16.0	16.8	100
SK-140(#120-250)	5.6	30.0	22.8	6.4	6.4	28.4	0.4	100
SI-10外周溝(#60-120)	6.0	36.8	18.4	8.4	8.0	18.0	4.4	100
SI-10外周溝(#120-250)	4.4	26.4	16.4	0.4	12.0	40.0	0.4	100

資料I-5: 重鉱物組成分析結果表

試料	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	黒雲母	その他	合計
SD-02(#60-120)	12	5	1	11	1	0	30
SD-02(#120-250)	5	2	13	43	0	0	63
SK-140(#60-120)	35	15	20	43	1	0	114
SK-140(#120-250)	65	21	62	102	0	0	250
SI-10外周溝(#60-120)	27	3	11	31	1	0	73
SI-10外周溝(#120-250)	6	4	3	29	0	0	42

資料I-6: 重鉱物組成分析結果表(百分率)

試料	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	黒雲母	その他	合計
SD-02(#60-120)	40.0	16.7	3.3	36.7	3.3	0.0	100
SD-02(#120-250)	7.9	3.2	20.6	68.3	0.0	0.0	100
SK-140(#60-120)	30.7	13.2	17.5	37.7	0.9	0.0	100
SK-140(#120-250)	26.0	8.4	24.8	40.8	0.0	0.0	100
SI-10外周溝(#60-120)	37.0	4.1	15.1	42.5	1.4	0.0	100
SI-10外周溝(#120-250)	14.3	9.5	7.1	69.0	0.0	0.0	100

資料1-7: 火山ガラスの屈折率測定結果表

屈折率	SD-02(#60-120)	SD-02(#120-250)	SK-140(#60-120)	SK-140(#120-250)	SI-10#片屑濃(#60-120)	SI-10#片屑濃(#120-250)
1.490	0	0	0	0	0	0
1.491	0	0	0	0	0	0
1.492	0	0	0	0	0	0
1.493	0	0	0	0	0	0
1.494	0	0	0	0	0	0
1.495	0	0	0	1	0	0
1.496	1	1	0	0	0	0
1.497	1	0	0	0	0	0
1.498	1	1	0	0	1	0
1.499	7	2	1	2	5	0
1.500	10	8	3	3	6	1
1.501	6	5	9	5	3	2
1.502	11	4	10	8	1	0
1.503	6	3	11	10	1	1
1.504	4	2	7	8	4	0
1.505	0	0	4	6	1	0
1.506	4	2	6	5	0	0
1.507	6	2	5	5	0	0
1.508	1	2	1	2	0	1
1.509	1	1	1	2	1	6
1.510	1	6	1	0	6	12
1.511	0	4	0	1	2	4
1.512	0	0	0	1	1	1
1.513	0	1	1	0	0	0
1.514	0	0	0	1	0	0
1.515	0	0	0	0	0	0
1.516	0	0	0	1	1	0
1.517	0	0	0	0	1	3
1.518	0	0	0	0	1	0
1.519	0	1	0	0	3	5
1.520	0	5	0	0	5	10
1.521	0	8	0	0	9	15
1.522	0	1	0	0	5	3
1.523	0	1	0	0	1	0
1.524	0	0	0	0	1	0
1.525	0	0	0	0	0	0
1.526	0	0	0	0	0	0
1.527	0	0	0	0	1	1
1.528	0	0	0	0	0	0
1.529	0	0	0	0	0	0
1.530	0	0	0	0	0	0
1.531	0	0	0	0	0	0
1.532	0	0	0	0	0	0
1.533	0	0	0	0	0	0
1.534	0	0	0	0	0	0
1.535	0	0	0	0	0	0
1.536	0	0	0	0	0	0
1.537	0	0	0	0	0	0
1.538	0	0	0	0	0	0
1.539	0	0	0	0	0	0
1.540	0	0	0	0	0	0
1.541	0	0	0	0	0	0
1.542	0	0	0	0	0	0
1.543	0	0	0	0	0	0
1.544	0	0	0	0	0	0
1.545	0	0	0	0	0	0
1.546	0	0	0	0	0	0
1.547	0	0	0	0	0	0
1.548	0	0	0	0	0	0
1.549	0	0	0	0	0	0
1.550	0	0	0	0	0	0
合計	60	60	60	61	60	65

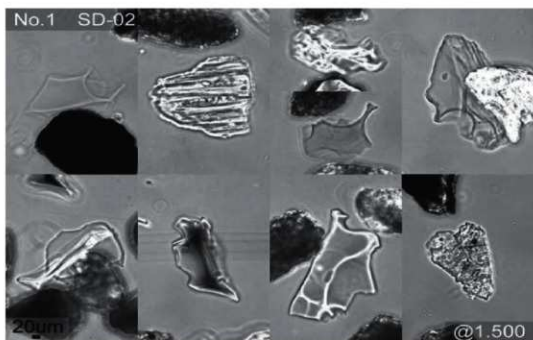


写真1 SD-02(#60-120)屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

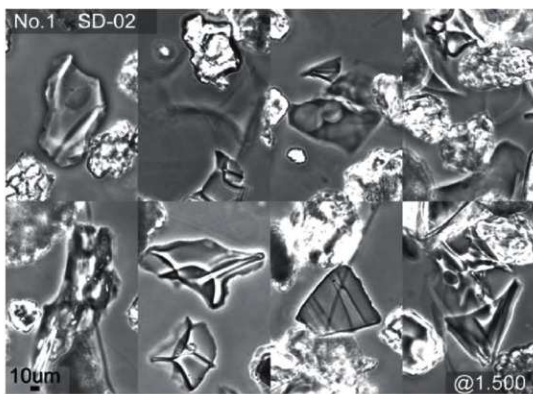


写真2 SD-02(#120-250)屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

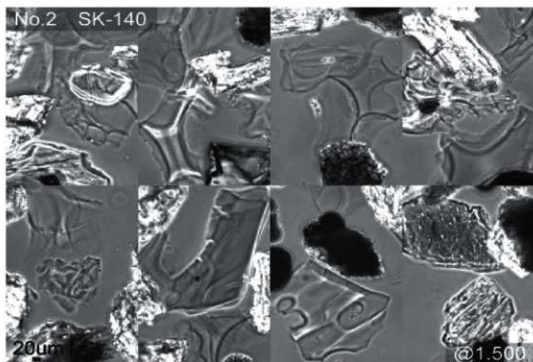


写真3 SK-140(#60-120) 屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

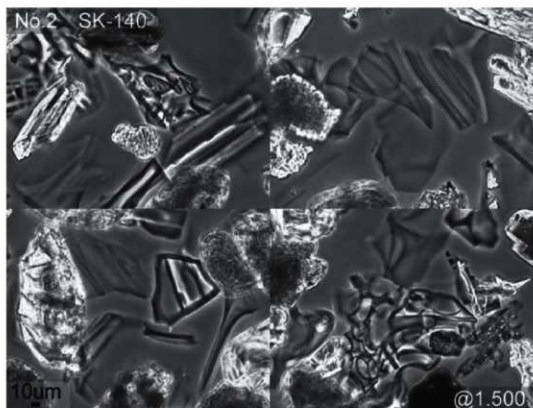


写真4 SK-140(#120-250) 屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

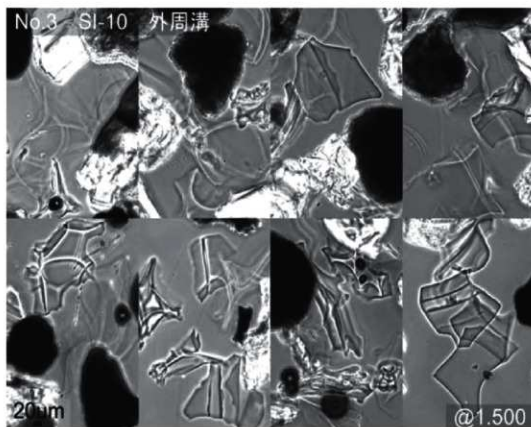


写真5 SI-10(#60-120)屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

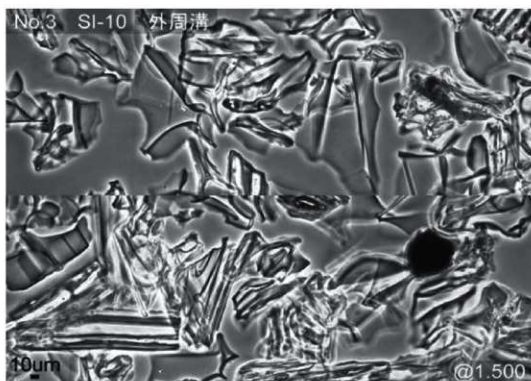


写真6 SI-10(#120-250)屈折率測定に用いた火山ガラス粒子写真。

第V章 まとめ

第1節 検出遺構

1. 建物跡

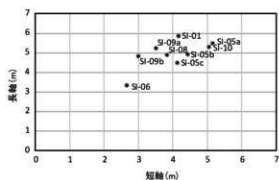
建物跡については7棟(SI-05、SI-09の拡張を含めると延べ10棟)検出した。以下、竪穴部の諸属性や付随する外周溝、掘立柱建物について総括する。なお、第8表に諸属性をまとめた。

【分布・配置状況】広範囲にわたる調査ではないため、一概には言えないものの、SI-01、05a・b・c、SI-07やSI-10、SD-17(外周溝の可能性が高い)付近のまとまりから2~3棟単位の配置状況が認められる。このような傾向については、隣接する野尻(1)遺跡の発掘調査でも指摘されている(青森県教育委員会 2000、2003)。【竪穴部平面形・規模】SI-01、09a・bが主軸に対してカマド設置壁側が長い長方形、SI-05a・b・c、10については概ね方形を呈する。SI-06、08については壁が確認できなかった部分があるため、不明であるが、SI-06は長方形、SI-08は方形と推定される。竪穴部の規模について長軸・短軸の相関を第94図に示した。SI-06のみ3m前後と小型である。その他の竪穴は3~5mと短軸規模にばらつきが見られるが、長軸については5m前後を示すものが多い。

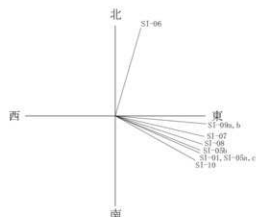
【主軸】カマド残存状態の良好な建物跡が少ないため、竪穴部についてはカマド設置壁と直行する柱穴や壁溝の中心線、SI-07については掘立柱建物桁行の柱穴から計測した。第95図は主軸方位を図化したものである。SI-06が北東軸、SI-09a・bが東側に近い軸線を呈するが、その他は103~119°内におさまり、南東軸を呈する。特にSI-01、SI-05a・b・cについては同じ軸線を有する。【竪穴部壁・床面】建物跡は床面直上での検出が多く、壁を確認できなかった。床面については黒色又は黒褐色土と黄褐色又は明黄褐色土の混合層による貼床を呈する。多くの竪穴では厚さ5~15cm内外で全体的に貼床が施されているが、SI-06については土坑状の掘方の部分に貼床が認められる程度で、一部地山面を利用して床面としている。外周溝を伴う建物跡については、同種の遺構を検出した遺跡において黒色土レベルでの床面検出が多いとされており、本調査区でも同様の状況であった。このような床面露出に近い検出状況について、円形のカマド火床面のみ残存する状況から、竪穴を掘り込まず、平地に壁溝を巡らして構築された可能性が指摘されている(浪岡町教育委員会2001、2002)。【竪穴部壁溝】SI-06を除いて、SI-01、05a・b・c、08、09、10で検出した。斜面地のため下方に相当する部分は削平により検出できなかった可能性もあるが、途切れる位置などから①全周し、カマド設置部分で途切れるもの(SI-01、05c、09a)、②全周し、コーナー部で一部途切れるもの(SI-05a)、③3方のみほぼ全周するもの(SI-05b、08)、④部分的に検出したもの(SI-09b、10)に分けることができる。SI-05b、08については削平により確認できなかったと推定されるものの、本来は①に該当する可能性が高い。【竪穴部柱穴配置】主柱穴・壁柱穴による配置と壁柱穴のみの配置が認められる。拡張や一部調査区外のため推定も含まれるが、配置から①:主柱穴+壁柱穴(4隅+壁中間1基)によるもの、②:壁柱穴(4隅+壁中間1基)によるもの、③:壁柱穴(4隅)によるもの、④:壁柱穴(壁中間2基)によるもの、⑤:②の配置が偏ってみられるもの、⑥不明のものに分けることができる。SI-05c、SI-10は①、SI-06、08は②、SI-05aは③、SI-05bは④、SI-01は⑤、SI-09a・bは⑥に該当する。特に2度の拡張が認められるSI-05においては、拡張前→①、1回目拡張後→④、2回目拡張後→③と柱穴配置の変化が認められる。【カマド】全体的に残存状態が悪く、SI-06、08、09a・b、10

第8表 建物跡観察表

番号	重要関係			竪穴						外周溝	竪立柱建物跡	火山灰	遺構間接合	備考				
	竪穴	外周溝	竪立柱建物跡	規模			主軸	カマド位置	柱穴配置						有無	開口方向	規模	
				長軸 (m)	短軸 (m)	床面積 (㎡)											掘行 (m)	奥行 (m)
SI-01	SK-5B, 61, 66 < SI-01	SK-49, 60, 64, 139 > SI-01 > SK-62, 63, 67	SI-01付Pt118 > SK-141 SK-05 > SI-01付Pt130	586	415	24.31	長方形	N-113°-E	東壁南寄	⑤	有	南東	4×2	576	521	-	SI-01外周溝	SK-140が6火山灰
SI-05a	-	SK-100, 109-111 > SI-05a > SK-105	-	550	515	28.32	方形	N-113°-E	東壁南寄	③	有	南東	2×1	687	518	-	SK-110, 111	
SI-05b	-	SK-100, 109-111 > SI-05b > SK-105	SI-05付PtM41 < SI-07外周溝	404	442	21.83	方形	N-112°-E	東壁南寄	④	有	南東	2×2	576	487	-	SK-111	
SI-05c	-	SK-100, 109-111 > SI-05c	-	448	412	18.45	方形	N-113°-E	東壁南寄	①	有	南東	2×1	586	315	-	SK-111	
SI-06	SK-142 > SI-06	-	-	333	265	8.82	長方形	N-16°-E	北壁東寄	②	-	-	-	-	-	-	SI-07外周溝 SD-02	SI-10と同一部体の遺構露出
SI-07	-	SK-77, 84, 87, 91, 94, 95 > SI-07 > SI-05付PtM41	-	-	-	-	長方形	N-103°-E	-	-	有	南東	2×1	553	369	外周溝上掘	SI-06カマド	
SI-08	SI-07, SK-40, 41, 91, 94 > SI-08 > SK-101	-	-	491	381	18.7	方形	N-108°-E	東壁南寄	②	-	-	-	-	-	-	SK-60上層	
SI-09a	-	-	-	524	350	18.34	長方形	N-95°-E	東壁中央	⑥	-	-	-	-	-	-	-	
SI-09b	-	-	-	483	298	14.39	長方形	N-95°-E	東壁中央	⑥	-	-	-	-	-	-	-	
SI-10	SK-136 < SI-10 < SD-17	SK-129, SP-384 > SI-10 > SK-126, SP-385	-	531	504	26.76	方形	N-119°-E	東壁南寄	①	有	南東	-	-	-	外周溝	-	SI-06と同一部体の遺構露出



第94図 建物跡竪穴部規模



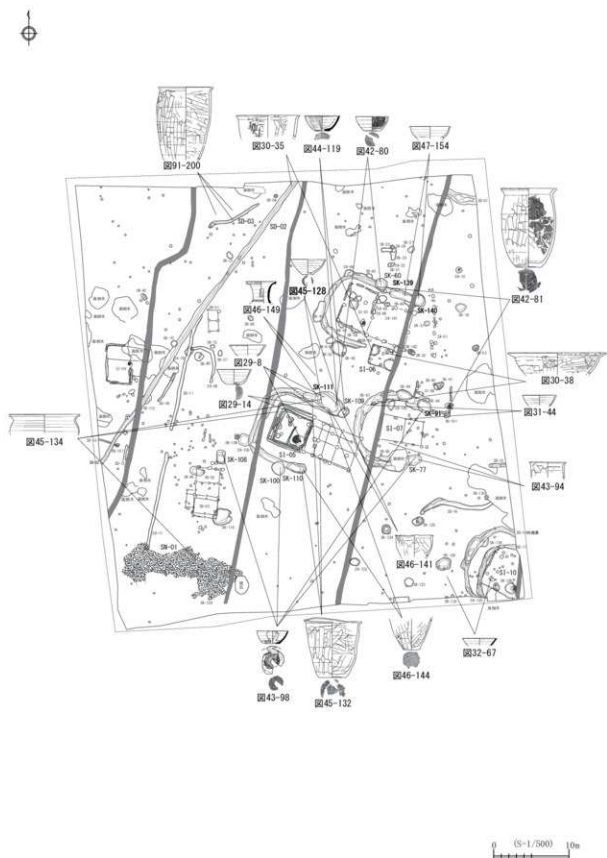
第95図 竪穴部主軸方位の分布

で袖部の基部及び火床面を検出したが、SI-01、05a・b・cでは火床面と考えられる焼土範囲のみの検出である。本調査区で検出したカマドについては、燃焼部下部に不整形円形の掘方を伴っており、袖部については粘土で構築されている。カマド設置壁についてはSI-06のみ北壁東寄、SI-01、05a・b・c、08、09a・b、10が東壁である。東壁のカマドについては、SI-09a・bのみ壁中央部に設置され、その他は東壁南寄に設置されている。【外周溝】SI-01、05、07、10で検出した。南東方向が開口する形状で、斜面下方を向いている。平面形についてはSI-01、05がコーナー部のやや角張る扁平なU字形、SI-07が馬蹄形を呈する。SI-10は全体不明であるが、SI-01、05同様に扁平なU字形と推定される。また、幅が細目のSI-01、05、10に比べて、SI-07がやや太目という差異が認められる。SI-05では竪穴部拡張に伴う作り替えが認められ、やや西側にずれるものの、概ね古い溝のラインを踏襲して構築され、ほぼ形状が変化しない。SI-01外周溝南側やSI-07外周溝北・南側などで認められ

る一段深くなる箇所については、使用時の掘り直しが想定される。外周溝については、堅穴部に比べて遺物出土が多く認められたものの、周辺遺跡の報告でみられるようなカマド構築材等の廃棄とみられる焼土やロームの多量混入は認められず、むしろ外周溝と重複する土坑において認められた。外周溝については、排水や建物への浸水防止以外に、気象条件、祭祀的側面からの機能が想定されている。【掘立柱建物】SI-01、05で3点セットを構成する建物、07で外周溝とセットとなる掘立柱建物を検出した。SI-05については掘立柱建物も拡張に伴う建替が想定され、各段階の堅穴部柱穴と軸線が並ぶピットによる配置から拡張前を2×1間(掘立柱建物c)→1回目拡張後を2×2間(掘立柱建物b)→2回目拡張後を2×1間(掘立柱建物a)と推定した。ただし、ピットの欠落により本来の構造を表していない可能性も考えられる。このほかの建物については、SI-01:4×2間、SI-07:2×1間で側柱建物である。SI-05以外においても堅穴とセットとなる掘立柱建物については、堅穴内の柱穴の軸線とほぼ一致している。規模についてはそれぞれで微妙に異なるが、SI-01、05b・cは桁行で近い数値となっている。また柱間寸法については、桁行と梁行で異なる数値を示すものが多いが、SI-05cでは両方でほぼ同じ値(桁行平均284cm、梁行281cm)を示す。【火山灰】SI-07外周溝の堆積土上面、SI-10外周溝の堆積土中層でブロック状に混入する。SI-07は外周溝コーナー部のみに認められ、その他の部分で認められないことから斜面上方からの流入が推定される。SI-07、10の火山灰はB-Tmと考えられる。また、SI-01では重複する土坑(SK-140)内からも火山灰を確認したが、分析の結果、To-Hの判定であった。【重複・遺構間接合】建物跡同士の重複は、SI-07とSI-08、SI-07とSI-05b掘立柱建物bで認められ、新旧関係はSI-07>SI-08、SI-07>SI-05b掘立柱建物bである。また、遺構間接合は建物間に関してはSI-07外周溝+SI-06カマドのみ認められた。

2. 土坑

69基検出した。平面形は不整形(不整形、不整形等含む)が39基と最も多く、次いで楕円形15基、円形11基と続き、方形や長方形は少ない。69基中21基が外周溝の末端部やコーナー部と重複する土坑である。これらの大半は外周溝を掘り込んで構築され、溝の幅に概ね収まるものである。外周溝と重複する土坑については、近隣遺跡の過去の調査等において、排水・利水のほか、建物建替に伴う廃棄場所(青森県教育委員会 1996)、屋根雪の消雪・除雪(木村 2000)等の機能が推定されている。本調査区におけるこれらの土坑は土層観察や遺物出土状況から、その他の単独の土坑に比べると、ロームブロックや焼土ブロック等の混入や遺物出土が顕著で、人為的堆積状況を示すものが多く認められた。したがって、本調査区の外周溝に重複する土坑に関しては、建物拡張等に係る廃棄場所の可能性が考えられる。なお、遺構間接合の結果、SI-05で堅穴+外周溝+SK-111、掘立柱建物+SK-110の接合、掲載外資料でSI-01外周溝+SK-60、SI-07外周溝+SK-84の接合を確認したが、その他の遺構では重複する建物跡以外の外周溝や建物跡と接合するものが多い。一方、外周溝と重複する土坑間での接合については比較的多く認められ、SK-60(SI-01外周溝重複)とSK-111(SI-05外周溝重複)、SK-60(SI-01外周溝重複)とSK-77、91(SI-07外周溝重複)で外周溝重複土坑間の接合が認められた。このことから、重複する土坑が建物(外周溝)に付属する可能性もあるが、外周溝との時期差も想定される。また、これらの土坑のうち、SK-60、139、140(SI-01重複)では堆積土中、SK-77、84(SI-07重複)では堆積土上面で火山灰が認められた。廃棄や斜面上方から流されたものが窪みに溜まった可能性も考えられる。



第96図 遺構間接合

3. 溝跡

11条検出した。うち8条が斜面上位の西側から検出している。等高線とほぼ平行するSD-09、11、12や等高線に対して斜めに走るSD-02、03の軸線方向や位置関係から集水や排水のほか、流水等の下方への侵入を防ぐ機能が想定される。SD-02については南西～北東軸の長い溝で調査区外へ延びている。上面で一部火山灰が認められた。南側で浪岡町大釈迦工業団地調査会調査区（以下、町調査会）のSD-7、北側で平成8年度青森県埋蔵文化財調査センター（以下、県埋文）の野尻(1)遺跡調査区SD-12とつながる可能性が高く、同一遺構と考えられる。SD-7、SD-12ともに複合建物を掘り込んでいることから、本遺構についても建物跡より新しいと考えられる。なお、遺構間接合の結果、SI-06との接合が認められた。SD-17については平面形から外周溝の可能性が高いと考えられる。

4. 焼土状遺構

1基検出した。浅い沢状の地形に広範囲に焼土が広がる状況であったが、固く締まる部分は認められず、廃棄に伴う焼土の集積と考えられる。SI-05+SK-111との遺構間接合が認められ、SI-05の拡張に伴う廃棄された焼土の可能性も考えられる。同種の遺構は町調査会調査区や県埋文の平成8、13年度野尻(1)遺跡調査区でも認められている（青森県教育委員会 2003）。

5. 掘立柱建物跡

2×1間の建物2棟、3×1間の建物1棟を検出した。概ね桁行の軸線が等高線と平行する。竪穴に付随する建物跡とは主軸が90度以上異なり、B-Tmと考えられる火山灰の自然堆積が認められたSK-85を掘り込むことから新しい時期が想定される。

6. 柱穴列

23基のピットが南北方向に集中する箇所を1基検出した。ほぼ等高線と平行する南北軸を有し、建物跡の軸線と異なる。個々のピットは浅めで、柱痕が認められないものも多く、一部ではピット同士の重複が認められた。斜位に彫り込まれたピットも少数認められるが、柵などの明確な配置は認められなかった。

7. ピット

241基検出した。調査区西側に比較的多く分布しており、特にSB-02、03北～西側に集中する。平面形については円形が100基と最も多く、次いで楕円形54基、隅丸方形51基、不整形14基と続き、方形、長方形等は10基に満たない数量である。

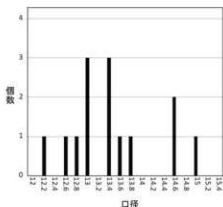
第2節 出土遺物

1. 土器

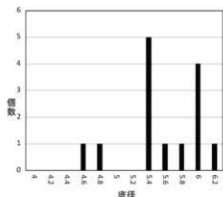
平安時代の土器（土師器、須恵器、製塩土器）224点、縄文土器1点、計225点を第三章で図示した。遺構内は建物跡外周溝や土坑からの出土が多く、遺構外については調査区西側から比較的多く出土した。第9表は平安時代の土器について、口縁部・底部残存率計測法によって算出した個体数である。土師器と須恵器全体の量比は概ね9：1の割合で、器種毎の個体数の量比は、土師器が41.51%と最も多く、次いで土師器甕28.65%、土師器小甕15.32%、須恵器坏6.18%である。土師器は皿、坏、甕、小甕、壺、鍋、ミニチュア土器が認められた。坏、甕、小甕を主体とする。坏は全てロクロ調整である。SK-111出土の2点（第44図126、127）と遺構外出土の1点（第90図183）で、ロクロ調整後

第9表 平安時代土器個体数

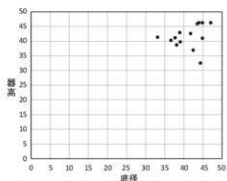
種別	個体数	%
土師器小皿	0.167	0.34%
土師器皿	0.375	0.77%
土師器杯	20.096	41.51%
土師器壺	13.873	28.65%
土師器小壺	7.415	15.32%
土師器香	0.25	0.52%
土師器埴	0.4	0.83%
土師器ミニチュア土器	0.642	1.33%
土師器把手付土器	0	0.00%
製塩土器	0	0.00%
須恵器杯	2.99	6.18%
須恵器鉢	0.491	1.01%
須恵器香	1.608	3.32%
須恵器壺	0.108	0.22%
合計	48.415	100.00%



第97図 土師器杯口径分布



第98図 土師器杯底径分布



第99図 土師器杯器高・底径指数分布

のヘラナデが認められた。器形は直線的なもの、内湾気味のものがあり、口縁端部が緩やかに外反するものもみられる。内面黒色処理がされる杯（黒色土器）は、土師器杯全体に対して9.52%、灯明具として転用された杯は9.74%認められた。杯のうち、全体形を把握できる資料について第97・98図に口径及び底径分布を示した。また、同資料について器高指数（器高÷口径×100）、底径指数（底径÷口径×100）を求め、その分布を第99図に示した。口径については、12.2～13.8、15cm前後に分布が認められる。特に13.0、13.4、14.6に集中している。全体形の把握できる資料が少なかったため、全体の傾向を示すものではないが、やや大口径と中口径のものが認められる。器高については、最小値4.6、最大値6.2で、5.4、6.0に分布が集中する。底径についても、4.6～4.8と5.4～6.2に分布範囲にまとまりが見られる。口径、器高、底径の平均値は13.4cm、5.5cm、5.6cmを測る。器高・底径指数についてはばらつきがあるが、器高指数45付近と40前後にまとまりが認められ、底径指数36～38付近、42～44付近にまとまりが認められる。壺・小壺は非ロクロとロクロ調整が認められる。個体数の比率は壺で非ロクロ84.08%、ロクロ調整15.92%、小壺で非ロクロ75.28%、ロクロ調整24.72%である。壺の器形は非ロクロで口縁部が外反するもの、つまみ出した程度のもの、直線的なものが認められ、外反するものが多い。ロクロ調整については、外反の度合いに違いがみられるが、口縁部が外反するものが多く、内屈するものがわずかに認められる。外反するものについては口唇部が平坦に整形されている。小壺の器形も壺と同様の傾向が認められた。非ロクロ壺底部資料の調整については、砂底52%、ナデ34%、木葉痕11%、ヘラケズリ3%の比率である。須恵器については、杯、壺、鉢、壺が認められた。破片により全体を把握できる資料は少ないが、個体数の量比では杯、壺を主体する。須恵器のみの

個体数で見ると、坏58%、鉢9%、壺31%、甕2%の割合である。坏のうち、全体のわかる資料は3点で、口縁部は直線的な器形である。器高・底径指数は36・39(第32図68)、40・47(第43図98)、43・43(第44図119)である。口唇部について丸みを帯びるものと、やや先細り気味のものがあり、丸みを帯びるものが多く認められた。壺は口縁部、肩部、底部の破片資料である。口縁部については、外傾度合から外傾の弱いものと強いものがあり、概ね同じ割合で認められる。外傾の強いものは口唇部の断面がC字状に整形されるものが多い。頸部～体部については破片がわずかに認められるのみであるが、リング状凸帯が認められる。底部資料については、菊花状ケズリが施され、外縁部に貼り高台が認められるものと、小型でナデ調整の後、微妙な貼り高台が認められるものがある。甕は口縁部と体部の破片である。口縁部資料は外傾気味を呈する。体部については、タタキ目の条の中に縄目状の痕跡を残すものが多い。坏について墨書、坏、鉢、壺について刻書が認められた。墨書は坏、刻書は坏、壺、鉢で認められた。須恵器の個体数のうち、墨書の割合は2.41%、刻書は17.30%である。墨書がみられる坏については、判読不能であるが、文字と考えられる。

2. その他の遺物

石器は砥石、台石、磨石、敲石、凹み石、石匙がある。遺構内については外周溝や付属施設及び外周溝に重複する土坑からの出土で、堅穴内からは出土しなかった。砥石については小型で長方形の扁平なものやや厚めのものがある。土製品は焼成粘土塊のみ認められる。丸みのある不整形で、表面にはスサの痕跡を残すものである。建物跡及び外周溝と重複する土坑からの出土である。鉄関連遺物は羽口、鉄滓、鉄製品がある。全体的に少量であるが、建物跡出土が多い。鉄滓については鍛冶に伴うものである。小型の椀形鍛冶滓や鍛冶滓のほか、羽口先の溶損部分とみられる粘土質溶解物が認められた。

第3節 総括

調査の結果、建物跡7棟、土坑69基、溝跡11条、焼土状遺構1箇所、掘立柱建物跡3棟、柱穴列1基、ピット241基を検出したほか、土師器、須恵器、石器、土製品、鉄関連遺物、古銭が出土した。

本遺跡についてはこれまで三度にわたる発掘調査が実施されており、南北側に隣接する遺跡を含めて、B-Tm火山灰降下前後を中心に営まれた、いわゆる3点セットの複合建物を主体とする集落が検出されている。本調査区についても、構造や主軸などにおいてこれまでの調査区と同様の集落構造を示すものである。建物跡については、外周溝を伴う複合建物と堅穴単独のものか認められた。遺物出土量が少ない遺構については不確定な部分があるが、SI-07>SI-05、SI-08の重複関係や外周溝に重複する土坑-建物跡の遺構間接合を踏まえると、本調査区に関しては大きな時期差はないと考えられるものの、概ね堅穴単独建物→複合建物(堅穴+外周溝+掘立柱建物)→複合建物(掘立柱建物+外周溝)の推移が想定される。その他の遺構については掘立柱建物跡のほか、掘り込み面の高いSD-15や一部ピットを除いて、大半は建物跡との大きな時期差はないと考えられる。

出土炭化材の放射性炭素年代測定の結果、外周溝に重複する土坑については8世紀末～9世紀末(SK-140)、9世紀末～10世紀末の年代(SK-60)、SI-01外周溝については縄文時代晩期末の年代が得られた。前述の外周溝と土坑との関係やSK-60、140とSI-01外周溝との重複関係からSI-01外周溝の炭化材は流れ込んだ炭化材と考えられ、斜面地であることから時期などさまざまな遺物の混入が想定される。樹種同定の結果、広葉樹主体の結果が得られた(第IV章第1節)。SI-01外周溝はコナ

ラ属主体、SK-60ではモクレン属、SK-140からブナ属、イネ科が認められた。土坑出土炭化材については廃棄に伴うものと考えられ、モクレン属については隣接する野尻(1)遺跡の調査で焼成遺構にみられることから、カマド等の燃焼材の可能性が考えられる。また、火山灰分析の結果、SI-10外周溝のサンプル1点のみB-Tm火山灰に同定されたが、SD-02については古いテフラとB-Tmなどが混在し、SK-140については1万5千年前のTo-Hという結果が得られた(第IV章第2節)。したがって、遺構から検出した火山灰については、溝跡上面の窪みに溜まったものや廃棄されたとみられるものが多いと考えられ、二次堆積の可能性が高い。

本調査区の主体時期については、出土土器等からこれまでの過去の調査区と同様にB-Tm火山灰降下前後と考えられる。

参考文献

- | | |
|----------|---|
| 青森県 | 2003 『青森県史 資料編 考古4』 |
| 青森県 | 2005 『青森県史 資料編 考古3』 |
| 青森県教育委員会 | 1983 『青森県の中世城館』 |
| 青森県教育委員会 | 1987 『山本遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第105集
山本遺跡発掘調査報告書 |
| 青森県教育委員会 | 1994 『山元(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第159集 |
| 青森県教育委員会 | 1995 『山元(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第171集 |
| 青森県教育委員会 | 1995 『野尻(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第172集 |
| 青森県教育委員会 | 1996 『野尻(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 |
| 青森県教育委員会 | 1996 『野尻(2)遺跡II・野尻(3)遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 |
| 青森県教育委員会 | 1998 『野尻(1)遺跡I』 青森県埋蔵文化財調査報告書第234集 |
| 青森県教育委員会 | 1998 『高屋敷館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第243集 |
| 青森県教育委員会 | 1999 『野尻(1)遺跡II』 青森県埋蔵文化財調査報告書第259集 |
| 青森県教育委員会 | 2000 『野尻(1)遺跡III』 青森県埋蔵文化財調査報告書第277集 |
| 青森県教育委員会 | 2002 『野尻(1)遺跡IV』 青森県埋蔵文化財調査報告書第320集 |
| 青森県教育委員会 | 2003 『野尻(1)遺跡V』 青森県埋蔵文化財調査報告書第351集 |
| 青森県教育委員会 | 2004 『野尻(1)遺跡VI・野尻(2)遺跡III』
青森県埋蔵文化財調査報告書第366集 |
| 青森県教育委員会 | 2005 『山元(1)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第395集 |
| 青森県教育委員会 | 2006 『野尻(3)遺跡II』 青森県埋蔵文化財調査報告書第414集 |
| 青森県教育委員会 | 2008 『寺屋敷平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第450集 |
| 青森県教育委員会 | 2009 『中平遺跡I』 青森県埋蔵文化財調査報告書第474集 |
| 青森県教育委員会 | 2010 『中平遺跡II』 青森県埋蔵文化財調査報告書第490集 |
| 青森県教育委員会 | 2012 『中平遺跡III』 青森県埋蔵文化財調査報告書第518集 |
| 青森県教育委員会 | 2013 『赤坂遺跡II』 青森県埋蔵文化財調査報告書第531集 |
| 青森県教育委員会 | 2016 『川原平(4)遺跡IV』 青森県埋蔵文化財調査報告書第566号 |

青森県教育委員会	2016	『下石川平野遺跡Ⅱ 旭(1)遺跡 旭(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第569集
青森市教育委員会	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第94集
青森市教育委員会	2008	『野尻(4)遺跡』青森市埋蔵文化財調査報告書第95集
青森市教育委員会	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』 青森市埋蔵文化財調査報告書第99集
青森市教育委員会	2010	『長溜池遺跡』青森市埋蔵文化財調査報告書第99集
青森市教育委員会	2016	『市内遺跡発掘調査報告書24』 青森市埋蔵文化財調査報告書第119集
五所川原市教育委員会	2003	『五所川原須恵器窯跡群』 五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集
浪岡町教育委員会	2002	『平成13年度浪岡町文化財紀要Ⅱ』
浪岡町教育委員会	2003	『平成14年度浪岡町文化財紀要Ⅲ』
浪岡町教育委員会	2004	『野尻(4)遺跡』浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第10集
浪岡町	2000	『浪岡町史第1巻』
工藤 清泰	1997	『考古学研究における境界性—古代・中世の視点から—』 『青森県史研究第1号』
木村 高	2000	『津軽地方における平安時代の住居跡』 『考古学ジャーナルNo.462』
岩井 浩人	2008	『津軽地域における古代土器食膳具の変遷—9世紀から11世紀を中心—』『青山考古第24号』
齋藤 淳	2010	『野尻遺跡群の土器編年について』 『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要第15号』
北東北古代集落遺跡研究会	2014	『9～11世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた北東北世界の実態的研究』



北側完掘 (E→)



全体写真 (NW→)



全体写真 (S→)



全体写真 (SW→)



基本層序断面 (N→)



S1-01完掘 (E→)



S1-01断面 (NW→)



S1-01カマド検出状況 (NW→)

写真1 検出遺構(1)



SI-01カマド断面(NW→)



SI-01外周溝断面①(NW→)



SI-01外周溝断面②(NW→)



SI-01外周溝遺物出土状況(NW→)



SI-05a完掘(E→)



SI-05b・c完掘(NW→)



SI-05b完掘(NW→)



SI-05c完掘(NW→)

写真2 検出遺構(2)



S1-05断面①(NW→)



S1-05断面②(NE→)



S1-05c カマド完掘(W→)



S1-05カマド断面(SW→)



S1-05付SD1完掘(E→)



S1-05付Pit12遺物出土状況(SW→)



S1-05外周溝断面①(NW→)



S1-05外周溝断面②(S→)

写真3 検出遺構(3)



S1-06完掘(S→)



S1-06断面①(N→)



S1-06断面②(W→)



S1-06カマド検出状況(S→)



S1-06カマド完掘(S→)



S1-06カマド断面(S→)



S1-06付SK1完掘(S→)



S1-06付SK1断面(S→)

写真4 検出遺構(4)



S1-06付SK2完掘(S→)



S1-06付SK2断面(S→)



S1-07完掘(NW→)



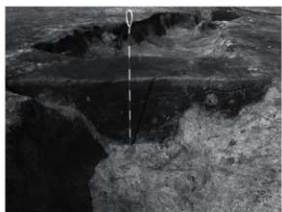
S1-07断面①(W→)



S1-07断面②(W→)



S1-07外周溝断面①(SE→)



S1-07外周溝断面②(SW→)



S1-07外周溝遺物出土状況(N→)

写真5 検出遺構(5)



S1-08完掘(SE→)



S1-08断面①(NW→)



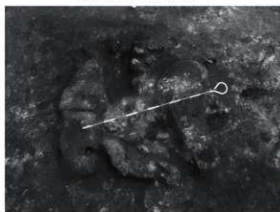
S1-08断面②(NE→)



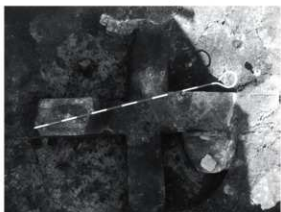
S1-08カマド断面①(NE→)



S1-08カマド断面②(NW→)



S1-08カマド遺物出土状況(W→)



S1-08カマドソデ部遺物出土状況(W→)



S1-09a完掘(E→)

写真6 検出遺構(6)



SI-09b完掘(E→)



SI-09断面(N→)



SI-09カマド焼土検出状況(S→)



SI-09カマド火床面検出状況(S→)



SI-09カマド断面①(W→)



SI-09カマド断面②(N→)



SI-10検出状況(W→)



SI-10完掘(W→)

写真7 検出遺構(7)



S1-10完掘(S→)



S1-10断面①(W→)



S1-10断面②(S→)



S1-10断面③(S→)



S1-10火山灰核出状況(W→)



S1-10カマド上位床面検出状況(W→)



S1-10カマド完掘(W→)



S1-10カマド断面①(W→)

写真8 検出遺構(8)



SI-10カマド断面②(N→)



SI-10カマドソデ部断面(W→)



SI-10壁溝断面(SW→)



SI-10外周溝断面①(NE→)



SI-10外周溝断面②(N→)



SI-10外周溝断面③(W→)



SK-01完掘(NE→)



SK-01断面(E→)

写真9 検出遺構(9)



SK-04完掘(S→)



SK-04断面(S→)



SK-10完掘(N→)



SK-10断面(N→)



SK-18完掘(S→)



SK-18断面(S→)



SK-21・22完掘(S→)



SK-21・22断面(S→)

写真10 検出遺構(10)



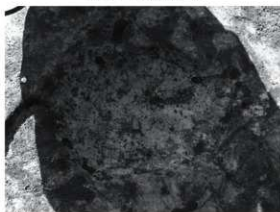
SK-23・24・25完掘(E→)



SK-23・24断面(NE→)



SK-25断面(N→)



SK-27完掘(SE→)



SK-27断面(SE→)



SK-31完掘(S→)



SK-31断面(S→)



SK-33完掘(SW→)

写真11 検出遺構(11)



SK-33断面(S→)



SK-33付Pit1完掘(SW→)



SK-40・41完掘(S→)



SK-40・41断面(S→)



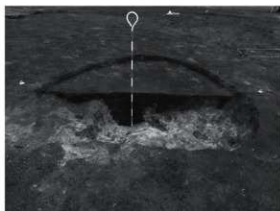
SK-42完掘(NE→)



SK-42断面(NE→)



SK-48完掘(N→)



SK-48断面(N→)

写真12 検出遺構(12)



SK-49完掘(N→)



SK-49断面(N→)



SK-50完掘(NW→)



SK-58完掘(S→)



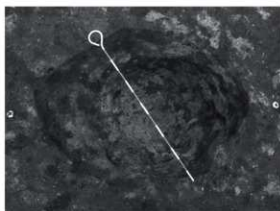
SK-50・58断面(S→)



SK-53完掘(N→)



SK-53断面(N→)

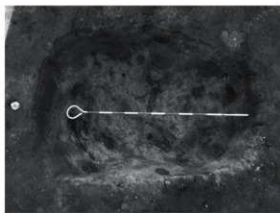


SK-56完掘(NE→)

写真13 検出遺構(13)



SK-56断面 (NE→)



SK-57完掘 (E→)



SK-57断面 (E→)



SK-59完掘 (SE→)



SK-59断面 (SE→)



SK-60完掘 (NW→)



SK-60断面 (NW→)



SK-61完掘 (E→)

写真14 検出遺構(14)



SK-61断面 (E→)



SK-62完掘 (W→)



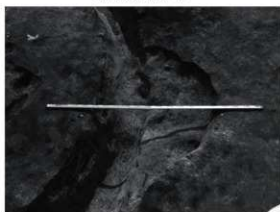
SK-62断面 (W→)



SK-63完掘 (NW→)



SK-63断面 (NW→)



SK-64完掘 (E→)

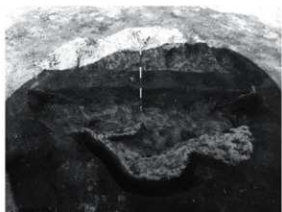


SK-64断面 (E→)



SK-65完掘 (S→)

写真15 検出遺構 (15)



SK-65断面(S→)



SK-65火山灰検出状況(S→)



SK-66完掘(S→)



SK-66断面(S→)



SK-67完掘(NE→)



SK-67断面(NE→)



SK-69完掘(NW→)

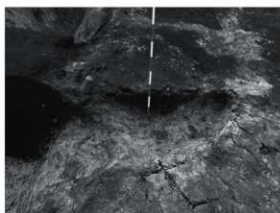


SK-69断面(NW→)

写真16 検出遺構(16)



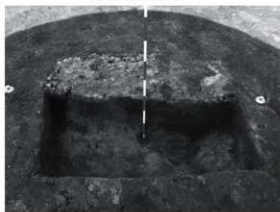
SK-70完掘 (NE→)



SK-70断面 (NE→)



SK-73完掘 (S→)



SK-73断面 (S→)



SK-77完掘 (E→)



SK-77断面 (E→)



SK-77火山灰検出状況 (S→)



SK-79完掘 (NE→)

写真17 検出遺構 (17)



SK-79断面(NE→)



SK-84完掘(NW→)



SK-84断面(NW→)



SK-84火山灰検出状況(S→)



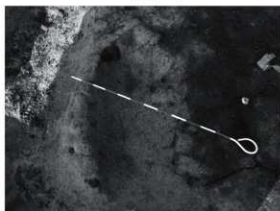
SK-85完掘(S→)



SK-85断面(S→)



SK-85火山灰検出状況(S→)



SK-87完掘(SW→)

写真18 検出遺構(18)



SK-87断面 (SW→)



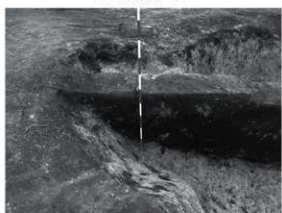
SK-91完掘 (W→)



SK-91断面 (W→)



SK-94完掘 (W→)



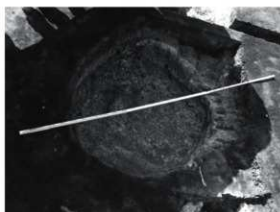
SK-94断面 (W→)



SK-95完掘 (E→)



SK-95断面 (E→)



SK-100完掘 (E→)

写真19 検出遺構 (19)



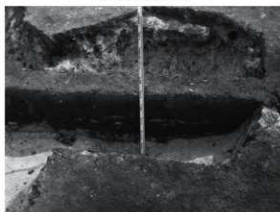
SK-100断面(E→)



SK-101完掘(NW→)



SK-105完掘(N→)



SK-105断面(N→)



SK-106完掘(N→)



SK-106断面(N→)

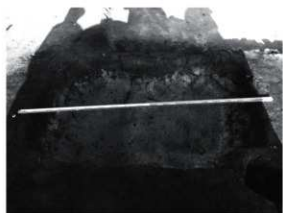


SK-107完掘(S→)



SK-107断面(S→)

写真20 検出遺構(20)



SK-108完掘(W→)



SK-108断面(W→)



SK-109完掘(N→)



SK-109断面(N→)



SK-110完掘(S→)



SK-110断面(S→)



SK-110遺物出土状況(S→)



SK-111完掘(W→)

写真21 検出遺構(21)



SK-111断面(W→)



SK-111遺物出土状況①(NE→)



SK-111遺物出土状況②(S→)



SK-112完掘(N→)



SK-112断面(N→)



SK-114完掘(S→)



SK-114断面(S→)

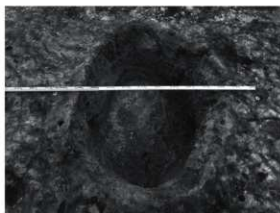


SK-122完掘(S→)

写真22 検出遺構(22)



SK-122断面 (S→)



SK-123完掘 (E→)



SK-123断面 (E→)



SK-124完掘 (E→)



SK-124断面 (S→)



SK-125完掘 (S→)



SK-125断面 (S→)



SK-126完掘 (NE→)

写真23 検出遺構 (23)



SK-126断面 (NE→)



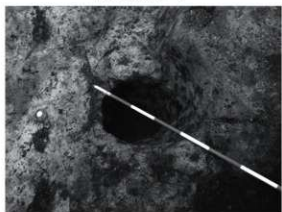
SK-128完掘 (S→)



SK-128断面 (S→)



SK-128付Pit1完掘 (SE→)



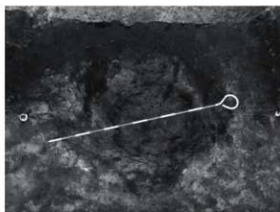
SK-128付Pit2完掘 (W→)



SK-129完掘 (N→)



SK-129断面 (N→)



SK-130完掘 (W→)

写真24 検出遺構 (24)



SK-130断面 (W→)



SK-135完掘 (N→)



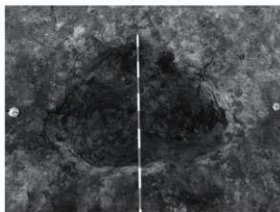
SK-135断面 (N→)



SK-136完掘 (W→)



SK-136断面 (W→)



SK-138完掘 (S→)

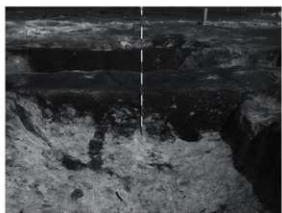


SK-138断面 (S→)



SK-139完掘 (SE→)

写真25 検出遺構 (25)



SK-139断面(W→)



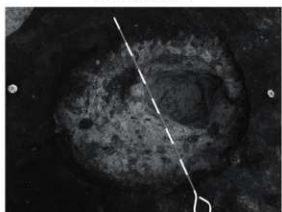
SK-140完掘(SE→)



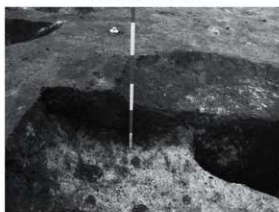
SK-140断面(SE→)



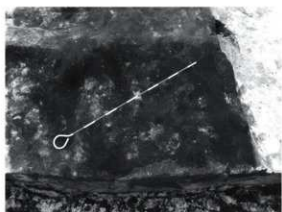
SK-140火山灰検出状況(SE→)



SK-141完掘(S→)



SK-141断面(S→)

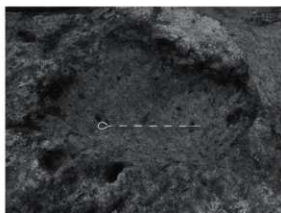


SK-142完掘(SE→)



SK-142断面(SE→)

写真26 検出遺構(26)



SK-143完掘(E→)



SK-143断面(E→)



SD-02完掘①(SE→)



SD-02完掘②(NE→)



SD-02断面(NE→)



SD-03完掘(E→)



SD-03断面(SW→)



SD-07完掘(W→)

写真27 検出遺構(27)



SD-07断面(W→)



SD-08完掘(N→)



SD-08断面①(W→)



SD-08断面②(N→)



SD-09完掘(N→)



SD-09断面(NE→)



SD-11完掘①(N→)



SD-11完掘②(S→)

写真28 検出遺構(28)



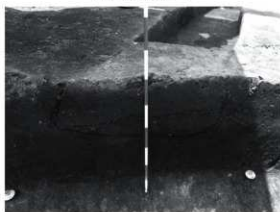
SD-11断面①(N→)



SD-11断面②(N→)



SD-12完掘(S→)



SD-12断面(S→)



SD-13完掘(E→)



SD-13断面(E→)



SD-15完掘(W→)



SD-15断面(W→)

写真29 検出遺構(29)



SD-16完掘(W→)



SD-16断面①(E→)



SD-16断面②(E→)



SD-17完掘(S→)



SD-17断面(N→)



SN-01検出状況①(E→)



SN-01検出状況②(W→)



SN-01断面(SE→)

写真30 検出遺構(30)



SB-01完掘(S→)



SB-02完掘(S→)



SB-02・03完掘(S→)



SA-01完掘(N→)



C-8 遺物出土状況(S→)



作業風景①(SW→)



作業風景②(W→)



作業風景③(N→)

写真31 検出遺構(31)



写真32 出土遺物(1)

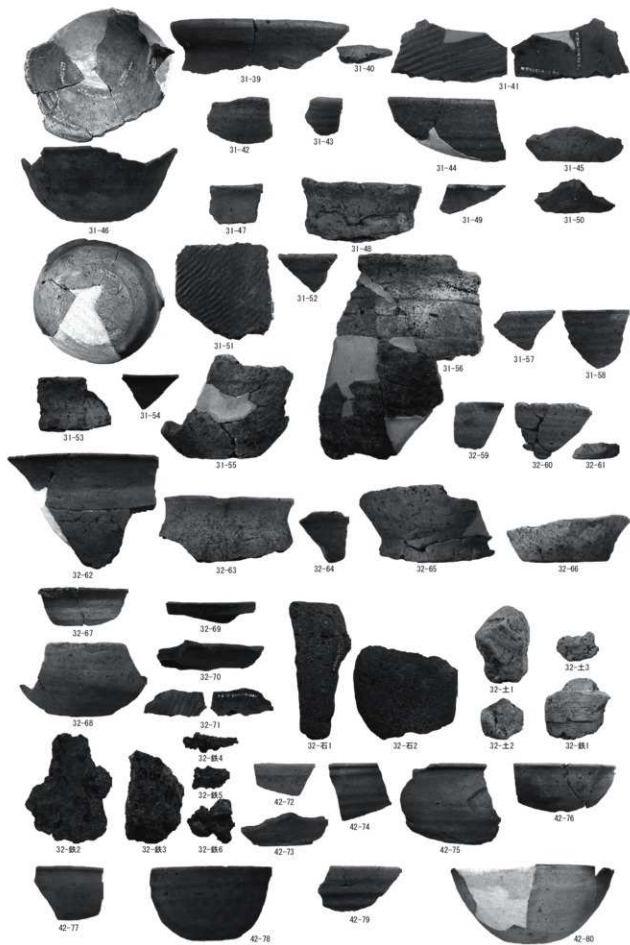


写真33 出土遺物(2)

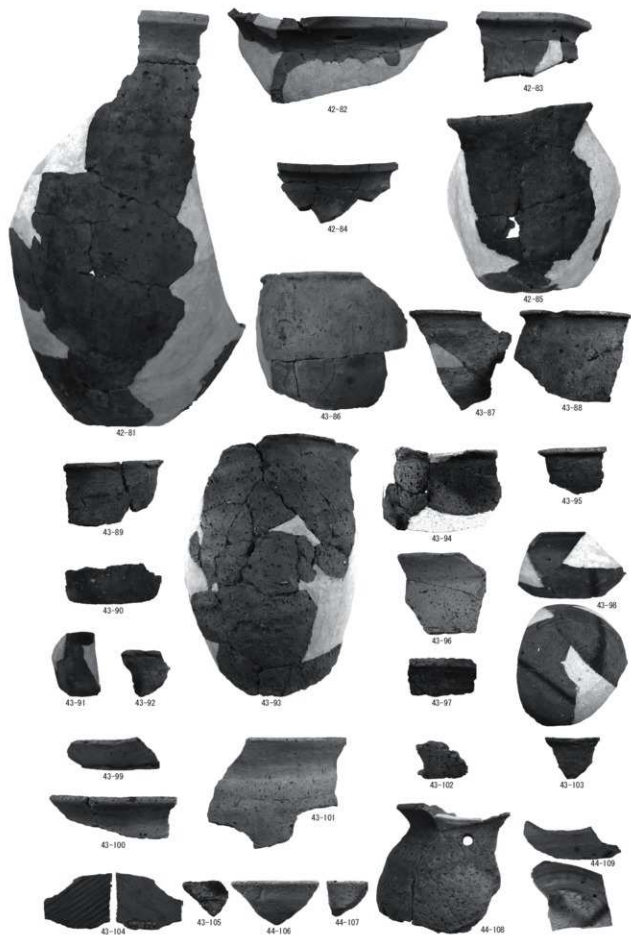


写真34 出土遺物(3)

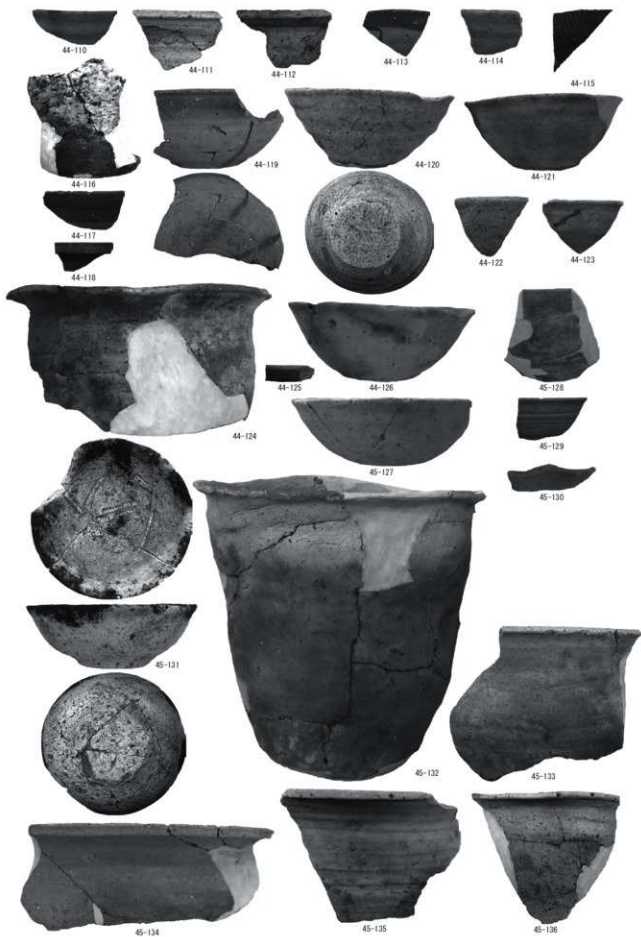


写真35 出土遺物(4)

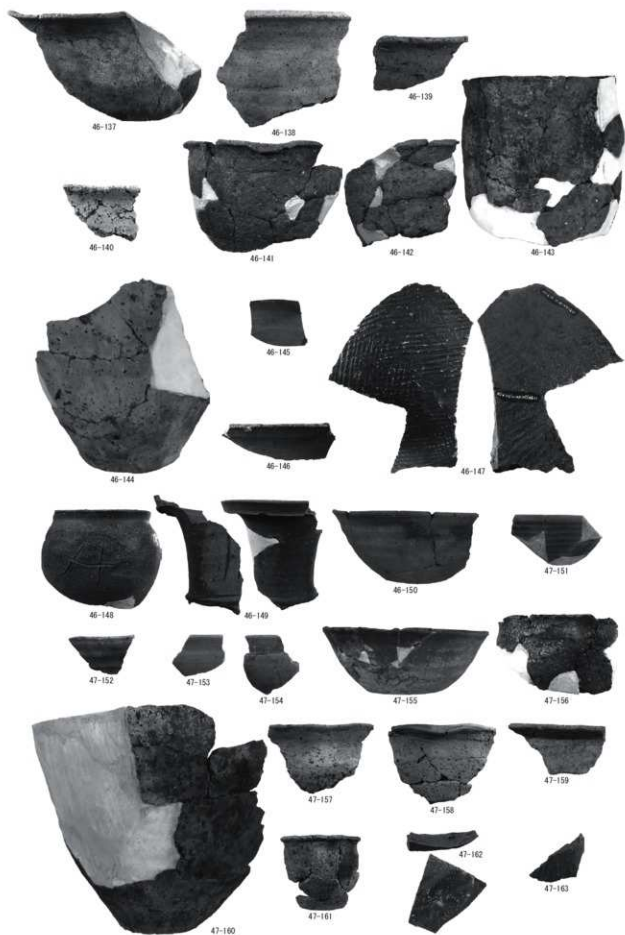


写真36 出土遺物(5)



写真37 出土遺物(6)

報 告 書 抄 録

ふりがな	のじりかっこよんいせきはつくつちようさほうこくしょに							
書名	野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第123集							
編著者名	設楽 政健、成田 滋彦							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-0801 青森県青森市新町1丁目3番7号 TEL.017-718-1392							
発行年月日	西暦2018年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2000)		調査機関	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
野尻(4)遺跡	青森市浪 岡大字徳 才子字山 本105-2	02201	390	40° 44° 41"	140° 34° 54"	20170511 ～ 20170929	2,991㎡	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野尻(4)遺跡	集落跡	平安	建 物 跡	7棟	土 師 器	<ul style="list-style-type: none"> ・外周溝や掘立柱建物跡が付随する竪穴建物跡を主体とした集落跡。 ・白頭山苫小牧火山灰降下前後に営まれた集落と考えられる。 		
			土 坑	69基	須 恵 器			
			溝 跡	11条	製 塩 土 器			
			焼土状遺構	1箇所	石 器			
			掘立柱建物跡	3棟	土 製 品			
			柱 穴 列	1基	鉄 関 連 遺 物			
			ピ ッ ト	241基	古 銭			
要 約	<ul style="list-style-type: none"> ・野尻(4)遺跡は青森市浪岡大字徳才子字山本に位置している。 ・野尻(4)遺跡は梵珠山地面側の前田野目台地を構成する低位段丘上に位置している。 ・発掘調査の結果、外周溝や掘立柱建物に付随する竪穴建物跡を中心とした建物跡、土坑、溝跡、焼土状遺構、掘立柱建物跡、柱穴列などの平安時代を主体とする遺構を検出したほか、土師器、須恵器、製塩土器、土製品、鉄関連遺物、石器、古銭がコンテナ換算で22箱分出土した。 							

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	『三内環状遺跡調査概観』	青森市埋蔵文化財調査報告書
” 2	1965	『四ツ石遺跡調査概観』	” 第63集 2002 『稲山遺跡発掘調査概観Ⅳ』
” 3	1967	『玉清水遺跡調査概観』	” 第64集 2002 『市内遺跡発掘調査概観Ⅱ』
” 4	1970	『三内丸山遺跡調査概観』	” 第65集 2003 『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
” 5	1971	『野木和道跡調査報告書』	” 第66集 2003 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
” 6	1971	『玉清水田遺跡発掘調査報告書』	” 第67集 2003 『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
” 7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	” 第68集 2003 『近野遺跡発掘調査報告書』
” 8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』	” 第69集 2003 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
	1979	『雲沢遺跡』	” 第70集 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
	1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	” 第71集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	” 第72集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	” 第73集 2004 『新野野遺跡発掘調査概観』
	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	” 第74集 2004 『市内遺跡発掘調査報告書12』
	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	” 第75集 2004 『江渡遺跡発掘調査報告書』
	1988	『三内丸山1遺跡発掘調査報告書』	” 第76集 2005 『赤山(3)遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			” 第77集 2005 『赤坂遺跡発掘調査報告書』
” 第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	” 第78集 2005 『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
” 第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	” 第79集 2005 『市内遺跡発掘調査報告書13』
” 第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概観』	” 第80集 2005 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概観』
” 第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	” 第81集 2005 『石江遺跡群発掘調査概観』
” 第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概観』	” 第82集 2006 『三内沢(3)遺跡発掘調査報告書』
” 第21集	1994	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第83集 2006 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概観Ⅱ』
” 第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	” 第84集 2006 『新野野遺跡発掘調査概観Ⅱ』
” 第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	” 第85集 2006 『小牧野遺跡三編調査報告書Ⅱ』
” 第24集	1995	『横内遺跡・跡内(2)遺跡発掘調査報告書』	” 第86集 2006 『市内遺跡発掘調査報告書14』
” 第25集	1995	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第87集 2006 『新野野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
” 第26集	1995	『桜家(2)遺跡発掘調査報告書』	” 第88集 2006 『野矢高野遺跡発掘調査報告書』
” 第27集	1996	『桜家(1)遺跡発掘調査概観』	” 第89集 2006 『藤原遺跡発掘調査報告書』
” 第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	” 第90集 2007 『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
” 第29集	1996	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第91集 2007 『市内遺跡発掘調査報告書15』
” 第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	” 第92集 2007 『新野野遺跡発掘調査概観Ⅱ』
” 第31集	1997	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第93集 2007 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
” 第32集	1997	『桜家(1)遺跡発掘調査概観Ⅱ』	” 第94集 2007 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
” 第33集	1997	『新野野遺跡試掘調査報告書』	” 第95集 2008 『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
” 第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	” 第96集 2008 『葛野遺跡群発掘調査報告書』
” 第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	” 第97集 2008 『市内遺跡発掘調査報告書16』
” 第36集	1998	『桜家(1)遺跡発掘調査報告書』	” 第98集 2008 『新野野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
” 第37集	1998	『新野野遺跡発掘調査報告書』	” 第99集 2009 『市内遺跡発掘調査報告書17』
” 第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』	” 第100集 2009 『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
” 第39集	1998	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第101集 2009 『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
” 第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	” 第102集 2009 『細道遺跡発掘調査報告書』
” 第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概観』	” 第103集 2010 『市内遺跡発掘調査報告書18』
” 第42集	1998	『無沢遺跡発掘調査概観』	” 第104集 2010 『長瀬池遺跡発掘調査報告書』
” 第43集	1999	『市内遺跡群細分布調査報告書』	” 第105集 2010 『葛野(3)遺跡発掘調査報告書』
” 第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	” 第106集 2010 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』
” 第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	” 第107集 2011 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
” 第46集	1999	『新野野・野木遺跡発掘調査概観』	” 第108集 2011 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』
” 第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概観』	” 第109集 2011 『市内遺跡発掘調査報告書19』
” 第48集	2000	『無沢遺跡発掘調査報告書』	” 第110集 2012 『市内遺跡発掘調査報告書20』
” 第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概観Ⅱ』	” 第111集 2012 『野尻池遺跡発掘調査報告書』
” 第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』	” 第112集 2012 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
” 第51集	2000	『桜家(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』	” 第113集 2013 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』
” 第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』	” 第114集 2013 『市内遺跡発掘調査報告書21』
” 第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』	” 第115集 2013 『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
” 第54集	2001	『新野野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	” 第116集 2014 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』
” 第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』	” 第117集 2014 『市内遺跡発掘調査報告書22』
” 第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』	” 第118集 2015 『市内遺跡発掘調査報告書23』
” 第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概観Ⅱ』	” 第119集 2016 『市内遺跡発掘調査報告書24』
” 第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概観Ⅱ』	” 第120集 2017 『川原館遺跡・中道遺跡・並早稲田遺跡発掘調査報告書』
” 第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』	” 第121集 2017 『市内遺跡発掘調査報告書25』
” 第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』	” 第122集 2018 『市内遺跡発掘調査報告書26』
” 第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』	” 第123集 2018 『野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
” 第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	

青森市埋蔵文化財調査報告書 第123集

野尻(4)遺跡発掘調査報告書Ⅱ

発行年月日 平成 30 年 3 月 31 日

発 行 青 森 市 教 育 委 員 会
〒038-0801 青森市新町1丁目3番7号
TEL 017-718-1392

印 刷 青 森 オ フ セ ッ ト 印 刷 株 式 会 社
〒030-0802 青森市本町2丁目11-16
TEL 017-775-1431
